

2013 年 8 月 5 日

ソマリア

英国内務省

ソマリア

出身国別情報(COI) レポート

COI サービス

2013 年 8 月 5 日

目次

序文

パラグラフ

1. 治安情勢.....	1.01
概観.....	1.01
活動の指導者.....	1.05
治安関係の事件と負傷者に関する傾向と統計.....	1.10
データの記録と報告.....	1.10
死者・負傷者の数.....	1.11
武力抗争の傾向(2009 年～2013 年)	1.13
武力抗争の種類と性質.....	1.14
地域ごとの治安情勢.....	1.21
ソマリア中南部.....	1.22
モガディシュ.....	1.25
キスマヨ、下ジュバ、ゲバ地域と「ジュバランド」	1.29
マルカとブラバ(Brava)、下シャベル、及びジョハール、中央シャベル.....	1.34
ベイ、バコール、及びヒラーン.....	1.35
プントランド/ソマリランド.....	1.36
プントランド.....	1.36
ソマリランド.....	1.38
2. 治安部隊.....	2.01
概観.....	2.01
ソマリア中南部.....	2.02
警察.....	2.02
国家安全保障局.....	2.06
アフリカ連合ソマリア平和維持部隊(AMISOM)とソマリア国軍.....	2.07
ソマリア国軍の改革と軍事訓練.....	2.09
プントランド.....	2.11
ソマリランド.....	2.13
ソマリア国政府、プントランド国軍、及びソマリランド国軍による人権侵害.....	2.15
武力の無差別行使.....	2.19
恣意的な逮捕と拘留.....	2.21
拷問、虐待、及び超法規的殺人.....	2.26
国内避難民(IDP)の扱い.....	2.28
刑罰の免除.....	2.30
3. 政府軍以外の武装グループ.....	3.01

武装グループ.....	3.01
アル・シャバブ.....	3.02
氏族民兵.....	3.05
武装グループによる人権侵害.....	3.06
拷問、虐待、及び処刑.....	3.08
攻撃の標的.....	3.13
恣意的な逮捕と拘留.....	3.15
強制徴兵.....	3.16
氏族民兵.....	3.17
4. 司法、逮捕と刑務所の状態、及び死刑の適用.....	4.01
司法.....	4.01
ソマリア中南部.....	4.05
アル・シャバブの支配地域における司法手続き.....	4.07
プントランド.....	4.08
ソマリランド.....	4.10
逮捕権と刑務所の状態.....	4.13
ソマリア中南部.....	4.17
プントランドとソマリランド.....	4.20
死刑.....	4.23
5. 政治提携と表現.....	5.01
ソマリア中南部.....	5.03
ソマリア連邦政府の官僚と支持者.....	5.07
プントランド.....	5.12
ソマリランド.....	5.15
6. 言論の自由とメディア.....	6.01
ソマリア中南部.....	6.06
ラジオ.....	6.06
ジャーナリスト.....	6.07
プントランド.....	6.11
テレビとラジオ.....	6.12
ジャーナリスト.....	6.13
ソマリランド.....	6.14
ジャーナリスト.....	6.16
7. 人権、及び人道的活動の団体、組織、活動家.....	7.01
ソマリア中南部.....	7.02
プントランドとソマリランド.....	7.05

8. 宗教の自由.....	8.01
9. 民族グループ.....	9.01
概観.....	9.01
氏族制度.....	9.03
伝統的な法律(Xeer)と血の代償 (diya 又は mag)	9.06
氏族による保護.....	9.09
モガディシュ.....	9.14
ソマリア中南部.....	9.15
大氏族と少数氏族の背景情報.....	9.17
10. 性的指向と性同一性障害.....	10.01
法的権利.....	10.01
社会における扱いと態度.....	10.02
11. 女性.....	11.01
概観.....	11.01
法的権利.....	11.07
政治的権利.....	11.09
社会・経済的権利.....	11.10
財産と相続.....	11.11
結婚.....	11.13
性と生殖に関する権利.....	11.15
服装規定.....	11.16
雇用.....	11.19
移動の自由.....	11.23
女性に対する暴力.....	11.25
女性器切除(FGM)	11.28
強姦を含む性的暴行.....	11.30
国内避難民の女性.....	11.37
強制結婚.....	11.41
アル・シャバブと強制結婚.....	11.43
家庭内暴力.....	11.47
人身売買.....	11.50
女性に対する援助と支援.....	11.50
女性の健康.....	11.52
12. 児童.....	12.01
概観.....	12.01

法的権利.....	12.05
児童に対する暴力.....	12.07
人身売買.....	12.10
女性器切除.....	12.10
法律.....	12.10
実行された FGM のタイプおよび蔓延.....	12.13
FGM への社会的態度.....	12.20
反 FGM 措置.....	12.21
児童兵.....	12.23
児童労働.....	12.26
放棄、孤児、および「ストリート」チルドレン.....	12.30
児童と保護.....	12.32
教育.....	12.34
健康と福祉.....	12.36
文書.....	12.40
13. 人身売買.....	13.01
14. 医療問題.....	14.01
医療および薬の利用可能性の概観.....	14.01
病院と診療所.....	14.03
モガディシュの病院.....	14.06
HIV/エイズ.....	14.11
メンタルヘルスケア.....	14.15
15. 移動の自由.....	15.01
中央・南ソマリア内の移動.....	15.02
検問所.....	15.05
モガディシュ空港.....	15.06
地雷.....	15.07
16. 国内避難民(IDP).....	16.01
概観.....	16.01
IDP に対する一般条件.....	16.05
モガディシュ.....	16.08
Afgooye「回廊」.....	16.11
プントランドとソマリランド.....	16.12
17. 市民権および国籍.....	17.01
パスポート.....	17.02
18. 偽造文書および不正に入手された文書.....	18.01

付属書

付属書 A 背景情報源

付属書 B ソマリア地図

iv このCOIレポートの本文は、2013年6月26日時点で公表されている最新情報を含んでいる。

序文

i この出身国別情報(COI)レポートは、COI サービス局と英国内務省が、難民・人権保護認定プロセスに携わる職員のために作成したものである。英国で最も多く提起される難民・人権保護の主張に関する一般的背景を示している。レポートの主要部分は、2013 年 6 月 26 日までに得られた情報を含んでいる。このレポートは 2013 年 8 月 5 日付で発行された。

ii このレポートは、幅広い外部情報提供者より得られた英語の資料から成る。レポートに含まれる全情報は、文書全体を通して、元の資料から得たもので、難民・人権保護の認定プロセスに関わる職員に配布されるものである。

iii このレポートは、難民・人権の適用において提起される主要な問題に焦点を絞り、元資料から抽出した情報をまとめたものである。難民・人権申請に関連して生じる全ての問題を包括した調査結果を示すことを意図したものではない。詳細な説明が必要な場合は、元資料を直接参照されたい。

iv このレポートの構成と形式は、英国内務省の意思決定者や上訴提示官が普段使う方法に合わせ、具体的な問題に関する情報を迅速に電子検索でき、コンテンツページを使用して、求める主題を直接参照することができるようになっている。難民・人権申請より生じる主要な問題は、大体、専用のセクションにおいて取り扱っているが、他のセクションで簡潔に触れられていることもある。従って、レポートの構成上、繰り返しになる箇所もある。

v このレポートに含まれている情報は、原資料より抽出したものに限られる。難民・人権申請に関連する情報がある程度網羅するよう努力したが、全ての問題について、必ずしも情報が得られるというものでもない。このため、このレポートに含まれる情報が、実際に述べているもの以上のことを示唆するとは考えてはいけない。例えば、ある法律が可決されたと記されていても、その法律が発効されたと記されていない限り、発効されたと考えるべきではない。同様に、ある出来事、ある行動に関する情報が記されていない限り、その出来事、行動が起こらなかったことにはならない。

vi 上述の通り、このレポートは、いくつかの情報提供者より抽出した情報をまとめたものである。情報の統合に当たり、原資料間の不一致を解消する努力は全く行っていない。例えば、原資料により、個人、地名、政党等の名称の表記、綴りが異なっている場合がある。この報告書では、綴りの統一は行わず、原資料の通りに表記している。同様に、原資

料により、数値が異なる場合があるが、このレポートでは原資料の通りに記載している。この文書に出てくる「sic (原文ママ)」という用語は、引用文献における綴りの誤り、又はタイプミスを示すためのみに使用されており、資料の内容について、何らかの見解を示すものではない。

vii このレポートは、基本的に、過去 2 年間に発行された原資料に基づいている。しかし、最近の資料に無い関連情報を含むという理由で、それ以前の資料の情報が含まれていることもある。全ての原資料には、このレポートが発行された時点で適切と考えられる情報が含まれている。

viii このレポートと、付随する原資料は、公開文書である。全ての COI レポートは英国内務省のウェブサイトで公開されており、このレポートの原資料の大部分も公開されている。このレポートで提示した原資料が電子ファイルとして入手可能な場合、該当するリンク先のアドレスが、閲覧した日付と共に示してある。政府機関が発行した文書、購読予約の文書等、入手しにくい原資料は、COI サービス局に請求すれば、コピーを入手できる。

ix COI レポートは、難民受け入れ数の最も多い 20 カ国について発行されている。この 20 カ国以外の国に関するレポートも、運用上の特別な必要があれば発行される。英国内務省の職員は、レポートで網羅されていない問題、又は情報の更新が必要な問題について、請求サービスを使うこともできる。

x このレポート作成に当たり、COI サービス局は、原資料より情報を抽出し、正確で最新かつバランスのとれた公平な資料を提供するよう努力した。このレポートに関する意見、追加資料に関する提案は歓迎である。下記の英国内務省まで送付されたい。

Country of Origin Information Service

Home Office

Lunar House

40 Wellesley Road

Croydon, CR9 2BY

United Kingdom

E メール: cois@homeoffice.gsi.gov.uk

URL: <http://www.ukba.homeoffice.gov.uk/policyandlaw/guidance/coi>

国別情報に関する独立諮問グループ

xi 国別情報に関する独立諮問グループ(IAGCI:Independent Advisory Group on Country Information)は、英国内務省の COI 資料の内容について提言することを目的として、国境局独立主任検査官(Independent Chief Inspector of Borders and Immigration)により、2009 年 3 月に設立された。IAGCI は、英国内務省の COI レポート、その他の COI 資料に関するフィードバックを歓迎する。IAGCI の活動に関する情報は、主任検査官のウェブサイト(<http://icinspector.independent.gov.uk/country-information-reviews/>)で公開されている。

xii IAGCI は、英国内務省の COI 文書を選んで内容を検証し、これらの文書に特化した提案、又は、より一般的な提案を行う。IAGCI、又は、国別情報に関する独立専門委員会(Advisory Panel on Country Information)(2003 年 9 月から 2008 年 10 月までの期間、英国内務省の COI 資料を監視していた独立機関)が検証したレポートの一覧は、<http://icinspector.independent.gov.uk/country-information-reviews/> で公開している。

xiii 特記: 英国内務省の資料又は手続きを支持することが IAGCI の職務ではない。グループが検証した資料のいくつかは、非停止請願(NSA)リストに指定されている国、又は、指定が提案されている国に関連するものである。こうしたケースでは、グループの職務は、ある特定の国を NSA に指定するという決定若しくは提案、又は、NSA のプロセス自体に対する支持を暗示すると解釈すべきではない。

IAGCI の連絡先は以下の通りである。

Independent Chief Inspector of Borders and Immigration

5th Floor, Globe House

89 Eccleston Square

London, SW1V 1PN

E メール: chiefinspectorukba@icinspector.gsi.gov.uk

URL: <http://icinspector.independent.gov.uk/country-information-reviews/>

[目次に戻る](#)

1. 治安情勢(2012 年～2013 年 6 月)

概観

1.01 2013 年 4 月 10 日付の JSCRA:Jane's Sentinel Security Risk Assessment, Somalia, Security は、治安情勢を次のようにまとめている。

・「ソマリアは、氏族民兵、海賊、イスラム過激派グループまで、数々の脅威に晒されている。その国土は、反政府勢力による抵抗運動と連動して起こる、活発なテロ活動の舞台となっている。ソマリアにおけるテロ行為が成功したことにより、地方の州でも治安が悪化していることを示唆している。

・エチオピアは、2009 年 1 月に、公言していたソマリアからの撤退を完了した。しかし、エチオピアの軍事勢力は、ソマリア国内、特に国境付近で、イスラム過激派グループに対する軍事行動を続行した。これは、2011 年後半に、再度、公式介入が行われるまで続いた。

・選挙により設立された新政府、イスラム過激派グループ、及び異なる議案を持ったその他様々な反対勢力は、ソマリアの中南部を支配するために戦闘を続けている。アル・シャバブ(Al Shabab)が撤退した後、モガディシュ(Mogadishu)は[当時のソマリア暫定連邦政府(TFG: Transitional Federal Government)]の支配下になった。2011 年の戦闘活動で、TFG 勢力は、ゲド(Gedo)地方とジュバ(Jubba)地方で新たにアル・シャバブに対する戦線を設け、ルーク(Luuq)とガーバハレ(Garbaharey)の両都市付近の領土を制圧した。バイドア(Baidoa)、アフマドゥ(Afmadow)、アフグーイエ(Afgooye)、及びマルカ(Marka)は、2012 年 1 月～8 月の間にアフリカ連合ソマリア平和維持部隊(AMISOM: African Union Mission in Somalia)とその同盟軍に制圧された。しかし、アル・シャバブの最近の敗戦が、政府勢力に対する不均衡な(テロリストとゲリラ)活動に拍車をかけた。」¹

1.02 2012 年の出来事を網羅した 2013 年 4 月 19 日発行の米国国務省の 2012 Country Report on Human Rights Practices, Somalia (USSD 2012)は、次のように記している。

「その年の、TFG/政府、政府同盟軍、及びアフリカ連合(AU)軍のアル・シャバブに対する戦闘により、市民が死亡・負傷し、大勢の人が避難を余儀なくされた... ソマリアの内戦により大勢の市民が死亡した... その年、アル・シャバブの迫撃砲や簡易爆弾(IED)によるモガディシュ攻撃で、市民が死亡・負傷した。更に、アル・シャバブは、公設市場を襲い、

¹ Jane's Sentinel Security Risk Assessment, ソマリア、安全保障(Somalia, Security)、2013 年 4 月 10 日、請求すればハードコピーを入手可能。

人道主義者、その他の市民を殺害し、政府役人を襲撃した... 国際勢力、及び国際勢力とアル・シャバブの戦闘により、市民が死亡した。」²

1.03 2012 年の出来事を網羅した 2013 年 1 月 31 日発行の Human Rights Watch World Report 2013(HRW 2013)は、ソマリア中南部の治安に関して、以下のように記している。

「ソマリアの長期に渡る紛争で、多くの市民が死亡・負傷し、避難を余儀なくされている。イスラム武装勢力アル・シャバブは 2012 年に失墜し、ベレドウェイン(Beletweyne)、バイドアなどの主要都市、及び戦略拠点である湾岸都市キスマヨ(Kismayo)の支配権を放棄したが、首都モガディシュなどで攻撃や暗殺を続けている... 一斉射撃、中でも、道路防塞を占拠するための TFG 勢力間の接近戦、主にアル・シャバブの勢力による簡易爆弾や手榴弾を使った攻撃で、市民の死亡・負傷が続いている。アル・シャバブは、2012 年 9 月 20 にジャーナリスト 3 名を含む少なくとも 18 人が死亡した事件を含め、モガディシュで数件の大掛かりな自爆テロを起こした。」³

1.04 2013 年 1 月 16 日から 2013 年 5 月 15 日までの出来事を網羅した 2013 年 5 月 31 日発行の国連安全保障理事会の国連事務総長報告書(UNSC Report May 2013)は、次のように記している。「報告対象期間中、治安情勢は依然として不安定だった。モガディシュの治安は多少安定したもの、アル・シャバブは無防備な市民に対してテロ戦術を仕掛けるなどして、市民の間に負傷者が続出している。特定の人物を狙った暗殺、襲撃が頻繁に報じられた。2013 年は、簡易爆弾を使った攻撃の件数が、前年に比べて増加した。」⁴

TFG 勢力とアル・シャバブの反政府グループに関する情報は、それぞれ治安部隊(Security Forces)と政府軍以外の武装グループ(Non-state armed groups)の項を参照されたい。又、市民に対する紛争の結果に関する情報については、国内避難民(Internally Displaced Persons)の項を参照されたい。

目次に戻る

活動の指導者

1.05 2013 年 4 月 10 日付の JSCRA:Jane's Sentinel Security Risk Assessment, Somalia, Security は、次のように報告している。

² 米国務省、2012 Report on Human Rights Practices, Somalia セクション 1g、2013 年 4 月 19 日、<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dliid=204165> 2013 年 6 月 24 日閲覧

³ Human Rights Watch, World Report 2013, Somalia
<http://www.hrw.org/world-report/2013/country-chapters/somalia> 2013 年 6 月 24 日閲覧

⁴ 国連安全保障理事会、国連事務総長報告書(Report of the Secretary-General on Somalia)、2013 年 5 月 31 日、パラグラフ 11、http://www.un.org/ga/search/view_doc.asp?symbol=S/2013/326 2013 年 6 月 24 日閲覧

「ソマリアは、派閥民兵、海賊、イスラム過激派グループまで、数々の脅威に晒されている。その国土は、反政府勢力による抵抗運動と連動して起こる、活発なテロ活動の舞台となっている。ソマリアにおけるテロ行為が成功したことにより、地方の州でも治安が悪化していることを示唆している...選挙により設立された新政府、イスラム過激派グループ、及び異なる議案を持ったその他様々な反対勢力は、ソマリアの中南部を支配するために戦闘を続けている。」⁵

1.06 2013 年 3 月 19 日付の European Union Press は、こう報じている。

「アフリカ連合ソマリア平和維持部隊は、国連安全保障理事会から委任を受け、アフリカ連合が指導する組織[ケニア、ウガンダ、ブルンジ、シエラレオネ、及びジブチの部隊で構成される]である。当初の任務は、ソマリアにおける対話と和解を後援し、主要なインフラストラクチャー(政府建物とモガディシユ国際空港)を保護し、暫定連邦機関(TFIs: Transitional Federal Institutions)ー2012 年 8 月にソマリア連邦政府が設立され機能を失ったーの機能を支援することであった。任務には、国家安全・安定化計画(National Security and Stabilisation plan)の実施、武装解除、及び安定化を支援することと並び、人道活動の推進も含まれていた。」⁶

1.07 IRIN は、2013 年 5 月 13 日、次のように報じた。「ソマリアの武装勢力は、軍に正式に統合されていない民兵を含む、反アル・シャバブ勢力と定義される 20,000 人ほどの兵士で構成されている。但し、定期的に給料を支給されているのはこのうちの 13,000 人程度で、給料の殆どは国際機関から支給されている。」⁷ FCO は 2013 年 4 月 30 日付の報道で、ソマリアで、ソマリア国軍(SNF: Somali National Forces)がアフリカ連合ソマリア平和維持部隊と共に戦っていると報じている。⁸ アフリカ連合ソマリア平和維持部隊は、2013 年 4 月 15 日時点で、400 近くの部隊の軍事訓練を行ったと述べている。⁹

⁵ Jane's Sentinel Security Risk Assessment, ソマリア、安全保障(Somalia, Security)。2013 年 4 月 10 日、請求すればハードコピーを入手可能。

⁶ 欧州連合、ソマリアの治安を安定化させるための支援を続ける欧州連合(EU support to continue improving security in Somalia)、2013 年 3 月 19 日、http://www.consilium.europa.eu/uedocs/cms_Data/docs/pressdata/EN/foraff/136289.pdf 2013 年 7 月 15 日閲覧

⁷ IRIN、調査:ソマリアの治安セクター改革(Analysis: Somali security sector reform)、2013 年 5 月 13 日、<http://www.irinnews.org/report/98028/analysis-somali-security-sector-reform> 2013 年 7 月 15 日閲覧

⁸ 英国外務および英連邦省、ソマリア会議の目的:軍(Somalia conference aims: Armed forces)、2013 年 4 月 30 日、<http://www.gov.uk/government/news/somalia-conference-aims-armed-forces> 2013 年 7 月 15 日閲覧

⁹ AMISOM、兵士 96 名が AMISOM 軍事トレーニングコースを修了(96 Somali Army Officers Graduate from AMISOM training Course)、2013 年 4 月 15 日 <http://amisom-au.org/2013/04/96-somali-army-officers-graduate-from-amisom-training-course/> 2013 年 7 月 15 日閲覧

1.08 2013 年 4 月と 5 月にデンマークとノルウェーが共同で行った、モガディシュとナイロビの現地調査に関する 2013 年 5 月 8 日付の報告書は、次のように記している。

「国際機関 Mogadishu の代表団は、およそ 17,000 のアフリカ連合ソマリア平和維持部隊[部隊]が、モガディシュを含むソマリア中南部に配備されていると報告している。アフリカ連合ソマリア平和維持部隊は、ソマリア中南部の 4 つの区域に配備されている。各区域の(付録 3, 4, 5, 6 のソマリア中南部における支配勢力図も参照されたい)は、以下の地域の部隊で構成されている。

「区域 1、ベナディール(Benadir)、低シャビール(Lower Shabelle)、中央シャビール(Middle Shabelle)地域:ブルンジとウガンダの部隊」

「区域 2、キスマヨとジュバランド(Jubbaland)、即ち上ジュバと下ジュバ地域:ケニアとエラレオネの部隊」

「区域 3、ベイ(Bay)、バコール(Bakool)、及びゲド地域の一部:ブルンジとウガンダの部隊」

「区域 4、ベレドウェインを含むヒラーン(Hiraan)地域の一部:ジブチの部隊」

「国際機関 Mogadishu の代表団は、[ソマリア国政府(SNG:Somali National Government)]が、およそ 21,000 人のソマリア政府軍兵士をソマリア中南部全域に配備したと報告している。そのうちの 12,000 人は米国の資金によるプロジェクトから給料を得ている。兵士の給料は月額 100 米ドルである。これは、ベナディール及び中央・下シャビール地域で行われていることである。」¹⁰

1.09 外交問題評議会は、2013 年 2 月 5 日付のある背景説明記事で、こう述べている。

「アル・シャバブ、又は「The Youth」は、アルカイダと繋がりを持つ武装グループで、ソマリアにイスラム原理主義国家を創設するために、米国を標的とした戦闘を展開するテロ機関である。Harakat al-Shabaab al-Mujahideen と呼ばれるこのグループは、イスラム主義者の支持グループと共に、一度はモガディシュとソマリアの田園地方を支配下に治めたが、アフリカ連合による近年の軍事行動により、かつて本拠地としていた南部の湾岸都市キスマヨを含む殆どの主要都市から撤退を余儀なくされた。多くの専門家は、2013 年初頭に、アル・シャバブが内部・外部双方からの圧力により、力を大きく失ったと考えている。そ

¹⁰ Danish Immigration Service and Landinfo、モガディシュとソマリア中南部における治安と保護、デンマークとノルウェーによるモガディシュとナイロビの現地調査(Security and protection in Mogadishu and S/C Somalia, Danish-Norwegian fact finding mission to Nairobi and Mogadishu)、2013 年 4 月～5 月、2013 年 5 月 8 日、p35

http://www.nyidanmark.dk/NR/rdonlyres/6F1A29C6-2F84-40D2-BDE4-42F69897EEC3/0/security_and_protection_in_somalia_may_2013.pdf 2013 年 6 月 24 日閲覧

れでも、グループは政治的に不安定で、戦争で荒廃したこの国で、依然として脅威であると警告する専門家もいる。」¹¹

様々なグループによる紛争と人権侵害の指導者については、治安部隊(Security Forces)と政府軍以外の武装グループ(Non-state armed groups)の項を参照されたい。

目次に戻る

治安関係の事件と負傷者に関する傾向と統計

データの記録と報告

1.10 アル・シャバブが支配する地域に国際機関の調査団が入ることは禁じられており、それ以外の地域でも、暴力行為を定例的に報告するシステムが無い。紛争状態の中で事件を調査し、報告することが困難であることから、負傷者の数と種類は、情報提供者ごとに数字と推定数が大きく異なっている。この違いは、データの収集と解釈や推定値算出の方法が異なることも原因である。従って、事件、死者、及び負傷者の数は、大まかな数字と考えるべきである。

国際戦略研究所(IISS: Interanational Institute for Strategic Studies)の武力紛争データベース(ACD: Armed Conflict Database)は、データベース内のデータを全体的に踏まえ、次のように記している。

「死者数[自らのウェブサイトに掲載されているデータ]は、武力紛争の直接的な結果としての兵士と市民の死者数である。数字は、紛争が起こった主な所在地が属する国に関連している。紛争によっては、信頼できる数字が得られない場合もある。紛争による死者数の推定値は、情報提供者によってかなり異なることが多い。全般的な死者数は、新しい情報に照らし合わせ、変更されることもある。よって、死者数が変更されるのは、新しい情報が入った場合と、死者数が増えた場合、その両方が考えられる。」¹²

Armed Conflict Location and Events Dataset(武力紛争の所在地と出来事) (ACLED)のウェブサイトは、「発展途上国、地元メディア、人道機関のレポート、調査機関の出版物を含め、様々な情報提供者から得たデータ¹³を収集し、情報の利用方法(データの収集方法も含む)もウェブサイトで案内している。

¹¹ 外交問題評議会、背景記事:アル・シャバブ(Backgrounder: Al Shabaab)、2013 年 2 月 5 日、<http://www.cfr.org/somalia/al-shabaab/p18650> 2013 年 6 月 25 日閲覧

¹² 国際戦略研究所、武力紛争データベース、定義:死者数(Definitions: Fatalities)、日付無し、<http://acd.iiss.org/en/about/definitions> 2013 年 7 月 17 日閲覧

¹³ Armed Conflict Location and Events Dataset、ACLED について(About ACLED)、日付無し、<http://www.acleddata.com/about-acled/> 2013 年 7 月 17 日閲覧

死者・負傷者の数

1.11 ACLED は、ソマリアにおける紛争による 2012 年の死者数合計が 3,323 人であるとするデータを保持している。¹⁴ 国際戦略研究所の武力紛争データベース(IISS ACD)のソマリア(Somalia)、人間の安全保障(Human Security)を 2013 年 6 月 24 日にアクセスしたところ、日付の記載は無いが、2012 年、ソマリア全体で推定 2,151 人が死亡したと記載されていた(因みに 2011 年の死者数は 1,950 人である)。又、次のような記載もある。

「アル・シャバブと政府支持勢力との間の武力抗争は、2012 年、2,151 人以上の死者を出したと報じられている。但し、実際の数字はこれよりかなり多いと推定される。ソマリア南部、中でも戦略上重要な湾岸都市キスマヨの市内とその付近において、アル・シャバブが主導する反政府勢力に対する戦闘が激化したことにより、幅広い地域で住民が避難を余儀なくされた。アル・シャバブのグループが、自ら支配する地域において、支援機関に対する取り締まりを強化したため、支援物資の配給も困難を極めている。」¹⁵

1.12 HRW 2013 レポートは、次のように報じている。「世界保健機構(WHO)によると、2012 年 1 月から 9 月下旬までの間に、モガディシュにある病院では 5,219 人の負傷者を治療したが、そのうちの 118 人が、武器による致命的な負傷を負っていた。」¹⁶

武力抗争の傾向(2009 年～2013 年)

1.13 Armed Conflict Location and Events Dataset(ACLED)のウェブサイトは、2009 年から 2013 年 3 月までの期間について、ソマリア全土で報じられた事件と死者の数を表すグラフを作成し、2013 年 4 月に発行された Country Report on Somalia に掲載した。¹⁷

¹⁴ Armed Conflict Location and Events Dataset、データ:アフリカ(Data: Africa)、日付無し
<http://www.acleddata.com/data/africa/> 2013 年 7 月 17 日閲覧

¹⁵ 国際戦略研究所、武力紛争データベース、ソマリア、人間の安全保障の進展、2012 年(Somalia, Human security developments, 2012)、請求すればハードコピーを入手可能。

¹⁶ Human Rights Watch, World Report 2013, Somalia
<http://www.hrw.org/world-report/2013/country-chapters/somalia> 2013 年 6 月 24 日閲覧

¹⁷ Armed Conflict Location and Events Dataset、Country Report: Somalia)、2013 年 4 月、
http://www.acleddata.com/wp-content/uploads/2013/04/ACLED-Country-Report_Somalia_April-2013.pdf
2013 年 6 月 24 日閲覧

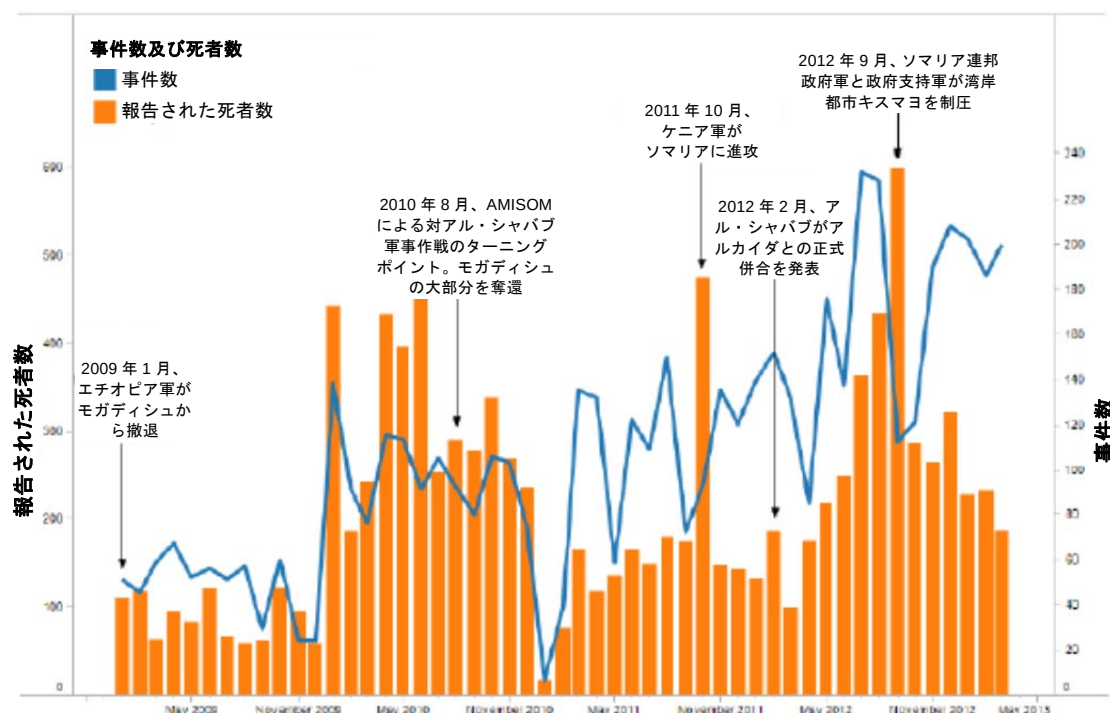


図 1: 2009 年～2013 年 3 月の期間にソマリアで起こった武力紛争事件と死者数

注記: ACLED は、政治的な暴力事件を「1 つ以上のグループが、政治上の目的をもって武力を用いる 1 つの紛争。但し、紛争の前兆又は不満分子の結合を網羅するため、抗議活動や非暴力的な活動も含む。」と定義している。¹⁸

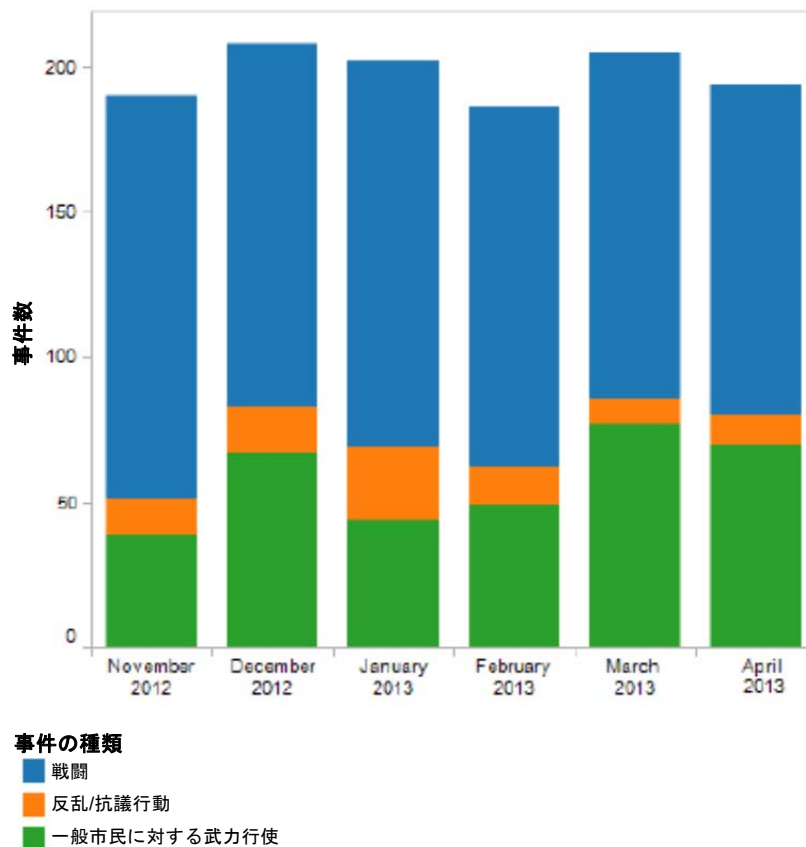
[目次に戻る](#)

武力抗争の種類と性質

1.14 2013 年 5 月付の Armed Conflict Location and Events Dataset(ACLED)Conflict Trends (No. 14): Real-time analysis of African Political Violence には、2012 年 11 月から 2013 年 4 月にかけてソマリアで起こった紛争事件(conflict events)(事件の定義については第 1.15 節を参照)の種類を表すグラフが掲載されている。¹⁹

¹⁸ Armed Conflict Location and Events Dataset、User Guide、日付無し、
<http://www.acleddata.com/wp-content/uploads/2013/04/ACLED-user-guide.pdf> 2013 年 7 月 17 日閲覧

¹⁹ Armed Conflict Location and Events Dataset、Conflict Trends (No.14): Real-time analysis of African Political Violence、2013 年 5 月、
http://www.acleddata.com/wp-content/uploads/2013/05/ACLED-Conflict-Trends_No-14_May-2013.pdf
2013 年 6 月 24 日閲覧



1.15 ACLED は、事件の種類を以下のように定義している。²⁰

事件	定義
戦闘－支配権の移行なし	戦闘はあったが、戦闘地域の支配権が移行することは無かった。最も多く見られる事象である。政府がある地域を支配しており、反乱分子と戦って勝利した場合、この方法が採られる。反乱分子がある地域を支配しており、政府勢力と戦って支配権を維持した場合、この方法が採られる。2つの反乱分子がお互いに戦って、その地域を支配していたグループが支配権を維持した場合、この方法が採られる。
戦闘－反乱分子が地域を支配	戦闘があり、反乱分子が地域の支配権を獲得した。反乱分子のグループが、他の勢力と戦って支配権を獲得した場合、この方法が採られる。2つの反乱分子がお互いに戦って、支配権を持っていなかったグループが支配権を獲得した場合、この方法が採られる。

²⁰ Armed Conflict Location and Events Dataset、User Guide、日付無し、p5、
<http://www.acleddata.com/wp-content/uploads/2012/ACLED-user-guide.pdf> 2013 年 7 月 17 日閲覧

戦闘－政府が支配権を取り戻す	戦闘があり、政府が地域の支配権を取り戻した。このカテゴリーは、政府が支配権を取り戻した事件にのみ当てはめられる。
反乱/抗議活動	抗議とは、あるグループが政府に対する集会を開くことを意味する。反乱とは、暴力を伴い、組織化されていない抗議活動を意味する。これらの活動の参加者は「抗議者(国)」又は「反乱者(国)」と称される。
市民に対する暴行	市民に対する暴行とは、大きな紛争において、武装グループが武装していない市民を攻撃することである。反乱分子、政府、民兵は、いずれも市民に対する暴行の行為者となり得る。市民が関係する事件は、これだけである。

1.16 2012 年 8 月 22 日に発行され、2011 年 9 月から 2012 年 7 月までの出来事を網羅した国連人権理事会の独立専門家 Shamsul Bari によるソマリアの人権情勢に関するレポート (UNIE report August 2012) は、次のように記している。「[2011 年 8 月に] アル・シャバブがモガディシュから撤退したことにより、ソマリアの人権情勢に直接影響していた政治情勢と治安情勢が大きく進展した。長年に渡る戦闘の終結は、モガディシュの主要な医療施設で治療を受ける負傷者の傷の種類に、即座に反映された。」²¹

1.17 2012 年の出来事を網羅した 2013 年 4 月 19 日発行の米国国務省の 2012 Country Report on Human Rights Practices, Somalia (USSD 2012 report) は、次のように記している。

「その年の、TFG/政府、政府同盟軍、及びアフリカ連合(AU)軍のアル・シャバブに対する戦闘により、市民が死亡・負傷し、大勢の人が避難を余儀なくされた... ソマリアの内戦により大勢の市民が死亡した... その年、アル・シャバブの迫撃砲や簡易爆弾(IED)によるモガディシュ攻撃で、市民が死亡・負傷した。更に、アル・シャバブは、公設市場を襲い、人道主義者、その他の市民を殺害し、政府役人を襲撃した... 国際勢力、及び国際勢力とアル・シャバブの戦闘により、市民が死亡した。」²²

1.18 2013 年 1 月 31 日発行の Human Rights Watch World Report 2013, Somalia は、以下のよう

²¹ 国連人権理事会の独立専門家によるソマリアの人権情勢に関するレポート (Report of the independent expert on the situation of human rights in Somalia)、著者: Shamsul Bari、パラグラフ 19、2012 年 8 月 22 日、http://www.ohchr.org/Documents/HRBodies/HRCouncil/RegularSession/Session/Session21/A.HRC.21.61_en.pdf 2013 年 6 月 24 日閲覧

²² 米国国務省、2012 Report on Human Rights Practices, Somalia セクション 1g、2013 年 4 月 19 日、<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dldid=204165> 2013 年 6 月 24 日閲覧

「一斉射撃、中でも、道路防塞を占拠するための TFG 勢力間の接近戦、主にアル・シャバブの勢力による簡易爆弾や手榴弾を使った攻撃で、市民の死亡・負傷が続いている。アル・シャバブは、[2012 年]9 月 20 にジャーナリスト 3 名を含む少なくとも 18 人が死亡した事件を含め、モガディシュで数件の大掛かりな自爆テロを起こした... TFG 軍と、その同盟軍である市民軍による無差別射撃で、市民が死亡・負傷した。[2012 年]3 月 21 日、TFG 軍と同盟している民兵に対して手榴弾が投げられたことを発端に、バイドアで市民軍が市民に対して発砲し、少なくとも 6 人が死亡した。」²³

1.19 Armed Conflict Location and Events Dataset のウェブサイト(ACLED)は、2013 年 4 月に発行された Country Report on Somalia で、アル・シャバブの戦術について次のように記している。

「2012 年以降、アル・シャバブが主導するグループは、正式にアルカイダと提携し、交渉による解決の可能性は完全に絶たれた。グループの戦術も変わってきている。領土の支配権が比較的安定していた時期は、アル・シャバブが市民を襲撃したという報告があまり無かった。事件の報告が少ない理由の一部として、情報の抑制と、アル・シャバブの領土へのアクセス制限があることは間違いないが、グループの支配力が弱まっている地域で暴行が急激に増えていることから、支配下の市民との関係が変わってきたことを裏付けている。具体的には、アル・シャバブの領土におけるスパイ活動の容疑で、非戦闘員が逮捕、拘留、処刑される事例が増えている。それと並行して、アル・シャバブが最近奪われた領土におけるヒットエンドラン式の攻撃、遠隔操作の簡易爆弾、自爆テロなど、兵士や市民を標的としたゲリラ戦術も増えている。

「こうした戦術の移行は、グループの組織力が弱体化していることを示している。アル・シャバブには、領土の支配を広げていた時期、又は、2010 年から 2011 年にかけてモガディシュの支配権を防衛していた時期のような、長期戦を仕掛ける力はもはや無い。勢力と能力を失ったとは言え、アル・シャバブのグループは、依然として治安情勢に対する脅威である。2013 年 3 月にエチオピア軍が一時的にフドゥール(Hudur)から撤退した時、アル・シャバブは、グループの長期に渡る一但し、低レベルの一存在と活動により、フドゥールを再び支配する用意を万端整えていた。一般的に、連邦政府が、新たに手に入れた領土の正当な支配者となるためには、過去 3 年間に渡り、継続して激しい紛争危機に晒されてきた住民に対し、今すぐ平和をもたらさなければならない。

「領土の支配の面でも、アル・シャバブのグループは大きく変わった。連邦政府が、ソマ

²³ Human Rights Watch, World Report 2013, Somalia
<http://www.hrw.org/world-report/2013/country-chapters/somalia> 2013 年 6 月 24 日閲覧

リア南東部のアル・シャバブ勢力を正式に排除することに大きな成功を収めた一方、アル・シャバブと同盟勢力は、新たに略奪した領土(前述の通り)や首都モガディシュで、活動が続いている。アフリカ連合ソマリア平和維持部隊主導の首都奪回作戦の後、アル・シャバブの首都における攻撃とその死者数は減っているものの、アル・シャバブのグループは、依然として Heliwa、Yaqshid、Wardighley、及び Daynile 地区で特に存在感を示している。」

24

1.20 2013 年 6 月 24 日発行の『Economist』誌の調査部門(Economist Intelligence Unit)のソマリアに関する国別レポートは、次のように記している。「名目上政府が支配する地域は、アル・シャバブによるゲリラ攻撃を頻繁に受けている。[2013 年]4 月中旬、首都モガディシュで、一連の激しい爆撃と銃撃が発生し、少なくとも 30 人が死亡した。」²⁵ 同レポートはこうも報じている。

「[2013 年]6 月 19 日、イスラム主義の民兵が、首都にある国連施設の外で、車に仕掛けた爆弾を起爆し、侵入を試みた。警備員との銃撃戦が 90 分以上続いた... アル・シャバブが、首都モガディシュで、重要で理論的に警備の行き届いた施設を比較的楽に攻撃する力を維持しているという事実は、政府にとって重大な憂慮事項であり、ソマリアで迅速に経済復興を果たす希望を削ぐものである。」²⁶

特定の地域情勢の傾向については、以下の節を参照されたい。

目次に戻る

地域ごとの治安情勢

1.21 Armed Conflict Location and Events Dataset のウェブサイト(ACLED)は、1997 年から 2013 年 3 月までの期間について、2013 年 4 月発行の Country Report on Somalia で、次のように報じている。²⁷

²⁴ Armed Conflict Location and Events Dataset、Country Report: Somalia)、2013 年 4 月、p2-3、http://www.acleddata.com/wp-content/uploads/2013/04/ACLED-Country-Report_Somalia_April-2013.pdf
2013 年 6 月 24 日閲覧

²⁵ Economist Intelligence Unit, Country Report: Somalia、2013 年 6 月 24 日、p2、請求すればハードコピーを入手可能。

²⁶ Economist Intelligence Unit, Country Report: Somalia、2013 年 6 月 24 日、p12、請求すればハードコピーを入手可能。

²⁷ Armed Conflict Location and Events Dataset、Country Report: Somalia)、2013 年 4 月、http://www.acleddata.com/wp-content/uploads/2013/04/ACLED-Country-Report_Somalia_April-2013.pdf
2013 年 6 月 24 日閲覧

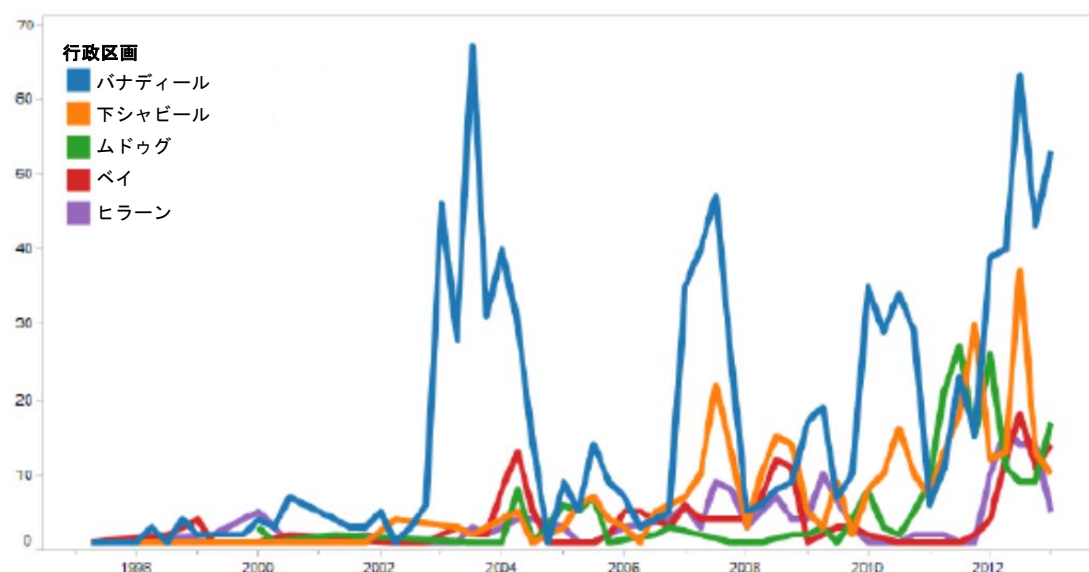


図 5: ソマリアの最も戦闘の激しい 5 つの地域における武力紛争、1997～2013 年

国際危機グループ(International Crisis Group)の Crisis Watch データベースは、ソマリアにおける事件の概要を保持している。

ソマリア中南部

1.22 2013 年 4 月と 5 月にデンマークとノルウェーが共同で行った、モガディシュとナイロビの現地調査に関する 2013 年 5 月 8 日付の報告書は、次のように記している。

「… アフリカ連合ソマリア平和維持部隊は、ソマリア中南部の 4 つの区域に配備されている。各区域のアフリカ連合ソマリア平和維持部隊 (付録 3, 4, 5, 6 のソマリア中南部における支配勢力図も参照されたい)は、以下の地域の部隊で構成されている。

「区域 1、ベナディール(Benadir)、下シャビール・中央シャビール地域:ブルンジとウガンダの部隊」

「区域 2、キスマヨとジュバランド(Jubbaland)、即ち上ジュバと下ジュバ地域:ケニアとシエラレオネの部隊」

「区域 3、ベイ(Bay)、バコール(Bakool)、及びゲド地域の一部:ブルンジとウガンダの部隊」

「区域 4、ベレドウェインを含むヒラーン(Hiraan)地域の一部:ジブチの部隊。ソマリア中南部の解放された/奪還された地域に関し、国際機関 Mogadishu の代表団は、これらの地域が完全に安全だとは言いきれないと述べた。」

「何故アフリカ連合ソマリア平和維持部隊がもっと速く進攻しないのかとの質問に対し、

国際機関 Mogadishu の代表団は、アフリカ連合ソマリア平和維持部隊には能力的にも資源的にも限界があると認めることが重要であると説明した。又、アフリカ連合ソマリア平和維持部隊は、かつて支配していた地域からアル・シャバブを排除した後、治安の空白を埋めるため、SNG が警察部隊と軍を配備する用意があることを確認する必要があると加えた。更に、新たに奪還された地域に地方政府を設立する問題もある。これは、権力闘争を回避する、又は抑制するための必須事項である... UNDSS Nairobi は、アフリカ連合ソマリア平和維持部隊とソマリア政府軍が、進攻する(即ち、開放する)地域の住民の支持を得ていると説明している。しかし、一般的に、地域住民は今後何が起こるか分からないため、多少怖がったり怯えたりしている傾向にある。アフリカ連合ソマリア平和維持部隊が撤退し、アル・シャバブが直ぐに戻ってくるのではないかと考えているかもしれない。しかし、2、3 ヶ月経って、アフリカ連合ソマリア平和維持部隊とソマリア政府軍が定住し、この先も治安を守ってくれることを理解すれば、完全に支持してくれる。ベレドウェイン、バイドア、ルーク、マルカ、ジョハール(Jowhar)、アフグーイエ、アフマドゥ、及びアフリカ連合ソマリア平和維持部隊とソマリア政府軍の支配下にあるソマリア中南部の全ての都市では、こうしたことが起こっている。

「アル・シャバブが支配する地域に住む住民は、一般的に辟易しており、アル・シャバブを排除したいと望んでいる。例えば、ブロ・ブルティ(Bulo Burti)では、人々が増税に対し、初めて公然と抗議した。こうした不満が、アル・シャバブの支配する他の地域にも広がっている。軍事的視野に立つと、UNDSS にとって、何故アフリカ連合ソマリア平和維持部隊とソマリア政府軍がアル・シャバブから更なる領土を奪還するために進攻しないのか、理解することは難しい。例えば、今ではジャララクシ(Jalalaqsi)やブロ・ブルティを奪還し、ジョハールとベレドウェインを経由してモガディシュに通じる道路を開通させ、アル・シャバブを完全に弱体化させることは容易であると思われる。」²⁸

1.23 Armed Conflict Location and Events Dataset のウェブサイト(ACLED)は、2013 年 4 月発行の Country Report on Somalia で、次のように報じている。

「2013 年初めの時点で、連邦政府と政府を支持する勢力は、ソマリア中南部の主要都市を殆ど全て奪還した。アル・シャバブは司令部を中央ジュバにあるジリブ(Jilib)に移し、ほぼ田園で占められる地帯を支配した。

²⁸ Danish Immigration Service and Landinfo、モガディシュとソマリア中南部における治安と保護、デンマークとノルウェーによるモガディシュとナイロビの現地調査(Security and protection in Mogadishu and S/C Somalia, Danish-Norwegian fact finding mission to Nairobi and Mogadishu)、2013 年 4 月～5 月、2013 年 5 月 8 日、p35
http://www.nyidanmark.dk/NR/rdonlyres/6F1A29C6-2F84-40D2-BDE4-42F69897EEC3/0/security_and_protection_in_somalia_may_2013.pdf 2013 年 6 月 24 日閲覧

「ソマリアについて議論する際、研究者は連邦政府の支配外にある地域に関連し、国家の失敗と「無政府状態の領域」を引き合いに出すことが多い。事象データを分析すると、支配の空間性は、こうした世間一般の通念が暗示するより遥かに複雑であることが判る。図 2 は、2010 年から 2012 年において、アル・シャバブが活動する又は駐留する(武力闘争を行っているか否かに拘わらず)地域を示し、アル・シャバブとその他の紛争行為者との間で戦闘が行われた地域をハイライト表示している。紛争行為者には、連邦政府と政府支持勢力(アフリカ連合ソマリア平和維持部隊、エチオピア軍、及びケニア軍)と並び、アル・スンナ・ワル・ジャマー(Ahlu Sunna Wal Jamaa)などの民兵、及び限られた地域でアル・シャバブと戦ったその他の地方部隊が含まれる。

「図は、連邦政府と政府支持勢力の支配が時間の経過と共に広がっている様子を明確に表しているが、最初の 2010 年の図を見ると、モガディシュ以外のアル・シャバブの支配に対する攻撃が激化する前から、アル・シャバブが地方の勢力と散発的な戦闘を繰り返していたことが見て取れる。ACLED で戦闘を武装グループ間の衝突と定義しているように、こうした攻撃は、ある領土において、戦争行為者が、勢力を独占することに対する挑戦であることを表している。このように、こうした動きは、ソマリアにおいて、権力と支配が不在であったというよりは、権力と支配権をめぐる争奪戦が行われていたことを示している。」

29

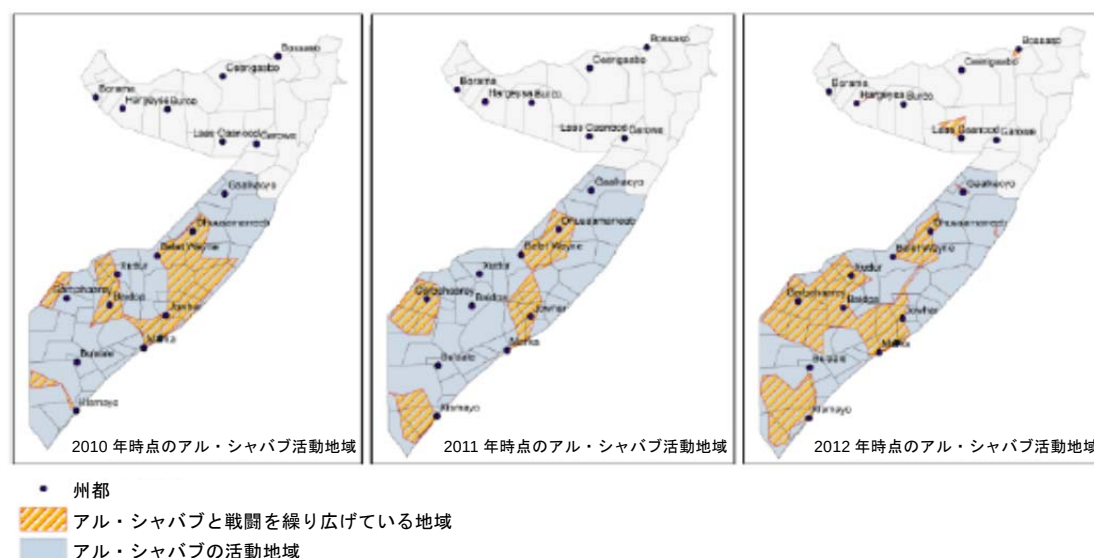


図 2: アル・シャバブの活動地域と武力闘争の起こった地域の地図、ソマリア、2010 年～2012 年

1.24 2013 年 5 月付の UNSC Report は、次のように記している。

²⁹ Armed Conflict Location and Events Dataset、Country Report: Somalia)、2013 年 4 月、
http://www.acleddata.com/wp-content/uploads/2013/04/ACLED-Country-Report_Somalia_April-2013.pdf
 2013 年 6 月 24 日閲覧

「ソマリア中南部では、政府と政府支持勢力が、マルカ（低シャビール州(Shabelle Hoose))とブルハカバ(Buurhakaba)(ベイ州) 付近のいくつかの村を、それぞれ 2013 年 2 月 14 日と 2 月 27 日に制圧し、4 月にはアル・シャバブが主導する反政府グループからルークーバイドア-アフグーイェーモガディシュを通じる道路を奪還した。一方、アフリカ連合ソマリア平和維持部隊(AMISOM)は、モガディシュとバイドアを繋ぐ 240km に渡る道路の管理体制を整備した。しかし、連邦政府が支配するバイドア(ベイ州)、ベレドウェイン(ヒラーン州)、キスマヨ(下ジュバ州(Juba Hoose))、及びウドゥール(Xuddur)(バコール州)は、毎週のように攻撃を受け、2013 年 2 月 12 日、非番の国連警備員 1 名が負傷した。2013 年 4 月 29 日と 5 月 1 日の 2 回に渡り、キスマヨ空港が迫撃砲で攻撃され、国連職員の殆どが市外に避難した。アフグーイェとマルカは特に集中砲火を浴び、反政府グループは、市民に対する威嚇や嫌がらせ、並びに工作員の支援を続けた。アル・シャバブは、中央シャビール(Shabelle Dhexe)とガルグドゥード州(Galguduud)では小規模の攻撃しか行わなかったが、これらの地域の大部分を支配し続けた。

「モガディシュ以外で治安情勢が大きく変化したのは、2013 年 3 月 17 日にエチオピア軍とソマリア軍が撤退した後のウドゥール(バコール州)である。町はたちまちアル・シャバブに再占拠され、少なくとも市民 1 人が死亡、数人が逮捕された。ウドゥールの奪回は、アル・シャバブにとって数ヵ月ぶりの領土奪回であり、奪回した地域の支配権を維持しようとするアル・シャバブの意向の証明であった。」³⁰

目次に戻る

モガディシュ

1.25 Armed Conflict Location and Events Dataset のウェブサイト(ACLED)は、2013 年 4 月発行の Country Report on Somalia で、2010 年から 2013 年 3 月までの間にアル・シャバブがバナディール(Banaadir)地域(モガディシュが所在する)で起こした事件について、次のように報じている。³¹

³⁰ 国連安全保障理事会、国連事務総長報告書(Report of the Secretary-General on Somalia)、2013 年 5 月 31 日、パラグラフ 13-14、http://www.un.org/ga/search/view_doc.asp?symbol=S/2013/326 2013 年 6 月 24 日閲覧

³¹ Armed Conflict Location and Events Dataset、Country Report: Somalia)、2013 年 4 月、http://www.acleddata.com/wp-content/uploads/2013/04/ACLED-Country-Report_Somalia_April-2013.pdf 2013 年 6 月 24 日閲覧

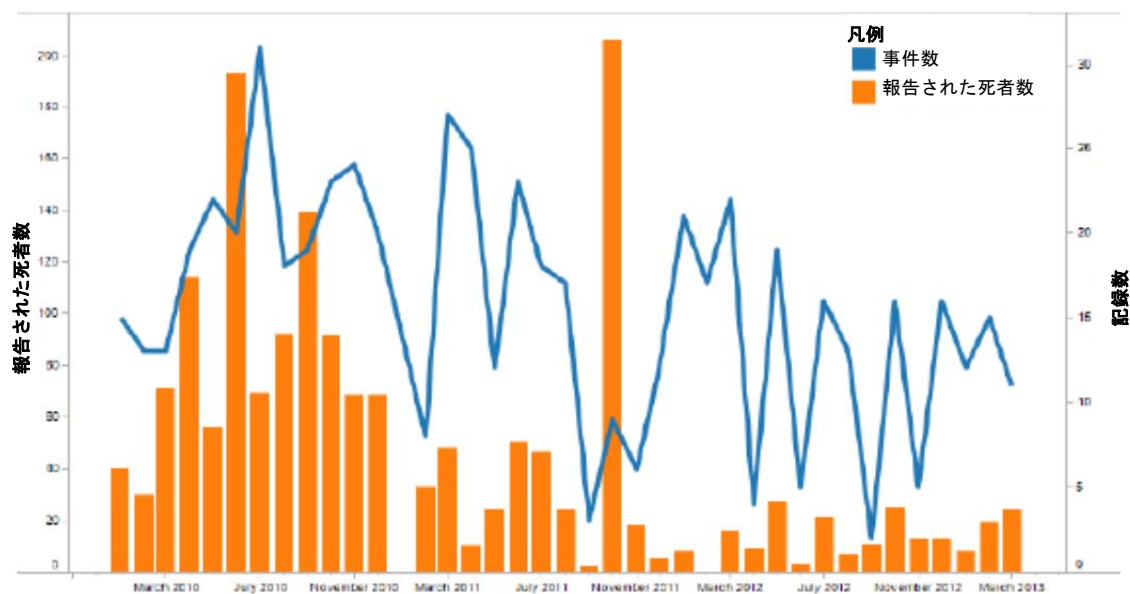


図 3: アル・シャバブが関与した事件、報告されている死者数、バナディール地域、ソマリア、2010 年～2013 年 3 月

1.26 2013 年 4 月と 5 月にデンマークとノルウェーが共同で行った、モガディシュとナイロビの現地調査に関する 2013 年 5 月 8 日付の報告書は、次のように記している。

「武力紛争に関し、UNDSS Mogadishu は、2011 年 8 月にアル・シャバブがモガディシュから一部の武装部隊を撤退させたものの、撤退がようやく完了したのは 2012 年 5 月末であった。その後、モガディシュでアル・シャバブの部隊が常時戦闘態勢を敷いているという事態はなかったが、アル・シャバブのグループは地下に潜り、テロ行為を続けていた。Daynile は、モガディシュの中でも最後にアル・シャバブ勢力から解放された地区である。その後、即ち 2012 年 5 月末以後、モガディシュでは 6 週間ほど静寂が続いた。しかし、それ以降は武力による攻撃が再開し、町の中心から離れた地区で治安部隊の警備や交番が狙われた。アル・シャバブは、こうしたヒットエンドラン式の攻撃に小型の武器を使ったが、時にはロケット推進グレネード(RPG)など多少大型の武器も使った。アル・シャバブはモガディシュの再占拠、ましてやモガディシュ郊外の再占拠を試みているのではなく、嫌がらせのため、又、存在をアピールするために攻撃を続けているのである... モガディシュ在留の国際 NGO(B)は、[2011 年 8 月に]アル・シャバブがモガディシュから撤退してからモガディシュ市民の安全は向上したと説明した。かつてモガディシュは 2 つに分断されていた。アル・シャバブが支配する地区、及び、ソマリア政府と国際勢力が支配する地区である。この期間中、市民はひどく苦しんできた。人々が市内を移動することは困難で、1 つの地区から別の地区に移動する際は異なる規則に従わなければならなかった。前線での戦闘により、多くの負傷者が出た。

「今日、[モガディシュには]武力闘争も前線も存在しない。人々は市内を自由に移動でき、アフグーイェ回廊や、その他の地域から帰還した。

「しかし、モガディシュ在留の国際 NGO(B)によると、市内には脅威が残っている。様々な種類の簡易爆弾、手榴弾による攻撃、そして暗殺が、人々に恐怖を与えている。アル・シャバブは依然として人々の生活を脅かしている。検問所は取り払われたが、市民は移動する際、常に警戒していなければならない。例えば、市民がリド(Lido)ビーチを訪れるようになってから、車載爆弾と自爆テロの 2 回の攻撃があった。一方、明らかな進展もある。例えば、昨年 10 月以前、バカラ(Bakara)市場を訪れる市民はなかったが、今日では訪れている。

「モガディシュ在留の国際 NGO(B)によると、アル・シャバブはモガディシュの任意の場所を襲撃することができる。しかし、場所によって影響力は違う。影響力が最も強いのは、Daynile 北部の Suqahoiaha(フリワ(Hurriwa)地区)、Industrial Road 地区、及びバカラ市場である。人々は、こうした場所に行く前に躊躇してしまう。それでも、アル・シャバブ グループのメンバーは至る所に存在し、外見では区別できないのだ... モガディシュ在留の国際 NGO(B)によると、モガディシュにおけるアル・シャバブの影響は目に見えないが、市内全域に渡って攻撃を仕掛ける力を持っている。だから、市民はアル・シャバブを刺激するような言動を避けている。アル・シャバブがよく標的にするのは以下の人々である。

- ・ 政府役人
- ・ アフリカ連合ソマリア平和維持部隊(AMISOM)
- ・ 国際機関の職員
- ・ 政府のためにアル・シャバブに対するスパイ活動をしていると疑われる人物

「こうした理由から、市民は自分の行動について熟慮し、間違った時間に間違った場所に居合わせないように気を付けているのである。」³²

1.27 2013 年 5 月付の UNSC Report は、次のように記している。

「モガディシュの治安は多少安定したものの、アル・シャバブは無防備な市民に対してテ

³² Danish Immigration Service and Landinfo、モガディシュとソマリア中南部における治安と保護、デンマークとノルウェーによるモガディシュとナイロビの現地調査(Security and protection in Mogadishu and S/C Somalia, Danish-Norwegian fact finding mission to Nairobi and Mogadishu)、2013 年 4 月～5 月、2013 年 5 月 8 日、p5-7、

http://www.nyidanmark.dk/NR/rdonlyres/6F1A29C6-2F84-40D2-BDE4-42F69897EEC3/0/security_and_protection_in_somalia_may_2013.pdf 2013 年 6 月 24 日閲覧

ロ戦術を仕掛けるなどして、市民の間に負傷者が続出している。特定の人物を狙った暗殺、襲撃が頻繁に報じられた。2013 年は、簡易爆弾を使った攻撃の件数が、前年に比べて増加した。例えば、1 月 24 日、国連職員 2 名を乗せた護衛車に向かって爆弾が投げられた。国連職員は無事だった。Villa Somalia(首相官邸)でシルドン(Shirdon)首相を狙った 1 月 29 日の自爆テロ、National Security Intelligence Agency for Banadir の局長を狙い、10 人の死者を出した 3 月 18 日の自爆テロなどの事件が、アル・シャバブが依然として政府や無防備な標的を攻撃する意図と能力を保持していることを示している。」

「2013 年 4 月 14 日、アル・シャバブが地方裁判所を狙って起こした連続攻撃により、30 人以上が死亡した。複数の狙撃手と爆弾によるこの襲撃は、モガディシュで 2013 年に起こった事件の中で、今のところ最も悲惨なものである。同日、自爆テロ犯のものと思われる車両がトルコの支援機関の護衛車に衝突した。4 月 25 日、州副検事がモガディシュで暗殺され、5 月 5 日には、カタル代表団が乗った政府護衛車に自爆テロ犯の車が突っ込み、10 人以上が死亡した。」³³

1.28 2013 年 6 月 24 日発行の『Economist』誌の調査部門(Economist Intelligence Unit)のソマリアに関する国別レポートは、次のように記している。「[2013 年]4 月中旬、首都モガディシュで、一連の激しい爆撃と銃撃が発生し、少なくとも 30 人が死亡した。」³⁴ 同レポートはこうも報じている。

「[2013 年]6 月 19 日、イスラム主義の民兵が、首都にある国連施設の外で、車に仕掛けた爆弾を起爆し、侵入を試みた。民兵と警備員との銃撃戦が 90 分以上続いた。現場は、モガディシュ国際空港からたった数百メートルの距離にあり、数千のアフリカ連合ソマリア平和維持部隊(AMISOM)部隊の拠点となっている。現場からのレポートによると、反政府勢力 7 人、市民 7 人、外国人国連職員 4 人を含む 22 人が死亡した... この事件は、モガディシュにある首相官邸を狙った 6 月 16 日の手榴弾攻撃の直後に起こった。この首相官邸襲撃事件にも、アル・シャバブが犯行声明を出している。アル・シャバブが、首都モガディシュで、重要で理論的に警備の行き届いた施設を比較的楽に攻撃する力を維持しているという事実は、政府にとって重大な憂慮事項であり、ソマリアで迅速に経済復興を果たす希望を削ぐものである。」³⁵

目次に戻る

³³ 国連安全保障理事会、国連事務総長報告書(Report of the Secretary-General on Somalia)、2013 年 5 月 31 日、パラグラフ 11-12、http://www.un.org/ga/search/view_doc.asp?symbol=S/2013/326 2013 年 6 月 24 日閲覧

³⁴ Economist Intelligence Unit, Country Report: Somalia、2013 年 6 月 24 日、p2、請求すればハードコピーを入手可能。

³⁵ Economist Intelligence Unit, Country Report: Somalia、2013 年 6 月 24 日、p12、請求すればハードコピーを入手可能。

キスマヨ、下ジュバ、ゲバ地域と「ジュバランド」

1.29 2013 年 4 月と 5 月にデンマークとノルウェーが共同で行った、モガディシュとナイロビの現地調査に関する 2013 年 5 月 8 日付の報告書は、次のように記している。

「UNDSS Nairobi は、2012 年 9 月 30 日にアル・シャバブがキスマヨから撤退した後、ラス・カンボニ(Ras Kamboni)市民軍がケニア軍と協力し、キスマヨの支配権を握った。この直後、ケニア部隊はアフリカ連合ソマリア平和維持部隊に統合されたため、現在、この地域はアフリカ連合ソマリア平和維持部隊の支配下にある。」

「UNDSS Nairobi は、2012 年 10 月以降、ドブレー(Dhobley)、アフマドゥ、キスマヨ、ラス・カンボニ、Buur Gabo、Badaade、そしてケニアのダダーブ(Dadaab)の間の反アル・シャバブ同盟が、この地域を支配していると説明した。」

「キスマヨの奪還直後、ラス・カンボニ市民軍は、ラス・カンボニの指導者 Ahmed Madobe を頭とする暫定政府を設立させた... 奪還後の第 1 段階では、キスマヨはゴーストタウンのような閑散としていた。しかし、2013 年 1 月以降、大勢の住民が帰還し、市場が開かれ、トラックが盛んに通ることから、町が正常な活動を取り戻したことが分かる。新しいビルも建設された。これは、ここ数年、1 度も無かったことである。中でも人口がかなり増えた。町が奪還されてから 10 倍に増えたとも思われる。又、難民がケニアのダダーブ難民キャンプから帰還した。アル・シャバブ統治下で敷かれていた入出港禁指令が無効になったため、商人が商業活動を活発化させた。」

「現在、キスマヨの治安は比較的良好である。しかし、大量の民兵が駐留しているため、潜在的な脅威は残っている。民兵は主に、Marehan 族と Ogaden 族の出身者である。Ogaden 民兵は、主にラス・カンボニ民兵であり、ソマリアに配備されたケニア軍により訓練を受け、武器と給料を支給され、完全にケニア軍の指揮下にある。最後になったが、ソマリア政府に忠誠を誓う市民軍がある。貧弱な武器しか持たず、給料も支給されていない。しかし、ラス・カンボニ市民軍と対立しているのは、この市民軍だけである。SNG を支持する市民軍は、ソマリア政府軍と共に、キスマヨ北部を支配しており、ケニア部隊は、これらの市民軍とラス・カンボニ市民軍との衝突を避けるため、中間の立場をとっている。」

「ラス・カンボニ市民軍は港を支配している。港にはケニア軍も駐留している。港で扱っている商品の中でも最も重要なものは、木炭、砂糖、及びセメントである。」³⁶

³⁶ Danish Immigration Service and Landinfo、モガディシュとソマリア中南部における治安と保護、デンマークとノルウェーによるモガディシュとナイロビの現地調査(Security and protection in Mogadishu and

1.30 Armed Conflict Location and Events Dataset のウェブサイト(ACLED)は、2013 年 4 月発行の Country Report on Somalia で、次のように報じている。

「ソマリアでは、過去 20 年間、ソマリア北西部とブントランド北東部がモガディシュ政府による中央集権政策から断固として距離を置く中、様々な形式の自治と独立が、事実上、容認されてきた。しかし、中南部、特に湾岸都市キスマヨを併合しようとする南「ジュバランド」でも同様の集権政策が起こっている... ケニアにとって、北東の国境に面したジュバランドに半自治権を持つ暫定政権が樹立され、安全な「緩衝地帯」ができれば、都合が良いことは間違いない。これは、この地域の一部関係者の利益とは重なるが、ケニアは、地域の市民軍や政治的な関心事と、モガディシュ連邦政府との分裂を深刻化させることになるかもしれない。」³⁷

1.31 2013 年 4 月と 5 月にデンマークとノルウェーが共同で行った、モガディシュとナイロビの現地調査に関する 2013 年 5 月 8 日付の報告書は、次のように記している。

「UNDSS は、最近、ラス・カンボニの指導者 Madobe と会見したと説明した。Madobe は、ジュバランドが 2013 年 4 月 23 日に独立宣言をする予定であると述べた—これは、ジュバランド州がソマリア連邦の一部ではなく、ソマリランドのような独立した国家になることを意味している。このことに関連し、Madobe は最近、ナイロビを訪問し、ケニアの新任の指導者たちと会談した。但し、この会談の協議事項、合意事項について、UNDSS は何ら情報を得ていない。」

「国際機関 Mogadishu の代表団は、ジュバランドが政府を樹立し、ソマリアからの独立を宣言するという情報を得ておらず、これが実現する可能性は低いと考えている。」

「ジュバランドを構成する下ジュバ、中央ジュバ、及びゲドの 3 つの地域の間で、モガディシュの SNG に対する立場に関する合意は無い。しかし、Madobe 主導の独立を望むグループと、ソマリア連邦の一部となることを望むグループがあることは明らかである。

UNDSS は、[ケニアによって]ゲド地域で軍事訓練を受けた 450 の Marehan 族の部隊が、キスマヨに進攻し、ジュバランドで行われている会議を中断させる命令を SNG より受けている可能性が高いと付け加えた。これらの部隊はキスマヨへの道中で、アル・シャバブが支

S/C Somalia, Danish-Norwegian fact finding mission to Nairobi and Mogadishu)、2013 年 4 月～5 月、2013 年 5 月 8 日、p38-39、
http://www.nyidanmark.dk/NR/rdonlyres/6F1A29C6-2F84-40D2-BDE4-42F69897EEC3/0/security_and_protection_in_somalia_may_2013.pdf 2013 年 6 月 24 日閲覧

³⁷ Armed Conflict Location and Events Dataset、Country Report: Somalia)、2013 年 4 月、
http://www.acleddata.com/wp-content/uploads/2013/04/ACLED-Country-Report_Somalia_April-2013.pdf
2013 年 6 月 24 日閲覧

配する領土を通り、アル・シャバブの歓迎を受けたとする情報がある。」³⁸

1.32 2013 年 5 月 15 日、Garowe Online はこう記している。

「Garowe Online によると、キスマヨで開催されたジュバランド建国会議において、500 人ほどの議員により、シェイク・アハメド・マドベ(Sheikh Ahmed “Madobe”) Mohamed Islam がソマリア連邦ジュバランド州の第 1 代大統領に選出された。但し、ソマリアのアブディ・ファラ・シルドン(Abdi Farah Shirdon)首相によりジュバランド特別委員会が任命された。」

「地域のコミュニティーは、連合してジュバランドを構成する下ジュバ、中央ジュバ、及びゲドの 3 つの地域の代表として、自分たちの中から 500 人の議員を選出した。ジュバランド州形成のプロセスは、2011 年以降進行中である... キスマヨの情報提供者によると、選挙委員会は、シェイク・アハメド・マドベが 480 票を獲得し、大勝利を収めたと発表した。」³⁹

1.33 Critical Threats のウェブサイトは、2013 年 6 月 10 付けのレポートで、こう報じている。

「2012 年 9 月にアル・シャバブがキスマヨから撤退したにも拘らず、ソマリア連邦政府はキスマヨとその周辺地域を統治する地方政府を任命することができないでいる。政府を支持してアル・シャバブと戦った氏族民兵は、今後、誰がこの湾岸都市を支配するかで意見が分かれているが、連邦政府自体に統治権を渡すことも躊躇している。地元の有力者が、連邦政府の決定を事実上覆す力を持ったキスマヨ(及びジュバランド)政府の設立に関して交渉を行っている。氏族、中でも Ogaden 族と Marehan 族の利害が、これらの交渉を動かしている。一方、アハメド・マドベのラス・カンボニ市民軍が事実上の支配権を握り、連邦政府の役人の警備を拒否したり、訪問を拒絶したりするなど、キスマヨの統治権を独占している。」⁴⁰

³⁸ Danish Immigration Service and Landinfo、モガディシュとソマリア中南部における治安と保護、デンマークとノルウェーによるモガディシュとナイロビの現地調査(Security and protection in Mogadishu and S/C Somalia, Danish-Norwegian fact finding mission to Nairobi and Mogadishu)、2013 年 4 月～5 月、2013 年 5 月 8 日、p39、

http://www.nyidanmark.dk/NR/rdonlyres/6F1A29C6-2F84-40D2-BDE4-42F69897EEC3/0/security_and_protection_in_somalia_may_2013.pdf 2013 年 6 月 24 日閲覧

³⁹ Garowe Online, ソマリアーアハメド・マドベが選挙で大勝利を収め、ジュバランドの第 1 代大統領に選出される(Somalia-Ahmed Madobe Elected Frist President of Jubaland in Landslide Victory), 2013 年 5 月 15 日、<http://allafrica.com/stories/201305160045.html> 2013 年 6 月 24 日閲覧

⁴⁰ Critical Threats, 米国のソマリアにおける対テロ戦略への挑戦(Challenges to America's Counterterrorism Strategy in Somalia)、2013 年 6 月 10 日、<http://www.criticalthreats.org/somalia/zimmerman-challenges-americas-counterterrorism-strategy-somalia-june-10-2013> 2013 年 6 月 26 日閲覧

マルカとブラバ(Brava)、下シャベル、及びジョハール、中央シャベル

1.34 2013 年 4 月と 5 月にデンマークとノルウェーが共同で行った、モガディシュとナイロビの現地調査に関する 2013 年 5 月 8 日付の報告書は、次のように記している。

「UNDSS Nairobi は、マルカではアフリカ連合ソマリア平和維持部隊とソマリア政府軍の強力な管理体制が敷かれていると説明している。しかし、アル・シャバブは、モガディシュにおける攻撃と同様の、手榴弾を使用した攻撃や暗殺など、小規模のヒットエンドラン型の攻撃を仕掛けている。しかし、こうした攻撃は徐々に少なくなっている。」

「安全保障の面でマルカより良好である中央シャベルのジョハールでも同じである。しかし、アル・シャバブは、軍事的にマルカ又はジョハールを攻撃することはできない。2011 年夏の攻撃以来、アル・シャバブはこうした作戦を実行する能力を失っている。今では、アル・シャバブは、一介の市民軍に逆戻りし、もはや大規模な攻撃を仕掛ける力を持たないのである... ナイロビ在留の国際 NGO(A)は、ブラバと下シャベル南部がアル・シャバブの支配下にあると付け加えた。アル・シャバブはブラバの港を利用しているが、この港には小型船舶しか出入りできないとも付け足した。」

「下シャベルにおけるアル・シャバブの活動を踏まえ、Peter Klansoe[Danish Refugee Council] DRC は、アル・シャバブが下シャベル南部の田園地帯の約 50%を支配していると説明した。但し、この地域における都市と幹線道路は、アフリカ連合ソマリア平和維持部隊とソマリア政府軍が支配している。アル・シャバブによる下シャベル支配は、恐怖と抑圧、そして、抵抗する者がいないという事実に基づいたものである。」⁴¹

ベイ、バコール、及びヒラーン

1.35 2013 年 4 月と 5 月にデンマークとノルウェーが共同で行った、モガディシュとナイロビの現地調査に関する 2013 年 5 月 8 日付の報告書は、次のように記している。「国際機関 Mogadishu の代表団は、バイドアには、アフリカ連合ソマリア平和維持部隊の部隊と並び、エチオピアの部隊が駐留している。しかし、アフリカ連合ソマリア平和維持部隊とエチオピアとの協力は限定的である。」⁴² 2013 年 5 月付の UNSC report は、次のように報じ

⁴¹ Danish Immigration Service and Landinfo、モガディシュとソマリア中南部における治安と保護、デンマークとノルウェーによるモガディシュとナイロビの現地調査(Security and protection in Mogadishu and S/C Somalia, Danish-Norwegian fact finding mission to Nairobi and Mogadishu)、2013 年 4 月～5 月、2013 年 5 月 8 日、p40-41、
http://www.nyidanmark.dk/NR/rdonlyres/6F1A29C6-2F84-40D2-BDE4-42F69897EEC3/0/security_and_protection_in_somalia_may_2013.pdf 2013 年 6 月 24 日閲覧

⁴² Danish Immigration Service and Landinfo、モガディシュとソマリア中南部における治安と保護、デ

ている。

「モガディシュ以外で治安情勢が大きく変化したのは、2013 年 3 月 17 日にエチオピア軍とソマリア軍が撤退した後のフドゥール(バコール州)である。町はたちまちアル・シャバブに再占拠され、少なくとも市民 1 人が死亡、数人が逮捕された。フドゥールの奪回は、アル・シャバブにとって数ヵ月ぶりの領土奪回であり、奪回した地域の支配権を維持しようとするアル・シャバブの意向の証明であった。」⁴³

目次に戻る

プントランド/ソマリランド

プントランド

1.36 2013 年 5 月付の UNSC report は、次のように報じている。

「プントランドでは、2012 年末のアル・シャバブによる攻撃の波が、2013 年でも続いている。反政府勢力は、2 月 11 日に北ガルカイヨ(Gaalkacyo)で起こった最初の自爆テロを含め、定期的に攻撃を仕掛けた。「プントランド」における複数の攻撃、爆発物の発見、及び、反政府勢力の動向に関する報告は、全て、アル・シャバブが勢力を強め、この地域に対して野心を持っていること、又、厄介なことに近隣のガルムドゥグ(Galmudug)に滞在していることを示している。無秩序な政府による行為を含めた犯罪行為、氏族間の紛争、及び政治的な緊張が、「プントランド」と「ガルムドゥグ」の治安を脅かしている。」⁴⁴

1.37 国連安保理決議 2002 (2011 年)に従った国連ソマリア・エリトリア監視団の 2012 年 7 月 13 日付レポートは、次のように記している。

「国連ソマリア・エリトリア監視団による 2011 年 7 月付のレポート(S/2011/433)にあるように、アル・シャバブの北方への勢力拡大は、2012 年 2 月、かつてモハメド・サイード・アトム(Mohamed Sa'iid "Atom")が率いていた「ゴリス山地(Golis Mountains)のムジャヒディン」が、正式にアル・シャバブに合流したとの発表と共に、新しい段階に入った。アル・シャバブの一員 "Amir" Ahmed Abdi Godane の親しい仲間である Yasiin Khalid Osman "Kilwe"は、自らをグループの新リーダーと名乗った。一方、監視団は、アル・シャバブの

ンマークとノルウェーによるモガディシュとナイロビの現地調査(Security and protection in Mogadishu and S/C Somalia, Danish-Norwegian fact finding mission to Nairobi and Mogadishu)、2013 年 4 月～5 月、2013 年 5 月 8 日、p42、
http://www.nyidanmark.dk/NR/rdonlyres/6F1A29C6-2F84-40D2-BDE4-42F69897EEC3/0/security_and_protection_in_somalia_may_2013.pdf 2013 年 6 月 24 日閲覧

⁴³ 国連安全保障理事会、国連事務総長報告書(Report of the Secretary-General on Somalia)、2013 年 5 月 31 日、パラグラフ 14、http://www.un.org/ga/search/view_doc.asp?symbol=S/2013/326 2013 年 6 月 24 日閲覧

⁴⁴ 国連安全保障理事会、国連事務総長報告書(Report of the Secretary-General on Somalia)、2013 年 5 月 31 日、パラグラフ 16、http://www.un.org/ga/search/view_doc.asp?symbol=S/2013/326 2013 年 6 月 24 日閲覧

兵士がソマリア南部からプントランドに着実に流入し、湾岸都市ボサソ(Bosaaso)の南まで活動範囲を拡張していると報告した。」⁴⁵

ソマリランド

1.38 2013 年 5 月付の UNSC Report は、次のように記している。「2013 年初め、英国や米国で西洋諸国に対するテロ攻撃を警告する動きがある中、「ソマリランド」では反アル・シャバブ活動が盛んになったが、攻撃が起きることは無かった。但し、スール(Sool)、サナーク(Sanaag)、及びカイン(Cayn)は、依然として「ソマリランド」の主要な不安定要因であり、「ソマリランド」と国境付近の紛争地域「チャツモ(Khatumo)」との間で定期的に武力衝突が起こった。」⁴⁶

治安に関して更に詳しく知りたい場合は、国内避難民(Internally Displaced Persons)の項を参照されたい。

目次に戻る

2. 治安部隊

本セクションは、治安情勢(Security Situation)と政府軍以外の武装グループ(Non-state armed groups)の項と関連付けて読むことが望ましい。

概観

2.01 2012 年 10 月 24 日付の JSCRA:Jane's Sentinel Security Risk Assessment, Somalia, Security and Foreign Forces は、次のように報じている。

「1991 年にシアド・バーレ(Siad Barre)政権が失墜してから数十年間、実効力を持った中央政府がソマリアに樹立されることは無かった。何年にも渡り、地元の氏族民兵が、警察業務のようなものを担ってきた。これらのグループは、給料を定期的に支給する主体によって、寛容に管理されていた。給料の支給者は、大概、伝統的な氏族の長老、シャリア(イスラム法)法廷、事業家、又は軍閥である。過去、給料の支給を受けられない場合、民兵は山賊行為や海賊行為を働くのが普通であった。全国的に実効力を持つ警察と治安部隊を配し

⁴⁵ 国連安全保障理事会、国連安保理決議 2002 (2011 年)に従った国連ソマリア・エリトリア監視団の報告書(Report of the UN Monitoring Group on Somalia and Eritrea pursuant to Security Council resolution 2002(2011))、2012 年 7 月 13 日、p15、
<http://www.securitycouncilreport.org/atf/cf/%7B65BFCE9B-6D27-4E9C-8CD3-CF6E4FF96FF9%7D/Somalia%20S%202012%20544.pdf> 2013 年 6 月 24 日閲覧

⁴⁶ 国連安全保障理事会、国連事務総長報告書(Report of the Secretary-General on Somalia)、2013 年 5 月 31 日、パラグラフ 17、http://www.un.org/ga/search/view_doc.asp?symbol=S/2013/326 2013 年 6 月 24 日閲覧

た中央政府が樹立されなければ、ソマリアを拠点とする海賊は、取り締まりを受けることなく国際船舶を襲撃できる。」

「中央政府による支配力の再建において、進歩は見られたが、大きな課題と問題が残った。2012 年 8 月、国際社会の承認と外国の援助を受け、新しいソマリア連邦議会が招集され、2004 年から機能してきた暫定連邦政府(TFG)に代り、連邦政府が新しい「管理人」として宣誓の上、発足した。9 月、議会はハッサン・シェイク・モアムド(Hassan Sheik Mohamud)大統領を選出した。新政府は、独自で、TFG の下で活動していた軍隊、警察、及び諜報機関を持つ。アフリカ連合ソマリア平和維持部隊の援助を受け、ソマリア国軍は、強力なアルカイダと繋がりを持つアル・シャバブ市民軍に対する戦闘に進歩を見せた。アル・シャバブは、2012 年末までに主要な都市部から排除された。アフリカ連合ソマリア平和維持部隊に加わったケニア防衛軍(KDF: Kenya Defence Forces)の部隊は、2012 年 9 月に湾岸都市キスマヨを制圧し、アル・シャバブの兵士を都市部における最後の拠点と見られるキスマヨから排除した。それでも、アル・シャバブの過激派による大きな脅威は依然として存在している。」⁴⁷

ソマリア中南部

警察

2.02 2012 年の出来事を網羅した 2013 年 4 月 19 日発行の米国国務省の 2012 Country Report on Human Rights Practices, Somalia (USSD 2012 Report)は、次のように記している。

「警察部隊は、地方政府と TFG/政府の両方の管理下に置かれた。国家警察はソマリア内務省(Ministry of Interior)の管轄に入った。警察全体の指揮権は大統領に委ねられた。TFG は、アル・シャバブが下シャベル地域のアフグーイエ、バラド(Balad)、及びマルカから排除されるか、又は撤退するに従い、徐々にモガディシュの外に勢力を拡大していった。」

「モガディシュでは、2 つの個別の警察部隊が機能していた。1 つは TFG 政府の管理下、もう 1 つはベナディール地方政府の管理下である。年末時点で、連邦政府の警察部隊は、モガディシュの 16 の区域のうち、7 つの区域に配備された。モガディシュの警察官は、政府に任命されるのではなく、氏族や血縁関係の繋がりにより職を得る場合が多かった。」⁴⁸

⁴⁷ Jane's Sentinel Security Risk Assessment(JSCRA)、ソマリア、安全保障と外国部隊(Somalia, Security and Foreign Forces)、2012 年 10 月 24 日、請求すればハードコピーを入手可能。

⁴⁸ 米国国務省、2012 Report on Human Rights Practices, Somalia、2013 年 4 月 19 日、セクション 1d、<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dldid=204165>
2013 年 6 月 24 日閲覧

2.03 2012 年 10 月 24 日付の JSCRA, Somalia, Security and Foreign Forces は、次のように報じている。

「暫定連邦政府(TFG)は、国際機関の支援を受け、モガディシュを拠点とするソマリア警察 (SPF: Somali Police Force)の強化に取り組んできた。1,000 人の体制を整えることが提案されている。アフリカ連合の平和支援団体である AMISOM(アフリカ連合ソマリア平和維持部隊)の援助を受け、警察部隊の訓練を実施するために、2009 年に警察訓練チームがモガディシュに到着した。モガディシュに警察学校が設立され、警察幹部はウガンダでも訓練を受けた。2010 年 6 月、アフリカ連合ソマリア平和維持部隊はソマリア人警察官 500 人をジブチで訓練する計画を発表した。この年、エチオピアで、900 人以上のソマリア人警察職員が、ドイツが融資する訓練プログラムを修了した。但し、ドイツのメディアは、ソマリア人警察職員は最終的には脱走したと主張している。2011 年後半、3,000 人以上の警察官が、国連、欧州連合、アフリカ連合ソマリア平和維持部隊、その他団体の融資によるプログラムで訓練を受けたと報じられている。警察の組織には犯罪調査部(Criminal Investigation Department)が含まれている。警察庁長官には Sharif Shekuna Maye 将軍が任命された。」

「国連開発計画(UNDP: United Nations Development Programme)が、警察署の再建、特別警察隊(Special Police Unit)と交通巡査の訓練を支援した。」⁴⁹

2.04 2013 年 1 月 16 日から 2013 年 5 月 15 日までの出来事を網羅した 2013 年 5 月 31 日発行の国連安全保障理事会の国連事務総長報告書(UNSC Report May 2013)は、次のように記している。

「ソマリア警察は、マルカ、アフグーイエ、ワンラウエイン(Wanlaweyn)(下シャベル)、及びバイドアなど、いくつかの新たに開放された地域で、その地位を確立した。しかし、ロジスティクスの不足により、警察配備の拡大には大きな困難が伴う。日本政府が Somali Transitional Security Institutions を支援する信託資金に寄付を行ったことから、ソマリア内務国防省(Ministry of Interior and National Security)と警察に、備品とロジスティクスの支援が提供される予定である。又、国連の支援を受け、ソマリア内閣は、文民警察を設立する 4 カ年の戦略的行動計画を構築した。

報告対象期間中、UNPOS は、警察訓練を企画し、モガディシュで流通している武器や弾薬の削減や、不法な検問所の除去に関し、1,000 人のソマリア人「緊急展開部隊」に対し

⁴⁹ Jane's Sentinel Security Risk Assessment(JSCRA)、ソマリア、安全保障と外国部隊(Somalia, Security and Foreign Forces)、2012 年 10 月 24 日、請求すればハードコピーを入手可能。

て助言を行った。アフリカ連合ソマリア平和維持部隊は、ジブチで、206 人の警察官を対象に、公共秩序の維持に関する訓練を行った。」⁵⁰

2.05 USSD 2012 レポートは、次のように報じている。

「一般的に、警察は、中南部の地域で十分機能していなかった。アル・シャバブが大きな都市から排除されるに従い、地域の警察職務は、SNA 部隊と、SNA を支持する民兵が担うようになった。連邦警察の指揮権と管理権は限定され、警察部隊がより効果的に機能するためには、基本的なインフラストラクチャーとロジスティクスに関する支援が不足していた... 地元住民がコミュニティーに基づいた和解の仕組みによって紛争を解決することを好むため、警察は、社会の暴行を防止したり、これに対応したりすることができないことが多かった。」⁵¹

国家安全保障局

2.06 2013 年 10 月 24 日付の JSCRA, Somalia, Security and Foreign Forces は、ソマリアには国家安全保障局(NSA: National Security Agency)が存在すると述べている。

「国家安全保障局としても知られる NSA は、連邦政府の下で機能している情報/安全保障に関する機関であり、1991 年に失墜したシアド・バーレ政権の下で動いていた機関の後を継いだ。情報の収集と分析の他に、NSA は移民管理と対テロ対策も担当している。国内と国外で情報を収集し、周辺諸国の政治面、及び軍事面の発展を監視している。NSA は、上官を通じ、TFG 大統領に対する報告義務がある。NSA は、米国、その他の外国政府に資金援助を受けている。」

「対テロ対策と国内の治安維持の任務と並行し、NSA の局員は、被疑者の逮捕と拘留を行う。NSA は、2011 年 3 月、あるラジオ局が TFG 大統領シェイク・シャリフ・シェイク・アハメド(Sheikh Sharif Sheikh Ahmed)に批判的なレポートを流した後、2 人の地元ジャーナリストを逮捕したことで、論争に巻き込まれた。ジャーナリストは、後日、釈放された。」

「2011 年 8 月の米国メディアのレポートによると、NSA は、モガディシュの本部に地下牢を設置し、イスラム主義テロリストのグループであるアル・シャバブのメンバーと疑われ

⁵⁰ 国連安全保障理事会、国連事務総長報告書(Report of the Secretary-General on Somalia) 、2013 年 5 月 31 日、パラグラフ 27、http://www.un.org/ga/search/view_doc.asp?symbol=S/2013/326 2013 年 6 月 24 日閲覧

⁵¹ 米国国務省、2012 Report on Human Rights Practices, Somalia、2013 年 4 月 19 日、セクション 1d、<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dliid=204165> 2013 年 6 月 25 日閲覧

る人物、又はアル・シャバブとの関係を疑われる人物を拘置しているという。アフリカ連合ソマリア平和維持部隊に潜入している CIA の米国人局員、フランス人情報局員が、ソマリア人局員と共に、地下牢に拘置されている囚人を尋問したと報告されている。NSA の局長は、ソマリアの元の在スーダン大使 Moalim Fiqi である。」

「NSA は、特定の領域の任務を受け持ついくつかの部門に分かれている。内務部門(Internal Division)は、政治、経済、社会、及び治安の問題に関する情報を収集する。外務部門(External Division)は、外国の情報や、組織犯罪の情報を収集する。運営部門(Operations Division)は、情報収集に関する運営上の支援を担当する。運営部門の部長は、局の情報資源の管理も受け持っている。他には、分析と生産(Analysis and Production)、情報とコミュニケーション・テクノロジー(Information and communications Technology)、管理(Administration)の部門がある。大使を頭とする外交支部(Diplomatic Branch)もある。国家情報アカデミー(National Intelligence Academy)は、新任の情報部員を訓練する任務を担っている。」⁵²

目次に戻る

アフリカ連合ソマリア平和維持部隊(AMISOM)とソマリア国軍

2.07 2013 年 3 月 7 日付の JSCRA, Somalia, Armed Forces は、1991 年 1 月 27 日に、統一ソマリア会議(USC: United Somali Congress)がシアド・バーレ少将を排除して以降、正式な国軍を持っていないと記している。2007 年 3 月、アフリカ連合ソマリア平和維持部隊は、最初にソマリアに配備され、エチオピア人兵士と共に、イスラム法廷会議(UIC: Union of Islamic Courts)と戦った。TFG は、UIC の勝利に応じて、2006 年 12 月中旬までに 10,000 人のソマリア兵士で構成される軍隊を立ち上げ、UIC が壊滅した後も民兵を募集し続けた。2009 年にエチオピアの部隊が撤退した後、アフリカ連合ソマリア平和維持部隊は、治安維持部隊の欠如を埋めるため、兵士を配備した。アフリカ連合ソマリア平和維持部隊の指令は、何度も拡張され、今では、2011 年 10 月に入国した 4,664 のケニア人部隊を含め、17,731 人の兵士を擁するようになった。2013 年 3 月、国連安全保障理事会は、ソマリアで敷かれている入出拘禁指令を部分的に解除する議案に賛成票を投じた。これにより、政府は、継続しているアル・シャバブとの戦闘に備え、携帯兵器やロケット推進グレネードなどの小型武器を購入することができる。⁵³

2.08 2013 年 5 月 13 日、IRIN は次のように記している。「ソマリアの軍隊は、正式に軍に統合されていない民兵を含む、対アル・シャバブ戦闘要員と定義される 20,000 人ほどの兵

⁵² Jane's Sentinel Security Risk Assessment(JSCRA)、ソマリア、安全保障と外国部隊(Somalia, Security and Foreign Forces)、2012 年 10 月 24 日、請求すればハードコピーを入手可能。

⁵³ Jane's Sentinel Security Risk Assessment(JSCRA)、ソマリア、軍隊 (Somalia, Armed Forces)、2013 年 3 月 7 日、請求すればハードコピーを入手可能。

士で構成されている。しかし、定期的な給料の支払いを受けているのは約 13,000 人であり、そのうちの多くは国際社会から給料を得ている。」⁵⁴

ソマリア国軍の改革と軍事訓練

2.09 2013 年 5 月付の UNSC Report は、次のように報じている。

「モアムド大統領は、治安部門の改革を「最優先事項」とした。[2013 年]5 月 7 日に開催されたソマリアに関するロンドン会議で、連邦政府は、国家安全保障計画枠組の仮案を発表し、ソマリア国軍と、警察・司法部門の戦略的行動計画に対する緊急支援を求めた。国連平和構築基金より融資を受け、UNDP、UNPOS、及び国連アフリカ連合ソマリア平和維持部隊支援事務所(UNSOA: United Nations Support Office for AMISOM は、4 つの奪回された地区においてマッピング訓練を実施した。このプロジェクトは、政府が治安環境を評価できるようにすることを狙いとし、治安部門のプログラムの発展を支援するだろう。」

「一方、ソマリア国軍の年次定期訓練プログラムが 1 月 21 日に始まり、80 人の士官と非公認士官を対象に、指揮訓練課程が実施された。最後に徴募で採用された兵士は、ウガンダで欧州連合の訓練課程を 2 月に修了し、554 人の新任兵士がソマリアに帰国した。4 月に始まった訓練課程は、特別な軍事的能力を養成するためのスペシャリスト訓練を実施した。5 月 15 日、訓練課程がモガディシュに常設され、完全な訓練教育を展開するようになった。2013 年の終りまでに、全ての過程がモガディシュで実施されるようになることが期待されている。配備の第 1 段階のための指導者と教官(16)は、2013 年 7 月末までにモガディシュに集結すると期待されている。国連は、軍事技術の作業部会を通じ、連邦政府と連携して、能力養成プログラムの調整を支援し続けた。」⁵⁵

2.10 2013 年 5 月 13 日、IRIN は次のように報じた。「ソマリ政府は、国の安全保障を支配したい意向を強調した。昨年 8 月に採択された野心的な国家安全・安定化計画(NSSP: National Security and Stabilization Plan)は、ソマリアの軍隊と国家安全保障プログラムを再建し、警察と司法を改革し、近代的な湾岸警備を実現するための計画の骨子となっている。指導者たちは、1 億 6,000 万ドルをかけて、3 年以内に 28,000 人規模の専従軍隊を構築し、警察の人数も 12,000 人に倍増したいと望んでいる。」⁵⁶

⁵⁴ IRIN、調査:ソマリアの治安セクター改革(Analysis: Somali security sector reform)、2013 年 5 月 13 日、<http://www.irinnews.org/report/98028/analysis-somali-security-sector-reform> 2013 年 7 月 15 日閲覧

⁵⁵ 国連安全保障理事会、国連事務総長報告書(Report of the Secretary-General on Somalia)、2013 年 5 月 31 日、パラグラフ 25-26、http://www.un.org/ga/search/view_doc.asp?symbol=S/2013/326 2013 年 6 月 25 日閲覧

⁵⁶ IRIN、調査:ソマリアの治安セクター改革(Analysis: Somali security sector reform)、2013 年 5 月 13 日、<http://www.irinnews.org/report/98028/analysis-somali-security-sector-reform>

ソマリア国政府の管理外にあるソマリア中南部の地域(即ち、モガディシュ以外の殆どの地域)における安全保障と警察業務に関する情報は、政府軍以外の武装グループによる虐待 (Abuses by non-government armed groups)の項も参照されたい。

プントランド

2.11 2012 年 10 月 24 日付の JSCRA, Somalia, Security and Foreign Forces には、次のような記載がある。

「自治を宣言したプントランド地域には、様々な治安部隊が存在する。プントランド警察軍(PPF: Puntland Police Force)は、国連開発計画の支援を受け、市民社会における法と秩序の維持を受け持っている。規模は約 1,500 人と推定される。警察軍の一部として、270 人体制の特別保護部隊(SPU: Special Protection Unit)がある。PPF は対テロ対策も担っている... PIASF: Puntland Intelligence Agency and Security Force(プントランド情報・治安部隊局)は、2002 年に米国の支援を受けて設立され、異種文化が混在するこの地域の主要な情報局兼対テロ対策局であり、小規模な軍隊を擁している。

「プントランド海洋警察軍(PMPF: Puntland Maritime Police Force)は、プントランド大統領の指揮下にある。PMPF の任務は、海賊港の取り締まり、人道的援助の安定的提供、及び航海法と沿岸漁業法の施行である。訓練は、外国の融資により、一定期間、民間の治安請負業者によりボサソ付近の訓練キャンプで行われた。PMPF は、1,000 人以上の人員を擁していると報じられている。国連ソマリア・エリトリア監視団が、プントランド政府が部隊を政敵に対する民兵として利用する可能性がある」と批判したため、PMPF プロジェクトは、一時期後退した。その後、PMPF は、プントランドのインド洋沿岸に沿って、徐々に存在を大きくしていった。PMPF が、乗っ取られた船の襲撃・奪還に成功することは、極めて難しかったが、ある程度の海賊対策にはなった。2012 年中ごろ、PMPF は、2 隻の乗っ取り船に対する供給ラインを遮断し、海賊が船を動かさざるを得ない状況に追いやった。この出来事により、PMPF が、海賊が沿岸の町から供給を受けることを防止するような、陸上の作戦を実行できることが示された。」⁵⁷

2.12 国連安保理決議 2002 (2011 年)に従った国連ソマリア・エリトリア監視団の 2012 年 7 月 13 日付レポートは、次のように記している。

2013 年 7 月 15 日閲覧

⁵⁷ Jane's Sentinel Security Risk Assessment(JSCRA)、ソマリア、安全保障と外国部隊(Somalia, Security and Foreign Forces)、2012 年 10 月 24 日、請求すればハードコピーを入手可能。

「2011 年、ボサソ近隣のサラセン訓練キャンプが、モガディシュにあるアフリカ連合ソマリア平和維持部隊の基地に続き、ソマリアで最も設備の整った軍事施設となった。今日、Sterling Corporate Services 基地には、近代的な作戦指令センター、コントロール・タワー、滑走路、ヘリコプター・デッキ、及び最大 1,500 人の訓練生が宿泊できる約 70 のテントがある。」

「この巨大なプロジェクトのおかげで、プントランド海洋警察軍は、今では設備の整ったエリート軍となった。軍は、1,000 人を超える強靱な兵士を擁し、地上攻撃を実践するための空中装備を持ち、法を越えて作戦を実行し、プントランド大統領の直接指揮下にある。この軍隊は、「対海賊」軍という偽の名目を持ち、主に、アブダビ皇太子や、アラブ首長国連邦軍の副最高司令官 Sheikh Mohammed bin Zayed Al Nahyan をはじめとするアラブ首長国連邦の高官からザカート(献金)を得ている。しかし、アラブ首長国連邦政府は、このプロジェクトの関与を公式に否定した。」⁵⁸

目次に戻る

ソマリランド

2.13 2011 年 10 月 27 日付の JSCRA, Somalia, Security and Foreign Forces には、次のような記載がある。

「自治宣言をしたソマリランドの地域には、ソマリランド警察軍(SPLF: Somaliland Police Force)と呼ばれる警察軍がある。軍は、国連開発計画(UNDP)の Rule of Law and Security プログラムの下で支援を受けている。以前、SPLF の規模は約 5,000 人と推定されていた。最近では、約 3,000 人と推定されている。軍には対海賊対策を特に担当する犯罪調査部がある。2006 年 8 月、英国が、軍の法執行能力を強化する支援を行うと同時に、ソマリランド移民局を建て直し、ソマリランドの対テロ対策を支援することに同意したと報じられている。2010 年、ソマリランドの警察官は、エチオピア連邦警察アカデミーで英国人警察官から訓練を受けた。警察部隊と軍隊に加え、大統領の直接指揮下にある、ソマリランド国家情報局 (SNIA: Somaliland National Intelligence Agency)として知られる情報局がある。SNIA は対テロ対策の任務を負い、組織の中には移民局が含まれている。司法大臣配下の看守団 (Custodial Corps)があり、約 1,540 人の武装した看守が様々な刑務所に配備されている。2011 年、ノルウェーから資金の一部を得てハルゲイサ(Hargeysa)に新たに建設された

⁵⁸ 国連安全保障理事会、国連安保理決議 2002 (2011 年)に従った国連ソマリア・エリトリア監視団の報告書(Report of the UN Monitoring Group on Somalia and Eritrea pursuant to Security Council resolution 2002(2011))、2012 年 7 月 13 日、p22、
<http://www.securitycouncilreport.org/atf/cf/%7B65BFCF9B-6D27-4E9C-8CD3-CF6E4FF96FF9%7D/Somalia%20S%202012%20544.pdf> 2013 年 6 月 25 日閲覧

近代的な刑務所が正式に開設され、国際部隊がアデン湾とインド洋で逮捕したソマリア人海賊が拘置されている。

「ソマリランドの非政府機関(NGO)が特に関心を持っているのは、特別保護部隊(SPU: Special Protection Unit)として知られる警察の 1 部隊である。この部隊は、国際 NGO と外交関連の施設や職員を保護するために設立された。400 人の強靱な兵士を擁し、UNDP が支援するこの部隊は、24 時間体制で警備を行うと共に、夜間の巡邏と、ソマリランドを移動する職員に対する武装警護も行う。収監されている中には、セーシェル諸島で逮捕され、ハルゲイサ刑務所に移送された海賊が含まれている。」⁵⁹

2.14 2013 年 1 月 31 日付の JSCRA, Somaliland には、ソマリランドの武装部隊に関し、次のような記載がある。

「市民軍出身の兵士をソマリランド軍に統合することは、職を提供する手段であったが、国の情勢が比較的不安定なことで、その他の経済的機会が無いことにより、軍の規模が縮小されることには至らなかった。2008 年、安全保障の予算は、ソマリランドの総予算 1,610 万米ドルの 49%に相当する 780 万米ドルに上った(国連の数字)。ソマリランドが独自で予測した安全保障費は異なる。外務大臣 Edna Adan Ismael は、ソマリランドには 20,000 人の兵士がいると主張したが、この大きな数字には、恐らく、動員することはできるが、地元以外の地域での戦闘能力は限られる氏族民兵が含まれている。2004 年のプントランドとの対立の最中、当時の防衛大臣は、ソマリランド軍は 7,000 人の兵士を擁していると述べたが、恐らくこの数字の方が正確であろう。」⁶⁰

目次に戻る

ソマリア国政府、プントランド国軍、及びソマリランド国軍による人権侵害

ソマリアで、(事実上) 政府軍以外の武装グループが支配する地域で行われている人権侵害行為については、政府軍以外の武装グループによる虐待(Abuses by non-government armed groups)の項も参照されたい。

2.15 2013 年 4 月と 5 月にデンマークとノルウェーが共同で行った、モガディシュとナイロビの現地調査に関する 2013 年 5 月 8 日付の報告書は、次のように記している。「UNDSS, Mogadishu によると、アル・シャバブの戦闘員が都市に潜入するために、ソマリア政府軍

⁵⁹ Jane's Sentinel Security Risk Assessment(JSCRA)、ソマリア、安全保障と外国部隊(Somalia, Security and Foreign Forces)、2012 年 10 月 24 日、請求すればハードコピーを入手可能。

⁶⁰ Jane's Sentinel Security Risk Assessment(JSCRA)、ソマリランド(Somaliland)、2013 年 1 月 31 日、請求すればハードコピーを入手可能。

(SNAF)の制服を着ることは珍しくない。」⁶¹

2.16 2013 年 5 月付の UNSC Report は、次のように記している。

「報告対象期間中、無秩序のソマリア国軍による市民に対する虐待も報じられたが、最近では減少したと言われている。政府軍は、3 月に多くの超法規的殺人にも関わったとされている。地元の民兵と政府部隊との間の、氏族間の積年の恨みが、マルカにおける 3 月 22 日、25 日、28 日の激しい衝突を引き起こした。一方、政治的支配に関する紛争が、キスマヨでの衝突に繋がった。又、多少、規模は小さかったが、バイドアでも衝突が起きた。」⁶²

2.17 USSD 2012 Report は次のように記している。

「TFG と TFG を支持する民兵、制服を着た人々、プントランドとソマリランドの軍、アル・シャバブ、海賊、及び、正体不明の攻撃者が、恣意的な殺人を犯した。武力闘争で市民が死亡し、人道主義者たちも狙われ、殺害された。その年、18 人のジャーナリストが殺害された。刑罰の免除が通例となっていた。」

「TFG と同様、プントランドとソマリランドの当局が、恣意的殺人又は超法規的殺人を犯した。」⁶³

2.18 同レポートは、こう付け加えている。「以前と同様、部隊が市民に向けて発砲し、恣意的な逮捕と拘留、恐喝、略奪、及び嫌がらせが横行したというメディアの報告がある。」

⁶⁴

武力の無差別行使

⁶¹ Danish Immigration Service and Landinfo、モガディシュとソマリア中南部における治安と保護、デンマークとノルウェーによるモガディシュとナイロビの現地調査(Security and protection in Mogadishu and S/C Somalia, Danish-Norwegian fact finding mission to Nairobi and Mogadishu)、2013 年 4 月～5 月、2013 年 5 月 8 日、p8、

http://www.nyidanmark.dk/NR/rdonlyres/6F1A29C6-2F84-40D2-BDE4-42F69897EEC3/0/security_and_protection_in_somalia_may_2013.pdf 2013 年 6 月 25 日閲覧

⁶² 国連安全保障理事会、国連事務総長報告書(Report of the Secretary-General on Somalia)、2013 年 5 月 31 日、パラグラフ 15、http://www.un.org/ga/search/view_doc.asp?symbol=S/2013/326 2013 年 6 月 25 日閲覧

⁶³ 米国国務省、2012 Report on Human Rights Practices, Somalia、2013 年 4 月 19 日、セクション 1a、<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dliid=204165> 2013 年 6 月 24 日閲覧

⁶⁴ 米国国務省、2012 Report on Human Rights Practices, Somalia、2013 年 4 月 19 日、セクション 1d、<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dliid=204165> 2013 年 6 月 25 日閲覧

2.19 2012 年 8 月 22 日に発行された国連人権理事会の独立専門家 Shamsul Bari によるソマリアの人権情勢に関するレポートは、次のように記している。

「モガディシュにおける激しい戦闘が終結し、首都の住民の状況が改善された。武器関連の負傷者数は、5 月だけで 5 歳未満の児童 735 人を含む 1,590 人がモガディシュにある病院に収容された 2011 年に比べ、大幅に減少した。これに対し、2012 年 1 月の負傷者数は、5 歳未満の児童 43 人を含む約 500 人であった。」

「アフリカ連合ソマリア平和維持部隊が直接射撃を禁止し、射撃禁止区域を設置したことも、市民の負傷者数が減少することに繋がった。市民の負傷者数を追跡する支部が設置されたことで、負傷者数が更に減少することが期待された...モガディシュ以外の地域では、エチオピア軍とケニア軍による軍事作戦で市民が負傷したと報告されている。一例として、ジリブへの空爆が挙げられる。この事件では、2011 年 10 月末、ミサイルが国内避難民のキャンプを直撃し、女性 1 人、子ども 3 人を含む 5 人が死亡し、45 人が負傷した。ケニア軍は責任を否定したが、現場にいて怪我人の手当てを行った国境なき医師団は、公に、ケニア軍による攻撃であると主張した。」⁶⁵

2.20 2012 年の出来事を網羅した 2013 年 1 月 31 日発行の Human Rights Watch Annual Report 2013(HRW 2013 report)は、次のように記している。「一斉射撃、中でも道路防塞を占拠するための TFG 勢力間の接近戦による市民の死亡・負傷が続いている... TFG 軍と、その同盟軍である市民軍による無差別射撃で、市民が死亡・負傷した。[2012 年] 3 月 21 日、TFG 軍と同盟している民兵に対して手榴弾が投げられたことを発端に、バイドアで市民軍が市民に対して発砲し、少なくとも 6 人が死亡した。」⁶⁶

目次に戻る

恣意的な逮捕と拘留

2.21 2012 年の出来事を網羅した 2013 年 4 月 19 日発行の米国国務省の 2012 Country Report on Human Rights Practices in Somalia (USSD 2012)は、次のように記している。

「暫定連邦憲章(TFC: Transitional National Charter)と臨時連邦憲章には、逮捕者は、48 時間以内に司法当局に連行しなければならないと定められている。1991 年以前の成分法は、次

⁶⁵ 国連人権理事会の独立専門家によるソマリアの人権情勢に関するレポート(Report of the independent expert on the situation of human rights in Somalia)、著者: Shamsul Bari、2012 年 8 月 22 日、パラグラフ 50-51、54、

http://www.ohchr.org/Documents/HRBodies/HRCouncil/RegularSession/Session/Session21/A.HRC.21.61_en.pdf
2013 年 6 月 24 日閲覧

⁶⁶ Human Rights Watch, Annual Report 2013、2013 年 1 月 31 日、
<http://www.hrw.org/world-report/2013/country-chapters/somalia> 2013 年 6 月 25 日閲覧

のように定めている：被疑者の逮捕には、権限を持った官憲が提出した十分な証拠に基づいた正当な理由が必要である；逮捕者には、容疑と裁判所の判断を迅速に伝えなければならない；逮捕者には、弁護士や家族との面会を迅速に許可しなければならない；逮捕者には、その他の法的保護を与えなければならない。しかし、こうした手続き上の規約を守るケースは稀だった。保釈制度、又はそれに相当する制度は機能していなかった。当局は、貧者に対して弁護士を付けなかった。自宅監禁の制度は無かった。治安部隊のメンバー、汚職判事、政治家、及び氏族の長老は、その影響力を利用して被拘留者を釈放させることができた。」⁶⁷

2.22 USSD 2012 report は、次のように記している。「暫定連邦憲章(TFC: Transitional Federal Charter)は恣意的な逮捕を禁じている。臨時連邦憲章も不法な拘留を禁じている。しかし、TFG 治安部隊とそれを支持する市民軍、ソマリランド当局、プントランド当局、及びアル・シャバブは、恣意的な逮捕と拘留を行っていた。」⁶⁸

2.23 USSD 2012 report は、更に次のように記している。「TFG、ソマリランド当局、及びプントランド当局は、テロ行為とアル・シャバブ支持の容疑で、多くの人々を恣意的に逮捕・拘留した。当局は、恣意的逮捕を正当化するため、アル・シャバブ支持の容疑を頻繁に利用した... モガディシュの政府勢力と同様、プントランド当局は、疑わしい少年を逮捕するために、令状無しで一斉手入れを行った。」⁶⁹

2.24 2013 年 3 月 29 日発行の Human Rights Watch report は、以下のように記している。

「難民が[虐待について]抗議しようとする、[ソマリア国軍からの]報復を受けることが多かった... いくつかのキャンプ、特にバドバド(Badbaado)難民キャンプにおいて、2011 年後半、性的暴行又は食糧支給の横流しについて訴えた国内避難民(IDP: Internally Displaced Persons)は、市民軍又はその他の治安部隊に逮捕されることがあった。地区の長 Moallin Abdullahi Ali Nur の市民軍は、抗議者を一時的に仮設牢獄に拘留した... 難民の結集や抗議に対する抑圧は、バドバドに限ったことではなかった... 公の場で抗議しようとした難民も、政府の治安部隊により、恣意的に逮捕された。」⁷⁰

⁶⁷ 米国国務省、2012 Report on Human Rights Practices in Somalia、2013 年 4 月 19 日、セクション 1d、<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dliid=204165>
2013 年 6 月 21 日閲覧

⁶⁸ 米国国務省、2012 Report on Human Rights Practices in Somalia、2013 年 4 月 19 日、セクション 1d、<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dliid=204165>
2013 年 6 月 25 日閲覧

⁶⁹ 米国国務省、2012 Report on Human Rights Practices in Somalia、2013 年 4 月 19 日、セクション 1d、<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dliid=204165>
2013 年 6 月 25 日閲覧

⁷⁰ Human Rights Watch, 守衛の人質たち(Hostages of the Gatekeepers)、2013 年 3 月 28 日、p51-52、

2.25 HRW 2013 report は次のように記している。「政府支持部隊とそれを支持する市民軍は... 市民、特に男性を治安維持行動において拘留した。2012 年 1 月中旬から 3 月中旬にかけて、又、5 月下旬に、アフグーイェの奪還に続き、ベレドウェインで国家安全保障局 (NSA) を含む TFG 部隊が、数百人の男性や少年を逮捕・拘留した。」⁷¹

目次に戻る

拷問、虐待、及び超法規的殺人

2.26 HRW 2013 report は、次のように記している。「政府支持部隊とそれを支持する市民軍は、最近アル・シャバブが撤退した町で、暗殺や即決の処刑を行った... TFG とその他の市民軍と同盟を組んでいるシャベル・バレー州(SVS: Shabell Valley State)の部隊は、少なくとも 7 件の即決処刑を実施している...」又、「ソマリア当局が支配する地域で、市民、特にジャーナリストの暗殺が増えている。2012 年には 15 人のジャーナリストが殺害されたが、暫定連邦政府(TFG)は捜査を行わなかった。」⁷²

2.27 2013 年 5 月付の UNSC Report は、次のように記している。「[2013 年 1 月 16 日から 2013 年 5 月 15 日にかけて] 無秩序のソマリア国軍による市民に対する虐待も報じられたが、最近は減少したと言われている。政府軍は、3 月に多くの超法規的殺人にも関わったとされている。」⁷³

国内避難民(IDP)の扱い

2.28 HRW 2013 report は、次のように記している。「TFG 部隊とそれを支持する市民軍は、モガディシュの国内避難民(IDP)に対し、強姦、IDP キャンプからの食糧支給の横流し、及び恣意的な逮捕と拘留を行った。」⁷⁴

2.29 2013 年 3 月 29 日付の Human Rights Watch report 『守衛の人質たち(Hostages of the Gatekeepers)』は、次のように記している。

http://www.hrw.org/sites/default/files/reports/somalia0313_ForUpload.pdf 2013 年 6 月 25 日閲覧

⁷¹ Human Rights Watch, Annual Report 2013、2013 年 1 月 31 日、

<http://www.hrw.org/world-report/2013/country-chapters/somalia> 2013 年 6 月 25 日閲覧

⁷² Human Rights Watch, Annual Report 2013、2013 年 1 月 31 日、

<http://www.hrw.org/world-report/2013/country-chapters/somalia> 2013 年 6 月 25 日閲覧

⁷³ 国連安全保障理事会、国連事務総長報告書(Report of the Secretary-General on Somalia)、2013 年 5 月 31 日、パラグラフ 15、http://www.un.org/ga/search/view_doc.asp?symbol=S/2013/326 2013 年 6 月 24 日閲覧

⁷⁴ Human Rights Watch, Annual Report 2013、2013 年 1 月 31 日、

<http://www.hrw.org/world-report/2013/country-chapters/somalia> 2013 年 6 月 25 日閲覧

「[2011 年 7 月から 2012 年 11 月にかけて]モガディシュの難民コミュニティは、強姦、殴打、人種差別、食料と住居の制限、移動の制限、虐待への抗議に対する報復など、重大な人権侵害を受けた。最も深刻な虐待は、様々な市民軍や治安部隊によって行われていたが、これらの部隊は、政府と組み、難民のキャンプや居留区の中で、又はその付近で勤務していた。これらの市民軍は、IDP キャンプの「守衛(gatekeeper)」として知られる管理者と連携していた、又は管理者により管理されていた。」⁷⁵

IDP に対する一般的な扱いについて更に詳しく知りたい場合は、国内避難民(IDPs)の項も参照されたい。

刑罰の免除

2.30 USSD 2012 report は、次のように記している。「中南部の地域、プントランド、及びソマリランドでは、警察と民兵による虐待の事件が捜査されることは稀で、刑罰の免除という問題が蔓延っていた。」⁷⁶2013 年 3 月 29 日付の Human Rights Watch report『守衛の人質たち(Hostages of the Gatekeepers)』は、次のように記している。

「2012 年 9 月 16 日、新任のハッサン・シェイク・モアムド大統領は、就任の挨拶の中で、最優先事項の 1 つとして治安維持を挙げた。治安の改善、及び、それと同等に重要な、専任で責任ある治安部隊の設立は、IDP へ拡張してソマリア国民一を保護する上で必須事項である。2012 年 11 月 25 日、ハッサン・シェイク大統領は、強姦をはじめとする虐待について、政府部隊には責任を持たせる意向であることも公に発表した。但し、死刑が適用されると述べた。刑罰の免除の慣行を終わらせることは、被害者に対する正義と将来の虐待防止の意味で、1 つの前進であるが、新ソマリア政府は、死刑廃止の視点から、処刑を廃止し、その代わり、警察の対応力と捜査力、及び司法の機能を充実させるべきである。2013 年 2 月、首相は、性的暴行とメディアに対する攻撃の問題を捜査するため、人権特別委員会を設立したと報じられた。特別委員会の正確な指令と任務は不明である。」

「大統領とその他の政府高官は、刑罰の免除の慣行を変え、治安部隊が虐待を否認する習慣を廃止しようと努力しているようだが、政府内の一部、中でも警察は、これに反対しているという。」⁷⁷

⁷⁵ Human Rights Watch, 守衛の人質たち(Hostages of the Gatekeepers)、2013 年 3 月 28 日、p3-4、http://www.hrw.org/sites/default/files/reports/somalia0313_ForUpload.pdf 2013 年 6 月 25 日閲覧

⁷⁶ 米国国務省、2012 Report on Human Rights Practices, Somalia、2013 年 4 月 19 日、セクション 1d、<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dliid=204165> 2013 年 6 月 25 日閲覧

⁷⁷ Human Rights Watch, 守衛の人質たち(Hostages of the Gatekeepers)、2013 年 3 月 28 日、p60-61、http://www.hrw.org/sites/default/files/reports/somalia0313_ForUpload.pdf 2013 年 6 月 25 日閲覧

[目次に戻る](#)

3. 政府軍以外の武装グループ

本セクションは、治安情勢(Security Situation)と治安部隊(Security forces)の項と関連付けて読むことが望ましい。

武装グループ

3.01 2013 年 4 月 10 日付の JSCRA:Jane's Sentinel Security Risk Assessment, Somalia, Security は、治安情勢を次のように記している。「ソマリアは、氏族民兵、海賊、イスラム過激派グループなど、数々の脅威に晒されている。その国土は、反政府勢力による抵抗運動と連動して起こる、活発なテロ活動の舞台となっている。ソマリアにおけるテロ行為が成功したことにより、地方の州でも治安が悪化していることを示唆している。」⁷⁸

アル・シャバブ

3.02 2012 年の出来事を網羅した 2013 年 5 月 30 日発行の米国国務省の 2012 Country Report s on Terrorism(USCT 2012 report)は、アル・シャバブには次のような別名があることを記している。「Harakat al-Shabaab al-Mujahidin、アル・シャバブ、シャバブ、The Youth、Mujahidin al-shabaab Movement、Mujahideen Youth Movement、Mujahidin Youth Movement」。⁷⁹

3.03 外交問題評議会は、2013 年 2 月 5 日付のある背景説明記事で、こう述べている。

「ソマリアは、世界でも最も貧困な国の 1 つであるが、数十年に渡る政治騒動において、数々のイスラム過激派グループが訪れては去っていくのを見てきた。アル・シャバブについて研究している分析者たちは、Al-Ittihad Al-Islami(aka Unity of Islam)を、アル・シャバブの前身で、その多くの指導者を育てた組織であると指摘している。これは、シアド・バーレ政権(1969-1991)が失墜し、内戦が勃発した後、1990 年第に台頭した戦闘的なサラフィ(Salafi)過激派グループである... アル・シャバブ、又は「The Youth」は、アルカイダと繋がりを持つ武装グループで、ソマリアにイスラム原理主義国家を創設するために、米国を標的とした戦闘を展開するテロ機関である。Harakat al-Shabaab al-Mujahideen と呼ばれるこのグループは、イスラム主義者の支持グループと共に、一度はモガディシュとソマリア

⁷⁸ Jane's Sentinel Security Risk Assessment, ソマリア、安全保障(Somalia, Security)、2013 年 4 月 10 日、請求すればハードコピーを入手可能。

⁷⁹ 米国国務省、2012 Country Report s on Terrorism 2012、第 6 章 2013 年 5 月 30 日、<http://www.state.gov/ct/rls/crt/2012/209989.htm> 2013 年 6 月 25 日閲覧

の田園地方を支配下に治めたが、アフリカ連合による近年の軍事行動により、かつて本拠地としていた南部の湾岸都市キスマヨを含む殆どの主要都市から撤退を余儀なくされた。多くの専門家は、2013 年初頭に、アル・シャバブが内部・外部双方からの圧力により、力を大きく失ったと考えている。それでも、グループは政治的に不安定で、戦争で荒廃したこの国で、依然として脅威であると警告する専門家もいる。」⁸⁰

3.04 USCT Report 2012 は、次のように記している。

「アル・シャバブは、ジュバ地域中南部の田園地帯の大きな部分と並び、ベイとバコールを支配し、ゴリス山地に沿ったソマリア北部、及び、プントランドの都市部で勢力を強めていた。アル・シャバブの支配下にある地域は、グループに対し、外国人兵士を含む戦闘員の訓練や襲撃に対し、寛大な環境を提供していた。ソマリア連邦政府、地方政府、及び地域の当局は、アル・シャバブによるテロ攻撃を防止・予防する能力を十分に持たなかった。

「国際テロリストはソマリアに残留し、ソマリア国内と近隣諸国、中でもケニアで作戦を実行し続けた。アル・シャバブが指導者の地位をめぐる内部抗争に苦しむ一方、Ahmed Abdi aw-Mohamed はグループ内の派閥における支配力を維持しようともがいていた。[2012 年]9 月 23 日、ヒズブル・イスラム(HI : Hisbul Islam)はアル・シャバブからの離脱を発表した。ヒズブル・イスラムは、Sheikh Hassan Dahir Aweys が率いる暴力的なイスラム過激派であり、アル・シャバブに加入し、2010 年 12 月に「霊的助言者(spiritual advisor)」となっていた。」⁸¹

2013 年 1 月から 6 月までのアル・シャバブの活動については、2013 年 6 月 10 日付の ACCORD 年表(chronology of events)を参照されたい。

氏族民兵

3.05 Critical Threats のウェブサイトは、2013 年 6 月 10 付けのレポートで、こう報じている。

「2012 年 9 月にアル・シャバブがキスマヨから撤退したにも拘らず、ソマリア連邦政府は

⁸⁰ 外交問題評議会、背景記事:アル・シャバブ(Backgrounder: Al Shabaab)、2013 年 2 月 5 日、<http://www.cfr.org/somalia/al-shabaab/p18650> 2013 年 6 月 25 日閲覧

⁸¹ Critical Threats, 米国のソマリアにおける対テロ戦略への挑戦(Challenges to America's Counterterrorism Strategy in Somalia)、2013 年 6 月 10 日、<http://www.criticalthreats.org/somalia/zimmerman-challenges-americas-counterterrorism-strategy-somalia-june-10-2013> 2013 年 6 月 26 日閲覧

キスマヨとその周辺地域を統治する地方政府を任命することができないでいる。政府を支持してアル・シャバブと戦った氏族民兵は、今後、誰がこの湾岸都市を支配するかで意見が分かれているが、連邦政府自体に統治権を渡すことも躊躇している。地元の有力者が、連邦政府の決定を事実上覆す力を持ったキスマヨ(及びジュバランド)政府の設立に関して交渉を行っている。氏族、中でも Ogaden 族と Marehan 族の利害が、これらの交渉を動かしている。一方、アハメド・マドベのラス・カンボニ市民軍が事実上の支配権を握り、連邦政府の役人の警備を拒否したり、訪問を拒絶したりするなど、キスマヨの統治権を独占している。」

「過去、ソマリアの両隣の国は、キスマヨに対する影響力を維持するために、個別の氏族民兵を後援したが、今日もそれが続いているように思われる... ケニアはアハメド・マドベを支持し、所謂ジュバランド戦略の下、アル・シャバブに対するソマリアの抵抗力を強化しようとした。こうして、アル・シャバブとケニア領土との間に緩衝地域を作ろうとしたのである。マドベの成功は、地域のオガデン族の勢いを後押しすることになる。これは、エチオピアにとっては問題である。エチオピアは、オガデン地域において、オガデン民族解放戦線(ONLF: Ogadeni National Liberation Front)の戦士が支持するオガデン族の反乱を鎮圧しようとした。オガデンは、ソマリア民族が居住し、豊富な石油資源に恵まれた、ソマリアに面した地域である。ソマリア南部におけるオガデン族の支配を窮地に追い込むため、エチオピアは、密かにマレハン族の指導者であり、長期に渡りエチオピアと親密な関係を持つ Barre Hirale を支援したと報じられている。ケニアとエチオピアは、どちらも公式にこうした報告を否定し、ソマリア連邦政府に対する支持を表明した。現在の報告では、キスマヨ港の収益は、ソマリア政府ではなく、平和維持の名目の下でキスマヨに駐留するケニア軍に一部が、又、アハメド・マドベのラス・カンボニ市民軍に一部が配給されているという。」⁸²

治安情勢(Security situation)と民族グループ(Ethnic groups)の項も参照されたい。

武装グループによる人権侵害

様々な武装グループによる最近の大きな暴力事件の詳細については、治安情勢((Security situation)、最近の発展; 治安情勢(Recent developments: Security situation)、及び上記最新のニュース(Latest news)を参照されたい。武装グループが支配する地域の参考として、国際危機グループの地図(International Crisis Group map)を参照されたい。

⁸² Critical Threats, 米国のソマリアにおける対テロ戦略への挑戦(Challenges to America's Counterterrorism Strategy in Somalia)、2013 年 6 月 10 日、<http://www.criticalthreats.org/somalia/zimmerman-challenges-americas-counterterrorism-strategy-somalia-june-10-2013> 2013 年 6 月 26 日閲覧

3.06 USCT report 2012 は、次のように記している。

「2012 年、アル・シャバブとその他の暴力的な過激派グループは、ソマリア全土で自爆テロ、遠隔操作による市街地爆破、誘拐、及び、政府役人、ジャーナリスト、人道活動家、市民社会の指導者を狙った暗殺を実行した。殺人の多くは、斬首、石打ち、又は公の場におけるその他の陰惨な手段を用いたもので、市民社会に恐怖を植え付け、従わせようという意図を持ったものであった。他にも、アル・シャバブは、政府や外国の護衛車を狙った攻撃を行った。例えば、12 月 14 日、アル・シャバブはモガディシュで車載爆弾を用いてアフリカ連合ソマリア平和維持部隊の護衛車を襲撃した。アル・シャバブのスポークスマンによると、これは、米国人と思われる人物を狙った攻撃であった。」

「アル・シャバブは、プントランド治安部隊と、プントランドとソマリランドの国境に沿ったゴリス山地の麓にいる前哨部隊とに対して、30 人を超える死者・負傷者を出した 12 月の小競り合いを含め、数回に渡り攻撃を仕掛けた。」⁸³

3.07 2012 年の出来事を網羅した 2013 年 1 月 31 日発行の Human Rights Watch World Report 2013(HRW 2013 report)は、次のように記している。「アル・シャバブは、その支配地域において、イスラム法の過激な解釈法を適用し、人道支援を必要とする人々、キスマヨの戦闘を避けて避難しようとする人々の移動を制限し続けた。」⁸⁴

目次に戻る

拷問、虐待、及び処刑

3.08 2013 年 5 月 23 日発行の Amnesty International Annual Report 2013 は、次のように記している。「アル・シャバブの派閥は、スパイ活動を疑われる者、又は彼らのイスラム法の解釈に従わない者に対する拷問、超法規的殺人を続けた。公の場で、石打ちをはじめとする方法で処刑し、身体の切断、鞭打ちを実行した。又、女性と男性に対し、厳しい行動規則を課した。」⁸⁵

3.09 2012 年の出来事を網羅した 2013 年 1 月 31 日発行の Human Rights Watch World Report 2013(HRW 2013 report)は、次のように記している。「アル・シャバブは、暗殺、斬首、及び

⁸³ 米国国務省、2012 Country Report s on Terrorism 2012、第 2 章、2013 年 5 月 30 日、<http://www.state.gov/ct/rls/crt/2012/209979.htm> 2013 年 6 月 25 日閲覧

⁸⁴ Human Rights Watch, Annual Report 2013、2013 年 1 月 31 日、<http://www.hrw.org/world-report/2013/country-chapters/somalia> 2013 年 6 月 25 日閲覧

⁸⁵ Amnesty International、Annual Report 2013、ソマリア(Somalia)、2013 年 5 月 23 日、<http://www.amnesty.org/en/region/somalia/report-2013#section-132-3> 2013 年 6 月 25 日閲覧

処刑など、重大な虐待を実行した... 2012 年 7 月 22 日、湾岸都市マルカで、アル・シャバブは西洋諸国のスパイの容疑で 3 人を公開処刑した。」⁸⁶

3.10 USSD 2012 report は、アル・シャバブが刑罰として用いていた拷問の例を挙げている。

「1 年を通して、アル・シャバブが支配地域の住民を虐待し、過酷な刑罰を与える事例がいくつか見られた。」

「例えば、2012 年 1 月 10 日、アル・シャバブはモガディシュ郊外で 20 人以上のビジネスマンを逮捕・拷問した。このビジネスマンたちは、ゆすりを拒否した後、逮捕・拷問されたと報じられている... 不貞と婚外性行為を行ったとして、カップルがアル・シャバブによる石打ちの刑で死亡したという報告も複数ある。10 月、アル・シャバブの法廷で、下ジュバのジャマーメ (Jamame) のある女性が婚外性行為を行った罪で有罪となり、女性は石打ちの刑で処刑された。」⁸⁷

3.11 同レポートはこうも記している。

「アル・シャバブは年間を通じて頻繁に殺人行為を犯した。これには以下のものが含まれる: TFG を支持する人物を標的とした政治的な動機に基づく殺人; 人道主義者、NGO 職員、及び外国の平和維持要員に対する襲撃; 平和維持活動に従事する著名な平和活動家、市民社会の指導者、氏族の長老とその家族の殺害; スパイ容疑、及びソマリア国軍とそれを支持する市民軍に協力した人物の斬首。」⁸⁸

3.12 2013 年 4 月と 5 月にデンマークとノルウェーが共同で行った、モガディシュとナイロビの現地調査に関する 2013 年 5 月 8 日付の報告書は、次のように記している。「モガディシュで、アル・シャバブは離反者を追跡するののかという問いに対し、UNDSS Mogadishu は、アル・シャバブによる襲撃は殆ど標的を狙った者であり、アル・シャバブの離反者の殺害は含まれていないと繰り返した。」⁸⁹

⁸⁶ Human Rights Watch, Annual Report 2013、2013 年 1 月 31 日、
<http://www.hrw.org/world-report/2013/country-chapters/somalia> 2013 年 6 月 25 日閲覧

⁸⁷ 米国国務省、2012 Report on Human Rights Practices、2013 年 4 月 19 日、セクション 1c、
<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dliid=204165>
2013 年 6 月 26 日閲覧

⁸⁸ 米国国務省、2012 Report on Human Rights Practices、2013 年 4 月 19 日、セクション 1a、
<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dliid=204165>
2013 年 6 月 26 日閲覧

⁸⁹ Danish Immigration Service and Landinfo、モガディシュとソマリア中南部における治安と保護、デンマークとノルウェーによるモガディシュとナイロビの現地調査(Security and protection in Mogadishu and S/C Somalia, Danish-Norwegian fact finding mission to Nairobi and Mogadishu)、2013 年 4 月～5 月、2013 年 5

攻撃の標的

3.13 2013 年 4 月と 5 月にデンマークとノルウェーが共同で行った、モガディシュとナイロビの現地調査に関する 2013 年 5 月 8 日付の報告書は、次のように記している。

「モガディシュ在留の国際 NGO(B)は、アル・シャバブが標的とする人物は、主に、次のグループに属すると述べた。」

- ・ 離反したアル・シャバブの元メンバー(これが最も多い)
- ・ [ソマリア国軍]SNA 兵士
- ・ 警察
- ・ 政府役人
- ・ 議員 (MPs: Members of Parliament)
- ・ 政府又はアフリカ連合ソマリア平和維持部隊と繋がりを持つ人物。政府建物の近くに小さな商店を持っているだけの人物の場合もある。

「上記のリストに何故ジャーナリストが含まれていないのかとの問いに対し、国際 NGO(B)は、事実、アル・シャバブがジャーナリストの殺害を認めたことは一度も無いと説明した... ナイロビ在留の国際 NGO(C)は、アル・シャバブの戦略は、SNG の施設、特に裁判所を狙うことであると強調した。しかし、モガディシュの国際社会を襲撃することも、アル・シャバブの戦略に含まれていることを強調しておかなければならない。」

「UNDSS Mogadishu は、ザカート(イスラムの税金)の支払いを拒否したために、アル・シャバブに処刑された人々がいると報じている。」

「IMC の Hakan Bilgin は、[モガディシュにおけるアル・シャバブの]攻撃の大部分は市民を狙ったものではないものの、過激派グループ[アル・シャバブ]は、市民の犠牲者が出るか出ないかに拘わらず、攻撃を続けるだろうと述べた。」⁹⁰

月 8 日、p13、
http://www.nyidanmark.dk/NR/rdonlyres/6F1A29C6-2F84-40D2-BDE4-42F69897EEC3/0/security_and_protection_in_somalia_may_2013.pdf 2013 年 6 月 25 日閲覧

⁹⁰ Danish Immigration Service and Landinfo、モガディシュとソマリア中南部における治安と保護、デンマークとノルウェーによるモガディシュとナイロビの現地調査(Security and protection in Mogadishu and S/C Somalia, Danish-Norwegian fact finding mission to Nairobi and Mogadishu)、2013 年 4 月～5 月、2013 年 5 月 8 日、p13-14、
http://www.nyidanmark.dk/NR/rdonlyres/6F1A29C6-2F84-40D2-BDE4-42F69897EEC3/0/security_and_protection_in_somalia_may_2013.pdf 2013 年 6 月 25 日閲覧

3.14 USCT report 2012 は、次のように記している。「2012 年、アル・シャバブとその他の暴力的な過激派グループは、ソマリア全土で自爆テロ、遠隔操作による市街地爆破、誘拐、及び、政府役人、ジャーナリスト、人道活動家、市民社会の指導者を狙った暗殺を実行した... 他にも、アル・シャバブは、政府や外国の護衛車を狙った攻撃を行った。」⁹¹

アル・シャバブの人権侵害がどのような影響を及ぼしているかに関して更に詳しく知りたい場合は、女性(Women)、児童(Children)、及び言論と報道の自由(Freedom of speech and media)の項を参照されたい。又、司法(Judiciary)、TFG 役人とその支持者に対する攻撃(Targeting of TFG officials and supporters)、及び治安情勢(Security situation)の項も併せて参照されたい。

恣意的な逮捕と拘留

3.15 USSD 2012 report は、次のように記している。「... アル・シャバブはモガディシュ郊外で 20 人以上のビジネスマンを逮捕・拷問した。このビジネスマンたちは、ゆすりを拒否した後、逮捕・拷問されたと報じられている。⁹²同レポートはこうも記している。「アル・シャバブは、連邦政府のロードマップ計画に参加することを考えている長老たちを逮捕した。ヒラーンとシャベルの各地域では、憲法制定会議の代表と議員の選挙に参加しようとしている氏族長老を 100 人以上逮捕した。ほとんどの長老は、2〜3 週間拘留された後、釈放された。」⁹³

目次に戻る

強制徴兵

3.16 HRW 2013 Report は、次のように記している。「アル・シャバブは、児童の徴兵を行った...」⁹⁴2013 年 4 月と 5 月にデンマークとノルウェーが共同で行った、モガディシュとナイロビの現地調査に関する 2013 年 5 月 8 日付の報告書は、次のように記している。

⁹¹ 米国国務省、2012 Country Report s on Terrorism 2012、第 2 章、2013 年 5 月 30 日、<http://www.state.gov/ct/rls/crt/2012/209979.htm> 2013 年 6 月 25 日閲覧

⁹² 米国国務省、2012 Report on Human Rights Practices、2013 年 4 月 19 日、セクション 1c、<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dliid=204165> 2013 年 6 月 25 日閲覧

⁹³ 米国国務省、2012 Report on Human Rights Practices、2013 年 4 月 19 日、セクション 2d、<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dliid=204165> 2013 年 6 月 25 日閲覧

⁹⁴ Human Rights Watch, Annual Report 2013、2013 年 1 月 31 日、<http://www.hrw.org/world-report/2013/country-chapters/somalia> 2013 年 6 月 25 日閲覧

「UNDSS によると、最近では、アル・シャバブがソマリア中南部で強制徴兵を行っているという報告は少なくなっているが、これは、必ずしもアル・シャバブを支持する氏族が減っているにも拘らず、強制徴兵が減っていることを意味していないということである。」

「国連機関 Nairobi は、アル・シャバブによる強制徴兵は、アル・シャバブの支配する地域でのみ行われている。よって、現在のモガディシュでは強制徴兵が行われていない。」⁹⁵

全ての紛争当事者による児童就労について更に詳しく知りたい場合は、児童兵(Child soldiers)の項を参照されたい。

氏族民兵

3.17 2012 年の出来事を網羅した 2013 年 4 月 19 日発行の米国国務省の 2012 Country Report on Human Rights Practices, Somalia (USSD 2012 report)は、次のように記している。「水と土地資源をめぐる氏族同士の争いは殺し合いに繋がり、人々は避難を余儀なくされた。報復殺人の報告もある。当局は殆ど捜査を行わず、地元の司法当局が捜査の結果として公式な行動を採ったという報告は 1 件もない。」⁹⁶

3.18 2013 年 6 月 26 日、Human Rights Watch は次のように報じた。

「今月初め、ソマリアのキスマヨでライバル氏族の民兵同士が衝突し、明らかに民間の建物に対する無差別攻撃により、市民が多数負傷したが、正確な負傷者数は判明していない。」

「国連は、2013 年 6 月 7 日と 8 日の武力衝突により、少なくとも市民 31 人が死亡、更に 38 人が負傷したと報じた。この衝突は、経済的魅惑のある港の支配権をめぐる、数週間に渡り緊張が続いた後、勃発した。死者と負傷者が町中の様々な場所に搬送され、犠牲者の状態に関する情報が限られているため、犠牲者数はメディアによって異なる。」⁹⁷

⁹⁵ Danish Immigration Service and Landinfo、モガディシュとソマリア中南部における治安と保護、デンマークとノルウェーによるモガディシュとナイロビの現地調査(Security and protection in Mogadishu and S/C Somalia, Danish-Norwegian fact finding mission to Nairobi and Mogadishu)、2013 年 4 月～5 月、2013 年 5 月 8 日、p13、
http://www.nyidanmark.dk/NR/rdonlyres/6F1A29C6-2F84-40D2-BDE4-42F69897EEC3/0/security_and_protection_in_somalia_may_2013.pdf 2013 年 6 月 25 日閲覧

⁹⁶ 米国国務省、2012 Report on Human Rights Practices in Somalia、セクション 1a、2013 年 4 月 19 日、
<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dliid=204165>
2013 年 6 月 26 日閲覧

⁹⁷ Human Rights Watch、ソマリア：キスマヨの武力衝突で市民が死亡(Somalia: Civilians Killed in Kismayo Clashes)、<http://www.hrw.org/news/2013/06/25/somalia-civilians-killed-kismayo-clashes> 2013 年 6 月 26 日閲覧

性的暴行や性別による暴行について更に詳しく知りたい場合は、女性: 女性に対する暴行 (Women: Violence against women)の項を参照されたい。様々な氏族や少数民族について更に詳しく知りたい場合は、民族グループ (Ethnic groups)の項を参照されたい。

目次に戻る

4. 司法、逮捕と刑務所の状態、及び死刑の適用

司法

4.01 Freedom House による 2012 年 6 月 4 日付の Freedom in the World report 2012: Somalia は、次のように記している。

「全国レベルで効果的に機能している司法制度は存在しない。TFA (暫定連邦政府)は、2009 年にシャリア(イスラム法)を施行する法案を通過させたが、政府はこの法律を施行することができなかった。政府は、シャリアと、ソマリアの伝統的な正義と紛争解決の手法とを混合して、適用しているのが現実である。アル・シャバブの支配する地域では最も厳しい規則が施行されている。窃盗、その他の微罪でも、鞭打ちの刑、又は胴体切断の刑が適用され、通常、公の場で執行される。」⁹⁸

4.02 2012 年 8 月 22 日に発行された国連人権理事会の独立専門家 Shamsul Bari によるソマリアの人権情勢に関するレポート(UNIE report August 2012)は、次のように記している。

「独立専門家は、裁判官の任命と解任の慣習に関する懸念を大統領に伝えた。行政官と議会が排他的な決定権を持つため、司法の独立が守られない可能性が高い。独立専門家は、こうした事項に関する決定は、独立した法的機関と協議して行うよう、措置を講じることを望むと述べた。又、司法官の任命と解任に関する検討と推薦に、最高協議会(High Judicial Council)が関わることを提案した。更に、国連人権理事会の普遍的定期審査においてソマリアが約束した事項を守るためには、死刑を廃止する、又は、少なくとも全ての処刑を廃止することに尽力するよう、大統領に求めた。」⁹⁹

4.03 2013 年 4 月 19 日発行の米国国務省(USSD)の 2012 Country Report on Human Rights Practices, Somalia (USSD 2012 report)は、次のように記している。「国中で、紛争を解決するのは伝統的な氏族の長老である。氏族は、迅速に解決する伝統的な裁判を行うことが多か

⁹⁸ Freedom House, Freedom in the World 2012 – Somalia、2012 年 6 月 4 日、<http://www.freedomhouse.org/report/freedom-world/2012/somalia> 2012 年 12 月 17 日閲覧

⁹⁹ 国連人権理事会の独立専門家によるソマリアの人権情勢に関するレポート(Report of the independent expert on the situation of human rights in Somalia)、著者: Shamsul Bari、2012 年 8 月 22 日、パラグラフ 38、http://www.ohchr.org/Documents/HRBodies/HRCouncil/RegularSession/Session/Session21/A.HRC.21.61_en.pdf 2013 年 12 月 17 日閲覧

った。伝統的な裁判では、個人が犯した罪の責任を、氏族全体又は小氏族に負わせることもあった。」¹⁰⁰

4.04 2012 年 8 月 22 日に発行された国連人権理事会の独立専門家 Shamsul Bari によるソマリアの人権情勢に関するレポートは、次のように記している。

「地方政府は、引き続き、司法と治安維持の部門の強化に取り組んでいた。2011 年 6 月、法務省は、UNDP の支援を得て、国家司法戦略を導入した。これは、伝統的な法律(Xeer)、宗教的な法律(シャリア)、及び正式な司法政策を調和させ、司法の能力を向上させ、人権に関する規則に準拠しつつ、独立した制度を確立するという試みである。これにより、かつて重大な人権侵害が横行していた地域社会が崩壊した。」¹⁰¹

氏族制度、慣習法、又、いかに非公式な仕組みで裁判が行われるかについて更に詳しく知りたい場合は、民族グループ(Ethnic groups)の項を参照されたい。

ソマリア中南部

4.05 USSD 2012 report は、次のように記している。

「TFC(暫定連邦憲章)は独立した司法制度を定めている。臨時連邦憲章には、こう記されている。「司法は、政府の立法府と行政府から独立している。」文民による司法制度は、中南部の地域において、依然としてほとんど機能していなかった。臨時連邦憲章は、高等法院、最高裁判所、上訴裁判所、及び第一審裁判所の設立を求めている。いくつかの地域では、地元の有力氏族とその仲間の権威に依存する地方裁判所を設置した。ほとんどの地域で、司法は、伝統法と慣習法、シャリア、及び 1991 年以前のシアド・バーレ政権の下で施行されていた刑法を混合した規則に頼っていた。」

「文民の裁判官は、安全上の問題から、事件の判決を下すことを恐れ、民事事件の大部分を軍事裁判所に委ねていた。2012 年 9 月時点で、国連が融資するパイロット プロジェク

¹⁰⁰ 米国国務省、2012 Report on Human Rights Practices in Somalia、セクション 1e、2013 年 4 月 19 日、<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dlid=204165>
2013 年 6 月 21 日閲覧

¹⁰¹ 国連人権理事会の独立専門家によるソマリアの人権情勢に関するレポート(Report of the independent expert on the situation of human rights in Somalia)、著者: Shamsul Bari、2012 年 8 月 22 日、パラグラフ 39、http://www.ohchr.org/Documents/HRBodies/HRCouncil/RegularSession/Session/Session21/A.HRC.21.61_en.pdf
2013 年 12 月 17 日閲覧

トの下、移動法廷が月間およそ 200 件の事例を扱っていた。こうした法廷は、裁判官の安全を確保できない地区で導入された。」¹⁰²

4.06 USSD 2012 は、こうも記している。

「臨時連邦憲章は、全ての人は、合理的な時間内に、独立した公平な裁判所又は法廷において、公正な公聴会を開く権利を持つと定めている。臨時連邦憲章によると、人は次のような権利を持つ: 無罪の想定; 逮捕・拘留の理由を理解できる言語で迅速に伝達されること; 逮捕後 48 時間以内に有能な法廷に連行されること; 弁護士を選び、相談すること、又、弁護士を雇う費用が無い場合は国が弁護士を選任すること; 自白を強要されないこと。臨時憲章は、陪審員による裁判、政府が所持する証拠の採用、証人との対面、又は、裁判所の判決に対して控訴できるか否かについて、触れていない。裁判手続きに関する殆どの権利は、実際には尊重されなかった。」¹⁰³

アル・シャバブの支配地域における司法手続き

4.07 USSD 2012 report は、次のように記している。「アル・シャバブの支配する地域では、正式な司法制度が機能していなかった。シャリア法廷では、通常、被疑者は自己弁護、証人の召喚、弁護士による弁護を認められていなかった。」¹⁰⁴

アル・シャバブによる刑罰について更に詳しく知りたい場合、武装グループによる人権侵害(Human rights violations by armed groups)の項を参照されたい。

目次に戻る

プントランド

4.08 USSD 2012 report は、次のように記している。「プントランドでは、政府が裁判、中でもジャーナリストが関係する事件の裁判に介入し、判決に影響を与えているという報告がある。法廷は、多少は機能しているものの、法の下での平等な保護を与えてはいない。」

105

¹⁰² 米国国務省、2012 Report on Human Rights Practices in Somalia、セクション 1e、2013 年 4 月 19 日、<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dliid=204165>
2013 年 6 月 21 日閲覧

¹⁰³ 米国国務省、2012 Report on Human Rights Practices in Somalia、セクション 1e、2013 年 4 月 19 日、<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dliid=204165>
2013 年 6 月 21 日閲覧

¹⁰⁴ 米国国務省、2012 Report on Human Rights Practices in Somalia、セクション 1e、2013 年 4 月 19 日、<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dliid=204165>
2013 年 6 月 21 日閲覧

¹⁰⁵ 米国国務省、2012 Report on Human Rights Practices in Somalia、セクション 1e、2013 年 4 月 19 日、

4.09 同レポートはこう付け加えている。

「プントランドでは、氏族の長老が、「Xeer」と呼ばれる慣習法に従って事件の大部分を解決している。プントランドで氏族の後援を持たない者は、政府による公式な司法制度の下で裁かれた。

「2012 年 5 月 13 日、プントランド当局は、プントランド国内に“Ras Asyer”を建国し、自ら大統領を名乗った Farah Mohamud Yusuf に死刑を言い渡した。プントランドはその他 10 人にも終身刑を言い渡した。どの被疑者も、非公開の法廷には出席せず、弁護のための証拠の提示、証人の召喚を許可されなかった。プントランド大統領は、後日、受刑者たちを赦免した。」¹⁰⁶

ソマリランド

ソマリランド憲法(Somaliland Constitution)が司法の要件概要を示し、ソマリランド国法(Somaliland Law)が司法制度の構造を形成する。

4.10 USSD 2012 report は、次のように記している。

「ソマリランドには、機能している法廷はあるが、熟練した裁判官と、判例の根拠となる法的書類が酷く不足している。政府役人による司法手続きへの介入が蔓延しているという報告がある。国際 NGO は、地元の役人が法的問題に頻繁に介入し、被疑者を裁判にかけることなく拘留又は投獄するために、公的秩序法がよく利用されると報じている。」

「2012 年 6 月 11 日、ハルゲイサ裁判所の最年長の治安判事が帰宅途中に銃撃された。この事件は、食糧援助を横流しした容疑で 3 月に逮捕された 3 人の元ソマリランド政府役人に対し、治安判事が懲役刑を言い渡した汚職事件に関連があると見られている。ソマリランド政府役人は、判決に賛成して事件に介入したとして疑われている。容疑者の兄弟の 1 人は、この暗殺事件を計画したことを告白し、犯人たちはモガディシュに逃亡したと主張

<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dliid=204165>

2013 年 6 月 21 日閲覧

¹⁰⁶ 米国国務省、2012 Report on Human Rights Practices in Somalia、セクション 1e、2013 年 4 月 19 日、<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dliid=204165>

2013 年 6 月 21 日閲覧

した。10 月、ソマリランド上訴裁判所は元政府役人のうち 2 人の刑を覆した。2 人は同日中に釈放された。」¹⁰⁷

4.11 同レポートは、更にこう記している。

「ソマリランドにおいて、容疑者は、通常、無罪の想定の特権、公判を開く権利、犯罪手続きの全段階に出席し、弁護士と相談する権利を保障される。又、証人に質問し、証人を召喚し、証拠を提出し、上訴する権利を持つ。ソマリランドは、弁護士費用を負担できない重大犯罪の被疑者に対して無料で弁護士を提供し、有効な司法扶助制度を確立している。但し、重要な政治的事件、治安事件の判決に、政治と行政が介入したとされる事例はいくつかある。2011 年 7 月、ソマリランド法務省と UNODC の調査により、地域の刑務所の受刑者のうち 70%が、第一審法廷で刑が確定し、上訴の機会を与えられなかったことが判明した。」

「2011 年 5 月、ソマリランド国軍は、土地の所有権をめぐるハルゲイサにある軍事基地を襲撃した容疑で、市民 28 人を逮捕した。逮捕の翌朝、軍事裁判所は、17 人に死刑判決を下し、3 人を釈放し、事件の最中に負った負傷を理由に別の 3 人の裁判を延期し、5 人に終身刑を言い渡した。5 月 19 日、国連事務総長特別代表 Augustine Mahiga は、この事例を直ちに民事裁判所に移行することを要求し、ソマリア当局に対し、新たな裁判では公平な権利が確保されるよう求めた。ソマリランド人権委員会(Somaliland Human Rights Commission)とハルゲイサ大学法学部は、この事例の再審議をソマリランド最高裁判所で行うことを求めて請願した。しかし、年末までに最高裁判所からの返事は無い。年末時点で、被拘留者たちは依然として刑務所に収監されたままである。」¹⁰⁸

4.12 2012 年の出来事を網羅した Freedom House の 2013 年 6 月 6 日付 Freedom in the World 2012 は、次のように記している。

「司法は資金不足に悩んでおり、独立性を欠いている。一方、最高裁判所は殆ど機能していない。ソマリランドには約 100 人の裁判官がいるが、そのうちの殆どは正規の司法研修を受けていない。ソマリランド憲法は、シャリア(イスラム法)に基づいた法律、民法、及び慣習法の、3 つの法制度を認めている。ソマリランド大統領シランヨは、就任に当たり、司法の独立性を強化し、テロリストと窃盗犯を除き、無実の罪に問われている受刑者たち

¹⁰⁷ 米国国務省、2012 Report on Human Rights Practices in Somalia、セクション 1e、2013 年 4 月 19 日、<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dliid=204165>
2013 年 6 月 21 日閲覧

¹⁰⁸ 米国国務省、2012 Report on Human Rights Practices in Somalia、セクション 1e、2013 年 4 月 19 日、<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dliid=204165>
2013 年 6 月 21 日閲覧

を全員釈放することを誓った。2011 年 5 月、シランヨは、ソマリランド建国 20 周年を記念し、受刑者 751 人の恩赦を発表した。」¹⁰⁹

xeer 制度についてさらに詳しく知りたい場合、民族グループ(Ethnic groups)の項を参照されたい。

目次に戻る

逮捕権と刑務所の状態

4.13 USSD 2012 report は、次のように記している。

「暫定連邦憲章(TFC: Transitional National Charter)と臨時連邦憲章には、逮捕者は、48 時間以内に司法当局に連行しなければならないと定められている。1991 年以前の成分法は、次のように定めている: 被疑者の逮捕には、権限を持った官憲が提出した十分な証拠に基づいた正当な理由が必要である; 逮捕者には、容疑と裁判所の判断を迅速に伝えなければならない; 逮捕者には、弁護士や家族との面会を迅速に許可しなければならない; 逮捕者には、その他の法的保護を与えなければならない。しかし、こうした手続き上の規約を守るケースは稀だった。保釈制度、又はそれに相当する制度は機能していなかった。当局は、貧者に対して弁護士を付けなかった。自宅監禁の制度は無かった。治安部隊のメンバー、汚職判事、政治家、及び氏族の長老は、その影響力を利用して被拘留者を釈放させることができた。」¹¹⁰

TFG の治安部隊、ソマリランド当局、及びプントランド当局による恣意的な逮捕と拘留については、治安部隊: 恣意的な逮捕 (Security Forces: Arbitrary arrest)の項を参照されたい。

4.14 USSD 2012 report は、更にこう記している。

「全国の刑務所と拘置所の状況は、依然として過酷で命の危険がある。」

「物理的条件: 少年と女性を含む、全国の受刑者と被拘留者のおよその総計は、不明である... 全国の刑務所と拘置所の過酷な条件には、人口過密、衛生の欠如、及び医療の欠如が挙げられる。適切な食料、水、換気、及び照明の欠如が、問題として残っている。結核

¹⁰⁹ Freedom House、Freedom in the World 2013 – Somaliland、2013 年 6 月 6 日、<http://www.freedomhouse.org/report/freedom-world/2013/somalia> 2013 年 7 月 16 日閲覧

¹¹⁰ 米国国務省、2012 Report on Human Rights Practices in Somalia、2013 年 4 月 19 日、セクション 1d、<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dliid=204165> 2013 年 6 月 21 日閲覧

と肺炎が蔓延していると報じられている。受刑者は、拘留に関連する費用の支払いを家族や氏族に頼っている。多くの地域で、受刑者は、食料を家族と支援機関に依存している。」

「刑務所と裁判前の拘置所での死亡率に関する情報は、依然として上がってきていない。」

111

4.15 同レポートは、こうも記している。

「刑務所と拘置所では、少年が成人と同部屋になることが多かった。女性受刑者は、男性とは隔離された。裁判前の被拘留者は、特に中南部の地域で、刑の確定した受刑者から隔離されなかった。自分の子どものしつけを望む家族の要請により、少年を投獄する習慣が、問題として残った。アル・シャバブによる強制就労を逃れて刑務所に入った受刑者が、アル・シャバブのメンバーと同室に収監されることもあった。

「管理: 刑務所には苦情調査係がおらず、記録保管について改善する措置も採られていない。刑務所の記録保管は今でも不十分である。投獄の代わりとなる選択肢は限られていたが、非暴力的な受刑者は、受刑者を収監しておくための政府資源が不足していたため、時々釈放されることがあった。一般的に、受刑者と非拘留者は、訪問者と面会することを許可されており、自分の宗教を実践することも認められていた。」¹¹²

4.16 2012 年 12 月 18 日に閲覧した国連薬物犯罪事務所(UNODC: UN Office on Drugs and Crime)のウェブサイトには、日付の記載は無いが、次のような記事が掲載されている。「ソマリアの刑務所と裁判所を改善し、外国で逮捕されたソマリア人海賊が自国で刑に服することができるようにする目的で、海賊対策プログラム(CCP: counter-piracy programme)が導入された。UNODC は、既にこの取り組みを開始し、ソマリランドの首都ハルゲイサにある新刑務所の改善を完了し、現在、プントランドやソマリアで刑務所の新築・改装を行っている。」¹¹³

目次に戻る

ソマリア中南部

¹¹¹ 米国国務省、2012 Report on Human Rights Practices in Somalia、2013 年 4 月 19 日、セクション 1c、<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dliid=204165>
2013 年 6 月 21 日閲覧

¹¹² 米国国務省、2012 Report on Human Rights Practices in Somalia、2013 年 4 月 19 日、セクション 1c、<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dliid=204165>
2013 年 6 月 21 日閲覧

¹¹³ 国連薬物犯罪事務所、UNODC と海賊(UNODC and Piracy)、日付無し、<http://www.unodc.org/unodc/en/piracy/index.html?ref=menuse> 2012 年 12 月 18 日閲覧

4.17 USSD 2012 report は、次のように記している。

「国連による評価[モガディシュとソマリア中南部の刑務所制度に関する評価、2012 年 9 月 (Assessment of the Prison System in Mogadishu/South Central Somalia, September 2012)] は、2012 年 7 月末時点で、モガディシュ中央刑務所(Mogadishu Central Prison)に収監されている受刑者数は 950 人、そのうち 14 人が女性、39 人が少年であると報告している... 様々な国連機関の代表で構成されるチームが、モガディシュ中央刑務所の評価を行い、刑事裁判部門の様々な機関の役員と会合を持った。評価チームは、市民社会の代表とも協議し、モガディシュ中央刑務所の受刑者と面談した。国連チームは、女性と男性が隔離されていることは確認したが、成人と少年は必ずしも隔離されていないとした。又、モガディシュ中央刑務所の受刑者の生活水準は、最低限の国際基準、国家基準を満たしていないと結論付けた。例えば、最大収容可能数 50 人の監房に、120 人の受刑者が収監されていた。」¹¹⁴

4.18 Shabelle Media Network は、2012 年 4 月 29 日、次のように報じた。

「日曜日、ある政府役人が、モガディシュ中央刑務所の受刑者に対する虐待と差別に関する報道を強く否定した。」

「TFG の高官である Abdi Mohammed Ismail は、Shabelle Media に対し、ソマリア政府はモガディシュ中央刑務所の全受刑者を適切に待遇しており、血縁者は受刑者といつでも面会可能であるほどであると述べた。」

「Abdi Mohammed Ismail は、受刑者に対し、残酷で非人間的若しくは侮蔑的な扱い、又は不法な処刑は行っていないと強調した。」

「このコメントは、TFG が管理するモガディシュ中央刑務所の受刑者に対する虐待の報道が増えていることに対応したものである。中央刑務所は、今月、殺人罪で収監されている受刑者たちを解放する目的を持って武装した男たちに、襲撃されたばかりだった。」

¹¹⁴ 米国国務省、2012 Report on Human Rights Practices in Somalia、2013 年 4 月 19 日、セクション 1c、<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dliid=204165>
2013 年 6 月 21 日閲覧

「年老いた母親や姉妹を含む、多くのソマリア人の親たちが、泣きながら Shabelle Media に訴えたところによると、刑務所を管理する TFG の役人が、理由が不明なまま刑務所に投獄されている子どもとの面会を拒絶した。」¹¹⁵

4.19 USSD 2012 report は、次のように記している。「アル・シャバブは、支配下にある中南部で荒廃した拘置所を運営している。データは無いが、煙草を吸った、音楽を聴いた、サッカーの試合を観た、サッカーをした、ヒジャーブ(ヘッドスカーフ)を着用していなかったなど、比較的微小な「罪」で、数千人が非人間的な条件の下、収監されていると思われる。」¹¹⁶

ソマリア中南部の刑務所の状況について、更に詳しく知りたい場合、UN Political Office for Somalia、UNICEF、及び国連薬物犯罪事務所が 2012 年 9 月に発行したモガディシユの刑務所制度に関する評価/ソマリア中南部(Assessment of the Prison System in Mogadishu/South Central Somalia)を参照されたい。

目次に戻る

プントランドとソマリランド

4.20 USSD 2012 report は、次のように記している。

「プントランドとソマリランドの当局は、独立した民間調査者に対し、刑務所の監視を許可した。ソマリランドでは、国連開発計画が組織し、医師、官僚、及び市民社会の代表者で構成される刑務所の状態に関する管理委員会が、継続して刑務所を訪問している。ソマリランドも、UN Political Office for Somalia(UNPOS) Human Rights Unit が刑務所を訪問することを許可している。但し、プントランドはこれを拒否した。」¹¹⁷

4.21 2012 年 8 月 22 日に発行された国連人権理事会の独立専門家 Shamsul Bari によるソマリアの人権情勢に関するレポートは、次のように記している。

「ソマリア訪問の際、独立専門家は、プントランドとソマリランドにある拘置所を数カ所訪問した。そこで、殆どの事例で、拘留は不法又は恣意的なものであること、被拘留者は

¹¹⁵ Shabelle Media Network、TFG はモガディシユ中央刑務所の受刑者に対する虐待を否定(TFG Denies Abuse Against Prisoners At Central Jail in Mogadishu)、2012 年 4 月 29 日、<http://allafrica.com/stories/20120403000066.html> 2012 年 12 月 18 日閲覧

¹¹⁶ 米国国務省、2012 Report on Human Rights Practices in Somalia、2013 年 4 月 19 日、セクション 1c、<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dldid=204165> 2013 年 6 月 21 日閲覧

¹¹⁷ 米国国務省、2012 Report on Human Rights Practices in Somalia、2013 年 4 月 19 日、セクション 1c、<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dldid=204165> 2013 年 6 月 21 日閲覧

法的根拠も無く拘留されていることが分かった。女性や少女が、両親又は夫に「反抗した」罪で拘留されていることにも衝撃を受けた。拘留の条件は、非人間的に近く、水が不足し、衛生状態も劣悪であった。換気が悪く、窓として小さな穴が開いているだけである。刑務所内は人口過密で、息苦しいほど暑い。受刑者たちは床の上に直接寝転がって就寝している。少年を成人、犯罪者、その他と隔離する原則は、必ずしも守られていない。プントランドとモガディシュの受刑者の殆どは、殺人、海賊行為、又はアル・シャバブとの関係など、重罪を犯したとされている。しかし、数多くの事例で、拘留は不法又は恣意的なものと思われる。」¹¹⁸

4.22 2012 年 10 月 28 日、The Guardian は、次のように報じた。

「ボサソには、400 人を収監できる地域で最大の刑務所がある。毎週、この湾岸都市の最高裁判所は、殺人、テロ行為、及び海賊行為など、重大な犯罪の裁判を行っている。殺人の被疑者はソマリアのシャリア法とキサース(Qisas)、又は「同害報復刑」の概念に従って裁かれ、被害者の家族が殺人者の処遇を決定する。被害者家族は、犯人を許す、償いの金銭を求める、又は犯人の処刑、のいずれかを求めることができる。」¹¹⁹

目次に戻る

死刑

4.23 2012 年の出来事を網羅した 2013 年 4 月 10 日発行の Amnesty International report「2012 年の死刑判決と処刑(Death sentences and executions in 2012)」は、次のように記している。

「ソマリアでは、少なくとも 6 件の処刑が行われ、少なくとも 76 人が死刑判決を受けた。[この数字には、アル・シャバブなど、ソマリアの反政府グループによる不法な公開処刑の報告は含まれていない。] 連邦政府の情報によると、モガディシュで 4 件の処刑が行われ、51 人が死刑判決を受けた。しかし、Amnesty International が独自で調査したところによると、少なくとも 5 件の処刑が執行された。2012 年 1 月と 7 月、他の TFG 兵士や市民を殺害した罪で TFG 軍事裁判所より有罪判決を受けた暫定連邦政府(TFG)の兵士それぞれ 1 人と 4 人が、警察署敷地内にて、銃殺刑執行部隊により処刑された。8 月、ソマリアの「暫定」期間が終わり、新政府ソマリア連邦政府が発足した。同月、新憲法が承認された。」

¹¹⁸ 国連人権理事会の独立専門家によるソマリアの人権情勢に関するレポート(Report of the independent expert on the situation of human rights in Somalia)、著者: Shamsul Bari、2012 年 8 月 22 日、p15、http://www.ohchr.org/Documents/HRBodies/HRCouncil/RegularSession/Session/Session21/A.HRC.21.61_en.pdf
2013 年 12 月 18 日閲覧

¹¹⁹ The Guardian, ソマリアで、法のいずれの側の家族もいかに過酷な選択を迫られるか(How families on both sides of the law face tough choices in Somalia)、2012 年 10 月 28 日、<http://www.guardian.co.uk/world/2012/oct/28/somali-sharia/families-law-choices>
2012 年 12 月 18 日閲覧

「ソマリア北部プントランドの半自治区で、少なくとも 1 件の処刑が執行され、少なくとも 7 人が死刑判決を受けた。2012 年 6 月、殺人罪で有罪判決を受けた男が、カルドー(Qardho)で公開処刑された。10 月 23 日、イエメン人の男が、イエメンから船で武器と爆発物をこっそり持ち込んだ罪で死刑判決を受けた。独立宣言をした自称独立国家ソマリランド共和国では、18 人が、兵士や市民を殺害した罪で死刑判決を受けたと報じられている。」¹²⁰

4.24 USSD 2012 report は、次のように記している。「死刑判決を受けた者が、判決後、数時間内に処刑されることもあった。例えば、2012 年 7 月 19 日、ソマリア国軍(SNA)の兵士 4 人が、市民を殺害したとして、ソマリア軍法会議の議長により死刑を言い渡され、即座に処刑された。2011 年、刑罰の免除が横行する文化の中で、強いメッセージを発するため、TFG は厳しい判決を言い渡し、即座に執行することが必要であった。」¹²¹

4.25 Hands Off Cain は、更新日付は不明だが、2012 年にソマリアで執行された死刑の一覧をウェブサイトに掲載した。死刑は中央ソマリアとソマリランドの軍事裁判所で執行された。又、プントランド当局も殺人罪で死刑を執行し、プントランド軍事裁判所は、地域に爆発物を持ち込んだ罪で、イエメン人の男 1 人を処刑した。アル・シャバブは、殺人、強姦、スパイ行為、及び婚外性行為の罪で処刑を行った。¹²²

政府軍以外の武装グループによる処刑については、政府軍以外の武装グループによる人権侵害、拷問、虐待、及び処刑(Abuses by non-government armed forces, Torture, ill-treatment and executions)の項を参照されたい。

目次に戻る

5. 政治提携と表現

一般的な表現の自由については、言論の自由とメディア(Freedom of speech and media)と人権、及び人道的活動の団体、組織、活動家(Human rights institutions, organisations and activists)の項を参照されたい。

¹²⁰ Amnesty International、2012 年の死刑判決と処刑(Death sentences and executions in 2012)、2013 年 4 月 10 日、
<http://www.amnesty.org/library/asset/ACT50/001/2013/en/bbfea0d6-39b2-4e5f-a1ad-885a8eb5c607/act500012013en.pdf> 2013 年 6 月 21 日閲覧

¹²¹ 米国国務省、2012 Report on Human Rights Practices in Somalia、p2、2013 年 4 月 19 日、
<http://www.state.gov/documents/organization/186453.pdf> 2013 年 6 月 21 日閲覧

¹²² Hands Off Cain, Somalia、日付無し、
<http://www.handsoffcain.info/bancadati/schedastato.php?idstato=16000429> 2012 年 12 月 20 日閲覧

5.01 Freedom House による 2013 年 5 月付のレポート Freedom in the World 2013 は、次のように記している。

「ソマリアは選挙制民主主義を採用していない。TFI が廃止され、新しい大統領と首相が任命される以前は、国は殆どの面で存在を停止し、政治的権利や市民の自由を保護する能力を持った統治権威を持たなかった。TFG は、国際的には承認されていたが、国内では酷く不評で、実際の領土支配力は弱かった。ソマリアは、今、より永続的な統治制度に移行しているが、政府が領土を支配する力は依然として弱く、モガディシュ外を支配する能力を持たない。力を持った政党は未だに存在せず、政治は今でも氏族への忠誠心によって動かされている。」

「1991 年以降、ソマリランド北西部は、自称独立国家として国際的には認められていないものの、比較的安定して機能してきた。プントランド地域は、ソマリアが安定するまでの期間、一時的に脱退することを宣言したが、完全な独立を求める声が上がっている。2008 年、プントランド議会の議員 66 名を選出する選挙が行われた。新政府は、2009 年 1 月、Abdirahman Muhammad Mahmud “Farole”を任期 4 年の大統領として選出した。選挙結果は議会の公平な意思から生まれたと思われ、大統領の権限は、敗退した現職の大統領から平和的に委譲された。プントランド当局は、モガディシュにプントランドの意思が十分反映されないことに業を煮やし、2011 年、一時的に TFG との協力を停止した。同年、ある会議で和解が成立したが、両国の間には依然として緊張感が漂っている。」¹²³

5.02 Interpeace による 2012 年 7 月発行のレポート In Pursuit of Peace – Challenges and Opportunities in the Central Regions は、次のように記している。

「ソマリア地域は、究極の「失敗国家」として、よく世界を驚かせた。しかし、この表現は、地域全体におけるソマリア人コミュニティ内の、及びコミュニティ間の豊富な平和力学を上手く表していない。国の再建とは、統治制度と法の支配に人々の信頼と信用を取り戻し、あらゆるレベルで関係を再構築し、コミュニティに将来への豊かな希望を提供することである。

「ソマリアの各地域は、長期に渡る紛争から抜け出し、国と社会の再建を目指すに当たり、依然として多数の課題に直面している。多くのソマリア人主導の取組みにより、紛争を解決するため、又、治安と法の支配を維持するための、実現可能な政治・行政上の取決めの整備に、大きな進歩が見られた。これは、特にソマリランドで進んでおり、プントランド

¹²³ Freedom House、Freedom in the World 2013 : Somalia、2013 年 5 月、
<http://www.freedomhouse.org/report/freedom-world/2013/somalia> 2013 年 7 月 16 日閲覧

でも開始され、徐々に進展を見せている。ソマリア中南部でも、国の安定化と再建に向けて、大きな取組みが実施されている。」¹²⁴

ソマリア中南部

5.03 2012 年 8 月 22 日付の国連事務総長報告書は、次のように記している。「ソマリアの移行期間の最後の数ヵ月の期間、ロードマップの調印者たちは憲法原案を支持し、国民の支持を求めてそれを公開した。ロードマップの条項と並行し、8 月 1 日、氏族長老が選出した国家憲法制定会議により、臨時憲章が採択された。」¹²⁵

5.04 Danish Immigration Service and Landinfo が 2013 年 1 月 4 日に発行した、2012 年 10 月に行われたソマリアとケニアの現地調査に関するレポート『モガディシュを含むソマリア中南部における治安と人権の問題に関する最新情報(Update on security ad human rights issues in South-Central Somalia, including in Mogadishu)』(Danish-Norwegian FFM 2012) は、次のように記している。「Saferworld は、2012 年 8 月、9 月、10 月、ソマリアで政治上の出来事が続々と起こっていると説明した。新大統領、議会議長、及び首相が選出され、暫定連邦政府(TFG)の指令が無効になった。多くの人々が政治的な職務に就くことを熱望し、多くが不満を持った。」¹²⁶

5.05 UNPOS: United Nations Political Office for Somalia の 2012 年 11 月 13 日付の新聞発表は、次のように記している。

「国連事務総長特別代表(SRSG)Dr. Augustine P. Mahiga は、11 月 4 日、アブディ・ファラ・シルドン (Abdi Farah Shirdon) 首相が発表した閣僚理事会に対するソマリア連邦議会の熱烈な支持を歓迎した。」

『ソマリアの歴史において、また画期的な出来事が起こった。』SRSG の Mahiga は述べた。「たった 10 人の選出された大臣による門出は、過去の慣習から抜け出し、前進しようとする

¹²⁴ Interpeace, 平和を求めて－中央地域における課題と機会(In Pursuit of Peace – Challenges and Opportunities in the Central Regions)、2012 年 7 月、序文 p.xi、
http://www.interpeace.org/publications/doc_download/324-pillars-of-peace-in-pursuit-of-peace-english 2013 年 1 月 17 日閲覧

¹²⁵ 国連安全保障理事会、国連事務総長報告書(Report of the Secretary-General on Somalia) 、2012 年 8 月 22 日、http://www.un.org/ga/search/view_doc.asp?symbol=S/2012/643 2013 年 1 月 17 日閲覧

¹²⁶ Danish Immigration Service and Landinfo、モガディシュを含むソマリア中南部における治安と人権の問題に関する最新情報(Update on security ad human rights issues in South-Central Somalia, including in Mogadishu)、2013 年 1 月 4 日、p8、
<http://www.nyidanmark.dk/NR/rdonlyres/68C10A22-BFFC-4BD6-899D-60FB6B07AC5/0/FFMSomalia2013Final.pdf> 2013 年 1 月 17 日閲覧

るソマリアの指導者たちの決意を表している。副首相/外務大臣(Deputy Prime Minister/Minister of Foreign Affairs)と開発社会サービス大臣(Minister of Development and Social Services)の重要なポストに 2 人の女性が任命されたことを、歴史的に意義深く思い、特に歓迎する。」

「SRSG は、こう述べた。『シルドン首相とハッサン・シェイク大統領が、ソマリア内外のソマリア人社会との相互協議を拡張させ、有能な政府に成りうるあらゆる特徴を備えたこの包括的な内閣を生んだことを称賛する。両人は、信頼の構築に偉大な功績があった。新しい閣僚理事会は、幅広い政治的指向と集団を代表する一方、氏族間のバランス、平等、及び代表権を考慮している。又、今日のソマリアにおける文化的・社会的現実を反映するものである。』」¹²⁷

5.06 2012 年の出来事を網羅した 2013 年 4 月 19 日発行の米国国務省の 2012 Country Report on Human Rights Practices, Somalia (USSD 2012 report)は、次のように記している。「アル・シャバブは、支配地域において、市民がアル・シャバブの行政官を変更することを禁じた。しかし、アル・シャバブの行政官は、特別な問題に関し、地元の氏族長老に助言を求め、既存の地域社会がそこに留まることを許可することもあった。」¹²⁸

目次に戻る

ソマリア連邦政府の官僚と支持者

5.07 Danish-Norwegian FFM 2012 は、次のように記している。「ある国際機関の代表は、政府支持派は... アル・シャバブに狙われるリスクをある程度負っている。」¹²⁹

5.08 同レポートは、こうも記している。

「Saferworld によると、アル・シャバブは、モガディシュの状況を改善できると思われる人物を脅迫している可能性があるという。脅迫される人物は、政治家、公務員、事業家、及び一般的に著名な人物などである。よって、長期的な解決策を望むならば、アル・シャ

¹²⁷ UN Political Office for Somalia、国連特別代表による閣僚理事会支持の宣言(UN Special Representative Statement on the Endorsement of the Council of Ministers)、2012 年 11 月 13 日、<http://www.unpos.unmissions.org/LinkClick.aspx?fileticket=g5DMFbX5NV0%3d&tabid=9705&mid=12667&language=en-US> 2013 年 1 月 17 日閲覧

¹²⁸ 米国国務省、2012 Report on Human Rights Practices in Somalia、セクション 3、2013 年 4 月 19 日、<http://www.state.gov/documents/organization/186453.pdf> 2013 年 6 月 21 日閲覧

¹²⁹ Danish Immigration Service and Landinfo、モガディシュを含むソマリア中南部における治安と人権の問題に関する最新情報(Update on security and human rights issues in South-Central Somalia, including in Mogadishu)、2013 年 1 月 4 日、p34、<http://www.nyidanmark.dk/NR/rdonlyres/68C10A22-BFFC-4BD6-899D-60FB6B07AC5/0/FFMSomalia2013Final.pdf> 2013 年 1 月 17 日閲覧

バブと和解することが必要である... エルマン平和及び人権センター (Elman Peace and Human Rights Center) , Mogadishu は、文章によるメッセージ又は電話で脅迫を受けているが、こうした脅迫は、『我々はお前の名前と所在を知っている。お前がやっていることを止めろ』といった曖昧且つ単純なもので、脅迫を受けた人は、何もしていなくても不安になってしまう。政治家、支援活動家、世間の注目を集めている人物は、頻繁に脅迫を受けている... ソマリア中南部で活動する国際 NGO は、アル・シャバブが標的とする人物は、MP、国際機関の職員、アフリカ連合ソマリア平和維持部隊関係者など、社会的地位のある人物であると説明した。中でも MP は、アル・シャバブの標的となることを恐れている。」

130

5.09 同レポートは、こうも記している。

「ソマリア中南部で活動する国際 NGO (A)は、... アル・シャバブが、ある人物を政府のスパイとして疑った場合、その人物を脅迫し、最終的には殺害する可能性がある」と説明した。アル・シャバブは、手榴弾又は爆弾を使った攻撃を行うため、若者をその場限りで雇うこともある。拒否すれば脅迫を受けるか、殺される。しかし、国際 NGO によると、政府職員や事業家がこうした脅迫に関与していることもあるという。」¹³¹

5.10 2013 年 4 月と 5 月にデンマークとノルウェーが共同で行った、モガディシュとナイロビの現地調査に関する 2013 年 5 月 8 日付の報告書は、次のように記している。

「モガディシュ在留の国際 NGO(B)は、アル・シャバブが標的とする人物は、主に、次のグループに属すると述べた。」

- ・ 離反したアル・シャバブの元メンバー(これが最も多い)
- ・ [ソマリア国軍]SNA 兵士
- ・ 警察
- ・ 政府役人
- ・ 議員 (MPs)

¹³⁰ Danish Immigration Service and Landinfo、モガディシュを含むソマリア中南部における治安と人権の問題に関する最新情報(Update on security ad human rights issues in South-Central Somalia, including in Mogadishu)、2013 年 1 月 4 日、p36、
<http://www.nyidanmark.dk/NR/rdonlyres/68C10A22-BFFC-4BD6-899D-60FB6B07AC5/0/FFMSomalia2013Final.pdf> 2013 年 1 月 21 日閲覧

¹³¹ Danish Immigration Service and Landinfo、モガディシュを含むソマリア中南部における治安と人権の問題に関する最新情報(Update on security ad human rights issues in South-Central Somalia, including in Mogadishu)、2013 年 1 月 4 日、p37、
<http://www.nyidanmark.dk/NR/rdonlyres/68C10A22-BFFC-4BD6-899D-60FB6B07AC5/0/FFMSomalia2013Final.pdf> 2013 年 1 月 21 日閲覧

・政府又はアフリカ連合ソマリア平和維持部隊と繋がりを持つ人物。政府建物の近くに小さな商店を持っているだけの人物の場合もある。

5.11 2012 年の出来事を網羅した 2013 年 5 月 30 日発行の米国国務省の 2012 Country Reports on Terrorism は、次のように記している。

「2012 年、アル・シャバブとその他の暴力的な過激派グループは、ソマリア全土で自爆テロ、遠隔操作による市街地爆破、誘拐、及び、政府役人[、その他]を狙った暗殺を実行した... 他にも、アル・シャバブは、政府や外国の護衛車を狙った攻撃を行った。」¹³²

アル・シャバブの攻撃の性質と行動について、更に詳しく知りたい場合、政府軍以外の武装グループ(Non-state armed groups)、人権侵害(Human rights violations)、及び治安情勢(Security situation)の項を参照されたい。

目次に戻る

プントランド

5.12 USSD 2012 report は、次のように記している。

「2012 年 4 月 18 日、プントランド国の憲法制定会議は、複数政党による政治制度を謳った国家憲法を圧倒的支持により採択した。憲法は、大統領の任期を 5 年と定めているため、憲法の成立により、ファロル(Farole)大統領の 4 年の任期は 1 年延長され、2014 年 1 月までとなった。この任期延長により、小規模な抗議がプントランドに広まった。又、プントランド当局は、ファロル大統領の任期が終了したと主張する対立政党の候補者を推すメディアを禁止した。」¹³³

5.13 2012 年 9 月 12 日、Garowe Online は、次のように報じた。

「プントランド選挙委員会によると、プントランド・ソマリア国で政治結社の登録が始まり、14 年間の歴史において、初めて政党を登録することができるようになった。Garowe Online より。」

¹³² 米国国務省、2012 Country Reports on Terrorism 2012、第 2 章、2013 年 5 月 30 日、<http://www.state.gov/ct/rls/crt/2012/209979.htm> 2013 年 6 月 25 日閲覧

¹³³ 米国国務省、2012 Report on Human Rights Practices in Somalia、セクション 3、2013 年 4 月 19 日、<http://www.state.gov/documents/organization/186453.pdf> 2013 年 6 月 21 日閲覧

「プントランド選挙委員会の委員長であり、シアド・バーレ大統領の中央政府の元大臣である Mohamed Hassan Barre は、火曜日、プントランドの首都ガローウェ(Garowe)で開催された記者会見で、選挙委員会が政党の登録を歓迎することを伝えた。」

「Barre はこう述べた。『プントランドは、憲法を採択し、国民投票法(Referendum Act)、政治結社法(Political Association Law)、及び地域選挙法(District Elections Law)など、主要な法律を可決したことで、要件を満たした。』」

「プントランド選挙委員会は、多くの政党が登録し、選挙委員会より承認を受けるプロセスに入っている。2013 年の初頭に、政党は、Barre 元大統領が定めた区域に従って、プントランド全域の 21 の区域で地区評議会の議席を争うことになるだろう。」

「Barre 委員長によると、21 の区域で最も票を集めた 3 つの政党が、正式な政党として認められるという。」

「火曜日、BBC Somali Service のインタビューで、Barre 委員長は、これはプントランドにとって歴史的な瞬間であり、軍又は氏族に傾倒した、若しくはこれと関係を持つ政党を除き、全ての政党の登録を歓迎すると述べた。」¹³⁴

5.14 2013 年 1 月 5 日、Garowe Online は、更にこう報じた。

「土曜日、暫定プントランド選挙委員会(TPEC: Transitional Puntland Electoral Commission)は、プントランドの首都において、6 つの登録済み政党を対象に、1 日のセミナーを開催した。Garowe Online より。」

「Mohamed Hassan Barre を含む TPEC のメンバーは、登録済みの 6 つの政党の代表と共に、セミナーに参加した。」

「Barre 委員長は、登録済みの 6 つの政党は、2013 年 2 月 10 日までに、登録手続きの第 2 段階を完了するための残りの要件を満たすことを期待されていると述べた。」

¹³⁴ Garowe Online, 政党の登録開始: プントランド選挙委員会(Registration of political associations open : Puntland Election Commission)、2012 年 9 月 12 日、
http://garoweonline.com/artman2/publish/Somalia_27/Somalia_Registration_of_political_associations_open_Puntland_Election_Commission.shtml 2013 年 1 月 21 日閲覧

「TPEC の役員は、登録手続きの第 2 段階で、各政党は、プントランドの各地域から、政党を支持する有権者最低 300 人を登録し、地域事務所を開設することを求められると述べた。」

「プントランドの政党代表者は、登録手続きの第 2 段階の要件について、質問した。」

「TPEC 役員の Ahmed Mohamed Dubays は、登録手続きの第 2 段階を無事完了した政党は、2013 年中ごろに予定されている地方選挙に参加すると述べた。」¹³⁵

目次に戻る

ソマリランド

5.15 USSD 2012 report は、次のように記している。

「ソマリランドの法律は、地域住民に対し、TFG、連邦憲章の起草、ソマリアの政治的移行を終結させるための協議会、及び、連邦議会に参加することを禁止していた。」

「ソマリランドで議会選挙が最後に行われたのは 2005 年であるが、これは法律で定められた期日を 2 年も超過していた。ソマリランドは、82 人の任命された議員より成り、Guurti と呼ばれる長老院(House of Elders)と、各氏族の比率に比例して選出された 82 人の代表から成る議院との、二院制議会を採用している。その年の最初の四半期に、ソマリランド登録承認委員会(RAC: Registration and Approval Committee)は、政党として成立するために選挙で争える 9 つの政治結社を登録した。ソマリランドでは、議員が自分の地位を守るため、故意に選挙を遅らせているとして、選挙が遅れている責任を議員に負わせる人々もいた。しかし、議院は、選挙遅延の主な理由として、登録の不備、安全の不備、及び技術的な問題を挙げた。」¹³⁶

5.16 2012 年の出来事を網羅した Freedom House の 2013 年 6 月 6 日付 Freedom in the World 2012 は、次のように記している。

「延期されていた地域選挙は、2012 年 11 月によりやく実施された。国際監視員によって、選挙は全般的に自由且つ公平に行われたと宣言されたが、ハルゲイサ市議会選挙で票の数

¹³⁵ Garowe Online, ソマリア: プントランドの政党のためのセミナーがガローウェで開催(Somalia: Seminar in Garowe for Puntland political associations), 2013 年 1 月 5 日、
http://garoweonline.com/artman2/publish/Somalia_27/Somalia_Seminar_in_Garowe_for_Puntland_political_associations.shtml 2013 年 1 月 22 日閲覧

¹³⁶ 米国国務省、2012 Report on Human Rights Practices in Somalia、セクション 3、2013 年 4 月 19 日、
<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dldid=204165#wrapper>
2013 年 6 月 21 日閲覧

え直しが行われた時は、多くの抗議の声が上がった。9 月、UDUB は、政党登録検証委員会(PPR&VC: Political Parties Registration and Verification Committee)が、政党の主だったメンバー 2 人に疑惑があるとして、2 人の出馬を取り消し、政党の信用を落とそうとしたため、選挙に参加しないことを発表した。PPR&VC は、4 月にも、9 つの政党の登録を拒否したため批判された。この決定により、ハルゲイサ、ブラオ(Burao)、及びベルベラ(Berbera)で抗議の声が上がった。」¹³⁷

5.17 Economist Intelligence Unit は、2012 年 12 月 19 日付の「ソマリランド裁判所が争点の選挙結果を確認(Somaliland court confirms disputed election results)」と題した記事の中で、こう記している。

「12 月 16 日、地方裁判所の判事が、ハルゲイサと北西部にある Woqooi Galbeed 地方の 3 つの居留地—Sallahley、Gabiley、及び Baliqubadle で行われた市議会選挙の結果を承認した。これらの地域では、11 月 28 日の選挙以来、緊張が続いていた。12 月 6 日にハルゲイサの選挙結果が初めて発表された際、治安部隊と Haqsoor 党支持者との間で衝突が起こり、3 人が死亡した。選挙に参戦した 7 つの政党のうち 4 つから選挙の公平性に関する不満の声が上がったため、2 日後、国家選挙委員会(NEC: National Electoral Committee)は、ハルゲイサとその他の異論の出た地区の選挙で投じられた票の数え直しを行うことを発表した。数え直しの結果、ミスが見つかったが、各政党が獲得した議席数が変わることは無く、裁判所は、数え直し作業の後、4 つの地区で議席を獲得した議員 72 名の氏名を確認した。裁判所のこの決定に、ハルゲイサの 1 地区で更なる抗議が持ち上がり、地元警察は空中に実弾を発射して民衆を分散させた。

「サナーグ地方の首都エリガボ(Erigavo)でも抗議活動があったと報じられた。Erigavo では、12 月 17 日の第 1 回会議で、新しく選出された地方議会がエリガボ市長と副市長を再選を決めていた。市内の政治的分裂は明らかだった。市長と副市長の再選は、議会の満場一致で決まったが、20 人の新任評議員のうち 10 人が棄権したため、わずか 1 人の過半数で就任が決定した。」

「12 月中旬時点で、NEC は未だに地方選挙で争っている 7 つの政党のうち、どの 3 つがソマリランドの正式な政党となるのかを発表していない。正式な政党になれば、憲章で認められている通り、今後 10 年間、全国選挙に参戦できる。」¹³⁸

¹³⁷ Freedom House、Freedom in the World 2013 : Somaliland、2013 年 6 月 6 日、
<http://www.freedomhouse.org/report/freedom-world/2013/somaliland> 2013 年 7 月 16 日閲覧

¹³⁸ Economist Intelligence Unit、ソマリランド裁判所が争点の選挙結果を確認(Somaliland court confirms disputed election results)、2012 年 12 月 19 日、請求すればハードコピーを入手可能。

5.18 2013 年 1 月 4 日、Economist Intelligence Unit は、こう記している。

「今後 10 年間、ソマリランド全国選挙に参戦できる 3 つの政党が、12 月の最後の週に発表された。」

「政党登録検証委員会(PPRVC)は、ソマリランドの首都ハルゲイサで行われた記者会見の席で、3 つの政党を発表した。3 つというのは、氏族に基づいた政治的分断を最低限に抑えるため、ソマリランド憲法で定められている数である。3 つの政党とは、2012 年 11 月 28 日の地方選挙で最も得票数の高かったシランヨ大統領が率いる平和統一開発党(Kulmiye "unifier")、Wadani 党(Somaliland National Party (Wadani)、及び正義福祉党(UCID: Justice and Welfare Party)である。一旦登録されれば、これら 3 つの政党は、地方選挙に参戦したが正式な地位を得られなかった残りの 4 政党を吸収することが、法律で認められている。それぞれ 2002 年と 2001 年に結成された Kulmiye 党と UCID は、以前の 3 政党のうちの 2 つであるが、Wadani 党は UCID から分離した一派により、2011 年に結成された。)

「選出されなかった政党の公式な反応は、今のところ静かであるが、11 月の市議会選挙については、未だに多少の不満がくすぶっている。実際、11 月の選挙以来、政治的な緊張感が続いており、散々遅延され、物議を醸した選挙結果は、3 ヶ月近く経ってから、ようやく公表されたほどだった。PPRVC の発表の翌日、ハルゲイサの 1 地区で、敗退した政党の支持者による新たな抗議の声が上がり、トゲアー(Togdheer)地方の首都ブラオで、与党 Kulmiye 党に対する抗議活動が起こったと報じられている。こうした緊張は次第に収まっていくと思われるが、これは、政党を 3 つに絞るという方法が、近年、ソマリランドを動揺させている政治的不安の完全な解決とはならないことを示している。氏族に基づいた緊張を緩和することは、政府にとって容易ではない。」¹³⁹

目次に戻る

6. 言論の自由とメディア

表現の自由全般の理解を深めるには、政治提携と表現(Political affiliation and expression)、人権活動の団体、組織、活動家(Human rights institutions, organisations and activists)も参照されたい。政府軍以外の武装グループ(Non state armed groups)、人権侵害(Human rights violations)の項では、アル・シャバブを含む武装グループが標的とするグループに関する情報が、治安部隊(Security forces)、人権侵害(Human rights violations)の項では、主にソマリア国政府軍による虐待の一般的な背景が提供されている。

¹³⁹ Economist Intelligence Unit、ソマリランドが今後 10 年間支配する政党を発表 (Somaliland announces political parties for next decade)、2013 年 1 月 4 日、請求すればハードコピーを入手可能。

6.01 2012 年の出来事を網羅した 2013 年 4 月 19 日発行の米国国務省の 2012 Country Report on Human Rights Practices, Somalia (USSD 2012 report)は、次のように記している。

「暫定連邦憲章(TFC)と臨時連邦憲章は、言論と報道の自由を保証している。」

「全ての地域において、ジャーナリストは暴力、嫌がらせ、逮捕、拘留の対象となっている。NUSOJ: National Union of Somali Journalists は、2012 年、ソマリア全土で 18 人のジャーナリストが死亡し、14 人がモガディシュで負傷したと報じた。SOLJA: Somaliland Journalists Association によると、2012 年、79 人以上のジャーナリストがソマリランドで逮捕されたという。これは、過去数年と比べ、大きな増加である。国境無き記者団(Reporters Without Borders)は、2012 年はソマリアの記者にとって『史上最悪』な年になったと述べた。」

140

6.02 National Union of Somali Journalists の 2012 年 11 月 23 日付レポート『刑罰の免除: ソマリアのジャーナリストに対する戦争(Impunity: War on Somalia's journalists)』は、次のように記している。

「ソマリアが、有効な司法及び法と秩序を確立しようと必死にもがく中、ソマリアのメディア関係者にとって、刑罰の免除が依然として深刻な脅威となっている。人権侵害行為の横行が、ソマリアを無法地帯とし、被害者は不当な処置に苦しんでいる。民主主義と公平な支配の基本である報道の自由は、容認できないほど軽んじられてきた... ソマリアでジャーナリストが殺害される事件は、よくあること、普通の慣習である。今でもモガディシュは、ジャーナリストと報道機関を狙った攻撃が国内で最も多く起こる地域である。ジャーナリスト殺害事件の大部分がこの物騒な首都で起こっていることから、報道の自由の侵害が最も深刻なのはモガディシュであると考えられる。」¹⁴¹

6.03 2012 年 12 月 18 日、ジャーナリスト保護委員会(Committee to Protect Journalists)は、次のように報じている。

「独立ラジオ局 Kulmiye の副局長 Mohamed Odowa によると、ソマリアで死者が多数出ている原因は、一部、複雑で繊細な政治的移行にあり、又、一部、2011 年に首都モガディシュから追放されたアル・シャバブの戦闘員にあるという。2012 年、ラジオ局のジャーナリ

¹⁴⁰ 米国国務省、2012 Report on Human Rights Practices in Somalia、セクション 2、2013 年 4 月 19 日、<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dliid=204165> 2013 年 6 月 21 日閲覧

¹⁴¹ National Union of Somali Journalists、刑罰の免除: ソマリアのジャーナリストに対する戦争(Impunity: War on Somalia's journalists)、2012 年 11 月 23 日、http://edn/rsf.org/IMG/pdf/nusoj_impunity_final-2.pdf 2013 年 1 月 23 日閲覧

スト数人は、襲撃により重傷を負った。Odowa がジャーナリスト保護委員会(CPJ)に語ったところによると、アル・シャバブは拠点を失い、広い地域で撤退を余儀なくされたため、今でも首都に存在しているというメッセージを外界に向けて発信したかったのではないか、ということである。CPJ の調査によると、アル・シャバブは、2012 年に起きたジャーナリスト殺害事件のうち、少なくとも 4 件について犯行声明を出している。」¹⁴²

6.04 2012 年 7 月 26 日更新の BBC Country Profile for Somalia は、次のように記している。

「ソマリアの崩壊は、メディアにも表れている。メディアは分断され、派閥に傾倒していることも多い。」

「報道員とジャーナリストは、表現の自由を束縛する危険な環境の中で活動している。国境なき記者団は、ソマリアを『ジャーナリストにとってアフリカ内で最も悲惨な国』と表現している。」

「イスラム主義者グループは、メディア局を標的としているという点を否定しながらも、支配地域の FM ラジオ局を奪取した。」

「しかし、多彩で益々専門的度合いを強めているメディア局—中でも、表立った派閥関係を持たない FM ラジオ局—が、近年、出現している。」

「テレビと新聞の部門は弱く、ラジオが一般的な報道媒体である。ラジオ局は約 20 あるが、全国放送を行っている国内の放送局は無い。」

「多くの人が、海外メディア、特に BBC ソマリアサービスのソマリア語放送を聴いている。BBC は短波放送で、FM を通じてモガディシュ(91.1)、ソマリランドの首都ハルゲイサ(89.0)、そしてその他を中継する。国連が後援するソマリアの放送局 Radio Bar-Kulan は、ナイロビに拠点を置く。」

「ソマリアのユダヤ人居住地—西部、ペルシャ湾の湾岸国、その他—では、インターネットが普及している。しかし、商用電源へのアクセス制限などの実用的な問題により、国内では円滑なウェブアクセスは望めない。2010 年 6 月時点で、106,000 人のインターネット利用者がいた(Internetworldstats)。」

¹⁴² ジャーナリスト保護委員会、2012 年、ジャーナリストの死者数が急増、原因はシリア、ソマリア (Journalist deaths spike in 2012 due to Syria, Somalia)、2012 年 12 月 18 日、<http://cpj.org/reports/2012/12/journalist-deaths-spike-in-2012-due-to-syria-somalia.php> 2013 年 1 月 23 日閲覧

「ソマリアの紛争はソーシャルメディアを巻き込んでいる。イスラム主義推進派は、メディアを利用して政治的・宗教的目的を推進しようとしている。一方、反対派は、メディアを通じて激しく反論している。」

「独立推進派の多いソマリランドとプントランドでは、当局が放送を厳しく管理している。」

143

6.05 Freedom House の 2012 年 9 月 5 日付レポート Freedom of the Press 2012 は、次のように記している。「ソマリアのメディア環境は、地域によって大きく異なる。ソマリア中南部、北東部の半自治区プントランド、及び北西部の離脱区ソマリランドでは、危機的状况である。」¹⁴⁴

目次に戻る

ソマリア中南部

ソマリア中南部の様々な放送局については、[BBC Country Profile](#) 及び [スタンフォード大学図書館\(Stanford University Library\)](#) を参照されたい。

ラジオ

6.06 Freedom House の 2012 年 9 月 5 日付レポート Freedom of the Press 2012 は、次のように記している。

「紛争が続いているにも拘らず、特定の派閥に傾倒した 10 以上のラジオ局が、モガディシユで放送を続行している。TFG は、政府後援のニュースと情報を放送すると共に、様々なグループやソマリア人個人が意見を発表する場を提供することを目的として、新たに設立された Radio Mogadishu を支持し続けている。これには、アル・シャバブ、又はより穏健なアル・スンナ・ワル・ジャマー(Ahlu Sunna Waljama)市民軍の支配下で活動することを困難に感じている Horn Afrik や Radio Shabelle など、有名な放送局のジャーナリストが含まれている。2010 年の初め、国連－アフリカ連合の共同ラジオ局 Radio Bar Kulan が、ケニアの首都ナイロビから放送を開始した。Radio Mogadishu と同様、この新ラジオ局は、過激派に反対し、暫定連邦政府とアフリカ連合を支持する声を発する場を提供しようとしてい

¹⁴³ BBC News, Somalia Country profile、2012 年 7 月 26 日更新、<http://www.bbc.co.uk/news/world-africa-14094550> 2013 年 1 月 23 日閲覧

¹⁴⁴ Freedom House、Freedom of the Press 2012－Somalia、2012 年 9 月 4 日、<http://www.freedomhouse.org/report/freedom-press/2012/somalia>

る。英国放送協会(BBC)とボイス・オブ・アメリカ(Voice of America)のソマリアサービスなど、外国のラジオ放送を通じてニュースを聴いているソマリア人も多い。」¹⁴⁵

ジャーナリスト

6.07 USSD 2012 report は、次のように記している。

「全ての地域において、ジャーナリストは暴力、嫌がらせ、逮捕、拘留の対象となっている。NUSOJ: National Union of Somali Journalists は、2012 年、ソマリア全土で 18 人のジャーナリストが死亡し、14 人がモガディシュで負傷したと報じた。SOLJA: Somaliland Journalists Association によると、2012 年、79 人以上のジャーナリストがソマリランドで逮捕されたという。これは、過去数年と比べ、大きな増加である。国境無き記者団は、2012 年はソマリアの記者にとって『史上最悪』な年になったと述べた。」¹⁴⁶

6.08 2013 年 1 月 18 日、ジャーナリスト保護委員会(Committee to Protect Journalists)は、次のように報じている。

「Shabelle Media Network のベテランプロデューサーが、今日、モガディシュで銃撃されて死亡した。これで、13 ヶ月間で殺害された Shabelle のジャーナリストは 5 人となった。ジャーナリスト保護委員会は、この殺人事件を非難し、ソマリ当局による捜査だけでなく、11 月に Hassan Sheikh Mohamoud 大統領が約束した、ジャーナリスト殺害事件に関する対策本部による追跡調査を求めた。」

「地元ジャーナリストやニュース報道によると、今朝、7 時頃、正体不明の襲撃者が、首都ワダジール(Wadajir)地区の職場に向かって歩いていた Shabelle Media Network のプロデューサーAbdihared Osman Aden を銃撃した。情報提供者によると、このプロデューサーは少なくとも 3 回撃たれ、地元の病院で死亡した。」¹⁴⁷

6.09 National Union of Somali Journalists の 2012 年 11 月 23 日付レポート『刑罰の免除: ソマリアのジャーナリストに対する戦争(Impunity: War on Somalia's journalists)』は、国際ジャ

¹⁴⁵ Freedom House、Freedom of the Press 2012—Somalila、2012 年 9 月 4 日、
<http://www.freedomhouse.org/report/freedom-press/2012/somalia> 2013 年 1 月 23 日閲覧

¹⁴⁶ 米国国務省、2012 Report on Human Rights Practices in Somalia、セクション 2、2013 年 4 月 19 日、
<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dliid=204165> 2013 年 6 月 21 日閲覧

¹⁴⁷ ジャーナリスト保護委員会、ソマリアで Shabelle のジャーナリストが銃撃され死亡(Shabelle journalist gunned down in Somalia)、2013 年 1 月 18 日、
<http://www.cpj.org/2013/01/shabelle-journalist-gunned-down-in-somalia.php> 2013 年 1 月 23 日閲覧

ーナリスト連盟(International Federation of Journalists)からの次のようなメッセージを記している。

「... 普通、ジャーナリストやメディア関係者を保護し、殺人犯を法廷に立たせるのは、政府の仕事である。ソマリアの紛争が激化するに従い、前の暫定連邦政府は、大げさな宣言や約束をしたにも拘らず、刑罰免除の慣習を断ち切るために残念ながら殆ど何もしなかった。それと同時に、暫定連邦政府を支持する国際社会も、殺人犯の責任を問うことに失敗した。」

「議会の新議長、新大統領、及び新内閣の下、ソマリアのジャーナリストたちは、ジャーナリストの連盟と共に、新しい時代の始まり、又、ジャーナリストの保護、刑罰免除の慣習の廃止、及び表現の自由の推進に向けた新たな決意を期待している。」

「国際ジャーナリスト連盟と、その傘下にある世界中の 180 の連合は、ソマリア新政府に対し、ジャーナリストの保護に向け、直ちに有効な対策を講じる責任を課し、ジャーナリスト殺害事件について綿密な捜査を行うことを命じた。又、国際社会に対しては、襲撃犯とその依頼主を処罰するために必要な支援の全てを新政府に提供するよう、強く望む。」¹⁴⁸

6.10 2013 年 4 月と 5 月にデンマークとノルウェーが共同で行った、モガディシュとナイロビの現地調査に関する 2013 年 5 月 8 日付の報告書は、次のように記している。

「モガディシュ在留の国際 NGO(B)によると、多数のジャーナリストが殺害されたことを鑑みても、アル・シャバブが特にジャーナリストを標的としていると考えるのは、正しくない。アル・シャバブが犯行を認めたのは、州が運営する Radio Mogadishu のジャーナリスト殺害の件のみである。その他のジャーナリスト殺害事件の首謀者は不明である。これに関連し、Shabelle Media が政府と長期に渡って揉めていることを述べておくべきであろう。ジャーナリストの殆どは、アル・シャバブに批判的な報道をしないことも付け加えられた。」¹⁴⁹

¹⁴⁸ National Union of Somali Journalists、刑罰の免除: ソマリアのジャーナリストに対する戦争(Impunity: War on Somalia's journalists)、2012 年 11 月 23 日、p9、
http://edn/rsf.org/IMG/pdf/nusoj_impunity_final-2.pdf 2013 年 1 月 23 日閲覧

¹⁴⁹ Danish Immigration Service and Landinfo、モガディシュとソマリア中南部における治安と保護、デンマークとノルウェーによるモガディシュとナイロビの現地調査(Security and protection in Mogadishu and S/C Somalia, Danish-Norwegian fact finding mission to Nairobi and Mogadishu)、2013 年 4 月～5 月、2013 年 5 月 8 日、p13、
http://www.nyidanmark.dk/NR/rdonlyres/6F1A29C6-2F84-40D2-BDE4-42F69897EEC3/0/security_and_protection_in_somalia_may_2013.pdf 2013 年 6 月 25 日閲覧

ジャーナリストやメディア関係者に関連した事件について、更に詳しく知りたい場合は、[RSF](#) と [CPJ](#) のウェブサイト参照されたい。

[目次に戻る](#)

プントランド

プントランドの様々な報道機関については、[BBC Profile](#) を参照されたい。

6.11 Freedom House の 2012 年 9 月 5 日付レポート Freedom of the Press 2012 は、次のように記している。

「自治宣言をしたプントランド地区では、報道の自由は [ソマリア中南部よりは] 多少、認められている。プントランドの臨時憲章には、ジャーナリストが法を順守する限り、報道の自由が認められるとあるが、この地区は、TFG も承認している。2010 年 7 月、プントランド政府はテロ行為の容疑者とその仲間を対象とした対テロリズム法を可決し、メディアがアル・シャバブについて報道することも禁止した。この新しい法律は、地域で暗殺や爆破事件を起こしているアル・シャバブやその他の反政府グループに対抗する対策の一部であった。2011 年、ジャーナリストたちは、刑罰免除の慣習に守られた治安部隊による恐喝、攻撃、及び嫌がらせを受けた。Abdirahman Mohamud Farole プントランド大統領が、より開かれた社会を約束したにも拘らず、未だに厳しい制限が設けられ、政治・治安の問題を扱うことは、ジャーナリストにとって特に危険であった。2011 年 10 月、ファロル大統領と情報大臣は、Universal TV と Somali Channel TV をプントランドの治安を脅威に晒したとして訴え、プントランドでの放送を禁止した。Universal TV は 12 月初旬に放送再開を許可されたが、Somali Channe TV は、2011 年の年末時点で閉鎖されたままである。ジャーナリストたちは、他の政府機関からの抑圧も受けている。例えば、2011 年 3 月、Somali Broadcasting Corporation のレポーター Liban Abdi Farah が、ガルカイヨ (Galkayo) で爆発があったと通報した罪で、プントランド警察に逮捕された。しかし、この事件は法廷に持ち込まれず、Farah が正式に罪を問われることは無かった。」¹⁵⁰

テレビとラジオ

6.12 2012 年 10 月 9 日、ジャーナリスト保護委員会は、次のように報じている。

「地元ジャーナリストによると、土曜日午前、プントランド半自治区で、治安要員が民間放送 Horseed FM を閉鎖し、地域のインターネットプロバイダーに放送局のウェブサイト

¹⁵⁰ Freedom House、Freedom of the Press 2012—Somalila、2012 年 9 月 4 日、
<http://www.freedomhouse.org/report/freedom-press/2012/somalia> 2013 年 1 月 23 日閲覧

を閉鎖するよう命じた... 地元ジャーナリストは、警官が湾岸都市ボサソにある Horseed FM に突入し、閉鎖が一時的なものか、永久的なものかを伝えることなく、放送を強制的に中止させたと CPJ に語った。地元ジャーナリストと報道によると、Osman Afdalow 警察署長は、Horseed FM 局長 Abdikani Hassan に対し、首都ガローウェの警察運営部長が書いたと称する、署名も捺印も無い放送局閉鎖の命令書を見せたという。」

「放送局の親会社 Horseseed Media の常務取締役 Mahad Mussa は、閉鎖について、正式な理由は伝えられなかったと CPJ に語った。大統領の報道顧問である Mohamed Abdirahman は、閉鎖については知らなかったが、調査すると CPJ に伝えた。」¹⁵¹

ジャーナリスト

6.13 USSD 2012 report は、次のように記している。

「プントランド当局は、ジャーナリストの弾圧を続け、ジャーナリストが銃撃される事件が相次いだ。プントランド政府は、報道の自由を侵害しているという避難を、繰り返し否定した。政府は、ジャーナリストの逮捕理由を、無責任な主題を扱い、国家の治安を脅かした罪とすることを止めなかった。」

「2012 年 3 月 3 日、プントランド警察は、ボサソにある Voice of Peace の放送局から機材を略奪し、放送局の鍵を没収し、局のディレクター Awke Abdullahi Ali を自宅で逮捕した上、放送局を閉鎖した。プントランド当局の行動は、Voice of Peace が、ガルガラ (Galgala) 山地でプントランド国軍と戦闘中の、アル・シャバブを支持する市民軍スポークスマンのインタビューを放送したことに触発されたのではないかと NUSOJ は推測した。Awke Abdullahi は 4 月 29 日に釈放された。」

「2012 年 7 月 12 日、ボサソにある International Village Hotel で、Royal Television network の職員 Ahmed Muse Ali (Ahmed Jokar) が大統領候補のキャンペーンを報道していたところ、バリ (Bari) 地方知事の警備員によって激しい暴行を受けた。」

「2012 年 8 月 2 日、Radio Daljir の主任編集者兼ガルカイヨ局マネージャー Abdifatah Gedi が、放送局のガローウェ本部前で、銃で武装した男らに数度に渡り銃撃されたが、暗殺を免れた。」¹⁵²

¹⁵¹ ジャーナリスト保護委員会、プントランド当局がラジオとウェブサイトを閉鎖(Puntland authorities close down radio and website)、2012 年 10 月 9 日、<http://www.cpj.org/2012/10/puntland-authorities-close-down-radio-and-website.php> 2013 年 1 月 23 日閲覧

¹⁵² 米国国務省、2012 Report on Human Rights Practices in Somalia、セクション 2、2013 年 4 月 19 日、

[目次に戻る](#)

ソマリランド

プントランドの様々な報道機関については、[BBC Profile](#) 及び [スタンフォード大学図書館 \(Stanford University Library\)](#) を参照されたい。

6.14 Freedom House の 2012 年 9 月 4 日付レポート Freedom of the Press 2012 は、次のように記している。

「2011 年、ソマリランドー独立宣言が国際的に認められていない地域ーは、年末、政府と報道機関の関係が益々悪化しているにも拘らず、ソマリアのその他の地域に比べて比較的自由な報道を認める立場を維持した。ソマリランド憲章は、言論と報道の自由を保証している。中傷は犯罪ではなく、名誉棄損は氏族制度を通じて解決される場合もある。但し、2011 年、裁判官たちが報道関連の事件に刑法を適用することに、より積極的になっているように思われた。ソマリランドでは、情報法を閲覧する方法が無く、公務員は、政府にとって都合の良い情報しか漏らさないことが多い。」

「総合的には、2011 年は、2010 年の選挙に向けた準備期間から始まった傾向が続いた。民間の新聞社は政党と繋がりを持ち、多くのジャーナリストや新聞社が、財政面で政党の支援を受けていた。アフメッド・シランヨ (Ahmed Silanyo) 大統領率いるソマリランド新政府は、いくつかの報道機関を批判し、衛生テレビ局 Universal TV の放送中止を命じた。政府は、Universal TV が偏ったプントランド寄りの放送を行っているとは非難した。プントランドとの国境問題が依然として燻っていたため、これは特に繊細な事項だった。2011 年 3 月、ソマリランド軍が、プントランドとの国境近くのラス・アノド (Las Anod) で取材をしていた Universal TV のジャーナリスト Mohamed Shaqale と Somali Channel の Abdinur Hashi を逮捕した。この 2 人は、間もなく釈放された。過去と同様、ソマリランドのジャーナリストたちは、アル・シャバブから脅迫状を受け取ったり、嫌がらせを受けたりしている。報復を恐れ、事件を堂々と報道したり、アル・シャバブと結び付けたりすることを止めた放送局もある。」¹⁵³

6.15 USSD 2012 report は、次のように記している。

「ソマリランド警察がジャーナリストを逮捕した。」

<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dliid=204165> 2013 年 6 月 21 日閲覧

¹⁵³ Freedom House、Freedom of the Press 2012—Somalila、2012 年 9 月 4 日、

<http://www.freedomhouse.org/report/freedom-press/2012/somalia> 2013 年 1 月 23 日閲覧

「例えば、2012 年 1 月 8 日、ソマリランド警察は Royal Television のレポーター Yusuf Abdi Ali(Indho Quruh)を逮捕した。警察は、このジャーナリストが、人道活動の NGO が関与する汚職について報道しているという通報を受けていた。ジャーナリストは 10 日後に釈放された。

2 月、ソマリランド警察は、オガデン民族解放戦線の戦士が、エチオピアに越境する前にソマリランドに上陸したことを報道したジャーナリスト 2 人を逮捕した。2 人はハルゲイサ裁判所で司法取引に応じた後、6 日後に釈放された。」¹⁵⁴

ジャーナリスト

6.16 2012 年 10 月 24 日、国境無き記者団は、次のように報じている。

「国境無き記者団は、ラス・アノドを拠点に活動する若きテレビ記者 Ahmed Saakin Farah Ilyas が、昨日の帰宅途中、分離したソマリランド北西部地域で銃撃され、死亡したことを遺憾に思う。」

「民間テレビ局 Universal Television に雇われていた Ahmed Saakin Farah Ilyas は、頭部に数回の銃撃を受けたが、犯人はまだ特定されていない。今年、ソマリアで殺害されたジャーナリストは、これで 16 人目である。」¹⁵⁵

目次に戻る

7. 人権、及び人道的活動の団体、組織、活動家

この章は、人道的立場の状況(Humanitarian situation)と国内避難民(Internally displaced persons)の項と関連付けて読むことが望ましい。

7.01 2012 年の出来事を網羅した 2013 年 4 月 19 日発行の米国国務省の 2012 Country Report on Human Rights Practices, Somalia (USSD 2012 report)は、次のように記している。

「かなりの数の地域的・国際的な人権グループが、アル・シャバブが支配する地域以外で活動し、人権侵害事件について調査し、報告を行っている。しかし、安全上の問題から、

¹⁵⁴ 米国国務省、2012 Report on Human Rights Practices in Somalia、セクション 2、2013 年 4 月 19 日、<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dliid=204165> 2013 年 6 月 21 日閲覧

¹⁵⁵ 国境無き記者団、ジャーナリストがまた銃撃される、今年に入って 16 人目(Another journalist murdered in Somalia, 16th this year)、2012 年 10 月 24 日、<http://en.rsrf.org/soomalia-another-journalist-murderd-in-24-10-2012.43579.html> 2013 年 1 月 23 日閲覧

中南部で自由に活動することができないでいる。国際 NGO と地域 NGO は、プントランドとソマリランドで大きな制限も無く活動できるが、例外もあった。」

「2012 年、人道活動家、宗教活動家、市民社会のメンバー、及び NGO 職員に対する攻撃や嫌がらせ事件が起こり、死者が出た。国外に避難した人権擁護家も数人いる... 5 月 11 日、TFG は、人権問題の 7 つの主題について、OHCHR 及び UNPOS と正式に技術協力を行うことを取り決めた合意書に署名した。7 つの主題とは、以下の通りである。(1) 国際的な人権条約に調印、批准し、これに従うこと。(2) 女性、児童、国内避難民、及びジャーナリストをはじめとする弱者の人権を保護・推進する。(3) 法の支配と司法を強化する。(4) 人権を推進・保護する法令を強化する。(5) メディアを通じて人権に対する認識を向上させる。(6) 経済的・社会的権利を促進する。(7) 国連人権理事会の特別手続きに積極的に協力する。」

「2012 年 5 月 16 日と 17 日、TFG の憲法問題及び和解省(Ministry of Constitutional Affairs and Reconciliation)及び情報省(Ministry of Information)は、国連、全米民主国際研究所(National Democratic Institute)、及び International Development Law Organization の支援を受け、基本的権利、メディア関連の法律、及び臨時連邦憲章に関連する暫定司法に関する会議を主催した。臨時連邦憲章は、後日、8 月 1 日に採択された。」

「2012 年、UNPOS の Human Rights Unit が被拘留者と内密なインタビューを行うことを、国連職員の安全のためという理由で拒否したのは、プントランドだけである。」¹⁵⁶

目次に戻る

ソマリア中南部

7.02 USSD report 2012 は、次のように記している。「TFG は、NGO に協力・対応することもあった。しかし、官僚の汚職に関連する問題では、世界銀行や内部監査人の監査結果と同様、国際 NGO や地域 NGO の調査結果を無視することが多かった。」¹⁵⁷

7.03 「2012 年 10 月にデンマークとノルウェーが共同で行った、モガディシュとナイロビの現地調査に関する 2012 年 1 月 4 日付の報告書は、次のように記している。

「UNHCR の伊藤 礼樹氏は、2012 年 2 月以降、モガディシュに滞在する国連機関が増えていると説明した。現在、UNPOS、UNHCR、OCHA、国連児童基金(UNICEF: United Nations

¹⁵⁶ 米国国務省、2012 Report on Human Rights Practices in Somalia、セクション 5、2013 年 4 月 19 日、<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dliid=204165> 2013 年 5 月 13 日閲覧

¹⁵⁷ 米国国務省、2012 Report on Human Rights Practices in Somalia、セクション 5、2013 年 4 月 19 日、<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dliid=204165> 2013 年 5 月 13 日閲覧

Children's Fund)、国連世界食糧計画(WFP: World Food Programme)、国連開発計画(UNDP: United Nations Development Programme)、国連 AMISOM 支援事務所(UNSOA: UN Support office for AMISOM)の各国際機関が常駐している。国際移住機関(IOM: International Organization for Migration)もモガディシュに常駐事務所を持っている。」

「OCHA のキリアン・クラインシュミット氏 (Kilian Kleinschmidt) は、2012 年 2 月以降、モガディシュには、国連機関と並び、国際 NGO の存在も増えていると説明した。現在、UNICEF、UNHCR、WFP、OCHA、国連地雷対策支援信託基金(UNMAS: UN Mine Action Service)、UNSOA、及び UNPOS の国際職員がモガディシュに滞在している。一方、紛争期間中も、全ての機関にソマリア人職員が勤務した。暫定期間中(2012 年 8 月)、多くの国際 NGO が一時的にモガディシュを離れた。しかし、TFG と関わることを拒んでいた国際 NGO、国連と協力することさえ躊躇していた国際 NGO を含め、多くの国際 NGO がモガディシュに戻ってきた。キリアン・クラインシュミット氏は、帰還を慎重に行わなければ、地域 NGO、国際 NGO に負傷者が出ることを懸念した。特に、雇用、汚職をめぐり、官僚、又は様々な組織の職員による牽制が懸念される。」¹⁵⁸

7.04 2012 年の出来事を網羅した 2013 年 1 月 31 日発行の Human Rights Watch World Report 2013(HRW World Report 2013)は、次のように記している。

「アル・シャバブは、人道支援に対する制限を維持し、国連児童基金(UNICEF)、Action Contre la Faim(ACF)を含む 16 以上の人道支援団体に対し、支配地域での活動を禁止した。2012 年 10 月 8 日、アル・シャバブは最後に 1 つだけ活動を維持していた国際支援団体 Islamic Relief に対し、支配地域で活動することを禁止した。」

「アル・シャバブが最近撤退した都市では、TFG を支持する部隊間の内部抗争を含む不穏な出来事が、支援団体の活動を阻害した。人道活動家を狙った攻撃が、依然として全国で起こっている。2012 年 8 月 27 日、国連食糧農業機関(FAO: UN Food and Agriculture Organization)のソマリア人職員がマルカで殺害された。」

¹⁵⁸ Danish Immigration Service and Landinfo、モガディシュとソマリア中南部における治安と保護、デンマークとノルウェーによるモガディシュとナイロビの現地調査(Security and protection in Mogadishu and S/C Somalia, Danish-Norwegian fact finding mission to Nairobi and Mogadishu)、2012 年 10 月、2013 年 1 月 4 日、p23、
<http://www.nyidanmark.dk/NR/rdonlyres/68C10A22-BFFC-4BD6-899D-60FB6B07AC5/0/FFMSomalia2013Final.pdf> 2013 年 5 月 13 日閲覧

「モガディシュでは、政府勢力、政府を支持する市民軍、官僚、その他の勢力が人道支援を牽制した。又、食料配給所の安全を確保できないことから、難民が支援を受けることは大きく制限された。」¹⁵⁹

[目次に戻る](#)

プントランドとソマリランド

7.05 USSD 2012 report は、次のように記している。「ソマリランド法務省から、ラス・アノドで一般の人権の現地調査を行う許可を得ていたにも拘らず、2012 年 4 月に国際人権団体の調査団が現地に着いた際、スール地方の知事により、地域への出入りを禁止された。調査団の現地入りを拒否した後、知事の警護要員が、調査団と面会する予定だった人物少なくとも 1 人を逮捕した。この人物は 24 時間後、釈放された。」¹⁶⁰

人道的立場の状況(Humanitarian situation)と国内避難民(IDPs)の項も参照されたい。人道支援とソマリアにおける状況に関する更なる情報が掲載された OCHA ソマリア(OCHA Somalia)の状況レポートは、[こちらからアクセス](#)できる。

[目次に戻る](#)

8. 宗教の自由

8.01 2012 年の出来事を網羅した 2013 年 5 月 20 日発行の米国国務省の 2012 International Religious Freedom report は、次のように記している。

「2012 年 1 月から 7 月までの期間、暫定連邦憲章(TFC)は、モガディシュと暫定連邦政府(TFG)が統治する地域において、宗教の自由を保証している。暫定連邦政府は、大体において、宗教の自由を尊重した。8 月 1 日、臨時連邦憲章が TFC に取って代わった。9 月、新議会が新大統領を選出し、8 年近く続いた暫定政権に終止符を打った。臨時憲章は、宗教の自由を保証しているが、イスラム教を国教と定め、イスラム教以外の宗教への改宗を禁止している。1 年を通して、宗教の自由に対する TFG と新政府の態度は、ほぼ変わらなかった。TFG は TFC を施行する力を欠き、新政府は臨時憲章を施行する力を欠いていた。加えて、ソマリアは、様々な勢力が支持する宗教に分断され、TFG も新政府も、支配地域外で TFC 又は臨時憲章を施行することはできなかった。」

「プントランドと、自称独立国家ソマリランドは、宗教の自由を保護する独自の憲章を持っている。しかし、どちらの憲章も背教、イスラム教からの改宗、イスラム教以外の宗教

¹⁵⁹ Human Rights Watch, Annual Report 2013, Somalia, 2013 年 1 月 31 日、p2、<http://www.hrw.org/world-report/2013/country-chapters/somalia> 2013 年 5 月 13 日閲覧

¹⁶⁰ 米国国務省、2012 Report on Human Rights Practices in Somalia、セクション 5、2013 年 4 月 19 日、<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dliid=204165> 2013 年 5 月 13 日閲覧

の布教を禁じている。1 年を通して、宗教の自由に対するソマリランド当局とプントランド当局の態度は、ほぼ変わらなかった。」

「テロリストグループ アル・シャバブは、ソマリア中南部の田園地帯の一部を支配し続けていたが、以前支配していた大都市の殆どの統治権を失った。アル・シャバブは、イスラム教からの改宗を疑われる人々を、脅したり殺害したりした。又、イスラム教の戒律を破った人々を傷つけ、殺害した。」

「支持する宗教、信仰、又は慣習に基づいた社会的差別の報告がある。イスラム教から他教に改宗することは、社会的に認められなかった。改宗を疑われた人々は、コミュニティのメンバーから、嫌がらせを受けた。」¹⁶¹

宗教分布と宗教の自由について、更に詳しく知りたい場合は、米国国務省の 2012 International Religious Freedom Report を参照されたい。

目次に戻る

9. 民族グループ

ソマリアの総人口に関して、信頼できる国勢調査によるデータは無い。20 年以上に渡る内戦と人道的危機により、膨大な数の人々が国内避難民となり (国内避難民(Internally Displaced Persons)) の項を参照されたい)、多くのソマリア人が国外に逃れた。2011 年 7 月 22 日発行の Landinfo report 『ソマリア: 言語分布と方言(Somalia: Language situation and dialects)』には、次のような記載がある。「... 膨大な数の人々が難民となり、様々な氏族が一定の地域に集合した...」¹⁶² 従って、情報提供者が提供している殆どの氏族や少数民族の所在地、規模、及び人口分布に関するデータは、推定に過ぎない。」

概観

9.01 2006 年 11 月付の Dr. Joakim Gundel のレポート The Predicament of the “Oday”, The role of traditional structures in security, rights, law and development in Somalia は、次のようにまとめている。

¹⁶¹ 米国国務省、2012 International Religious Freedom report、2013 年 5 月 20 日、<http://www.state.gov/j/drl/rls/irf/religiousfreedom/index.htm?year=2012&dliid=208194> 2013 年 7 月 17 日閲覧

¹⁶² Norwegian Country of Origin Information Centre (Landinfo)、ソマリア: 言語分布と方言(Somalia: Language situation and dialects)、2011 年 7 月 22 日、http://landinfo.no/asset/1800/1/1800_1.pdf 2011 年 10 月 21 日閲覧

「ソマリアは、同一の民族、文化、及び言語を持った国家として、誤って認識されていることが多い。事実、認知されている人口の大部分は、ソマリア独立後、公用語となった Af-Maxaa-tiri 語を話すソマリア遊牧－牧畜民族で構成されている。もう一つの大きなグループは、ディジル・ミリフレ(Digin-Mirifle)又はラハンウェイン(Raxanweyn)と呼ばれる、ソマリア南部のジュバ川とシャベル川とに挟まれた地域に定住する農民－牧畜家の民族で構成される。この民族は、Af-Maxaa-tiri 語とは大きく異なる Af-Maay-tiri 語を話す。この 2 つの民族以外にも、「社会階級から外れた」少数民族、又はまとめてサブ(sab)と呼ばれる奴隷、バントゥー(Bantu)族の血筋を持つ民族、バジュニ人(Bajunis)、ブラバ人(Barawanis)などアラブ系の血筋を持つ民族がいる。ラハンウェイン、少数民族、及びバントゥー族、アラブ系民族は、遊牧民とはかなり異なる文化を持っていると認識することが重要である... ソマリアの[遊牧]牧畜民族の血筋は、先祖 Samaal と預言者モハメット一家、特にモハメットの従弟である Qurayshi 氏族の Aqil Bin Abi-Talib の直系子孫であるという共通の言い伝えにより、繋がっている。今日、細かく分かれていた氏族制度は、ダロッド(Darood)、ハウイエ(Hawiye)、ディル(Dir)、そして、尋ねる相手によってはイサック(Isaaq)の、3～4 の大きな氏族に代表されるようになった... ラハンウェインは、ソマリア人牧畜民族とは明確に違い、Saab を祖先に持つという点で、血筋が異なっている。それでも、Qurayshi 氏族の血を引くという同様の言い伝えを持つソマリア人であると主張している。」¹⁶³

9.02 2012 年の出来事を網羅した 2013 年 4 月 19 日発行の米国国務省の 2012 Country Report on Human Rights Practices, Somalia (USSD 2012 report)は、次のように記している。

「人口の 85%以上が共通の血筋、宗教、及び、遊牧民族としての文化を共有している。殆どの地域で、大多数を占める氏族以外のグループは、政治に参加できず、雇用、司法手続き、公共サービスへのアクセスに関して差別の対象となった。」

「少数民族には、バントゥー(最大の少数民族)、ベナディリ(Benadiri)、Rer Hamar、Barawane, Swahili, Tumaal, Yibir, Yaxar, Madhiban, Hawrarsame, Muse Dheryo, Faqayaqub、及び Gabooye がある。少数民族と大氏族との結婚は、慣習で禁じられている。少数民族は武装民兵組織を持たず、今でも高い比率で殺害、拷問、強姦、身代金目的の誘拐、土地と財産の没収の対象となっているが、派閥民兵や大氏族のメンバーは、その罪を問われることは無い。多くの少数民族は貧困に喘ぎ、様々な形態の差別や排除を受けて暮らしている。」

164

¹⁶³ Joakim Gundel, Oday の窮地(The Predicament of the Oday)、2006 年 11 月、p4-5、http://www.logcluster.org/som/infrastructure-communication-various/Gundel_The%20role%20of%20traditional%20structures.pdf 2013 年 5 月 14 日閲覧

¹⁶⁴ 米国国務省、2012 Report on Human Rights Practices in Somalia、セクション 6、2013 年 4 月 19 日、<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dliid=204165> 2013 年 5 月 14 日閲覧

[目次に戻る](#)

氏族制度

9.03 2006 年 11 月付の The Predicament of the “Oday”は、次のように記している。

「氏族制度は、ソマリア遊牧－牧畜民族[即ち、ダロッド、ハウィエ、ディル、及びイサックの各氏族]の間で最も重要な社会的要素である。I. M. Lewis は、1961 年に、氏族制度が今でもソマリア遊牧民社会とその『排他性』の根本にあり、氏族の利害を最優先にすることで、政治レベルで自然と分割された行動を採っていると書いている... つまり、ソマリア人社会は、血筋 (男系) によって各々の身分が決まる、縦に分割された制度に基づいて成り立っている。従って、Lewis によると、ソマリア遊牧民民族全員が系統の一員であり、系統が、基本的な政治的立場の基礎にもなっているのである。系統により縦に分割された制度は、氏族、小氏族、嫡流、及び mag[diya と呼ばれる血の代償]の徴収グループによって、規模の異なるカテゴリーに分かれている(Lewis 1961: 4)... 氏族(20 世代に渡る場合が多い)は政治団体として活動することもあり、季節によって遊牧地と居留地を移動するに従って、領土に関して、多少、排他的な傾向がある。氏族のメンバーは、住んでいる土地ではなく、父方の祖先に基づいた身分を与えられている。言い換えると、氏族は、政治行動の上端にあり、ある程度の領土を所有し、氏族の長を頭に頂いているが、中央政府又は中央政府を持つてはいない。氏族の中で最も区別される血筋は、人が自身の血筋を表す時に用いる「嫡流」(6～10 世代続いていることが多い)である。

「結婚は、通常、嫡流のメンバー以外との間で成立し、それぞれの嫡流を結びつけ、嫡流同士で永遠と続くであろう紛争を緩和することに役立っている((Lewis 1961: 5)。

「最も基本的且つ機能的な系統の単位は、mag 徴収グループ又は diya 徴収グループである... diya とは、アラビア語で「血の代償」を意味する。mag は、そのソマリア語である... mag 徴収グループは、血の繋がりによる家族(qoys 又は xaas)を越えるものであり、個人にとって、社会組織の最も重要なレベルである。4～8 世代に渡って共通の祖先を持つと思われる人々で構成される小さな集団で、mag を支払うのに十分な人数(数百人から数千人)から成る(シャリア法によると、殺人行為に対してラクダ 100 頭を支払う。[USSD Report 2012 は次のように記している。『シャリア法と地元には伝わる血の代償の伝統によると、女性の死亡に関して有罪となった者は、被害者家族に対し、必要であれば男性を殺害した場合の半分の代償を支払うだけで済む。』¹⁶⁵)。このように、全ての男性は mag 徴収グループによって位置づけられ、社会的・政治的な関係は、mag 徴収グループ内又は mag 徴収グループ間

¹⁶⁵ 米国国務省、2012 Report on Human Rights Practices in Somalia、p39、2013 年 4 月 19 日、<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dliid=204165> 2013 年 5 月 15 日閲覧

で締結される **xeer**—ソマリアの慣習法—と呼ばれる契約に基づいて結ばれる... ここで説明した縦割りの系統は絶対的なものではなく、常に多少の変化が見られる。人口が増加し、嫡流の数も増えているからである。従って、嫡流、又、**mag** 徴収グループさえも、いずれは分割されるだろう。そして、実際に分割される時は、原則的に系図上の全ての祖先が分割と統合の基点となるだろう。」¹⁶⁶

9.04 2008 年 12 月付の国際危機グループ(IGC) レポート **To move beyond the failed state** は、ビジネスや、政治及び思想上の利害など、多くの要因により、厳密な氏族関係が薄まったと報じている。しかし、同レポートはこうも報じている。「... ソマリアの多くの地帯が、植民地時代以前の、氏族支配制度に逆戻りしている。」¹⁶⁷

9.05 同レポートは、こう報じている。

「ソマリアで氏族長老を狙った暴力が多発していることは、伝統的な氏族制度が崩壊していることをよく表している。激しい氏族間抗争の渦中でも、長老は尊重され、紛争当事者の主要人物と会い、和解交渉に一役買っていた。明らかに権力が弱まったとはいえ、影響力を全く持たなくなったわけではない。ソマリア南部で起こっている危機は、政治の意思決定プロセスに長老を関わらせることができなくなった、又はその意思が無くなったことに、原因の一部がある。」¹⁶⁸

目次に戻る

伝統的な法律(Xeer)と血の代償 (diya 又は mag)

9.06 COI Workshop Vienna の Dr. Joakim Gundel が 2009 年 5 月 15 日に行った講演に関する 2009 年 12 月付 ACCORD 発行のレポート(改訂版) **Clans in Somalia**(Gundel Lecture 2009) は、[Dr. Gundel の以前のレポート **The predicament of the Oday**¹⁶⁹を要約し、]慣習法と血の代償について、有用な概要を提供している。(詳細は p7~13 を参照されたい)

¹⁶⁶ Joakim Gundel、Oday の窮地(The Predicament of the Oday)、2006 年 11 月、p4-7、http://www.logcluster.org/som/infrastructure-communication-various/Gundel_The%20role%20of%20traditional%20structures.pdf 2011 年 4 月 20 日閲覧

¹⁶⁷ 国際危機グループ(IGC)、ソマリア：失敗国家からの脱却(To move beyond the failed state)、2008 年 12 月 23 日、p4、<http://www.crisisgroup.org/~media/Files/africa/horn-of-africa/somalia/Somalia%20To%20Move%20Beyond%20the%20Failed%20State.ashx> 2011 年 4 月 20 日閲覧

¹⁶⁸ 国際危機グループ(IGC)、ソマリア：失敗国家からの脱却(To move beyond the failed state)、2008 年 12 月 23 日、p4、<http://www.crisisgroup.org/~media/Files/africa/horn-of-africa/somalia/Somalia%20To%20Move%20Beyond%20the%20Failed%20State.ashx> 2011 年 4 月 20 日閲覧

¹⁶⁹ Joakim Gundel、Oday の窮地(The Predicament of the Oday)、2006 年 11 月、http://www.logcluster.org/som/infrastructure-communication-various/Gundel_The%20role%20of%20traditional%20structures.pdf 2011 年 4 月 20 日閲覧

「ソマリアの伝統的な「政治契約」は、慣習法—ソマリアでは *xeer* と呼ばれる—で構成される。慣習法では、*mag* 徴収グループのメンバーは、たとえ遠く離れていても血縁関係によって縛られているため、お互いの政治的責任や法律上の責任、特に、あるグループの一員が他のグループに対して犯した罪の代償を支払う又は受け取るという責任を支え合う義務がある。*xeer* の規定が尊重されていることを監督するのは、*mag* 徴収グループの年長者 (*oday*) の責任である (Lewis 1961: 6)。 (Gundel, 2006, p6)

「*xeer* は過去の前例に基づいている。よって、確立された法律と異なり、常に変化し、将来の決定は過去の決定に基づいて行われる。今日、*xeer* は、特に近代的政治制度が脆弱な田園地帯で重要である。しかし、地方行政が機能している都市部でも *xeer* が適用され、一般市民と事業家のどちらの場合でも、伝統的な長老の采配により、紛争解決、調停、及び和解の第 1 次的手段となるのが普通である。*xeer* の重要性は、特にソマリア北部で顕著である。ここでは、紛争や刑事事件の 80~90% に *xeer* が適用されている。イスラム過激派が勢力を強めているソマリア南部では、伝統的な *xeer* に代って、シャリア法の厳密な解釈が法律として適用されることが多くなっている。しかし、*xeer* が正義のための手段であると同時に氏族の結束を促すものであるにも拘らず、国際法やイスラム教シャリア法と相反することがある。一般的に、*xeer* によって *mag* 徴収グループに課された集団責任は、犯罪者の個人的責任を免除するものと見られている。 (Gundel, 2006, iii)」¹⁷⁰

9.07 2009 年 6 月 2 日付の Landinfo response, Somalia: Protection and conflict resolution mechanisms は、次のように記している。

「ソマリアの臨時憲章は、法律制度を含め、脆弱で、暫定政府が国民の権利を保護する力は、極めて限定的である。」

「ソマリアの法律は、長老院/氏族の長により執行される伝統的なコモン・ロー、シャリア法廷により執行されるイスラム法、通常の法廷により執行される宗教とは無関係の法律の、3 つの異なる法律から成っている。しかし、通常の法廷による法の執行は、内戦の間に消失し、ソマリア南部では今でも殆ど存在していない。伝統的なコモン・ロー [*xeer*] は、今日のソマリアで最も普及し、一般的に用いられる法制度である。」

¹⁷⁰ Joakim Gundel、ソマリアの氏族 (Clans in Somalia)、COI Workshop Vienna の Joakim Gundel が行った講義に関するレポート、2009 年 5 月 15 日 (改訂版)、2009 年 12 月発行、p9-10、http://www.ecoi.net/file_upload/90_1261130976_accord-report-clans-in-somalia-revised-edition-20091215.pdf
2010 年 1 月 11 日閲覧

「氏族の中の基本的な単位は diya グループ(血の代償に基づいたグループ、ソマリア語では mag)である。diya グループは、4～8 世代前まで遡ると同じ祖先を持つ 1 つ以上の家系の男子で構成され、同じグループのメンバーによる行動に関し、集団責任を負う。グループは血の代償を支払うに十分な人数から成る。伝統的な法が執行され、合意(xeer)が決められるのも、この diya グループ間である。よって、diya グループは、xeer に定義された政治的・法的責任の遂行に際し、お互いを支援する義務を負っている(Gundel 2006)。又、経済的に困窮しているメンバーなどに援助を行う義務も負う。xeer は、ソマリアの部族の同盟関係を結び付ける最も重要な要素であり、地域社会の結束を維持する接着剤のような役割も持つ。」

「しかし、xeer を結べるのはソマリア氏族だけであり、少数民族は、通常、xeer と diya の制度から除外されている。」

「ソマリアの伝統的な法制度と紛争解決の仕組みは、もはや機能していないとする意見がある。長期に渡ってソマリアで勤務した情報通の国際支援団体の代表は、2009 年 3 月、伝統的な指導者が権力を失いつつあると指摘した。この懸念される傾向は、ソマリア南部全域で見られ、地方より都市部で顕著である。若者が、他者の意見に比して年長者の意見を尊重しなくなったのは、グローバル化の影響、又、少なからず長期間の内戦の影響がある。メディアの報道、又、軍閥による伝統的な権威の弱体化が、年長者の立場を弱くした(ナイロビで行われた会見、2009 年 3 月 24 日)。それでも、Gundel (2006)は、紛争と刑事事件の 80～90%の解決に xeer が適用されていると推定する。Landinfo スタッフが 2007 年にナイロビで接触した情報提供者の全てが、やはり、この制度は今でもある程度機能していると考えている。このことは、2008 年 6 月と 2009 年 3 月に、ナイロビで、Landinfo が対談した情報提供者により確認された。」¹⁷¹

9.08 Swedish Migration Board の一部である Lifos が 2012 年 6 月に行った現地調査の 2013 年 3 月 5 日付レポートは、ハルゲイサにあるリーガル・クリニックの Mohamed Jama が次のように語ったと記している。「流血事件が起きた時、又は誰かが殺害された時、これを氏族制度で解決するとすれば、diya の支払いに関する合意が協議される。」流血の原因は重要ではない。殺人、非故殺罪、故殺罪の区別は無い。」¹⁷²

¹⁷¹ Landinfo、返答、ソマリア：保護と紛争解決の仕組み(Response, Somalia: Protection and resolution mechanisms)、2009 年 6 月 2 日、
http://www.landinfo.no/asset/1058/1/1058_1.pdf 2010 年 2 月 1 日閲覧

¹⁷² Lifos、ソマリアの政府と氏族制度(Government and Clan system in Somalia)。2012 年 6 月に行われたナイロビ、ケニア、及びソマリアのモガディシュ、ハルゲイサ、ボサソの現地調査レポート、2013 年 3 月 5 日、p21、<http://lifos.migrationsverket.se/dokument?documentAttachmentId=38611>、2013 年 5 月 15 日

ソマリアにおける司法手続きについて、更に詳しく知りたい場合は、司法制度(Judicial system)の項を参照されたい。

目次に戻る

氏族による保護

9.09 2009 年 6 月 2 日付の Landinfo response, Somalia: Vulnerability – minority groups, weak clans and vulnerable individuals は、次のように記している。

「ソマリアの伝統では、弱者—即ち、女性、児童、病人、年配者、障害者、宗教家、武器を持たないグループ、中立的立場のグループ、戦争捕虜、旅行者など—は、紛争時に攻撃の対象とならず、保護されるべきであるとされている(ICRC 1998)。しかし、内戦の間も、戦後も、弱者は保護されなかった。又、以前に比べ、伝統はあまり尊重されていない。」

「現在のソマリアでは、社会的弱者であるか否かは、氏族又はグループ間の提携、紛争の存在又は不在、及び、問題の地域における権力の状況と密接な関係がある。しかし、政治的見解又は思想によって、弱者となる場合もある。」¹⁷³

9.10 Gundel Lecture 2009 report は、次のように記している。

「ソマリアの伝統では、グループの権利は、事実上、武力又は武力の脅しによって守られている。こうして、権利は、最終的には権利を防衛する能力、必要であれば強制によって貫かれる。個人の安全も同じで、個人が属する mag 徴収グループの戦闘能力、及びより大きな氏族の中での mag 徴収グループ間の結束力と戦闘能力に依存する。どちらも報復し、代償を支払う能力を備えてなければならない。よって、武力的に弱い氏族に好意的な判決が出て、強い氏族が従わない事例では、公平な法の執行が行われていないことが明らかになる。結果として、ソマリアの少数民族はxeerの適用を通じて激しい差別を受けている... ソマリアの伝統では、弱小で離散し、強力な氏族の保護を求めざるを得ない氏族は、大きな氏族の保護下に入ることができる。保護する側の氏族は、当然、代償を求める。こうした同盟関係は、弱い氏族と強い氏族間で gaashaanbuur(『盾の山(pile of shields)の意』)として知られる契約を結ぶことで成り立っている。このように、弱小氏族は gaashaanbuur に基づいた同盟を築くことによって、強力な氏族と結び付き、保護を求めるのである。強力な氏族との編入と合併の程度は様々である。弱小氏族の依存程度により、隣人(deris)、付属者(saar-寄生者)、従者(soo raac)、から偽者(sheegad-身分を詐称する者)に分類される。sheegad

¹⁷³ Landinfo、返答、ソマリア：社会的弱者—少数民族、弱小氏族、及び個人の弱者(Response, Somalia: Vulnerability – minority groups, weak clans and vulnerable individuals)、2009 年 6 月 2 日、http://www.landinfo.no/asset/1059/1/1059_1.pdf 2010 年 2 月 1 日閲覧

のケースでは、弱小グループは、保護者と同じ血統に基づく提携を期待し、共通の父系の祖先を持つことを主張できる。sab[『牧畜氏族に仕える昔からの奴隷...』(p15)]が属するソマリア人家族は、あらゆる攻撃から sab を保護する義務を負う。今日、sab がどの程度、独自で map 徴収グループを形成しているかについては、調査を続けるしかない。分かったことは、弱小氏族の編入は実際にあり、強力な氏族を伝統的な立場によって妥協に持ち込むことも可能であるということである。これが実現すれば、強力な氏族が編入者の mag も支払うことさえあるかもしれない...」¹⁷⁴

9.11 2009 年 6 月 2 日付の Landinfo response, Somalia: Protection and conflict resolution mechanisms は、次のように記している。

「伝統的なソマリア社会において、個人の安全は、氏族、即ち、diya グループの代償支払い能力と、攻撃の際の自衛力に依存している。こうした状況は、近年もあまり変わっておらず、1991 年に政府が破綻して以来、氏族がソマリア人の安全策であり続けた。ソマリアで、脆弱性と保護は、氏族の力と密接に結びついている。しかし、弱小な氏族又はグループは、昔から、特定の地域で勢力を誇る氏族に保護を求めるか、これと提携することが可能であった。」

「しかし、近年、氏族間の紛争が激しくなり、強大な氏族と提携しても、必ずしも保護を求めることができない状況になってきた(2007 年 3 月、2008 年 6 月、及び 2009 年 3 月にナイロビで行われた会見より)。氏族は今でも重要であるが、氏族への忠誠心より、政治、思想、及び国際的な状況が優先されるようになったことは明らかである。」

「氏族が保護を与える能力は、氏族の武力に左右される。しかし、アル・シャバブとその他のイスラム主義グループがソマリア南部の広い地域を支配する現在の状況では、アル・シャバブの支配下にある地域で自分の氏族の保護を求めるのは、あまり現実的ではない。アル・シャバブは、氏族制度に対してある程度の距離を置いており、支配地域において、様々な氏族や少数民族の支持を受けている。従って、現在、多くの地域で氏族はアル・シャバブに従属しており、シャリア法に従うなど、アル・シャバブの方針に従わなければならない。」

¹⁷⁴ Joakim Gundel、ソマリアの氏族(Clans in Somalia)、COI Workshop Vienna の Joakim Gundel が行った講義に関するレポート、2009 年 5 月 15 日(改訂版)、2009 年 12 月発行、p21-22、http://www.ecoi.net/file_upload/90_1261130976_accord-report-clans-in-somalia-revised-edition-20091215.pdf
2010 年 1 月 11 日閲覧

「2007 年 3 月、2008 年 6 月、及び 2009 年 3 月にナイロビで行われた Landinfo との会議において、全ての発言者が、保護の面にはいくつかの要素があり、個人の脆弱性、及び保護と支援を得る可能性は、いくつかの条件に左右されるという事実に触れた。更に、資源不足に関連する紛争が、特に氏族による保護の制度を弱体化させることに繋がった。氏族の保護は今でも有効だが、主に通常の犯罪に関連してである。思想又は政治的な事柄に関連する状況－エチオピア軍がソマリアに駐留していた当時は特に重要だった－では、氏族の保護は期待できない(2008 年 6 月と 2009 年 3 月にナイロビで行われた会見より)。むしろ、現在、ソマリアを分かつ線の片側にはアル・シャバブ/過激派グループ、もう片側には国家統一政府(GNU: government of national unity)がいる。更に、氏族は、無差別攻撃又は手榴弾、爆弾による攻撃から人を守ることはできない。ナイロビでの会見で指摘された通り、多くの場合、攻撃は無差別に行われ、氏族は爆弾から人を保護することはできない(2008 年 6 月と 2009 年 3 月にナイロビで行われた会見より)。しかし、避難先に関し、氏族は未だに重要である(2008 年 6 月、UNHCR の会見)。

「こうした紛争は、報復殺人に繋がることが多い。TFG と共に導入された思想/政治面の問題、特に 2007 年 12 月のエチオピア軍の入国は、この傾向を更に強めた(2008 年 6 月にナイロビで行われた国際監視団の会見より)。しかし、情報に詳しい国際機関によると、紛争を逃れる人々は、今でも自分の氏族が大多数を占める地域に避難する傾向があり、保護の問題は、主に避難先の状況に関係するという(2008 年 6 月と 2009 年 3 月にナイロビで行われた会見より)。」

「少数氏族 Midgan の保護に関する質問に対し、情報に詳しい国際機関は、こうしたグループの保護は、報酬を見返りとした様々な形態の保護を伴うと説明した(2009 年 3 月にナイロビで行われた会見より)。この情報提供者は、モガディシュにおける保護を、商売としての保護と表現した。情報に詳しい別の国際機関は、2008 年 6 月に行われた会議において、Landinfo に対し、安全上の問題から避難を余儀なくされた少数民族は、新しい居住地で、受け入れ氏族の顧客となることを求めると語った。」¹⁷⁵

9.12 Jamestown Foundation の 2011 年 11 月 4 日付 Terrorism Monitor 誌に掲載された Ahren Schaefer と Andrew Black 執筆のレポートは、次のように記している。

「[2009 年に]エチオピア軍がソマリアから撤退して以降、アル・シャバブは、イスラム主義の信仰とシャリア法の目的に基づいて『氏族を超越する』方針を貫いた。氏族に基づいた行動とは距離を置くアル・シャバブの方針は、a) 力は結束から生まれるという信仰、b)

¹⁷⁵ Landinfo、返答、ソマリア：保護と紛争解決の仕組み(Response, Somalia: Protection and resolution mechanisms)、2009 年 6 月 2 日、http://www.landinfo.no/asset/1058/1/1058_1.pdf 2010 年 2 月 1 日閲覧

グループの強硬派によるアルカイダのサラフィー・ジハード主義に基づいた世界観の信仰」、
c) ソマリア社会の分断化の大きな原因は、氏族同士の権力闘争であるという前述の感情、
に由来する。従って、この『氏族を超越する』という方針が、アル・シャバブに、氏族の
境界を越えて交渉したり、支援を求めたりする柔軟性を持たせると同時に、ソマリア社会
の断片、ユダヤ人居住区、そして世界的なジハードの動きでさえも超越する共通の思想に
よる繋がりを持たせているのである。」

「この説明がいかに実用的に思えようと、ソマリアにおけるアル・シャバブの氏族に基づ
いた行動は、この説明の普遍性に矛盾し、この組織は氏族に基づいた闘争を内部で続け、
ソマリアのその他の権威とも戦っていることを示している。」¹⁷⁶

9.13 「Lifos が 2012 年 6 月に行った現地調査の 2013 年 3 月 5 日付レポート(Lifos report 2013)
は、次のように記している。

「国際機関(E)は、氏族による保護は健在であり、今までもずっと存在していたと述べた。
最後には、アル・シャバブでさえ氏族による保護を認めて撤退した。その後、氏族が再び
出現し、社会的立場を示した。アル・シャバブと同盟を結んでいる、又は、少なくともア
ル・シャバブを支持する氏族もあれば、TFG と同盟を結ぶ氏族もある。[欧州連合ソマリア
局の政治/安全保障顧問(Political/Security Advisor) である Paul Kellet は、次のように語った。]
氏族制度は TFG を承認していない。氏族による保護は、小氏族を基本としている。」

「[国際機関(E)は、次のように語っている。] ソマリア人が氏族による保護を受けているか
否かを判断することは非常に難しい。国際機関(E)は、モガディシュでは、氏族による保護
が上手く機能していると報じている。Hibo Yassin と Zakaria Mohamed Sheikh Yusuf は、自
分たちが何らかの氏族保護を受けていることを明かした。以前は、大氏族と民兵が人々を
保護していた。2007 年、アル・シャバブがソマリア中南部の大部分を制圧し、大氏族と民
兵の非武装を行ったため、状況が変わった。2009～2010 年は、少数民族の氏族の時代であ
った。氏族による保護は信用に基づいているが、氏族による保護は信頼を失っている。氏
族は、権力者と繋がりを持つ人物に対し、保護を提供する。その権力者が同じ氏族に属す
る者であれば、尚、価値がある。Somalia Women Development Centre は、加害者を特定でき
れば、氏族の保護が与えられると語っている。普通の人々は、警察に行く代わりに氏族の保
護を求める。加害者が特定できたとしても、恥辱と恐怖のため、殆どの人が、事件を訴え

¹⁷⁶ Schaefer, Ahren と Black, Andrew、ソマリアの氏族と抗争: アル・シャバブと『氏族政治の超越』の神話(Clan and Conflict in Somalia: Al-Shabaab and the Myth of “Transcending Clan Politics”), Terrorism Monitor 第 9 巻、第 40 版 [http://www.jamestown.org/single/?no_cache=1&tx_ttnews\[tt_news\]=38628](http://www.jamestown.org/single/?no_cache=1&tx_ttnews[tt_news]=38628)
2013 年 5 月 15 日閲覧

る意思を持たない。警察に訴え出ることは恥辱を伴う。約 80%の事件が、警察又は裁判所に持ち込まれないままである。」

「国際機関(D)は、ソマリア人は主に氏族による保護を受けており、氏族保護を尊重していると報じた。国際機関(E)は、ソマリア人は、自分の住む村、又は氏族が支配する地域に留まる限り、氏族による保護を受けることができると報じた。」¹⁷⁷

国による保護について、更に詳しく知りたい場合は、治安部隊(Security forces)と司法手続き(Judicial processes)の項を参照されたい。

目次に戻る

モガディシュ

9.14 Lifos report 2013 は、次のように記している。

「[国際機関(F)は、次のように報じている。] モガディシュにおいて、氏族は重要である。自分の氏族が支配していない地域では、移動はできるが、住むことはできない。モガディシュでは、氏族は今も昔もずっと重要であった。アル・シャバブは氏族制度を排除することに失敗した。氏族による紛争解決の仕組みは、犯罪と家族内紛争を解決するためにある。問題が、アル・シャバブによる脅威に関連があれば、氏族が関与することもある... 国際機関(G)は、モガディシュの一般市民にとって、刑事犯罪については、氏族は重要ではないと報じている。但し、紛争解決や、政治の手段として権力と影響力を求めるならば、氏族は重要である。ハウィエの長老は、氏族は個人を保護することはできないと語っている。脅威は同じ氏族の中に存在するかもしれない。自分の兄弟によって殺されることもあるのである。しかし、アル・シャバブのメンバーではない何者かが罪を犯した場合、氏族間で問題を解決することができる。その意味で、氏族はある程度の保護になる。アル・シャバブによる脅威に関しては、状況が異なる。犯人を追跡する手段がないからである。Abdi Mohamed Ismail は、Radio Shabelle で、モガディシュにおいて、戦闘中は氏族による保護が機能しないと語った。人が、他の氏族の一員によって殺害された場合、氏族はこれを交渉ではなく、報復によって解決しようとする。」

「[国際機関(G)は、次のように報じている。] モガディシュ市民は、自分がどの氏族に属するか、どこの土地の出身かを知っている。これは、幼い子供でも知っていることである。氏族を数世代遡って知ることは、身分を表す上で重要である。」

¹⁷⁷ Lifos、ソマリアの政府と氏族制度(Government and Clan system in Somalia)。2012 年 6 月に行われたナイロビ、ケニア、及びソマリアのモガディシュ、ハルゲイサ、ボサソの現地調査レポート、2013 年 3 月 5 日、p20-21、<http://lifos.migrationsverket.se/dokument?documentAttachmentId=38611>、2013 年 5 月 15 日閲覧

「国際機関(E)は、モガディシュに家族を持たない者は、氏族の保護を得られないと報じている。国際機関(D)は、氏族制度は弱体化したが、今でも機能していると報じている。」

「国際機関(G)は、モガディシュは、ほぼ同一の民族で構成される都市であり、氏族制度がそれほど厳密ではないと報じている。市民は氏族制度を利用するが、最終的には、家族、血族関係、及び、土地の支配者に左右される... モガディシュの土地や家への投資に対する興味は、土地や家の所有者が誰であるかという点に集中する。多くの家が何年も放置されたままである。所有者以外の者が家に住みつき、時には入居者が次々と変わっていく。国際機関(D)は、市民は家の所有者が誰であるかを知っており、所有者に関し、何ら問題を抱えていないと報じている。一般的に、遊牧民族としての文化を持つソマリアでは、土地はみんなの物であり、シャベル川とジュバ川に沿って所有者がいても、町に家があっても、あまり関係ないのである。所有権に関する紛争は、氏族制度の中で解決される。」¹⁷⁸

目次に戻る

ソマリア中南部

9.15 アル・シャバブが支配権を失った地域に関し、Lifos report 2013 は、次のように記している。

「[Hibo Yassin と Zakaria Mohamed Sheikh Yusuf は、次のように語った。] 氏族は権力を象徴する要素になり得るが、ソマリアに軍を駐留させているアフリカ連合ソマリア平和維持部隊、エチオピア、ケニア、又、国家安全保障局 (NSA) など、他の勢力も存在する。こうした勢力も、氏族の影響力を利用することがある。ケニアとエチオピアは、Ogaden 族の 2 つの小氏族をトップ・レベルで利用したことがある。これは、この地域に住み、Ogaden 族に属する者は、氏族による保護を受けられるが、他の氏族に属する者は保護を受けられないことを意味する。163

「[アフリカ連合ソマリア平和維持部隊の協力機関は、次のように報じた。] アル・シャバブは、氏族制度に生じていたひび割れを上手く利用した。アル・シャバブが追放された今、弱小氏族は、再び勢力を失った。アル・シャバブが支配していた時代にアル・シャバブの名を借りて自分の利害を追求していた氏族の司令官たちは、アル・シャバブが撤退した後、再び氏族の中に溶け込んだ。」

¹⁷⁸ Lifos、ソマリアの政府と氏族制度(Government and Clan system in Somalia)。2012 年 6 月に行われたナイロビ、ケニア、及びソマリアのモガディシュ、ハルゲイサ、ボサソの現地調査レポート、2013 年 3 月 5 日、p21-22、<http://lifos.migrationsverket.se/dokument?documentAttachmentId=38611>、2013 年 5 月 15 日閲覧

「[Hibo Yassin と Zakaria Mohamed Sheikh Yusuf は、次のように語った。] 氏族による保護は、アル・シャバブが追放されたソマリア中南部の地域では、ある程度機能している。例えば、特定の氏族に属する者は、その土地で、氏族による保護しか得られないこともあり得る。」

「[国際機関(D)は、次のように報じた。] 長老は、問題が生じた場合、これを伝統的な方法で解決することができる。国民の殆どは遊牧民族であり、地方に住んでいる。[Hibo Yassin と Zakaria Mohamed Sheikh Yusuf は、次のように語った。] 政府には、長老と宗教が司る社会の深い部分まで管理することはできない。1990 年代に Ahmadi や Aideed などの軍閥が台頭して以降、長老は、これらの軍閥に利用されてきた。若い民兵は長老を憎み始めた。氏族の殆どは武器を持たないが、武器を放棄したのではなく、隠したのである。」

「国際機関(D)は、氏族は、性別に基づいた女性に対する暴行など、外部からの攻撃から人を保護することはできないが、社会・経済的な保護は与えられると報じている。同国際機関は、社会・経済的保護は、『社会・経済的立場を持つ者が、持たない者を保護する』仕組みになっていると報じている。これがゲド地方における状況である。ルークも 1 例として挙げられたが、モガディシュの難民キャンプも挙げられた。例えば、国内避難民(IDP)のキャンプで、100 包みの食料が支給されたとしよう。その後、キャンプ収容者により、200 包みとして再支給され、より大勢の人に食料が行き渡ることになる。」¹⁷⁹

9.16 Lifos report 2013 は、こうも記している。「[Hibo Yassin と Zakaria Mohamed Sheikh Yusuf は、次のように語った。] アル・シャバブが支配する地域では、氏族による保護が機能していない。しかし、アル・シャバブとアル・シャバブのメンバーは、アル・シャバブによって保護されている。」¹⁸⁰

大氏族と少数氏族の背景情報

9.17 大氏族と少数民族に関する背景情報は、英国国境局による 2012 年 1 月 17 日付の『出身国別情報(COI)レポートーソマリア』の民族グループ(Ethnic groups)、段落 19.13～19.99 に記載されている。

¹⁷⁹ Lifos、ソマリアの政府と氏族制度(Government and Clan system in Somalia)。2012 年 6 月に行われたナイロビ、ケニア、及びソマリアのモガディシュ、ハルゲイサ、ボサソの現地調査レポート、2013 年 3 月 5 日、p23-24、<http://lifos.migrationsverket.se/dokument?documentAttachmentId=38611>、2013 年 5 月 15 日閲覧

¹⁸⁰ Lifos、ソマリアの政府と氏族制度(Government and Clan system in Somalia)。2012 年 6 月に行われたナイロビ、ケニア、及びソマリアのモガディシュ、ハルゲイサ、ボサソの現地調査レポート、2013 年 3 月 5 日、p24、<http://lifos.migrationsverket.se/dokument?documentAttachmentId=38611>、2013 年 5 月 16 日閲覧

[目次に戻る](#)

10. 性的指向と性同一性障害

法的権利

10.01 国際レズビアン・ゲイ協会(International Lesbian and Gay Association)による 2013 年 5 月更新のレポート State sponsored homophobia は、男性同士、又は女性同士の同性愛は違法であると報じ、ソマリア刑法の該当部分を引用している:

「第 409 条 同性愛」

「同性と肉体関係を持つ者は、重大な余罪が無い場合、3 ヶ月から 3 ヶ年の懲役刑に処せられる。性欲以外の欲望に触発された行為であれば、刑は 3 分の 1 ほど軽減される。」

「第 410 条 安全対策」

「第 407 条、408 条、409 条で定義された犯罪には、安全対策を追加することがある。」(非公式な翻訳より)

「1991 年に独裁者 Mohamed Siad Barre が失墜してから、ソマリアの政治状況は複雑化し、刑法の執行が疑問視されている。しかし、北部のソマリランドは独立を宣言し、今でも刑法を適用している。」¹⁸¹

社会における扱いと態度

10.02 2012 年の出来事を網羅した 2013 年 4 月 19 日発行の米国国務省の 2012 Country Report on Human Rights Practices in Somalia (USSD 2012 report)は、次のように記している。

「差別禁止の条項は、レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー(LGBT)に対して適用されない。性的指向に関する話題はタブーとされ、国内のどの地域でも、この話題が公に協議されたことは無かった。LGBT を代表する組織として知られたものは無く、LGBT のためのイベントも開催されたことは無い。LGBT は深刻な社会的汚名を蒙ることを恐れ、自分の性的指向を公表しなかったため、性的指向に基づいた社会の暴力の報告例は無い。」¹⁸²

¹⁸¹ 国際レズビアン・ゲイ協会、国家が後援する反同性愛主義(State sponsored homophobia)、2011 年 5 月、p30、http://old.ilga.org/Statehomophobia/ILGA_State_Sponsored_Homophobia_2011.pdf
2011 年 7 月 21 日閲覧

¹⁸² 米国国務省、2012 Report on Human Rights Practices in Somalia、セクション 6、2013 年 4 月 19 日、

10.03 2013 年 3 月 21 日、Identify kenya のウェブサイトは、次のように報じている。

「[2013 年 3 月 16 日、]土曜日、ゲイのイスラム教信者グループによると、ゲイの青年が、同性愛の罪で石打ちの刑に処され、死亡した。」

「Somali Gay Community の報告によると、2013 年 3 月 15 日(金)、首都モガディシュから 50 マイルほど離れたブラバ(Barawe)で、Mohamed Ali Baashi(18)が、アルカイダと繋がりを持つアル・シャバブ グループのメンバーにより胸部まで穴に埋められ、石で殴られた。」

「Somali Gay Community は、Facebook を通じて、石打ちの現場写真を 3 枚公表した。」

「しかし、Identify Kenya は、この訴え又は石打ちの事実を独自に確認することができず、Somali Gay Community に接触を試みたが、失敗に終わった。」

「Somali Gay Community は、この若者はソドミーの指向があるとされ、恐怖に慄く村人たちの前で、イスラム主義の反逆者によって石打ちの刑に処されたと語った。」¹⁸³

「ソマリアがどのようにしてシャリア法を採択したかに関する詳細な情報は、宗教の自由(Freedom of religion)の項を、アル・シャバブがいかにシャリア法の厳密且つ狭義な解釈を適用したかに関する詳細な情報は、政府軍以外の武装グループ(Non-state armed groups)の項を参照されたい。レズビアンやバイセクシュアルな女性が、自身の性的指向に加え、女性であるが故に直面する困難については、次の女性(Women)の項も参照されたい。

目次に戻る

11. 女性

概観

11.01 ソマリアは、国連女子差別撤廃条約(CEDAW: UN Convention on the Elimination of All Forms of Discrimination Against Women)に調印していない。加盟国一覧は、CEDAW 公式加盟国一覧(CEDAW official signatories list)(2013 年 5 月 21 日閲覧)に掲載されている。

<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dliid=204165> 2013 年 5 月 16 日閲覧

¹⁸³ Identify Kenya, ソマリアでゲイの男性が石打ちの刑で死亡(Gay Man Allegedly Stoned To Death In Somalia)、2013 年 3 月 21 日、
<https://identitykenya.com/index.php/homepage/featured/1487-gay-man-allegedly-stoned-to-death-in-somalia>
2013 年 5 月 16 日閲覧

11.02 2012 年 5 月 14 日付の国連特別報道官による報告書、女性に対する暴力、その原因と結果、Rashida Manjoo のソマリア現地調査(Report of the Special Rapporteur on violence against women, its causes and consequences)、Rashida Manjoo's Mission to Somalia は、次のように記している。

「ソマリアは、市民的及び政治的権利に関する国際規約(International Covenant on Civil and Political Rights)、経済的、社会的、及び文化的権利に関する国際規約(International Covenant on Economic, Social, and Cultural Rights)、拷問禁止条約(Convention against Torture and Other Cruel, Inhuman or Degrading Treatment or Punishment)、あらゆる形態の人種差別の撤廃に関する国際条約(International Convention on the Elimination of All Forms of Racial Discrimination)と並び、アフリカ人権憲章(African Charter on Human and Peoples' Rights)など、殆どの主要な人権擁護に関する国際的・地域的な条約に批准している。児童の権利に関する条約(Convention on the Rights of the Child)には調印したが、批准していない。又、国連女子差別撤廃条約には調印していない。TFG は、国連女子差別撤廃条約と、アフリカ女性の権利に関するアフリカ人権憲章の追加協定(Protocol to the African Charter on Human and Peoples' Rights on the Rights of Women in Africa)への調印の意思を示した。」¹⁸⁴

11.03 Freedom House による 2013 年 5 月付のレポート Freedom in the World 2013 は、次のように記している。

「ソマリアの女性はかなり差別を受けている。新憲法の下で女性器切除は禁止されているものの、今でもソマリア人少女全員に対し、何らかの形で行われている。性的暴行を罰する法律が整備されておらず、犯人の刑罰が免除される慣習も残っているため、強姦が蔓延し、被害者が脅される事例も多い。新憲法は、全ての政府支局に女性が含まれることへの期待を抱かせ、差別撤廃の条項には、特に女性について言及した部分がある。2012 年 8 月時点で、ソマリア新議会の議員のうち 30 人が女性である。これは、新憲法で定められている女性議院比率 30%の約半分である。」¹⁸⁵

11.04 Freedom House による 2013 年 6 月 6 日付のレポート Freedom in the World, Somaliland は、次のように記している。「ソマリランドは男性優位の社会であるが、女性は公的生活の中で、ある程度の地位向上を果たした。シランヨ大統領は 20 人の閣僚による内閣に、女性

¹⁸⁴ 国連人権委員会、国連特別報道官による報告書、女性に対する暴力、その原因と結果、Rashida Manjoo のソマリア現地調査(Report of the Special Rapporteur on violence against women, its causes and consequences)、Rashida Manjoo's Mission to Somalia、2012 年 5 月 14 日、p4、http://www.ohchr.org/Documents/HRBodies/HRCouncil/RegularSession/Session20/A-HRC-20-16-Add3_en.pdf 2013 年 5 月 29 日閲覧

¹⁸⁵ Freedom House、Freedom in the World 2013 - Somalia、2013 年 5 月、<http://www.freedomhouse.org/report/freedom-world/2013/somalia> 2013 年 5 月 22 日閲覧

2 人を任命した。衆議院(House of Representatives)には女性が僅か 1 人、Guurti(長老院)にも 1 人だが、ソマリランド人権委員会の議長には女性が選出された。女性器切除は違法であるが、大部分の女性に対して行われている。」¹⁸⁶

11.05 UNDP が 2012 年 9 月に発行した Somalia Human Development Report 2012 は、次のように記している。

「ソマリアは、女性の地位の低さに関し、アフガニスタンに継いで世界第 2 位である。女性に対する暴行は、社会的階層、経済的階層の全てに蔓延しており、ソマリア文化に深く根付いている。ソマリアの習慣では、労働の分担は、性別によって明確に分かれている。一般的に、女性は家庭に縛られ、男性は家庭外の問題に関し、決定権を持つ。それでも、女性はソマリア社会の主軸として、厳しい環境の中で多くの労働を提供し、家族の生存に貢献してきた。水を汲み、薪を拾い、動物に餌を与え、牛乳を搾り、家族の食事を作り、子供と家畜の世話をする。ソマリアには女性を家長とする家庭が多い。女性が小さな企業、特に都市部にある企業に勤め、一家の生計を支えている... ソマリアでは、内戦前、内戦中、内戦後を通じ、男性と女性では、資源や権力の取得、意思決定に関する権利などが異なっているため、義務を負ったり機会を得たりする上で、ぶつかる壁も違えば、不平等を感じることもある。現代の紛争の例に漏れず、多くのソマリア人女性が殺害され、強姦され、避難を余儀なくされ、遺棄された。難民、国内避難民(IDP)の 70～80%が女性と子どもである。多くの女性が夫や稼ご手を戦争で亡くし、子ども、老人、及び病人の世話と保護を任せられた。一夫多妻制と離婚によって、更に女性が一家を支える家庭が増えた。影響は多々あるが、少女が教育を受ける機会が失われていることは特に重要である。」¹⁸⁷

11.06 人口調査局(Population Reference Bureau)は、2011 年データシート The World's Women and Girls の中で、次の情報を公表している。¹⁸⁸

女性の人口(単位: 100 万人)	4.8
現在 20～24 歳の女性のうち、18 歳までに結婚した人の割合(%)	45
女性 1 人が生涯で生む子どもの数	6.5
2009 年時点で HIV/AIDS に感染している女性	0.7

¹⁸⁶ Freedom House、Freedom in the World 2013 - Somaliland、2013 年 6 月 6 日、
<http://www.freedomhouse.org/report/freedom-world/2013/somaliland> 2013 年 6 月 21 日閲覧

¹⁸⁷ 国連開発計画、Somalia Human Development Report 2012、2012 年 9 月、(p23)、
<http://www.undp.org/content/dam/undp/library/corporate/HDR/Arab%20States/HDR-Somalia-2012-E.pdf>
2013 年 5 月 22 日閲覧

¹⁸⁸ 人口調査局、The World's Women and Girls, 2011、
<http://www.prb.org/pdf11/world-women-girls-2011-data-sheet.pdf> 2011 年 12 月 22 日閲覧

中等学校に登録されている少女の数	5
中等学校登録者のうちの、男性に対する女性の比率	46
収入を得ている女性の割合(%)	54

[目次に戻る](#)

法的権利

11.07 USSD 2012 report は、次のように記している。

「連邦憲章に男女差別を禁止する条項があるにも拘らず、実社会では、女性は男性と平等な権利を認められず、自動的に男性に従属する形になっている。」

「シャリア法を執行できるのは男性だけである。従って、シャリア法は男性の利害に合わせて適用されることが多い。シャリア法、及び地域の血の代償の伝統によると、女性を殺害した者は、被害者家族に対して、男性を殺害した者の半分の額を支払えばよいという。」

189

11.08 UNDP が 2012 年 9 月に発行した Somalia Human Development Report 2012 は、次のように記している。

「1991 年以降、慣習法が復活し、シャリア法の適用が拡張され、政治的意向を反映させるために氏族に依存するのが通例となっていた社会で、女性は、国内の様々な場所で、政治・司法の全ての階層から、ほぼ完全に除外されていた。xeer は男性の権利を認めているが、女性の権利を制限している。つまり、女性の生命を男性と同等とは見ていないのである。シャリア法は、xeer よりも女性の権利を認めているが、執行できるのは男性だけである。実際、男性の利害に合わせて不当に適用されることが多い。ソマリアの家族法(Family Law)は、男性と女性が同等の相続権を持つと宣言しているが、シャリア法と慣習法は、両方とも、女性に対し、男性と同等の遺産相続権を認めていない、又は相続権を全く認めていない。」¹⁹⁰

女性に対する暴力(Violence against women)、強姦(Rape)、家庭内暴力(Domestic violence)の項を参照されたい。

¹⁸⁹ 米国国務省、Report on Human Rights Practices in Somalia、セクション 6、2013 年 4 月 19 日、<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dliid=204165> 2013 年 5 月 22 日閲覧

¹⁹⁰ 国連開発計画、Somalia Human Development Report 2012、2012 年 9 月、(p23)、<http://www.undp.org/content/dam/undp/library/corporate/HDR/Arab%20States/HDR-Somalia-2012-E.pdf> 2013 年 5 月 22 日閲覧

政治的権利

11.09 USSD 2012 report は、次のように記している。

「[暫定連邦政府を終結させるための]ロードマップの過程には、女性の参政権に関する定数割り当てが含まれている。ロードマップ調印者によって[2012 年]2 月 17 日に調印された Garowe II Principle は、国家憲法制定会議(NCA)の成員の 30%を女性にすることを定めている。最終的に、女性は約 24%であった。Garowe II Principle は、連邦議会議員の最低 30%を女性とすることも規定している。135 人の長老(全員が男性)が女性議員を任命し、TSC がこれを承認して、初めて長老が男性議員を任命することができる。この規定に従うことを拒否した長老と氏族がいたので、最終的に、女性の連邦議会議員は 14%にとどまった。以前の暫定連邦議会は、6.7%が女性である。」

「Abdiweli Mohamed Ali 首相率いる TFG 内閣では、18 人の閣僚のうち、1 人が女性、2 人が少数民族出身である。2012 年 11 月に組閣された 10 人の閣僚による次の内閣には、女性が 2 人いたが、そのうちの 1 人は、女性初の副首相/外務大臣である... ソマリランドでは、86 人の衆議院議員のうち 2 人、長老院 (Guurti)議員のうち 1 人が女性である。長老院の女性議員は、議員だった夫が死亡した後、跡を継いで任命された。昔から、女性は Guurti から除外されていた。24 人の大臣のうち、女性は 1 人である。内閣には少数民族出身者はいない。」

2011 年 9 月、ソマリランドの大統領は、内閣の閣僚と議会の議員で構成される委員会を発足させ、女性と少数民族の政治参加を促進する方法を提案するよう命じた。3 月 8 日、大統領は、提案された方法のいくつかを実施することを議会に推奨した。委員会の報告は公開されなかった。ソマリランド議会議員の 25~30%を女性とするという提案が上がった。しかし、9 月 1 日、議会は、女性の政治参加を阻むものは何も無いので、特別な条項は必要ないと主張し、投票によって、この提案を議題から外すことを決定した... プントランドでは、女性が長老院議員に任命されたことは一度も無い。氏族の長老だけで国会議員を選出するため、女性が選ばれる余地は殆ど無い。この年、66 人の国会議員のうち、女性は僅か 3 人であった。18 人の閣僚から成る内閣には、女性は僅か 1 人、少数民族出身者は 1 人もいなかった。9 人から成る TPEC には、女性が 1 人含まれている。」¹⁹¹

目次に戻る

社会・経済的権利

¹⁹¹ 米国国務省、Report on Human Rights Practices in Somalia、P33-34、2013 年 4 月 19 日、<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dliid=204165> 2013 年 5 月 22 日閲覧

11.10 Lifos による 2013 年 6 月 5 日付の現地調査レポート『ソマリアの女性と子ども: 2012 年 6 月に行ったナイロビ、ケニア、及びソマリアのモガディシュ、ハルゲイサ、ボサソの現地調査レポート[Women and children in Somalia: report of a fact finding mission to Nairobi, Kenya, and Mogadishu, Hargeisa and Boosaaso in Somalia in June 2012] (Lifos FFM report 2013) は、次のように記している。

「ソマリアは男性優位の社会であり、これが女性の身分に影響を与えている。通常、女性が職を得る機会は少ないが、それにも拘らず、女性が一家の稼ぎ手であるのが一般的である。女性にとっての状況は、田舎に住んでいるか都市部に住んでいるか、学歴があるか否かという点にも左右される。女性に権利が認められていても、知識を持った女性でなければ、権利を行使することができない。氏族制度と慣習法 *xeer* の下では、女性は自分を主張する手段を持たない。そのため、父親か夫など、男性の親族が女性の主張を代弁するのが普通である。ソマリランドでは、女性は宗教とは無関係の裁判所に起訴することができる。女性は 1 人で移動することもできるが、男性を伴わない場合、女性で構成されるグループで移動するのが一般的である。モガディシュなどの都市では、同伴者無しで移動することができる。但し、旅行は、女性が傷付けられやすく、襲撃を受けるリスクが高まる場面である。」¹⁹²

財産と相続

11.11 USSD 2012 report は、次のように記している。

「成文法とシャリア法は、女性が自分の財産を独立して所有したり、処分したりする権利を認めているが、様々な法的、文化的、社会的な障壁により、権利を行使できないことが多い。法律上、女性や少女は、男の兄弟が相続する財産の半分しか相続することができない。ソマリランドの地域女性機関の報告によると、女性の 75%が家畜、土地、又はその他の財産を所有していない。男性家族から財産を相続した女性は、僅か 15%～20%である。」¹⁹³

11.12 UNDP が 2012 年 9 月に発行した Somalia Human Development Report 2012 は、次のように記している。「ソマリアの家族法は、男性と女性が同等の相続権を持つと宣言してい

¹⁹² Lifos, Kvinnor och barn i Somalia. Rapport från utredningsresa till Nairobi, Kenya och Mogadishu, Hargeisa och Boosaaso i Somalia i juni 2012、2013 年 6 月 5 日

<http://lifos.migrationsverket.se/dokument?documentAttachmentId=39750> 2013 年 6 月 10 日閲覧

¹⁹³ 米国国務省、Report on Human Rights Practices in Somalia、セクション 6、2013 年 4 月 19 日、<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dld=204165> 2013 年 5 月 22 日閲覧

るが、シャリア法と慣習法は、両方とも、女性に対し、男性と同等の遺産相続権を認めていない、又は相続権を全く認めていない。」¹⁹⁴

結婚

11.13 2009 年 7 月 6 日付の Landinfo response, Somalia: Al-Shabaab and forced marriage は、次のように記している。

「ソマリアでは政略結婚が一般的であり、女性が家族、即ち、父親又は保護者の選択を拒否することは殆ど無い(Abdullahi 2001)。政略結婚と強制結婚とには、明確な違いが無い。遊牧民族の間では、隣接する氏族のメンバーとの結婚は、水と遊牧地を獲得するために関係を結ぶという意味で、重要である。又、氏族同士で花嫁を交換することによって、平和協定を結ぶという伝統も昔からある。」

「初婚の場合、結婚に対する社会の圧力は特に強い。又、多くの若い女性にとって、結婚を拒否することは殆ど考えられない。結婚し、子どもを育てることは、社会の基本であるからである。2002 年、2004 年、及び 2005 年のナイロビ滞在中にソマリアと国際機関の情報提供者と対談したところ、全員が、家族が選択した結婚を拒否した女性は暴力を受ける恐れがあると指摘した。暴力の程度は不明である。伝統的な社会規範を破った者は、家族や氏族のメンバーの助け又は保護を期待することはできない。しかし、女性を殺害することは社会的に認められておらず、女性に対する所謂『名誉の殺人』の伝統は、ソマリアには無い。」

「結婚を望まない女性には、選択肢が殆ど無い。家族の選択を拒否することは、家族と家からの追放を意味することもある。情け深い親族又は知人が他にいなければ、生きてくことは非常に困難になる。しかし、ここに差がある—教育を受けた女性は、田舎出身の、教育を殆ど又は全く受けていない女性に比べ、自立し、生計を立てる機会に恵まれ易い。但し、一般的には、追放された若い女性は、嫌がらせを受け易く、利用されることも多い(2002 年 4 月、ナイロビで行われた UNIFEM との会談、2010 年 3 月、2011 年 3 月、ナイロビで行われたソマリア人情報提供者との会談、Timmons 2004)。しかし、結婚と配偶者の選択機会に関する伝統は、その他の伝統と同様、最近の数十年間で変化してきている。」

「モガディシュにある CRD: Centre for Research and Dialogue は、2002～2003 年にかけて、ソマリア中央部で、内戦が国民に与えた影響について調査するプロジェクトを実施した。

¹⁹⁴ 国連開発計画、Somalia Human Development Report 2012、2012 年 9 月、(p23)、
<http://www.undp.org/content/dam/undp/library/corporate/HDR/Arab%20States/HDR-Somalia-2012-E.pdf>
2013 年 5 月 22 日閲覧

そのレポート **Somalia: Path to Recovery building a sustainable peace**(CRD 2004)は、ソマリア全域に住む 13,000 人以上を対象に行った面談と相談に基づいている。レポートには、このような記述がある(P.37):

「ソマリアの危機が始まってからの約 15 年間、結婚に関する法律は、以前とは比べものにならないほど変わった。両親が関与せず、知らされることもなく、祝福を与えることもなく、多くの結婚が成立している。10 代の若者の結婚が劇的に増え、10 代の離婚もそれに比例して増えているため、若い母親が子どもを 1 人で育てる家庭が多くなっている。両親が関与しないため、結婚を長続きさせる秘訣である財政的援助や精神面の助言を、新婚夫婦が得られないことが多い。」

「ソマリアの内戦により、他の人々も別の影響を受けた。所謂ベナディール人の女性と、モガディシュを支配するソマリア軍兵士との結婚は、様々なソマリアの武装勢力や、地域の村を略奪する犯罪者から身を守る必要性の結果でもある。こうした結婚には、女性の家族と女性本人が強い抵抗感を感じただろうが、選択肢は殆ど無かった(2002 年、2004 年、及び 2005 年にナイロビで行われたソマリアと国際機関の情報提供者との対談より)。今日でも、アル・シャバブが支配する地域の内外で、選択肢が少ないことが特徴である。」¹⁹⁵

11.14 カナダ移民難民委員会(Immigration and Refugee Board of Canada)が 2007 年 9 月 20 日に発行した『返答、ソマリア: 強制結婚、ソマリアにおける政略結婚の普及; 強制結婚、政略結婚を拒否した女性のその後(response, Somalia: Prevalence of forced or arranged marriages in Somalia; consequences for a young woman who refuses to participate in a forced or arranged marriage)』は、次のように記している。

「2004 年に発行された『Somalia – The Untold Story: The War Through the Eyes of Somali Women』と題した本に掲載されているソマリアの結婚の伝統に関する記事は、ソマリア人女性が政略結婚を避けるために一般的にとる方法は、駆け落ちであると記している(同書の Gardner and El Bushra 2004, 148 も参照されたい)」。しかし、こうした行為は、ソマリア社会で非難され、駆け落ちをする女性は『家族の怒りを買う危険がある』(Musse Ahmed 2004, 54)。2006 年 10 月、ソマリアのイスラム主義指導者たちが、『イスラム教に違反する』として、masaafu と呼ばれるこの種の結婚を禁止したと報じられている(SAPA/AP 2006 年 10 月 30 日)。時間の制約もあり、Research Directorate が検索したデータの中に、masaafu の禁止に関する詳しい情報は含まれていなかった。」

¹⁹⁵ Landinfo, ソマリア: アル・シャバブと強制結婚(Somalia: Al-Shabaab and forced marriage)、2012 年 7 月 6 日、http://www.landinfo.no/asset/2156/1/2156_1.pdf 2013 年 5 月 24 日閲覧

「ソマリアの結婚に関する記事は、当人同士の下承を得ずに取り決められた結婚の場合、女性は、母親の支持を得られれば、拒否できると記している(Musse Ahmed 2004, 53)。しかし、女性の父親又は男性の親族は、こうした状況を避けるため、家族に相談せずに結婚を正式に取り決めてしまうことがある(同書)。この本の著者は、1975 年家族法が、父親は娘の同意を得ずに結婚を取り決めてはならないと定めているが、ソマリアで、この法令がもはや、適用されることは無い(同書)。しかし、ソマリアの都市部にすみ、法律に関する知識を持つ女性は、今でもこの法令に言及することがある(同書)。」

「2004 年にデンマーク難民評議会(DRC: Danish Refugee Council)が発行したレポートも、女性が、父親又は男性保護者によって取り決められた結婚を強制されることがあると報じている(2004 年 8 月 21 日)。父親又は保護者は、女性の幸福のためと称して結婚を正当化することがある(同書)。従来通り、2つの部族間で *xeer* [慣習法(デンマーク 2004 年 3 月; UN 2007 年 5 月 10 日)]に基づく合意を結び、連合を奨励することもある(DRC 2004 年 8 月 21 日、10)。こうしたケースでは、女性の家族は、女性を他の部族に嫁に出すことに同意しなければならない。『女性の男性親族又は兄弟が、同様の方法で、女性の求婚者が属する部族の女性と結婚した前例がある』からである。(DRC 2004 年 8 月 21 日、10)。娘を嫁に貰う報酬として、女性の父親に多額の賄賂を贈ることが多い(同書)。」

「ソマリアでは、紛争の絶えない部族間で女性を交換することにより、平和協定を結ぶこともある(Gardner and El Bushra 2004; 147、Musse Ahmed 2004, 54、Ibrahim 2004, 167)。ソマリア北部で *godob reeb*、南部で *godob tir* と呼ばれる(Gardner and El Bushra 2004, 147)この種の結婚は、通常、女性当人の同意も男性当人の同意も得ないで取り決められる(Musse Ahmed 2004, 54)。ソマリアの結婚に関する伝統の記事によると、当人のどちらかが結婚を拒否した場合、家族の誰かが当人の代わりに結婚するという。しかし、同記事は、この種の結婚で嫁に出される女性は、通常、『非常に若く、駆け落ちをしない限り、又は、家族の誰かが結婚に反対しない限り、結婚を拒否することは難しい』と記している(同書)。」

「2004 DRC report によると、『相続結婚』も、女性が夫を選べない結婚の 1 つの形態である(DRC 2004 年 8 月 21 日, 10)。相続結婚には、*dumaal*、即ち、男性は、死亡した兄弟又は近親者の未亡人を『相続する』又は娶る権利を持つというソマリアの伝統が含まれる(同書, 11; UN 2002 年 12 月, 24)。又、男性が、死亡した妻の姉妹と結婚できる *higsiisin[xigsiisan* と呼ばれる]の伝統もある(同書; DRC 2004 年 8 月 21 日, 11)。」

「政略結婚と相続結婚の伝統は、ソマリアの遊牧－牧畜民族の間で『特に根強く』残っているとされている(DRC 2004 年 8 月 21 日, 10)。DRC report は、この種の結婚を拒否した女性は、家族や義理の家族から、『厳しい圧力と制裁』を受けることになり、*dumaal* の場

合、子どもの養育権、及び死亡した夫の財産の管理など、いくつかの権利を剥奪されることもあるという(同書, 11)。¹⁹⁶

強制結婚については、女性に対する暴力: 強制結婚(Violence against women: Forced marriage)の項を参照されたい。

目次に戻る

性と生殖に関する権利

11.15 USSD 2012 report は、次のように記している。

「性と生殖に関する決定は、女性の夫が行うことが多い。女性は、子どもの数、出産の間隔、出産の時期に関し、自分で決める自由を殆ど持たない。避妊についても、殆ど、又は全く、知識を持っていない。国連は、15～49歳の女性のうち、近代的な避妊の手段を持っているのは僅か1%と推定している。医療設備が不十分なため、女性は、殆どの場合、熟練した助産師の付き添いも無く、必要な産科・産後の処置もできない中で出産しているのが現状である。国連は、現在、難民となっている約150万人のうち、推定60万人が出産適齢期を迎えた女性であるとしているが、その80%以上が安全な出産設備を確保できる状態にない。母性死亡率は、生産児100,000人当たり1,400人であるが、これには、分娩中の貧血、FMG/C及び/又は医療の欠如が関係している。女性の生涯を通じた母性死亡率は、14人中1人である。」¹⁹⁷

服装規定

11.16 2011年7月21日付のLandinfo response, Somalia: Vulnerability – minority groups, weak clans and vulnerable individuals at risk は、女性について、次のように記している。「... [アル・シャバブの]... 厳密な服装規定に従わない女性は、嫌がらせを受ける危険がある...」

198

11.07 Landinfo response は、こうも記している。

¹⁹⁶ カナダ移民難民委員会、『ソマリア: 強制結婚、ソマリアにおける政略結婚の普及; 強制結婚、政略結婚を拒否した女性のその後(Somalia: Prevalence of forced or arranged marriages in Somalia; consequences for a young woman who refuses to participate in a forced or arranged marriage)」、2007年9月20日、<http://www.unhcr.org/refworld/docid/47ce6d7a2b.html> 2011年5月3日閲覧

¹⁹⁷ 米国国務省、Report on Human Rights Practices in Somalia、セクション6、2013年4月19日、<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dliid=204165> 2013年5月24日閲覧

¹⁹⁸ Landinfo、ソマリア: 社会的弱者—リスクを抱える少数民族、弱小氏族、及び個人の弱者 Somalia: Vulnerability – minority groups, weak clans and vulnerable individuals at risk)、2011年7月21日、p3、http://www.landinfo.no/asset/1805/1/1805_1.pdf 2011年10月24日閲覧

「2010 年春にケニアのダダーブにある難民キャンプで Landinfo が会見した女性の大多数が、ソマリアから避難した理由の 1 つに、非常に厳しい服装規定があると指摘した。アル・シャバブは、女性の体型を隠すため、ヒジャーブに使う布を、通常、ソマリアの女性が着用する物よりも、ずっと目が粗く、重い物にするように命令した。女性がブラジャーの着用を禁じられている地域もあり、又、別の地域では、例えば、女性は月経中、赤い靴下を履かなければならないと規定されていた。アル・シャバブは、支配地域の行政府を 3 ヶ月ごとに交代させ、各行政府は新しい規則を導入するのである。こうした規則のせいで、女性は新しい衣服又は布地を買わなければならなくなり、行政府とアル・シャバブに必要な収入が入る仕組みになっていた(ナイロビで行われた会見、2011 年 3 月)。」

「女性は、経済的理由から、又、重い布で作られた衣服は違和感があり、暑い天候の下、着心地が悪いという理由から、これに反対した。」¹⁹⁹

11.18 2010 年 4 月 19 日発行の Human Rights Watch report 『Harsh War Harsh Peace』は、次のように記している。

「2009 年の第二四半期の間、アル・シャバブがソマリア中南部の支配を固めるに従い、地方行政府は、女性が公の場では完全にベールを被ることを義務付けるようになった。続く数ヶ月の間に、多くの行政官が、特別厚い布ででき、地面まで届き、体型を完全に隠すアバヤ(abaya)を着用するという規定を追加した。」

「これらの命令は、多くのソマリア人女性にとって、伝統からの著しい離脱であった。頭部と体は覆うが、軽くて色彩豊かな布を身体の周りに緩く巻くのがソマリアの伝統である... 多くの貧困な女性は、1 枚のアバヤを家族全体又は複数家庭で共用しなければならなかったため、一度に 1 人しか出かけることができなかった... アル・シャバブの兵士により、男が妻や娘の服装に関して脅迫される地域もあった... 女性も、調整された政策の代わりに、地域の行政官が独断的に行使する権力と刑罰免除の特権を強調するような、散発的に適用される規定の犠牲となっている。例えば、アル・シャバブは、サウジアラビアなど保守的な国ではアバヤと一緒に着用する規定になっている手袋と靴下を、一部の地域でしか強要していない。同様に、モガディシュ、キスマヨ、及び Baardheere の付近では、数人の女性が、アル・シャバブはブラジャーを『西洋の欺瞞』と認識しているため、その

199 Landinfo、ソマリア: 社会的弱者—リスクを抱える少数民族、弱小氏族、及び個人の弱者 Somalia: Vulnerability – minority groups, weak clans and vulnerable individuals at risk)、2011 年 7 月 21 日、p4、http://www.landinfo.no/asset/1805/1/1805_1.pdf 2011 年 10 月 24 日閲覧

着用を禁止したと語った。しかし、このことはメディアでは広く取り上げられているものの、普遍的な命令ではないようである。」

「信心深いイスラム教徒で、既にアバヤを着用している女性数人は、ソマリアの女性、特に、TFG にテコ入れしていた隣国のエチオピア軍からヒジャーブを着用していることを避難された女性は、当初、厳しい服装規定を歓迎したと語った。しかし、間もなく、ある極端から別の極端に移ったかのように感じたという。」²⁰⁰

アル・シャバブによる嫌がらせについて更に詳しく知りたい場合は、政府軍以外の武装グループ(Non-state armed groups)の項を参照されたい。

目次に戻る

雇用

11.19 USSD 2012 report は、次のように記している。「女性は教育のレベルが低いため、公共機関でも、民間企業でも、雇用されているのはごく一部である。しかし、アル・シャバブが支配する地域を除き、事業の所有・経営に関し、女性が差別を受けることは無い。アル・シャバブは、女性が経済活動に参加することは、イスラム教の教えに反すると主張している。」²⁰¹

11.20 UNDP が 2012 年 9 月に発行した Somalia Human Development Report 2012 は、次のように記している。「ソマリアには女性を家長とする家庭が多い。女性が小さな企業、特に都市部にある企業に勤め、一家の生計を支えている…」²⁰²

11.21 2010 年 4 月 19 日発行の Human Rights Watch report 『Harsh War Harsh Peace』は、次のように記している。

「ソマリアの女性は、昔から、あずまや、小商店、市場でお茶、チャット、果物を売るなど、小規模の商売に幅広く携わってきた。しかし、アル・シャバブの設置した行政府は、女性たちに店を閉めるよう命じた。ソマリア南部の村の住民は、『アル・シャバブは、これを[男性との]社会的混合であると言った。』と説明した。こうした差別的な禁止事項が、女性の移動の自由と生計を立てる権利を著しく阻んだ。戦争未亡人と女性を家長とする家庭

²⁰⁰ Human Rights Watch、過酷な戦争、過酷な平和(Harsh War, Harsh Peace)、2010 年 4 月 19 日、p28-30、<http://www.hrw.org/en/reports/2010/04/13/harsh-war-harsh-peace> 2011 年 5 月 4 日閲覧

²⁰¹ 米国国務省、Report on Human Rights Practices in Somalia、セクション 6、2013 年 4 月 19 日、<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dliid=204165> 2013 年 5 月 28 日閲覧

²⁰² 国連開発計画、Somalia Human Development Report 2012、2012 年 9 月、(p23)、<http://www.undp.org/content/dam/undp/library/corporate/HDR/Arab%20States/HDR-Somalia-2012-E.pdf> 2013 年 5 月 22 日閲覧

が圧倒的に多いこの国で、雇用の選択肢も少なく、多くの家族が重要な収入源を欠いている。」

「アル・シャバブの法執行者は、体力の無い女性、年配の女性、妊娠中の女性、又は、内戦で他の稼ぎ手をすべて失った女性の労働者を罰することを躊躇しなかった... アル・シャバブは、お茶その他の商品を TFG の支持者に売るという『二重の罪』を犯した女性に対し、最も過酷な罰を用意している。モガディシュに隣接する Hawlwadaq では、ある女性が、アル・シャバブにより『二重の罪』に問われ、2008 年 12 月、1 週間に渡り投獄されている間に 185 回の鞭打ちを受けたと語った。」²⁰³

11.22 2011 年 7 月 21 日付の Landinfo response, Somalia: Vulnerability – minority groups, weak clans and vulnerable individuals at risk は、次のように記している。

「チャット(麻薬)を売る女性がいる。ベイ地域のバイドアでは、アル・シャバブが町の外の小売店にチャットの販売を割り当てている。多くのソマリア人調査者は、これには 2 つの目的があると見ている。1 つは、女性を公の場から排除すること、もう 1 つは、チャットの販売と使用を防止することである(ナイロビで行われた会見、2009 年 3 月)。女性が一家の主な稼ぎ手であることが多いため、これは、女性の収入に頼る家庭にとって、問題となっている。」

「従って、アル・シャバブは、ある程度、女性が公の場に姿を見せることを容認せざるを得ない。但し、女性は家にいる方が望ましいと考えていることは間違いない。」²⁰⁴

移動の自由

11.23 「2012 年 10 月にデンマークとノルウェーが共同で行った、モガディシュとナイロビの現地調査に関する 2012 年 1 月 4 日付の報告書は、次のように記している。

「モガディシュ在留の地域 NGO(C)は、2012 年 2 月以降、モガディシュでは、女性がかかなり自由に移動できるようになったと強調した。モガディシュには、検問所が数カ所しか残っておらず、これらの検問所で女性が暴行を受ける危険性は減っている。検問所で女性が受ける暴行は、主に、政府軍兵士によるものである。モガディシュ在留の地域 NGO(C)に

²⁰³ Human Rights Watch、過酷な戦争、過酷な平和(Harsh War, Harsh Peace)、2010 年 4 月 19 日、p30-31、<http://www.hrw.org/en/reports/2010/04/13/harsh-war-harsh-peace> 2011 年 5 月 4 日閲覧

²⁰⁴ Landinfo、ソマリア: 社会的弱者ーリスクを抱える少数民族、弱小氏族、及び個人の弱者 Somalia: Vulnerability – minority groups, weak clans and vulnerable individuals at risk)、2011 年 7 月 21 日、p4、http://www.landinfo.no/asset/1805/1/1805_1.pdf 2011 年 10 月 24 日閲覧

よると、適正な訓練を受けていないこれらの兵士の中には、アル・シャバブの元兵士もあり、これが問題を深刻にしている。」

「ソマリア中南部における女性の自由な移動に関し、モガディシュ在留の地域 NGO(C)は、バスで移動する女性は、日中は強盗に遭う危険がある一方、夜間は検問所を通過する際に強姦に遭う危険があると語った。アフグーイエやマルカ付近の検問所で、政府軍の兵士がこうした罪を犯したという報告が多々ある。女性がモガディシュからこれらの町に行くことは、危険である可能性がある。」²⁰⁵

11.24 2013 年 4 月と 5 月にデンマークとノルウェーが共同で行った、モガディシュとナイロビの現地調査に関する 2013 年 5 月 8 日付の報告書は、ナイロビの国連機関によると、「モガディシュの国際機関(B)は、今日、女性は、警察又はソマリア政府軍を恐れることなく、モガディシュ内を自由に移動できると語った。」という。²⁰⁶

より幅広い概要については、移動の自由(Freedom of movement)の項も参照されたい。

目次に戻る

女性に対する暴力

治安の情勢、及び、治安部隊や非政府系武装勢力による人権侵害に関する一般的な情報については、治安情勢(Security Situation)と政府軍以外の武装グループ(Non-state armed groups)の項を参照されたい。

この項では、女性が直面する様々な形態の嫌がらせについて概要を示し、その後、その情報を小カテゴリーごとに細分化する。しかし、各項で取り上げる暴力の性質と原因は、かなり重複する可能性がある。例えば、家庭内暴力は性的暴行の形態を含んでいる。従って、女性が直面する暴力の全容を掴むためには、『女性に対する暴力』の項を 1 つの全体として読むべきである。ソマリア社会において、女性に対する暴力の性質を更に詳しく知り、理

²⁰⁵ Danish Immigration Service and Landinfo, モガディシュとソマリア中南部における治安と保護、デンマークとノルウェーによるモガディシュとナイロビの現地調査(Security and human rights issues in S-C Somalia, including Mogadishu, Danish-Norwegian fact finding mission to Nairobi and Mogadishu) 2012 年 10 月、2013 年 1 月 4 日、p64-65、http://www.landinfo.no/asset/2319/1/2319_1.pdf 2013 年 5 月 29 日閲覧

²⁰⁶ Danish Immigration Service and Landinfo, モガディシュとソマリア中南部における治安と保護、デンマークとノルウェーによるモガディシュとナイロビの現地調査(Security and protection in Mogadishu and S/C Somalia, Danish-Norwegian fact finding mission to Nairobi and Mogadishu)、2013 年 4 月～5 月、2013 年 5 月 8 日、p49
http://www.nyidanmark.dk/NR/rdonlyres/6F1A29C6-2F84-40D2-BDE4-42F69897EEC3/0/security_and_protection_in_somalia_may_2013.pdf 2013 年 5 月 29 日閲覧

解を深めるには、前出の法的権利(legal rights)、政治的権利(political rights)、及び社会・経済的権利(socio-economic rights)の項を参照することが推奨される。

11.25 2012 年 5 月 14 日付の国連特別報道官による報告書、女性に対する暴力、その原因と結果、Rashida Manjoo のソマリア現地調査(Report of the Special Rapporteur on violence against women, its causes and consequences)、Rashida Manjoo's Mission to Somalia は、次のように記している。

「内戦は、20 年以上に渡り、ソマリアに影響を与え続けている。内戦により、極度の貧困、開発の遅れ、食糧不足、干ばつ、及び膨大な数の国内避難民が生じたと同時に、ソマリア人女性は、様々な形態の暴力を体験する状況に置かれた。女性に対するこうした暴力の現れは、暴力の原因であると同時に結果でもある不平等と差別の広い文脈の中で、理解することが必要である。加えて、暴力は、個人、家族、地域社会、及び経済・社会的要因の複雑な相互作用の結果として生じる、個人/社会構造の両レベルにおける差別と従属の形態として、認識されなければならない。」²⁰⁷

11.26 2013 年 4 月 15 日付の Human Rights and Democracy 2012: The 2012 Foreign & Commonwealth Office Report は、次のように記している。

「ソマリアは、女性にとって世界最悪の国の 1 つである。女性器切除がほぼ普遍的に行われ、家庭内暴力は日常茶飯事であり、強姦や性的暴行の事件也多発している(そのうちの 70%は国内避難民による報告である)。性的暴行と強姦には社会的羞恥心が伴うため、女性はこうした犯罪を通報するのを躊躇ってしまう。アクセス手段、統計、及び調査データが欠如していることから、国際社会がこの問題の全容を把握することが困難になっている。通報された事件の殆どは、国の裁判所ではなく、氏族又はシャリア法の下で処理される。」²⁰⁸

11.27 UNDP が 2012 年 9 月に発行した Somalia Human Development Report 2012 は、次のように記している。

²⁰⁷ 国連人権委員会、国連特別報道官による報告書、女性に対する暴力、その原因と結果、Rashida Manjoo のソマリア現地調査(Report of the Special Rapporteur on violence against women, its causes and consequences)、Rashida Manjoo's Mission to Somalia、2012 年 5 月 14 日、p5-6、http://www.ohchr.org/Documents/HRBodies/HRCouncil/RegularSession/Session20/A-HRC-20-16-Add3_en.pdf 2013 年 5 月 29 日閲覧

²⁰⁸ Foreign and Commonwealth Office, Human Rights and Democracy 2012 The 2012 Foreign & Commonwealth Office Report、2013 年 4 月 15 日、<http://www.hrdreport.fco.gov.uk/human-rights-in-countries-of-concern/somalia/?showall=1> 2013 年 5 月 29 日閲覧

「ソマリアの内戦の大きな特徴は、性別に基づく暴力が多く見られたことである。女性や子どもを保護し、人間の尊厳を守る従来の慣習は、侵害された。国内避難民の女性、特に、競合する氏族や少数民族の女性に対する強姦や性的暴行は、家族を弱体化し、地域社会や社会の組織を破綻させるための、意図された戦略である。比較的平和が保たれているソマリアの地域でも、性的暴行、又は性別に基づいた暴行が多々発生しており、治安と女性の健康を長期に渡って脅かす要因となっている。」

「司法制度が脆弱なこと、性的暴行や性別に基づいた暴行に対する認識が低いことから、こうした犯罪の犯人が罰せられることは稀である。強姦は、戦争の 1 つの手段として利用され続けているが、生存者(被害者)は訴える術を持たない。国内避難民キャンプで暮らす女性は、氏族の保護を失っているため、特に被害を受け易く、殺人、強姦、誘拐の被害者となることが多い。伝統的なソマリア社会は、家庭内暴力や強姦に関する問題を開放的に話し合う傾向に無いため、女性が訴え出ることは更に難しい。殆どの調査で、通報件数が実際に起きている件数を下回っていることが、確認されている。」²⁰⁹

目次に戻る

女性器切除(FGM)

女性器切除は、少女に対し、広く行われている行為であり、児童、女性器切除(Children, Female Genital Mutilation(FGM))の項で扱っている。本セクションでは、FGM が女性に与える影響に関する情報を扱う。

11.28 ソマリアで最も一般的に行われている FGM は、タイプ 3 又は陰道封鎖(以下に説明)であり、Irinnews の 2005 年 3 月 1 日付の記事 In-depth: Razor's Edge – The Controversy of Female Genital Mutilation に記述されている通り、外性器(クリトリス、小陰茎、及び大陰茎)の一部又は全部を切除(除去)し、膣の入口を縫合する又は狭小化させ、尿や月経血を出すためのマッチ棒の大きさ程の非常に小さな穴を残すことと定義されている。」²¹⁰

11.29 世界保健機関が 2011 年 2 月に発行した FGM に関するファクトシートには FGM の長期的な後遺症として、次のものを挙げている:

- ・膀胱と尿路の頻繁な感染症
- ・嚢腫

²⁰⁹ 国連開発計画、Somalia Human Development Report 2012、2012 年 9 月、(p23)、
<http://www.undp.org/content/dam/undp/library/corporate/HDR/Arab%20States/HDR-Somalia-2012-E.pdf>
2013 年 5 月 22 日閲覧

²¹⁰ IRINNEWS、In-depth: Razor's Edge – The Controversy of Female Genital Mutilation、2005 年 3 月 1 日、
<http://www.irinnews.org/IndepthMain.aspx?IndepthId=15&ReportId=62462>、2011 年 12 月 22 日閲覧

- ・不妊症
- ・出産時の異常事態及び新生児の死亡のリスクの増加
- ・再手術の必要性。例えば、膣の開口部を封鎖又は狭小化する FGM(前述のタイプ 3)は、後に、性交と出産のために切り開く必要がある。出産後等、再縫合を数回繰り返す場合もあり、女性は縫合と切開を何度も体験し、それが、短期的・長期的リスクを、共に、更に高くしたり、女性がリスクを何度も経験したりする結果となっている。」²¹¹

強姦を含む性的暴行

11.30 USSD 2012 report は、次のように報じている。

「強姦を禁止している法令はあるが、適用されることは稀である。強姦に対する刑罰は、裁判官や加重要素により、懲役数年から死刑まで幅がある。配偶者による強姦を禁じている法令は無い。UNHCR と UNICEF は、刑罰を免除された強姦、特に難民や少数民族の女性に対する強姦の形態を報告書にまとめた(セクション 2.d.参照)。」

「連邦軍と市民軍は、強姦に関与した。[2012 年]10 月～12 月までの間に、モガディシュで 522 件以上の強姦事件が報告された。サービス・医療従事者によると、そのうちの 40%は、制服を着用した男性によるものとされている。SNA は、女性や少女を強姦した罪で、治安部隊の兵士数人を逮捕した... 12 月、Hassan Sheikh 大統領は、強姦事件の増加について触れ、強姦で有罪となった政府治安部隊の人員は、死刑に処すと発表した。」

「強姦事件の伝統的な処理方法は、被害者の状況を見せず、犯人と被害者の氏族メンバーが、交渉を通じ、強姦の解決又は代償について協議するというものである。この年、連邦政府、プントランド政府、及びソマリランド政府は、強姦事件の裁判を行った。しかし、正式な手続きを通じて強姦が訴求されることは殆ど無かった。被害者は、『刑罰の免除』に基づいた差別に苦しめられた。」

「ソマリランドの都市部では、主に非行少年や男子学生ら、ギャング団による強姦が、依然として問題となっている。こうした事件の多くは、貧民街や、都市部に住む移民、帰還した難民、及び田舎から避難してきた人々の居留地区で発生している。多くの事件が通報されないままである。」²¹²

²¹¹ 世界保健機関、女性器切除(Female genital mutilation)、ファクトシート No241、2010 年 2 月、<http://www.who.int/mediacentre/factsheets/fs241/en/> 2011 年 10 月 25 日閲覧

²¹² 米国国務省、Report on Human Rights Practices in Somalia、セクション 6、2013 年 4 月 19 日、<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dliid=204165> 2013 年 5 月 29 日閲覧

11.31 同レポートは、こうも記している。「性的暴行が全ての地域で蔓延しているにも拘らず、この問題に関するデータ、法令、政府プログラムは存在しない。臨時連邦憲章は、全ての労働者、中でも女性は、性的暴行と差別から保護される特別な権利を持つを宣言している。労働法、及び労働の慣習は、職場での男女平等を順守することが要求される。」²¹³

11.32 2012 年 5 月 14 日付の国連特別報道官による報告書、女性に対する暴力、その原因と結果、Rashida Manjoo のソマリア現地調査(Report of the Special Rapporteur on violence against women, its causes and consequences)、Rashida Manjoo's Mission to Somalia は、次のように記している。

「滞在中、特別報道官は、ソマリアの女性や少女が、日常生活で強姦に遭遇することがいかに多いかを知らされた... 性的暴行の事件は、警察への通報や、裁判所への起訴が難しく、様々な理由から、正式な司法制度に訴えることは煩雑に思われる。内戦の影響や一般的な開発の遅れから、国の至る所で、司法制度が機能していないという事実もある。正式に起訴するためには、警察官や裁判所の役人に金銭を支払わなければならないことも障壁となっている。更に、刑法は、強姦を犯罪行為としているが、被害者に対する犯罪ではなく、道徳に違反する行為として認識しているので、女性に対するこうした暴力の形態を本質的に裁くには不適切である。その結果、多くの女性は司法制度を信頼せず、過去において、犯人の処罰に支障を来したのである。」

「慣習、宗教、及び正式な司法制度に基づいた紛争解決方法の複雑な相互関係が、こうした状況を更に悪化させている。正式な司法制度と処罰の仕組みより、氏族の利害を優先するという考えが、性的暴行の被害者に対して特別な影響を与えた。被害女性は、家族や氏族が、暴行/傷害を慣習に基づいて解決する、即ち、犯人を処罰して被害者を救済することよりも、和解により解決することを望むのを見て、尊厳を傷付けられた気持ちになる。特別報道官は、被害女性の家族が、氏族の方針に従い、犯人の氏族との和解を望むのは、家族や社会による圧力、又、被害女性の家族と氏族が経済的利益を期待するという事実が根底にあることを認識させられた。」

「特別報道官は、伝統的な司法制度の下での救済措置の一部として、強姦の被害者となった女性が、犯人との結婚を強制されることがあると耳にした。特別報道官が対談した官僚、伝統的制度の指導者、及び宗教的制度の指導者は、いずれもこの慣習について否定し、避難の意を表したが、独身女性や少女の強姦に係る紛争の解決において、部族の長老が、被

²¹³ 米国国務省、Report on Human Rights Practices in Somalia、セクション 6、2013 年 4 月 19 日、<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dliid=204165> 2013 年 5 月 29 日閲覧

害女性とその家族の意見や意思を軽視し、犯人と結婚することを強要することが多いとも強調した。」²¹⁴

強制結婚(forced marriage)の項も参照されたい。

11.33 2012 年 10 月にデンマークとノルウェーが共同で行った、モガディシュとナイロビの現地調査に関する 2013 年 1 月 4 日付の報告書は、次のように記している。

「ある国連機関は、今ではアル・シャバブから奪還した領土の殆どに出入りが可能であり、調査の結果、かつてアル・シャバブが支配していた地域では、強姦と強制結婚が広く行われていたことが判明したと説明した。しかし、今日でもモガディシュでは非常に多くの強姦事件が発生している。2012 年の 1～6 月に報告されたジェンダーに基づく暴力(GBV: Gender Based Violence)事件の半数以上が強姦であり、強姦の 4 分の 1 が、少年を含む子どもが被害者となった事件である。国連は、バイドアやドブレーで発生した暴行事件に関する情報を手に入れた... 国連機関によると、強姦と強制結婚の被害者の大多数は、その他の GBV の被害者と同様、国内避難民であるが、地元女性がこうした事件の被害者となることもある。モガディシュの一部難民キャンプでは、治安が極めて不安定であるため、強姦を回避するため、少女を屋外に出さない所もある。通常、強姦は、武器を携行した男により、夜間に行われる。犯人たちは、国内避難キャンプに自由に出入りできるのである。」

「同国連機関によると、ケニア軍兵士、エチオピア軍兵士、及びアフリカ連合ソマリア平和維持部隊兵士は、殆ど強姦事件に関わっていない。しかし、これらの部隊には、金銭、食料、又は医薬品を得るため、ソマリア人女性を利用した兵士もいる。」

「モガディシュの国際機関は、通報件数が、実際に発生した件数を下回っているかの質問に対し、2011 年 8 月まで、モガディシュの状況を確認することはできなかったと説明した... 今日、国連機関はかつて出入りできなかった地域に出入りできるようになった。加えて、国際 NGO、地域 NGO がいくつかモガディシュとバイドアに在留し、市民は必要な時、いつでも機関に連絡することができる。これで、報告と情報が増えることが期待される。ただ、現在の状況を過去と比較することは難しい。しかし、国連機関が、人権を侵害された女性や少女の保護と対応の仕組みを確立したため、女性と少女の状況は改善された... ゲドで活動する国際 NGO によると、強姦の被害女性の大多数は、内戦時にある地域から別

²¹⁴ 国連人権委員会、国連特別報道官による報告書、女性に対する暴力、その原因と結果、Rashida Manjoo のソマリア現地調査(Report of the Special Rapporteur on violence against women, its causes and consequences)、Rashida Manjoo's Mission to Somalia、2012 年 5 月 14 日、p6-7、http://www.ohchr.org/Documents/HRBodies/HRCouncil/RegularSession/Session20/A-HRC-20-16-Add3_en.pdf
2013 年 5 月 31 日閲覧

の地域に移動している女性、又は食料の配給を求めて移動中の女性であるという。自分の属する氏族が居住する地域を離れている女性は、氏族の保護を受けられず、強姦犯たちは刑罰を免れている。しかし、地元の地域社会でも強姦は起きる。女性が屋外に出て家事をしている時、水を汲みに行ったり、薪を拾ったりしている時などである。伝統的に、紛争中に強姦が行われ、犯人が判明している場合は、被害女性の地域社会/家族は、救済を受けることができた。氏族の中で行われた強姦は、氏族の中で解決されたが、強姦犯が別の小氏族に属する場合は、平和的な解決ではなく、報復が行われた。しかし、羞恥心から女性が黙っている傾向があった。同 NGO は、誰が強姦の犯人であるのか、線引きをすることは非常に難しいことが多いと付け加えた。」²¹⁵

11.34 2013 年 3 月 7 日、The Guardian は、次のように報じている。「Lui Ali Osman Barake は、強姦された経験が 2 回あるという。1 回目は軍の雑役していたギャング団によって、2 回目は、ソマリアでは自由化された筈の司法制度によってである。彼女が警察とジャーナリストに強姦の件を訴え、27 歳の男が逮捕され、懲役 1 年の刑を言い渡された時、世界中で驚愕と嫌悪感が沸き起こった。今週初め、控訴により判決は無効となった。」²¹⁶

11.35 2013 年 4 月と 5 月にデンマークとノルウェーが共同で行った、モガディシュとナイロビの現地調査に関する 2013 年 5 月 8 日付の報告書は、次のように記している。

「モガディシュにある Elman Peace and Human Rights Centre は、強姦の被害者とされる女性と、事件を報道したジャーナリストに関する最近の事例[前出の段落を参照]は、強姦事件の通報に対し、非常に悪い影響を与えた。SNG は、現在、その問題に取り組んでいるが、強姦の事実よりも強姦のレベルを隠ぺいすることに躍起になっているように思われる。しかし、何かが変わるまで、まだ長い時間がかかりそうである... この強姦事件に関し、ナイロビの国連機関は、2013 年 1 月～3 月のデータによると、SGBV の通報件数は減少したという。こうした事件を通報することに対し、女性がより慎重になったからである。政府が SGBV に対抗する決意を表明したにも拘らず、女性は、通報し、強姦された事実を認めることを恐れている。SGBV を通報することに抵抗感を持つのは、未だに政府の実務レベルがあまりに低く、実際に SGBV に対抗することができないからかもしれない。省庁は設

²¹⁵ Danish Immigration Service and Landinfo, モガディシュとソマリア中南部における治安と保護、デンマークとノルウェーによるモガディシュとナイロビの現地調査(Security and human rights issues in S-C Somalia, including Mogadishu, Danish-Norwegian fact finding mission to Nairobi and Mogadishu) 2012 年 10 月、2013 年 1 月 4 日、p31-32、http://www.landinfo.no/asset/2319/1/2319_1.pdf 2013 年 5 月 30 日閲覧

²¹⁶ The Guardian, 偽証の疑いの晴れたソマリア人女性の言葉『私を強姦した犯人たちは表彰された』(My rapists were rewarded, says Somali woman cleared of making false claims)、2013 年 3 月 7 日、<http://www.guardian.co.uk/world/2013/mar/07/rapists-rewarded-somali-woman-cleared> 2013 年 5 月 29 日閲覧

立されたが、上層部のみであり、実務レベルはまだ機能していない、即ち、省庁の技術力は非常に低いのである。」

「一方、同国連機関は、SGBV の通報が増えたのは、アル・シャバブの支配から解放された地域で通報率が上がったこともあるが、ソマリア政府軍の兵士が強姦を含む SGBV を犯す事例が増えていることもあると説明した。新たに奪還された地域と、ソマリア政府軍とソマリア政府軍支持派の市民軍の兵士による SGBV の発生状況には、関連性がある... ナイロビの同国際機関は、一般市民にとって治安が改善されていることは、事実と確認されている複数の報告が示しているが、SGBV が深刻な問題となっていることも事実であり、アル・シャバブの支配から解放されたことで、こうした犯罪が増えてさえいる可能性がある」と説明した。」

「モガディシュ在留の UNHCR ソマリアは、ジェンダーに基づく暴力(GBV)が蔓延していることに照らし、核家族を持たず、氏族の保護を得られない女性家長又は独身女性、及び子どもは、暴力を受けるリスクが高いと説明した。」²¹⁷

11.36 Lifos FFM report 2013 は、次のように記している。

「警察に強姦事件を通報しても、被害女性にとって何も変わらない。通報を受けた警察は、事件を女性のせいにしようとする。羞恥心、女性が犯人を特定した場合の保護の欠如、及び、警察署での不適切な対応が、実際、女性が強姦の通報を控える結果に繋がっている。更に、強姦事件は、その他の事件と同様、司法制度の下で訴追されるが、氏族によって警察と裁判所の手を離れ、xeer に従って解決されることもある。例えば、被害女性が犯人を特定でき、氏族制度と慣習法 xeer に従って問題を解決できる場合、こうした解決方法が適用される。名指しされた犯人が否認した場合、事件は終結する。」

「強姦された女性、及び強姦され婚姻関係以外の妊娠をして、婚外子を持った女性は、氏族から追放されるリスクを負う。追放された場合、女性は近親者の保護は受け続けられるかもしれないが、氏族の保護を失う。その上、又はその代わりに、女性は殴打され、脅迫されることもある。女性が汚した家族又は氏族の名誉を回復するため、家族又は親戚を計画的に殺害する意味での名誉殺人は、ソマリアには存在しない。子どもは常に父親の氏族に属するため、婚外子は氏族との結び付きを持たない。婚外子が母親の氏族と一緒に暮ら

²¹⁷ Danish Immigration Service and Landinfo、モガディシュとソマリア中南部における治安と保護、デンマークとノルウェーによるモガディシュとナイロビの現地調査(Security and protection in Mogadishu and S/C Somalia, Danish-Norwegian fact finding mission to Nairobi and Mogadishu)、2013 年 4 月～5 月、2013 年 5 月 8 日、p17-18、
http://www.nyidanmark.dk/NR/rdonlyres/6F1A29C6-2F84-40D2-BDE4-42F69897EEC3/0/security_and_protection_in_somalia_may_2013.pdf 2013 年 5 月 29 日閲覧

せる場合もあるが、母親と同様、その子どもも汚名を着せられ、酷く名誉を傷つけられる。婚外子が生まれることを避けるため、女性が子どもの父親との結婚を強制されることもある。或いは、その男が、自分が父親であることを認めなければ、他の男との結婚を強制される場合もある。」²¹⁸

目次に戻る

国内避難民の女性

11.37 2012 年 5 月 14 日付の国連特別報道官による報告書、女性に対する暴力、その原因と結果、Rashida Manjoo のソマリア現地調査(Report of the Special Rapporteur on violence against women, its causes and consequences)、Rashida Manjoo's Mission to Somalia は、次のように記している。

「特別報道官は、隣接国へ避難するソマリア人の女性や少女は、特に性的暴行の標的とされやすいと耳にした。国境まで非難する途中で、反政府勢力の市民軍が支配する地域を通過しなければならないからである。こうした地域は治安情勢が不安定なため、出入りすることは難しいが、特別報道官は、ソマリア中南部の戦闘地域から避難し、隣接国に向かう途中で、アル・シャバブの兵士による強姦、誘拐、強制結婚を体験した 11～80 歳までの女性数人に話を聞くことができた。報道は、ソマリア外の難民キャンプでも性的暴行が発生していることを示している。そこは過密状態で、住居も整っていないため、生活条件が非常に悪く、難民の女性や少女が特に性的暴行の標的となる危険性が高い。」

「特別報道官は、訪問に先立ち、性的暴行、中でもソマリアの一部地域にある国内避難民キャンプの女性に対する性的暴行に関し、驚くべき報告を受けていたが、訪問中も、こうした報告は続いた。内戦と人道的危機が、女性や少女にとって特に大きな犠牲を強いたこと、内戦と干ばつにより避難を余儀なされた人々が特別弱い立場に置かれていること、それが更に女性を暴力、性的暴行、性的嫌がらせに晒していることを鑑みても、特別報道官は、IDP キャンプで発生する性的暴行の通報件数がかなり少ないことに注意を喚起した。こうした性犯罪を通報し、文書化する適切な制度が欠落していることが、女性や少女を対象とした性的暴行に関する刑罰の免除と不透明性に拍車をかけている。更に、比較的治安の安定している地域でも、国内避難民の女性に対する性的暴行の事件の警察への通報は、逮捕に繋がらず、警察当局に放置されている。」

²¹⁸ Lifos, Kvinnor och barn i Somalia. Rapport från utredningsresa till Nairobi, Kenya och Mogadishu, Hargeisa och Boosaaso i Somalia i juni 2012、2013 年 6 月 5 日、<http://lifos.migrationsverket.se/dokument?documentAttachmentId=39750> 2013 年 6 月 10 日閲覧

「特別報道官は、モガディシュ地域にある IDP キャンプに住む女性や少女に対する性的暴行の報告も受けた。夜間、ソマリア国軍と同じカーキ色の制服を着た男たちに襲われたという。こうした制服は、モガディシュの市場で容易に手に入れることができる。アフリカ連合ソマリア平和維持部隊兵が性的暴行を働いたとする告発もある。アフリカ連合ソマリア平和維持部隊は、ジェンダーに基づいた暴力を 2 件認め、それらの事件は軍事法廷で裁かれた。しかし、こうした告発に関し、アフリカ連合ソマリア平和維持部隊から十分な説明も、補償も無いことを憂慮する利害関係者もいる。」²¹⁹

11.38 2012 年 9 月 21 日発行の、ソマリアにおける人権侵害行為の排除と刑罰免除制度の撤廃に関する国連の支援についてまとめた国連事務総長報告書は、次のように記している。

「紛争関連の性的暴行、中でもソマリア国軍やそれを支持する民兵が、国内避難民キャンプで暮らす女性や少女に対して犯したとされる従来からの形態の強姦、又、キャンプの一般的な治安の悪さから生じた個人による強姦罪の報告が、続いている。合計すると、1 日当たり 20 件の性的暴行の通報が、モガディシュの非政府機関や女性団体に寄せられた。被害者の 30%ほどが 18 歳以下の少女である。強姦には羞恥心が伴うため、実際の被害者数はこれよりかなり多いと思われる。」

「2011 年 12 月に女性に対する暴力に関する国連特別報道官の訪問を受け、暫定連邦政府の首相は、性的暴行の防止と、その対策の構築のため、特別チームを設置することを誓った。しかし、特別チームは未だに活動を開始しておらず、キャンプで暮らす女性の安全性を高めるための具体的な対策は、まだ立てられておらず、導入もされていない。」

「ソマリア中南部から避難し、プントランドの国内避難民居留地で暮らす女性や少女も、内戦の影響による性的暴行を受けた。治安が悪く、社会的地位を持たず、氏族の保護を受けていないことが、受け入れ地域の社会、及び国内避難民仲間の男性による性的暴行の更なるリスクに、これらの女性を晒している。女性たちは、夜間に小屋の中で、又は、薪を拾う、水を汲む、市場に出向く、家政婦として働くなどの家事をするために屋外に出た時に強姦された。プントランド当局の誓約にも拘らず、この慢性的な状況は、殆ど対応されないままである。」²²⁰

219 国連人権委員会、国連特別報道官による報告書、女性に対する暴力、その原因と結果、Rashida Manjoo のソマリア現地調査(Report of the Special Rapporteur on violence against women, its causes and consequences)、Rashida Manjoo's Mission to Somalia、2012 年 5 月 14 日、p7-8、http://www.ohchr.org/Documents/HRBodies/HRCouncil/RegularSession/Session20/A-HRC-20-16-Add3_en.pdf 2013 年 5 月 31 日閲覧

220 国連人権委員会、ソマリアにおける人権侵害行為の排除と刑罰免除制度の撤廃に関する国連の支援：国連事務総長報告書(United Nations support to end human rights abuses and combat impunity in Somalia: Report of the Secretary-General)、2012 年 9 月 21 日、http://www.ohchr.org/Documcuments/HRBodies/HRCouncil/RegularSession/Session21/A.HRC.21.36_en_only.pdf

11.39 USSD 2012 report は、次のように記している。

「国内避難民の女性に対する性的暴行を含むジェンダーに基づいた暴力は、未だに問題である。ボサソ、ガルカイヨ、プントランド国ハルゲイサ、ソマリランド、及び、アフグーイエ回廊に沿った地域にある IDP 居留地で暮らす女性や子どもから、国連計画実施提携者に対し、多くの強姦事件の訴えがあった。モガディシュの IDP キャンプとその付近で暮らす女性に対し、TFG 部隊とそれを支持する市民軍が犯した強姦など性的暴行の報告件数は、前年に比べて増加した。プントランドの IDP キャンプでも強姦の報告件数が増えた。」²²¹

11.40 2013 年 3 月 29 日付の Human Rights Watch report 『守衛の人質たち(Hostages of the Gatekeepers)』は、次のように記している。

「キャンプにおける多くの問題の中でも、性的暴行の問題は、最も脅威であるかもしれない。モガディシュで、難民の女性と少女は、強姦に遭う危険が極めて高い。被害に遭った女性たちは、通常、強姦は夜間に小屋の中で行われると語った。政府が運営する数少ない国内避難民キャンプの 1 つであるバドバド難民キャンプでさえ、安全ではない。武器を持ち、制服を着用した男たちに強姦されたと訴えた女性が数人いた。男たちの何人かは政府軍の兵士であることが判明している。性的暴行の被害者の多くは、犯人の報復を恐れ、性的暴行に伴う社会的汚辱を心配し、当局の対応を信頼していないため、当局に通報しないままである。政府軍の制服を着た 4 人の男たちに強姦された若い女性の父親は、次のように語った：『ここには知り合いが誰もいない。モガディシュに来たばかりなんだ。裁判所に行こうとは思わない。だって、娘が強姦された時、司令官が嫌がらせをしてきたよ。ここでは、一体誰を信用できるっていうんだ？黙っているしかない。』訴え出ても、保護、医療、償いの選択肢は殆ど無い。」²²²

国内避難民の状況について、更に詳しく知りたい場合は、国内避難民(IDPs)の項を参照されたい。

ケニア在住のソマリア人女性の扱いについては、Human Rights Watch のレポート: 2012 年 5 月付の Criminal Reprisals: Kenyan Police and Military Abuses against Ethnic Somalis、及び、

2013 年 5 月 29 日閲覧

²²¹ 米国国務省、2012 Report on Human Rights Practices, Somalia、セクション 1d、2013 年 4 月 19 日、<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dliid=204165>
2013 年 5 月 29 日閲覧

²²² Human Rights Watch, 守衛の人質たち(Hostages of the Gatekeepers)、2013 年 3 月 28 日、p4、http://www.hrw.org/sites/default/files/reports/somalia0313_ForUpload.pdf 2013 年 5 月 29 日閲覧

2013 年 5 月 29 日付の “You Are All Terrorists”: Kenyan Police Abuse of Refugees in Nairobi を参照されたい。

目次に戻る

強制結婚

このセクションは、女性に対する暴力の 1 形態としての、強制結婚の慣習に関する情報を提供することを意図している。ソマリアの結婚規定に関する一般情報については、結婚 (Marriage) の項を参照されたい。

11.41 2012 年 5 月 14 日付の国連特別報道官による報告書、女性に対する暴力、その原因と結果、Rashida Manjoo のソマリア現地調査(Report of the Special Rapporteur on violence against women, its causes and consequences)、Rashida Manjoo’s Mission to Somalia は、次のように記している。

早婚及び/又は強制結婚は、特に地方で、今でも存在する。両親は、女兒を、未来の夫が支払うであろう支度金により富をもたらす者として認識している。支度金が家族に直接支払われるのではなく、氏族の系列に従って支払われるという事実が、この慣習を盛んにしている。一夫多妻制の慣習も、男性が、女性の収入を当てにして、複数の女性と結婚することを促進している。」

「家庭内暴力に関しては、データ不足のため、強姦、及び早婚及び/又は強制結婚の慣習が実行されている程度を確認することができない。」²²³

11.42 2012 年 10 月にデンマークとノルウェーが共同で行った、モガディシュとナイロビの現地調査に関する 2013 年 1 月 4 日付の報告書は、次のように記している。

「[ソマリアの]強制結婚に関して、モガディシュ在留の地域 NGO(C)は、早婚は宗教とは無関係に、文化的に決定されると語った... 強制結婚に関して、ソマリア中南部で活動する地域 NGO(D)は、モガディシュでも、こうした結婚は、特に子供に多く見られたと語った。同 NGO は、最近、こうした事例は耳にしておらず、今日のモガディシュで強制結婚が行われている可能性は低いと説明した... 国連機関によると、強姦や強制結婚の被害者の大多数は、その他の GBV の被害者と同様、IDP であるが、地元の女性が被害者となる場合も

²²³ 国連人権委員会、国連特別報道官による報告書、女性に対する暴力、その原因と結果、Rashida Manjoo のソマリア現地調査(Report of the Special Rapporteur on violence against women, its causes and consequences)、Rashida Manjoo’s Mission to Somalia、2012 年 5 月 14 日、p7、http://www.ohchr.org/Documents/HRBodies/HRCouncil/RegularSession/Session20/A-HRC-20-16-Add3_en.pdf
2013 年 5 月 31 日閲覧

あるという... 通報件数が、実際に発生した件数を下回っているかとの質問に対し、同国連機関は、アル・シャバブがモガディシュから撤退し、その後、ソマリア中南部から撤退した 2011 年 8 月まで、モガディシュの状況を確認することはできなかったと説明した。これより前は、強姦と強制結婚の規模を把握することはできなかった。同国連機関は、こうした暴力が実際にあったことは認識していたが、数字が把握できなかったため、何らかの数字を公表することは控えたという。今日、国連機関はかつて出入りできなかった地域に出入りできるようになった。加えて、国際 NGO、地域 NGO がいくつかモガディシュとバイドアに在留し、市民は必要な時、いつでも機関に連絡することができる。これで、報告と情報が増えることが期待される。ただ、現在の状況を過去と比較することは難しい。しかし、国連機関が、人権を侵害された女性や少女の保護と対応の仕組みを確立したため、女性と少女の状況は改善された... 強制結婚に関して、ゲドで活動する国際 NGO は、昨年、性的ジェンダーに基づく暴力(SGBV: Sexual and Gender Based Violence)に関する調査を行い、強制結婚が 1 つの問題として持ち上がったが、強制結婚の実態に関する具体的なデータが無かった。しかし、アル・シャバブは、保護者(夫、父親、又は兄弟)の同伴無しで移動している女性は、アル・シャバブの兵士と強制結婚させるという布告を出し、女性の自由な移動を禁止した。これは、勿論、強制結婚と認識することができる。ゲドで活動する国際 NGO は、教育プログラムに従事するスタッフから、文化的背景のせいで、娘を非常に低い年齢で結婚させざるを得なかったと不満を漏らす母親たちに関する逸話的な情報を得た。」

「強制結婚に関し、モガディシュ在留の地域 NGO(B)は、強制結婚は今でも問題となり得るが、実際に起きているか否かは把握していないと語った。しかし、多くの家族が、娘をアル・シャバブの兵士と結婚させる動機を持つという。」²²⁴

アル・シャバブと強制結婚

11.43 2012 年 6 月 6 日付の Landinfo response, Somalia: Protection and conflict resolution mechanisms は、次のように記している。

「Puntland Research and Development Centre が 2002 年に行った調査によると、伝統的なソマリアの権利とシャリア法には違いがあるという。」

²²⁴ Danish Immigration Service and Landinfo, モガディシュとソマリア中南部における治安と保護、デンマークとノルウェーによるモガディシュとナイロビの現地調査(Security and human rights issues in S-C Somalia, including Mogadishu, Danish-Norwegian fact finding mission to Nairobi and Mogadishu) 2012 年 10 月、2013 年 1 月 4 日、p30-33、http://www.landinfo.no/asset/2319/1/2319_1.pdf 2013 年 5 月 30 日閲覧

「『[...] 慣習法 (xeer) は、シャリア法が認める女性の権利を否定している。女性の権利には、配偶者を選ぶ権利や、財産を所有する権利が含まれる [...] シャリア法はいかなる形態の強制結婚にも反対している [...] 強姦に対する xeer の処罰は、シャリア法や正式な司法に基づく処罰に比べ、かなり寛容である。』」

「こうした見識は、The Academy for Peace and Development (2002)、及びその他の専門家による文献でも支持されている。」

「しかし、アル・シャバブの宗教的・思想的土台は、ワッハーブ主義(Wahhabism)の教理を根底とし、ワッハーブ主義と並行し、イスラム教の権利、伝統の厳密な解釈を提唱するものである。この伝統は、殆どのソマリア人にとって馴染みのないものであるが、この解釈に従って生活しない者は、アル・シャバブの目には異端者と映るのである。既に述べた通り、ソマリアでは政略結婚が一般的である。花嫁と花婿の両親や親戚は、花嫁のみに相談することなく決定することが多いので、強制結婚はアル・シャバブが導入した制度とは言えない。」

「2011 年に Landinfo が会談したソマリア人神学者、及びその他のソマリア人情報提供者は、アル・シャバブがイスラム教の教理を歪めて解釈し、ソマリアの伝統に反する慣習を導入したと考えている。情報提供者が口頭で行った説明から、アル・シャバブの支配地域における強制結婚の問題は複雑であるという印象を受けた。その印象は、2012 年 2 月にナイロビとモガディシュで行われた対談でも変わらなかった。」

「アル・シャバブの兵士がある女性に目を付けた場合、その女性も、女性の保護者も、現実的に選ぶ余地は無い。兵士は、女性に何回もアプローチし、地元の伝統に従って女性の父親に結婚を申し出る。しかし、女性と父親が拒否すれば、自分の法に従ったやり方に切り替える。アル・シャバブが女性の父親を不信心者だと主張すれば、事は益々容易になる。」

「しかし、アル・シャバブの兵士との結婚を拒否し、報復を受けなかったとされる女性の例がいくつかある。これらはバイドアで起こった例であるが、成功の前提条件は、大きな地元の氏族に属していることである(2012 年 2 月 21 日にナイロビで行われた国際機関の代表との会談より)。この報告は、アル・シャバブの行政、又は司令官が地元氏族との繋がりを持っているか否かで、地域ごとの違いが生まれているという考えを肯定している。アル・シャバブと強制結婚にまつわる話はたくさんある。あるソマリア人情報提供者が、アフグーイエ回廊の国内避難民キャンプで暮らす自分の家族の話をしてくれた。当時、その地域はアル・シャバブの支配下にあり、4 人の娘は教育を受けるため (アル・シャバブは女性が教育を受けることを禁止している) 又、アル・シャバブとの結婚を避けるため、モガデ

ィシュに行っていた。すると、親戚が、ベレドウェインに住む別の親族から、アル・シャバブが娘との結婚を望んでおり、とても断ることはできないという悲しい電話を受けた(2012 年 2 月にナイロビで行われた会談より)。」

「このような暴挙を許しているのは、アル・シャバブの権力と、人々が体験した無力さ、及び報復を恐れる気持ちである。洗脳される女性もいれば、アル・シャバブの兵士との結婚をジハードへの貢献と考える女性もいる。少女を拉致して結婚する事例の話も出た(2012 年 3 月にナイロビで行われた会談より)。アル・シャバブが力を失うにつれ、その宣伝文句や主張は益々強硬になっていった。全ての家族は、少年を兵士として、少女を妻として、母親を労働者として、差し出さなければならない(2012 年 2 月 21 日～22 日にモガディシュで行われた会談より)。」

「戦闘の準備が整ったアル・シャバブの若い兵士は結婚する－自爆テロの準備が整ったことが結婚のサインの 1 つである。兵士が子孫を残すことは重要である。しかし、女性は、結婚が短期で終わるかもしれないことを知らない。ある国際機関の代表によると、地元のソマリア NGO が、一般的に、妊娠中の若い女性や幼い子供を持つ女性が、夫に放棄されたケースが多いことに気付いたという。夫というのはアル・シャバブの若い兵士で、前線に赴き死亡した、又は、新しい妻を得て前の妻を捨てたと考えられる。理由の如何に拘わらず、若い女性が、財産も、自分自身や子どもの生活費を稼ぐ術も無く、放棄されたのである。但し、女性らは、家族の元に戻れば、家族の世話になって暮らせるだろうと、情報提供者は考えている(2012 年 3 月にナイロビで行われた会談より)。」

「ソマリアの伝統では、ソマリア人とそれ以外の人種との結婚、又は民族種を越えた結婚は、一般的でない(イスラム教徒同士であってでもである)が、ジハードを実行する外国人兵士は、ほぼ自由に妻を選んでいると見る向きもある(2012 年 3 月にナイロビで行われた会談より)。しかし、ジハード戦士の多くはここ数ヵ月の間にソマリアから撤退し (2012 年 2 月にナイロビで行われた会談より)、更に多くの女性や子どもが放棄された。」

「アル・シャバブと血縁関係を結ぶことに利点を見出す家族もある。保護と好機が与えられるからだ。少数民族や小さな氏族は、特にこうした傾向がある。このような結婚は、軍閥時代の所謂『黒猫結婚(black cat marriage)(mukulaal madoow)』と大差ない。今日、権力を持つ者は、帽子を宗教帽に変えただけである。」

「しかし、現在、多くのアル・シャバブの兵士は、自分自身、疎外された少数民族又は小さな氏族に属しており、彼らにとって、大氏族の女性との結婚は、ある種の復讐又は威信と考えられている。」

「様々な情報提供者によると、アル・シャバブは、独自の未亡人相続(dumaal)制度も導入した。アル・シャバブにとって、アル・シャバブの兵士はみな兄弟であり、この伝統に従い、生物学的繋がりに拘わらず、死亡した仲間の未亡人を娶ることができると考えられている。こうした結婚は、新しい夫が前の夫と同等の身分を持っていることが前提である。家族内にアル・シャバブの上級士官がいない限り、女性も女性の家族も結婚を拒否することはできない。女性にとって、結婚を避ける唯一の手段は、故郷を去ることである(2012 年 3 月にナイロビで行われた会談より)。」²²⁵

11.44 2012 年 10 月にデンマークとノルウェーが共同で行った、モガディシュとナイロビの現地調査に関する 2013 年 1 月 4 日付の報告書は、次のように記している。

「強制結婚に関して、モガディシュ在留の地域 NGO(C)は、早婚は宗教とは無関係に、文化的に決定されると語った。これは、ソマリアで新しく見られるようになった現象ではないが、多くのイスラム主義者たちは、若い少女を捕まえて結婚するために、暫く前から、少女の家族を巧みに操ったり洗脳したりしていた。モガディシュ在留の地域 NGO(C)は、両親の承認も得ずに少女と結婚することもあるという報告も受けている。アル・シャバブの兵士を見かけることは無くなったため、こうした慣習は、公には行われていないが、多くの家族にとって心配の種となっている。アル・シャバブは軍事的に敗退したため、現在のモガディシュでは、このようなことは起こっていない。今日、モガディシュでは、アル・シャバブの勢力は地下に潜っているため、町で見かけることは無い。一方、都市から離れた田園地方では、アル・シャバブが結婚を強制する事例が見られ、娘がアル・シャバブの兵士と強制結婚させられることを避け、地域から逃げ出す家族もいる... アル・シャバブが娘に目を付けたら、対抗する手段として、氏族、即ち小氏族の保護を得ることはできない。父親又は母親が結婚の申し出を拒否すれば、アル・シャバブに殺害される危険を背負うことになる。報復を恐れて、脅迫されていることを人に伝えることもできない。しかし、現在、モガディシュの住民には楽観的な考えが広がっている。例えば、強制就労又は強制結婚の発生件数は減っている。ただ、アル・シャバブは町にスパイを放っており、住民もそれを知っている。スパイの存在が人々に恐怖を与えている。」

「ある国連機関は、今ではアル・シャバブから奪還した領土の殆どに出入りが可能であり、調査の結果、かつてアル・シャバブが支配していた地域では、強姦と強制結婚が広く行われていたことが判明したと説明した。しかし、今日でもモガディシュでは非常に多くの強

²²⁵ Landinfo, ソマリア: アル・シャバブと強制結婚(Somalia: Al-Shabaab and forced marriage)、2012 年 7 月 6 日、p3-5、http://www.landinfo.no/asset/2156/1/2156_1.pdf 2013 年 5 月 31 日閲覧

姦事件が発生している... 国連は、バイドアやドブレーで発生した暴行事件に関する情報を手に入れた。」

「同国連機関は、強制結婚の報告を記録している。日付の有効な要約によると、アル・シャバブの支配地域を去った子どもや若年者の約 10%が、強制結婚の被害者である。少女の多くは、結婚当時、僅か 9～10 歳であった... アル・シャバブによる強制結婚に関し、UNHCR の伊藤 礼樹氏は、今日、このような状況が続いているという報告は無く、最近はこうした話を耳にしていないと説明した。」

「ソマリア中南部で活動する国際 NGO(C)は、モガディシュで強制結婚はもう行われていないと考えていると語ったが、アル・シャバブが町を支配していた時代には広く行われていたと付け加えた。」

「しかし、ソマリア中南部で活動する国際 NGO(C)によると、アル・シャバブの支配する地域では、強制結婚が行われているという。通常の手順では、アル・シャバブが女性の父親を呼び出し、娘と結婚を望んでいる兵士がいると伝える。強制結婚を避けるため、地域を逃げ出す家族もいる。同国際機関は、こうした事態は、アル・シャバブが支配する地域でのみ起こっていると語り、今日、モガディシュではその脅威は無いことを強調した。」²²⁶

11.45 2013 年 4 月と 5 月にデンマークとノルウェーが共同で行った、モガディシュとナイロビの現地調査に関する 2013 年 5 月 8 日付の報告書は、ナイロビ在留の国連機関によると、「... アル・シャバブはモガディシュで強制結婚を行っていない」と記している。²²⁷

11.46 婚姻の取消しに関し、2012 年 7 月 6 日付の Landinfo response は、次のように記している。

「あるソマリア人神学者によると、夫や妻の意思に反する婚姻が取り消されることはあるが、非常に稀であるという(2011 年 3 月にナイロビで行われた会談より)。アル・シャバブ

²²⁶ Danish Immigration Service and Landinfo, モガディシュとソマリア中南部における治安と保護、デンマークとノルウェーによるモガディシュとナイロビの現地調査(Security and human rights issues in S-C Somalia, including Mogadishu, Danish-Norwegian fact finding mission to Nairobi and Mogadishu) 2012 年 10 月、2013 年 1 月 4 日、p30-31、http://www.landinfo.no/asset/2319/1/2319_1.pdf 2013 年 5 月 24 日閲覧

²²⁷ Danish Immigration Service and Landinfo, モガディシュとソマリア中南部における治安と保護、デンマークとノルウェーによるモガディシュとナイロビの現地調査(Security and protection in Mogadishu and S/C Somalia, Danish-Norwegian fact finding mission to Nairobi and Mogadishu), 2013 年 4 月～5 月、2013 年 5 月 8 日、p17、http://www.nyidanmark.dk/NR/rdonlyres/6F1A29C6-2F84-40D2-BDE4-42F69897EEC3/0/security_and_protection_in_somalia_may_2013.pdf 2013 年 5 月 24 日閲覧

内のタクフィリ(takfiri)主義神学者のインナー・サークルは、ある人が背教者であり、故に、その結婚は無効で、解消されなければならないと主張するかもしれない。こうして、アル・シャバブの兵士は、心に決めた女性と結婚するのである。この神学者は、2011 年 3 月に Landinfo と会談する 2～3 年前に、このような事例を 2、3 件、耳にしたという。」

「イスラム法に従って、放棄された女性は婚姻の解消/取消を求めることができる。望んだ女性と結婚するために、アル・シャバブがこのような機会を利用するか否かという質問に対し、同神学者は、こうした慣習は、アル・シャバブにとってあまり都合が良くないと答えた。上級幹部の多くは、自分自身が、英国、米国、スウェーデン、及びデンマークからの移住者である。ソマリアから離れて長いため、自分自身が影響を受ける危険性がある。」

228

目次に戻る

家庭内暴力

11.47 2012 年 5 月 14 日付の国連特別報道官による報告書、女性に対する暴力、その原因と結果、Rashida Manjoo のソマリア現地調査(Report of the Special Rapporteur on violence against women, its causes and consequences)、Rashida Manjoo's Mission to Somalia は、次のように記している。

「家庭内暴力は、ソマリアで最も蔓延している女性や少女に対する暴力の形態である。滞在中、特別報道官は、家族内暴力は、通報と記録の仕組み、及び、この問題に対応する政策やプログラムが確立されていないため、広く普及し、殆ど実態が掴めなていないことを知った。深刻な怪我又は死亡に繋がらない限り、家庭内暴力は、法の介入或いはその他の支援を必要とするような問題とは認識されていない。」

「特別報道官は、数多くの家庭内暴力の話を聞かされた。例えば、ガローウェでは、ある女性が、路上でチャットを販売したが、十分な収入を持って帰らなかったため、夫に殴打された。プントランドでは、ある女性が夫に殴打され、病院に運ばれた。女性の腕や肩にいくつか傷が見られると診断された。多くの女性は、夫だけでなく、夫の家族からも暴力を受けている。ガローウェの警察署長は、妻や子どもが言いつけに従わない、又は、行儀が悪い場合、殴ることは容認できる行為であるとの見解を示した。同警察署長によると、素手で家族を殴っても、警察が介入する事件とはならない。あくまで家庭のプライバシー

²²⁸ Landinfo、ソマリア：アル・シャバブと強制結婚(Somalia: Al-Shabaab and forced marriage)、2012 年 7 月 6 日、p5、http://www.landinfo.no/asset/2156/1/2156_1.pdf 2013 年 5 月 31 日閲覧

の中で生じた事件である。家庭内暴力を暴力として認めない態度、通報、訴追、保護の仕組みの欠如が、女性に対する暴力の蔓延を助長している。」²²⁹

11.48 USSD 2012 report は、次のように記している。「臨時連邦憲章に、女性に対するいかなる形態の暴力も禁止する条項があるにも拘らず、女性に対する家庭内暴力は、深刻な問題として残っている。シャリア法も、慣習法も家族内紛争の解決方法を定めているが、これらは男性が作った規則である。家庭内の性的暴行は、一般的な性別による差別と関連し、深刻な問題であると報じられている。」²³⁰

この問題に関して更に詳しく知りたい場合は、性的暴行(sexual violence)の項を参照されたい。

11.49 Lifos FFM report 2013 は、次のように記している。

「夫/父親が家族、中でも女性を殴ることは、ソマリア文化で認められている。男性や女性が、自分の子供を殴ることもソマリア文化で認められている。Lifos は、家庭内暴力を禁じる法律があるとしても、骨抜き状態であると評価している。家庭内暴力の事件は、主に氏族制度や xeer の中で処理されるが、これらの制度で家庭内暴力がソマリア文化で認められていることを考えると、女性又は子どもにとって信頼できる保護の仕組みは存在しない。」

231

人身売買

人身売買(Trafficking)の項を参照されたい。

目次に戻る

女性に対する援助と支援

11.50 2013 年 5 月 17 日、CNN は次のように報じた。

²²⁹ 国連人権委員会、国連特別報道官による報告書、女性に対する暴力、その原因と結果、Rashida Manjoo のソマリア現地調査(Report of the Special Rapporteur on violence against women, its causes and consequences), Rashida Manjoo's Mission to Somalia、2012 年 5 月 14 日、p6、http://www.ohchr.org/Documents/HRBodies/HRCouncil/RegularSession/Session20/A-HRC-20-16-Add3_en.pdf 2013 年 5 月 31 日閲覧

²³⁰ 米国国務省、2012 Report on Human Rights Practices in Somalia、セクション 6、2013 年 4 月 19 日、<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dld=204165> 2013 年 5 月 31 日閲覧

²³¹ Lifos, Kvinnor och barn i Somalia. Rapport från utredningsresa till Nairobi, Kenya och Mogadishu, Hargeisa och Boosaaso i Somalia i juni 2012、2013 年 6 月 5 日
<http://lifos.migrationsverket.se/dokument?documentAttachmentId=39750> 2013 年 6 月 10 日閲覧

「ソマリアの首都モガディシュにある世界から隔離された教室で、生徒たちが綴り方を練習している。年齢 6～11 歳のこれらの少女は、ある共通点を持つ：強姦された、又は、愛する人が強姦されたという苦しみを体験したのである。ある 6 歳の少女も強姦の被害者である。クラスの最年少である彼女は、綴り方の授業に着いて行けないが、一緒に手を叩いて喜んでいる。教室に隣接する保健室では、7 歳の男児と母親が、健康診断に来ている。母親は強姦され、その後、息子に対する性的いたづらを無力に見つめているしかなかった... この教室と保健室は、どちらもエルマン平和及び人権センターの施設の一部である。2011 年に創設されたこの施設は、ソマリアで初めての強姦危機管理センターである。現在、同センターは、モガディシュ内外に拠点を持ち、ソマリアで急増する性的暴行の被害者のための安息所を提供している... 過去数十年間で初めて、ソマリアに希望の光が見えてきた。人気の高いハッサン・シェイク・モハムド(Hassan Sheikh Mohamud)大統領が就任したことと、国の大部分で治安が改善されたことである。しかし、ソマリア人女性の苦難は、殆ど解決されていない。センターの職員が、モガディシュとその近郊で発生した性的暴行事件の状況を多少把握したものの、遠く離れた地域での状況は、殆ど判っていない... 昨年、新しい大統領が任命された時、性犯罪を働いた者を処罰するとした公的宣言は、即座に効果をもたらしたと[センターの創設者 Ilwad] Elman は語る。しかし、事態はその後の出来事により後退し、進歩は取り消しになった。2013 年 2 月、Lui Ali Osman Barake は、政府軍兵士に強姦されたことを記事にし、メディアで大きく取り上げられた... しかし、犯罪を通報した時、Barake は政府の名誉を汚したとして逮捕された。結局、国際社会がソマリア政府を激しく非難したため、Barake は釈放されたが、犯人たちは未だに処罰されていないという。そして、CNN が対談した多くの女性と同様、犯人たちは永久に処罰されることは無いだろうと考えている... ソマリアのアブディ・ファラ・シルドン首相は、問題があることは認めたが、対応していると主張する。『ソマリアには、有効な政府が長きに渡って存在せず、国民は混乱している... しかし、今、我々は秩序を正し、... 過去を断ち切るのだ。』シルドン首相は CNN にこう語った。『可能なことは全て実行している。女性や少女の安全を確保するため、できることは全て行っている。警察署長を新たに任命し、司法制度の改革も進めている、又、... 女性や子どもが限りなく安全に暮らせるよう、新しい政策を練っているところだ。』

「しかし、女性解放運動の活動家は、女性は既に心にダメージを受けてしまったのかもしれないと考えている。『女性が強姦の被害を通報することは、以前に比べて非常に難しくなった。』エルマンは語った。『ある明確なメッセージが女性たちに送られた：強姦の被害を訴え出れば、犯人が罰せられる可能性と同等に、自分が犯人として投獄される可能性がある。強姦の被害者となった女性にとって、訴え出ることが難しくなっただけではない。性的暴行を根絶するため、又は性的暴行に対抗するため、これらの女性と共に活動している人々にとっても、事態は困難になったのである。』

『この 3 ヶ月間、強姦被害の通報の件数が劇的に減った。以前の 60% 近くである...』センター(Elman Peace and Human Rights Center)で支援を受けた女性たちが、他の被害女性を支援し、女性を支援するサービスがあることを口頭で伝える。自分でセンターを探し当てる女性、外でセンターの職員と面談する女性もいると Elman は語った。国連は、英国の資金援助を受けた性的暴行の専門家チームを派遣し、ソマリア政府が女性保護プログラムを構築することを支援する予定である。今月、英国政府とソマリア政府によりロンドンで開催された国際ドナー会議で、代表団は、協力して性的暴行を撲滅することを誓った。この問題は、6 月に英国主催で開催される G8 首脳会談でも議題として取り上げられる予定である。『しかし、これほど多くの危急の問題を抱える国に変化をもたらすには、時間と資金が必要である。』英国の在ソマリア大使 Matt Baugh は CNN に語った。『成功する保証はない』が、国際社会が支援することによって、ソマリア政府が宣言通り、性的暴行を撲滅できる可能性は高まるだろう。」²³²

11.51 IRIN は、2013 年 5 月 28 日付のニュース報道で、次のように報じた。

「刑罰を厳格化し、伝統的な司法制度への依存度を低くすることで、自称独立国家ソマリランド共和国で増加する強姦事件に歯止めをかけることができるかもしれないと官僚は語る。」

『ソマリランドでは、2011 年には 4,000 件だった強姦事件が、2012 年には約 5,000 件発生したと推定される。』ソマリランド労働社会省(Ministry of Labour and Social Affairs)社会問題ディレクター(director of social affairs)Abdi Abdillahi Hassan は、IRIN にこう語った。又、『ジェンダーに基づく暴力の発生率に関するソマリランドのデータは無い。』と付け加えた。」

「ソマリランドの首都にある Hargeisa Group Hospital の SARC: Sexual Assaults Referral Centre (Baahi-Koob としても知られる)の記録も、強姦事件が増えていることを示している。『2012 年、センターには 195 件の通報が寄せられた。因みに 2011 年は 130 件だった。』SARC のディレクターAhmed Dahir Aden は IRIN にこう語った。報告があったのは、主にハルゲイサ付近で起こった事件である。」

「殆どの強姦の被害者は医療処置を求めない。医療処置を求める場合も、かなりの時間が経過してから病院を訪ねる。『被害女性の多くは、強姦されてから 24 時間以内に Baahi-Koob

²³² CNN、ソマリア人女性を支援する強姦危機管理センターの中で(Inside the rape crisis center that's helping Somalia's women)、2013 年 5 月 17 日、
<http://edition.cnn.com/2013/05/17/world/africa/somalia-rape> 2013 年 6 月 10 日閲覧

に到着していない。その結果、医療チームが強姦の証拠を発見することは難しい。』Aden はこう語った。」

「ソマリランドにおける強姦事件の発生状況は、把握することが難しい。殆どの事件は、通報されないか、家族内で解決される。」

「ソマリランドでは、強姦罪は懲役 5～15 年の刑に相当するが、事件は裁判所に持ち込まれることなく、犯人が代償を支払うか、被害者と結婚することによって、伝統的な長老の裁量で解決されることが多い。」

「例えば、犯人の家族が被害者の家族にある程度の代償を支払う場合もあると、SOYDA: Somaliland Youth Development Association の会長 Faiza Yusuf Ahmed は語った。『加えて、事件が裁判所で処理され、犯人が懲役刑を受ける場合もある。しかし、犯人が刑期に比例した罰金を支払い、釈放されることもある。こうした理由から、強姦を減らしたいならば、伝統的な解決方法と、刑期の買収の両方を止める必要がある。』」²³³

目次に戻る

女性の健康

このセクションでは、ソマリアの女性の保健、及び、女性が受けられる医療に関する概要を示す。ソマリアの一般的な医療については、医療問題(Medical issues)の項を参照されたい。

11.52 UNICEF が 2013 年 6 月 3 日に発行したレポート『世界の子供たちの状態 2013(State of the World's Children 2013)』は、ソマリアの女性に関し、以下のデータを提供している。²³⁴

平均寿命: 男性の平均寿命を 100 とした女性の平均寿命		2011	106
避妊の普及率(%)		2007-2012	15
産前ケア受診率 (%)	最低 1 回	2007-2012	26
	最低 4 回		6

²³³ IRIN、ソマリランドで強姦を抑止するための厳罰化、正式な司法制度(Stiffer penalties, formal justice to curb rape in Somaliland)、2013 年 5 月 28 日、
<http://www.irinnews.org/report/98116/stiffer-penalties-formal-justice-to-curb-rape-in-somaliland>
Date accessed 10 June 2013 年 6 月 10 日閲覧

²³⁴ UNICEF、世界の子供たちの状態 2013、統計、図表(State of the World's Children 2013)、Statistics, Table 8)、2013 年 6 月 3 日、
http://www.unicef.org/sowc2013/files/Table_8_Stat_Tables_SWCR2013_ENGLISH.pdf
2013 年 6 月 10 日閲覧

分娩時ケア受診率 (%)	熟練助産師の立会い	2007-2012	33
	保健施設での出産		9
母体死亡率(%)	2007-2011	報告件数	1000
	2010	調整件数	1000
		生涯母体死亡率: 1 人/?人	16

11.53 2013 年 5 月付の WHO の記事は、次のように記している。

「産間調節、安全な出産、出産前/出産後ケアを求める人が急速に増える中、ソマリアの生殖医療プログラムが新しい境地を開いている。」

「2010 年当時、20 年間に渡る内戦、飢饉、及び保健部門の崩壊により、ソマリア国民の 80%が基本的医療を受けられなくなっていた。熟練した助産師の立会いの下での出産、又は、家族計画－若しくは『産間調節』－のサービスは、ソマリア人女性の大多数にとって、遠い夢であり、14 件中 1 件の妊娠で、母親が死亡する... しかし、ソマリア新政府が公共の保健サービスの再構築を開始したことにより、かなりの数の女性が、その夢を実現しつつある。」

「第 1 の段階は、ソマリア生殖医療国家戦略・行動計画 2010-2015(Somali Reproductive Health National Strategy and Action Plan 2010-2015)を構築することであった。この行動計画には、3 つの目的がある：産間調節、安全な分娩、及び女性器切除など有害な慣習の撤廃である。」

「WHO は、3 地域の保健医療当局を支援するために UNFPA: 国連人口基金(United Nations Population Fund)や UNICEF と共働し、行動計画の立案と実施のために、人間開発公共サービス省(Ministry of Human Development and Public Service)傘下の新保健局(Directorate of Health)と共働するなど、一連の国際 NGO と協力して活動した。」

「初期の段階で、提携関係にある全ての機関が、熟練助産師の養成、産間調節サービスの普及に努めた... 行動計画の核となる要素は、人材の養成であった。2012 年、WHO は、ソマリア中南部で、清潔で安全な分娩を支援する早期紹介制の助産師 200 人を養成した。更に、200 人の医療従事者、主に助産師が、基本的・総合的な産科救急ケア(Basic and Comprehensive Emergency Obstetric Care)の訓練を受けた。

「UNFPA は、助産師養成学校を 7 校設立した。今までに、125 名の地域助産師が卒業している。ポピュレーションサービス インターナショナル(PSI: Population Service International)、

及びその他の NGO は、熟練助産師、公共医療施設に勤務する新米医師など、500 人以上の医療従事者を養成し、産間調節に関する情報を提供している。」

「PSI 及び保健医療当局は、ソマリランドで 300 以上の薬局を通じ、近代的な産間調節の方法を紹介し、カウンセリングを担当する薬局と保健所の職員を訓練した。」

「内戦が最初に終結した地域として、2010 年に産間調節に関する取組みを率先して開始したソマリランドでは、18,000 人以上の女性が、『個人間通信』の授業を通して生殖医療に関する必須情報を学習した。今では、1,300 人以上の女性が、近代的な産間調節の手法を取り入れ、自分自身と子どもたちの健康を向上させるのに役立てている... 大きな進歩が見られたが、ソマリアで、産間調節サービス、助産師立会いの下での出産、出産前/出産後ケアを、望む全ての人に提供できるようになるまでには、まだ長い道のりがある。」

「WHO は、産間調節、及びその他の生殖医療サービスを可能にする政策を構築、実施するため、保健医療当局を支援し続けている。」

「WHO ソマリア代表の Dr. Marthe Everard は、次のように語った。『ソマリア人女性が、産間調節をはじめとする全ての必須生殖医療サービスにおいて、助産師の支援を受けられるようにする目標は、これら特定のサービスを向上させ、医療制度を全般的に強化する巨大な取組みの一部である。ソマリアの保健医療当局は、こうしたサービスの拡張に懸命に取り組んでいる。WHO、及び WHO と共働する国連や NGO は、これを実現するために支援を提供する用意がある。』」²³⁵

目次に戻る

12. 児童

このセクションは女性についてのセクションに関連して読むこと。

概観

12.01 2012 年 8 月 27 日の児童および武力紛争に関する国連安全保障理事会報告 5 番目の分野横断的報告は事例研究としてソマリアを取り上げ、次のように述べた。「児童は、数十年間の間ソマリアにおける紛争によって直接影響を受けた。彼らは殺害され、不具にされ、学校に対する攻撃と同様、兵士としての強制的な採用、強制結婚および強姦をされるなどして、苦痛を与えられた。他の民間人と一緒に、彼らも 1990 年代の初頭以来ずっと、

²³⁵ 世界保健機構、ソマリアの新生殖医療戦略の中核にある助産師(Midwives at heart of Somalia's new reproductive health strategy)、2013 年 5 月、
http://www.who.int/features/2013/somalia_skilled_birth_attendants/en/ 2013 年 6 月 10 日閲覧

厳しくソマリアに打撃を与えている人道危機によって影響を受けた。」²³⁶

12.02 2012 年 2 月 20 日に公表されたヒューマン・ライツ・ウォッチの報告書、「居場所のない子供たち」で次のように述べている。

「2011 年の国連人権会議での普遍的定期レビュー会議中に、暫定連邦政府 (Transitional Federal Government) は、子どもの権利条約(CRC : Convention on the Rights of the Child)、および武力紛争(CRC 選択議定書)における子供たちの関与に関する子どもの権利条約への選択議定書の承認に取り組んだ。」

ソマリアは両条約に署名したが、まだそれらを批准しなかった…ソマリアが 1991 年に署名したが批准していない子どもの権利および福祉に関するアフリカ憲章はさらに、締約国は「児童が戦闘に直接に参加しないことおよび特にいかなる児童をも徴兵しないことを保証するために必要な措置をすべて取る」ことを規定している。²³⁷

12.03 ユニセフの国別ページのソマリア (日付なし、2013 年 6 月 13 日にアクセスされた) では次のように記載されている。

「2012 年、ソマリアは政治、人道主義への権利、および食糧安全保障の点から肯定的な活動が見られたが、大多数の子供たちは世界で最も厳しい脆弱性および貧困に苦しみ続けた。多数が、未だユニセフの支援の手の届かないところにある。」

「2012 年 8 月 1 日に、モガディシュ (Mogadishu) の全国憲法制定会議は、児童の権利を大いに強化する暫定憲法を採択した。…ユニセフが支援している FSNAU Post-Gu 栄養分析および共同報告書によれば、児童は、実際 16%が鋭く栄養不良で、3.5%が極度の栄養不良に苦しみ続けている。複数の要因によって、不安定、人道的なアクセスに対する制限、対処メカニズムの縮小、作物の不振;市場へのアクセスの不足、商用および集団移動の制限、収入を生む機会の不足、および根深い貧困を含む継続的な悲惨な状況が作り出されている。食物入手は高値によって非常に困難になっている。」

「ソマリア人の児童の 10 人に 1 人が最初の誕生日前に死亡し、12 人に 1 人の女性が妊娠に関連する原因で死亡する。ソマリアには、世界で免疫のない児童が最も多くいる国の 1

²³⁶ 国連安全保障理事会のレポートの子ども及び武力紛争に関する 5 番目の分野横断的レポート、2012 年 8 月 27 日、p24。

<http://www.securitycouncilreport.org/cross-cutting-report/cross-cutting-report-no-3-children-and-armed-conflict.php> 2013 年 6 月 20 日閲覧

²³⁷ ヒューマンライツウォッチ、子どもにふさわしい場所はない、2012 年 2 月 20 日、http://www.hrw.org/sites/default/files/reports/somalia0212ForUpload_0.pdf 2013 年 7 月 18 日閲覧

つであり、このようにポリオと麻疹のようなワクチンで防ぐことのできる病気の宝庫である。健康の損失に至る要因は、ほとんど政策のない、非常に弱い保険制度、貧弱なインフラ、少ない人的資源、危険、サービスの低需要、および能力の低いパートナーにある。」²³⁸

12.04 ユニセフは、2013 年 1 月の「Fast Fact」という出版物の中で、ソマリアにおける児童に影響する次の問題に注目した：

- ・ソマリアの児童および産婦死亡率は、世界で最も高い。10 人に 1 人の児童が最初の誕生日前に死亡し、1000 人に 12 人の女性が出産と関係する合併症により死亡する。
- ・ソマリアは、予防接種範囲の比率では世界最低の 1 つにランクする。
- ・南部のほとんどの地方では、5 人に 1 人の児童がひどい栄養不良であり、15 人に 1 人は著しく栄養不良で、死亡の危険が非常に高い。
- ・安全な水にアクセスできるのは総人口の 30%だけであり、南部の最も汚染された地域では 20%の人だけである。約 110 万人が国内避難民となっている。
- ・それらの 60%近くは児童である。
- ・小学校レベルの全体の就学率はちょうど 33%以上であり、女性の 75%は読み書きができない。
- ・15-49 歳の女性(98%)のほとんどが、女性器切除 (FGM/C)を余儀なくされる。
- ・武力衝突における、9 歳の児童の持続的な雇用と使用。²³⁹

ソマリアの児童に関する社会経済的データは、とりわけ小児死亡率、栄養、健康状態、HIV/エイズの流行および治療、教育、人口統計学および経済指標、および児童保護を取り扱っているが、2013 年 2 月付けの UNICEF の世界の子供たちの状況の付属書類において利用可能である。²⁴⁰

目次に戻る

法的権利

12.05 AP 通信社は 2012 年 8 月 8 日に以下のように報告した：

「先週、ソマリの指導者たちは、児童に与えられた権利を大幅に拡張する、新しい暫定憲法に投票した。その憲法は児童労働を禁止し、ネグレクトと虐待から子供たちを保護する。またそれは、児童兵士の使用および児童婚姻を禁止する。すべての子供が親から世話をさ

²³⁸ ユニセフ(ソマリアの女性及び子どもの状況)、日付なし、
<http://www.unicef.org/somalia/children.html> 2013 年 6 月 13 日閲覧

²³⁹ ユニセフ、ソマリアの不変の事実、2013 年 1 月、
http://www.unicef.org/somalia/SOM_resources_fastfacts_Jan2013.pdf 2013 年 6 月 14 日閲覧

²⁴⁰ AP 通信社 ソマリア憲法は子どもに大きな約束をする。2012 年 8 月 8 日、
<http://bigstory.ap.org/article/somali-constitution-makes-big-promises-children> 2013 年 6 月 14 日閲覧

れる権利があり、ソマリアのすべての人々が、中等学校まで無償教育を受ける権利を持っている、と記載されている。」

「指導者の児童に対する保護を拡大しようという善意にもかかわらず、ほとんどの新しい権利は、わずか 10 歳であるアブディ（Abdi）のような子供たちにとっては遠い夢のままである。

貧困に陥った未熟な政府がモガディシュ（Mogadishu）およびその環境のみ統制し、基本サービスを提供することができない」

12.06 2012 年 9 月 7 日に公表された憲法草案の第 29 条は以下のように述べている。

- (1)すべての児童は、誕生から正当な名前および国籍に対する権利を持っている。
- (2)すべての児童は、酷使、ネグレクト、虐待又は不名誉から保護される権利を持っている。
- (3)いかなる児童もその年齢にふさわしくない仕事、或いは労働を執行してはならないし、また、決して、児童の健康或いは発達を損なう危険を引き起こしてはならない。
- (4)すべての児童は限られた時間、適切な状態で、最後の手段としてのみ拘留されることができる。児童の肉親家族を例外として成人とは各々に拘留されなければならない。児童の肉親は可能な限り早く児童の拘留について通知されなければならない。
- (5)すべての児童は、児童がそうでなければ不公平に苦しむ可能性がある場合、国が支払った法律扶助を受ける権利を有するものとする。
- (6)すべての児童は、武力紛争から保護され、かつ武力紛争の中で使用されない権利を持っている。
- (7)児童に関するあらゆる問題の中で、子どもの最善の利益は極めて重要である。
- (8)この項において、単語「児童」は 18 歳未満の人物を意味する。²⁴¹

ソマリアの子供たちの権利に関する一般情報については、[児童権利情報ネットワーク](#)を参

²⁴¹ ソマリア連邦共和国、草案憲法、2012 年 9 月 7 日、
<http://unpos.unmissions.org/LinkClick.aspx?fileticket=RkJTOSpoMME=> 2013 年 6 月 14 日閲覧

照すること。

目次に戻る

児童に対する暴力

12.07 2013 年 5 月 31 日に公表された国連安全保障理事会のソマリアに関する事務総長の報告書は、以下のように述べた：

「児童に対する合計 552 の重大な侵害が 2013 年の第 1 四半期に確認された。2012 年の同じ期間に報告された 1,288 のケースから半分以上減少している。報告された侵害は以下の通りである。37 人が殺害された。(少年 27 人、少女 10 人)、63 人が不具にされた。(少年 43 人、少女 20 人)、219 人が兵士として徴募された。(少年 214 人、少女 5 人)、19 人が性的に虐待された(全て少女)、205 人が誘拐された(少年 187 人、少女 18 人)、7 回の学校襲撃 1 回の病院襲撃人道主義的アクセスを 1 回拒否された。誘拐の比率が懸念されるほど高いままである一方、殺害、不具にすること、および新兵徴募における減少傾向は、アル・シャバーブと政府軍の間の公然の戦闘の減少に起因する。」

「全体として、報告されている大部分の侵害はアル・シャバーブ(63 パーセント)によって行われ、その次にソマリア国軍 (27 パーセント) であった。これは 2012 年における同時期と比較している。アル・シャバーブが、ほとんどの誘拐 (63%)、新兵徴用 (82%)、性的暴力 (42%)、学校への襲撃 (71 パーセント) を犯す一方で、ソマリア国民軍と同盟民兵は殺害の主な加害者だった (38 パーセント)

「連邦政府と国連は、新兵徴募、使用、殺害および児童の不具にすることを撲滅することを目指した行動計画の実行を目指して励んでいる。ソマリア国軍は再統合のためにユニセフに 41 人の児童を解放するプロセスを進めている。さらに、児童の釈放および引き渡し用の手順書を正式に採択することに関する討議は、国防省、内政部およびアフリカ連合ソマリア平和維持部隊 (AMISOM) と進行中である。」²⁴²

12.08 2012 年の事件を対象にしている 2013 年 4 月 19 日に公表された、ソマリアにおける人権の実践に関する 2012 年米務省国別報告書(USSD 2012 年報告書)は、こう述べている。それらの蔓延に関する統計は入手不可能だったが、児童の児童虐待および強姦は深

²⁴² 国連安全保障理事会、ソマリアに関する事務局長のレポート、2013 年 5 月 31 日、p9、
http://www.un.org/ga/search/view_doc.asp?symbol=S/2013/326 2013 年 6 月 13 日閲覧

刻な問題だった。これらの慣習を撲滅するような地域政府による特別な努力はなかった。児童は依然として継続的な社会の暴力の中心的な犠牲者であった。²⁴³

12.09 2013 年 5 月 15 日に公表された児童と武力紛争に関する事務総長の国連安全保障理事会の報告書は次のように述べている。

「2012 年には、国の機動部隊が、296 人の児童が殺害される事例(少年 228 人および少女 62 人)および 485 人の児童が不具にされる事例(少年 326 人および少女 132 人の)を確認した。殺害は、未知の武装グループ(111)、アル・シャバーブ(94)および国軍(70)によって行われた。世界保健機構によれば、モガディシュ (Mogadishu) の 4 軒の大病院は、調査期間中に 5 歳未満の 230 人の児童の武器関連の負傷者を扱った。国の機動部隊によって確認されたほとんどの事件は十字砲火と迫撃砲の襲撃を含んでいた。例えば、2012 年 3 月 10 日に、流れ弾によって 11~14 歳の児童 3 人がアル・シャバーブと、Berdaale 地域の Yurkud 村において湾領域の国軍との戦闘中に負傷した。申し立てによると、児童もスパイ行為をして死亡した。申し立てによると 2012 年 1 月 18 日に、アル・シャバーブに関連した 15 歳の少年は、国軍のためにスパイ行為をしたために Rabdhure 地域(Bakool 地域)の中でアル・シャバーブによって殺害された。2012 年 9 月 16 日に、国の機動部隊は、低シャビール e 地域の Afgoye 地域において国軍が関係する児童の虐待の申し立てを受け取った。信頼できる情報筋によれば、国軍は、アル・シャバーブ構成員である容疑で 10 人の児童を逮捕し拘留した。警察の拘留中、彼らが拷問に等しい虐待および行為に晒された疑いがある。しかしながら、その情報を確認することができなかった。」

「報告期間に、国の機動部隊は、大体が中央・南ソマリアにおいて、210 人の少女および 3 人の少年に対して犯された性的暴行の 213 事例の報告書を受け取った。事件は、国軍(119)、アル・シャバーブ(51)および未知の武装グループ(43)に起因した。新政府の移行期間および設立の終了に続いて、政府は、性的暴行がその国軍によって行われており、そのような侵害を終わらせることを確約したことを認めたと 2012 年 11 月 25 日に声明を発表した。我が特使は問題を扱うために断固として政府と仕事をするだろう。」

「報告期間に、アル・シャバーブ(51)および国軍(14)は、さらに学校に対する襲撃に関与していた。アル・シャバーブは、ヒラン州 (Hiran)(4)、低ジュバ (Lower Juba) (4)、中央シャベル (Middle Shabelle) (2)および中央ジュバ (Middle Juba) (1)における 2012 年の病院に対する更に 11 襲撃にも関与していた。」

²⁴³ 米国国務省、ソマリアの人権実践に関するレポート、セクション 6、2013 年 4 月 19 日、<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dld=204165> 2013 年 6 月 17 日閲覧

「国の機動部隊は、報告期間に誘拐(少年 1,458 人、および少女 75 人)の 1,533 のケースについての情報を得た。大部分は中央・南ソマリアにおいて報告され、アル・シャバーブ(780)および国軍および連合した民兵組織(720)によって行われた。例えば 2012 年 5 月 28 日に、12～17 歳の間の約 30 人の児童がアル・シャバーブの構成員であることの容疑で Afgoye corridor(低シャビール地域)における国軍によって拘留された。国の機動部隊は、この事件に関して徹底的に追跡する。しかしながら、ソマリアのほとんどの南および中央部は不安定な治安情勢のために、アクセス不能なままだった。2012 年 7 月 3 日に、暫定的な連邦政府は、児童の新兵徴募および使用を終了する行動計画に署名した。また、2012 年 8 月 6 日に児童を殺害し、不具にすることを止める別の行動計画に署名した。しかしながら、それらの実行へ移すことは、選挙期間および新政府の任命のために制限された。大統領はそれにもかかわらず、両方の行動計画を実行することを強く約束した。政府は、それが国軍の中への児童の新兵徴募を禁止する厳密なガイドラインを出しており、行動計画の実行が計画策定プロセスにあった」と報告した。

「2012 年 10 月に、政府は国連とともに、行動計画の調整と実施を担当する合同技術委員会を設立した。2012 年 10 月 7 日および、8 日に、国の機動部隊は国防省と内政部と共に捕えられ、降伏し、そうしなければ武装グループから分離され、国軍或いはアフリカ連合ソマリア平和維持部隊 (AMISOM) に拘留されることになる児童の扱いと解放の手順書を完成させるために検証ワークショップを開催した。それにもかかわらず、AMISOM は民間の死傷者を減らす努力をし、民間の緊急治療室、追跡、分析および回答セルの実行において遅い進歩は得られた。しかしながら、AMISOM は、すべての AMISOM 部隊のための配置前研修の一環として、女性や子どもの保護に関する研修を制定した。」²⁴⁴

治安情勢を参照すること。さらに治安部隊、治安部隊による人権侵害のサブセクション、非政府武装グループおよびエスニック・グループを参照のこと。

人身売買

人身売買を参照。

目次に戻る

女性器切除(FGM : Female Genital Mutilation)

²⁴⁴ 国連安全保障理事会、子ども及び武力紛争に関する事務局長のレポート、2013 年 5 月 15 日、p28-29、2013 年 6 月 14 日にアクセスされた http://www.un.org/ga/search/view_doc.asp?symbol=S/2013/245

このセクションは、少女児童に対する FGM の影響についての情報を提供する。FGM が、社会的態度を含む成人の女性にどのように影響するかに関する情報は、女性：FGMを参照すること。

法律

12.10 2012 年 8 月 12 日に公表された統合地域情報ネットワーク (IRIN : Integrated Regional Information Networks、以下 IRIN) のニュース記事は次のように伝えた。

「活動家は、ソマリア、女性の 96 パーセントがより極端な形式の慣行のうちの 1 つを経験する国、の新しい憲法中の女性器切除(FGM/C)の禁止を歓迎した。しかし、法律を行動に移すことは単なる法的な発表を越えるものを必要とするだろうと警告する。」

「新しい暫定憲法が、少女の割礼を禁じているという事実は歓迎すべき進歩である、しかしこれには教育と自覚を促すような強い法的規定が必要である。これなしには、規定は紙の上のインクに過ぎない。」女性の擁護者である Fatima Jibrell が IRIN に語った。

暫定憲法は、「少女の割礼が残酷で品位を下げる慣行であり、拷問に等しい。少女の割礼は禁止されている」と述べた。²⁴⁵

12.11 2013 年 2 月 27 日に掲載されたユニセフによる記事は次のように書かれている。憲法に従って、FGM/C の形式をすべて禁止する草案の決定は、承認を求めて政府に発表する前に宗教指導者からのコンセンサスを待っている。」²⁴⁶

12.12 2012 年の USSD 報告書は次のように述べた：

「2011 年 12 月、プントランド (Puntland) の社長は女子割礼のいくつかの形式を禁止しているが、包皮(皮膚の伸縮自在のひだ)および／または陰核の先端の除去から成るスナ割礼を認めた草案に署名して、法律として成立させた。法律はさらに、児童が FGM/C の最中に死亡した場合でも、非難することを禁止した。人権労働者は概して、これを女権の保護における逆行と考えた。」

²⁴⁵ IRIN (Integrated Regional Information Networks, 統合地域情報ネットワーク)、ソマリア：活動家は FGM/C の禁止を称賛し、実現するためにはより多くのことを必要とすると言う。2012 年 8 月 12 日、<http://www.irinnews.org/report/96092/> 2013 年 6 月 17 日閲覧

²⁴⁶ ユニセフ、これを最後にソマリアにおける女性性器切除/切断の放棄に向けて、2013 年 2 月 27 日、http://www.unicef.org/infobycountry/somalia_68110.html 2013 年 6 月 17 日にアクセス

「ソマリランド (Somaliland) 政権は、ソマリランドに対する FGM/C 政策を発展させるために国連 FGM/C 機動部隊と協働した。しかし、政策は年末までに完成しなかった。」²⁴⁷

目次に戻る

実行された FGM のタイプおよび蔓延

12.13 2012 年 8 月 12 日付けの IRIN ニュース記事は次のように伝えた。ソマリアでは、FGM/C の最も一般的な形式は陰部封鎖として知られているタイプ III である。それは、世界保健機構によれば、「部分の除去又は外性器(陰核、小陰唇および大陰唇)のすべて、および膣口の縫い合わせ、かつ/または狭くすることを含む」。²⁴⁸ 人口問題研究所 (Population Reference Bureau) 文書、女性器切除:2010 年に公表されたデータと傾向によると、ソマリアにおける 15-49 歳の女性の 97.9 パーセントに蔓延している。²⁴⁹

12.14 トムソン・ロイターは 2013 年 4 月 16 日に報告した……2011 年にプントランド中の 9,000 の家族およびソマリランド中のユニセフによって実行された調査……それを示す。ソマリランドの半自治の北部地域では、15 歳以上の女性の 99 パーセントと比較して、0～14 歳の少女の 25 パーセントが、割礼を受けてきた。近隣のプントランド (Puntland) では、15 歳以上の女性の 98 パーセントと比較して、0～14 歳の少女の 26 パーセントが割礼を受けてきた。²⁵⁰

12.15 2012 年の USSD 報告書は次のように述べた。暫定連邦憲法は、女子割礼を残酷で、品位を下げるものと評し、拷問とそれを同一視し、少女の割礼を禁止する。しかしながら、女性器切除(FGM/C)は国の至る所に広まっていた。女性と少女の 98 パーセントも FGM/C を経験した。多数は FGM/C の最も厳しい形式である陰部封鎖に従った。国際的および地方の NGO は FGM/C の危険性に関して、だがそこに教育認識プログラムを実行した。しかしこれらのプログラムの結果を測定する信頼できる統計はなかった。²⁵¹

²⁴⁷ 米国国務省、ソマリアの人権実践に関するレポート、セクション 6、2013 年 4 月 19 日、<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dliid=204165> 2013 年 6 月 17 日閲覧

²⁴⁸ IRIN (Integrated Regional Information Networks, 統合地域情報ネットワーク)、ソマリア: 活動家は FGM/C の禁止を称賛し、実現するためにはより多くのことを必要とすると言う。2012 年 8 月 12 日、<http://www.irinnews.org/report/96092/> 2013 年 6 月 17 日閲覧

²⁴⁹ 人口問題研究所(Population Reference Bureau)、女性性器切除/切断: データ及びトレンド、2010 年、p5 <https://www.prb.org/pdf10/fgm-wallchart2010.pdf> 、2011 年 12 月 22 日閲覧

²⁵⁰ トムソンロイター、ソマリア北部の少女の 75%は FGM を経験していない。Unicef、2013 年 4 月 16 日、<http://www.trust.org/item/?map=75-of-northern-somali-girls-have-not-undergone-fgm-unicef/> 2013 年 5 月 29 日閲覧

²⁵¹ 米国国務省、ソマリアの人権実践に関するレポート、セクション 6、2013 年 4 月 19 日、<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dliid=204165> 2013 年 6 月 17 日閲覧

12.16 FGM 問題の重要側面を要約した、より最近の研究があったが、見つかった最も総合的な出所は、2004 年 11 月のソマリアの女性器切除に関する世界銀行の研究である。

12.17 2008 年 12 月 10 日に公表された LandInfo 報告書、スーダンおよびソマリアの女性性器切除は、次のように述べた。いくつかの出所は、近年、陰部封鎖からスナナ[女性生殖器の一部の切除する]へ移行を観察したことを主張している。しかしながら、どのくらい大々的にパターンが変化したかについてどの程度まで確実であるかを確認することは困難である。スナナは沿岸地区の Benadir の住民に一般的である。これらの住民集団では、処置は新生児(同ページに)に実行される。²⁵²2004 年の世界銀行調査では、スナナという用語の使用を拒否している。著者がその用語がその慣行に対し、宗教的な義務および承認であるとの錯覚を与える婉曲表現であると考えているからである。²⁵³2004 年の世界銀行調査は次のように述べた:タイプ II 又は陰核の切除は、アフリカにおける全ての手術の 80 パーセントを占める。ソマリおよびスーダンの女性の中で、80~90 パーセントはタイプ III 又は陰部封鎖を経験する。それは、アフリカにおける事例の 15 パーセントのみである。ケニアおよびエチオピアのソマリ族は陰部封鎖を行う。これはまた、エチオピアとエリトリアにおける他の民族グループに一般的である。²⁵⁴陰部封鎖に対するソマリ語の用語は gudnin fircooni である。²⁵⁵

12.18 影響を受けた多くの女性および使用される様々な FGM の形式に関するこれらの観察結果は、中央・南ソマリアの人権および安全に関する報告書のようなより古い資料に反映されている。2004 年 1 月 7-21 日ナイロビへの英国・北欧合同事実調査団報告 (JFFMR 2004 年 3 月) は以下のように述べた。

「ジョーンズ (Jones) によると、(ゲアリーP.ジョーンズ、国別担当局長、ソマリア、ケニアおよびジブチ、Norwegian People's Aid(NPA)、アフリカの角プログラム) FGM は、ソマリアにおいて依然として標準である。FGM の主な方法は「ファラオ」の形式(陰部封鎖)である。しかし依然として多数が FGM のより軽い型である「スナナ」を行っているだけだと主張するだろう。ジョーンズ (Jones) は、人々が「スナナ」が財政的援助を

²⁵² Landinfo、レポート：スーダン及びソマリアの女性性器切除、2008 年 12 月 10 日、p12、http://www.landinfo.no/asset/764/1/764_1.pdf 2011 年 5 月 2 日閲覧

²⁵³ 世界銀行、ソマリアの女性性器切除/切断、2004 年 11 月、p18、http://siteresources.worldbank.org/INTSOMALIA/Data%20and%20Reference/20316684/FGM_Final_Report.pdf 2009 年 8 月 28 日閲覧

²⁵⁴ 世界銀行、ソマリアの女性性器切除/切断、2004 年 11 月、p17、http://siteresources.worldbank.org/INTSOMALIA/Data%20and%20Reference/20316684/FGM_Final_Report.pdf 2009 年 8 月 28 日閲覧

²⁵⁵ 人道的問題の調整のための国連事務所、統合地方情報ネットワーク、ソマリランドの FGM/C に関する「一つのメッセージ」、2008 年 11 月 3 日、<http://www.irinnews.org/report.aspx?ReportId=81261> 2009 年 7 月 9 日閲覧

受けるように促進していることを説明してビジネスの視点からこれが成されていると述べた。しかしながら実際には、少女は通常通り同じ方法で割礼される。つまり「ファラオ」スタイルである。…ほぼ 100%の女性はソマリアにおいて FGM によって影響を受けている。ジョーンズは、この点において、ある地域において緩やかな進歩があったとしても、いかなる重要な変化も次の 15 年間で出現するとは思わなかった。FGM に対する態度を変えるのは非常に難しいということは強調された。また、若い少女に教育と情報を与えることはその問題に何らかの影響を与える、ただ一つの方法かもしれない。」²⁵⁶

12.19 FGM が実行される年齢が学童期である場合:2008 年 12 月の LandInfo 報告書は、それが一般にソマリアでは常に 5 歳から 8 歳の間であると述べた。また……そして国外に離散したソマリア難民においてはかなり年上で行われると述べた。²⁵⁷2004 年 3 月 JFFMR では 4 歳から 7 歳であると述べている。²⁵⁸2009 年 2 月の IRIN 報告書によれば、ケニアの Dadaab キャンプでは約 5 歳から 7 歳で完全な陰部封鎖が実行された。²⁵⁹2004 年の世界銀行調査は、少女は、現在 5 歳から 8 歳で、しばしばそれぞれの家でプライバシーを守りながら割礼されている。少女の包皮は今、しばしばそれらの家のプライバシー内に、5 歳と 8 歳の間で切られる。²⁶⁰

目次に戻る

FGM への社会的態度

12.20 2012 年 8 月 12 日に公表された新しい憲法(以下を参照)内の FGM の禁止に関する IRIN ニュース記事は、次のように述べた。

「ソマリアの女性はしばしば慣習を被らずに、結婚することができない。また、FGM/C が宗教の条件で、女性を純粋にし、性欲を縮小するという信条が依然として広まっている。」

²⁵⁶ 中央及び南ソマリアの人権及び安全に関するレポート: ナイロビへの英国北欧合同事実調査団 (Joint British-Nordic Fact-Finding Mission to Nairobi)、2004 年 1 月 7-21 日、2004 年 3 月 17 日発行、p33、<http://www.unhcr.org/refworld/docid/405b2d804.html> 2010 年 4 月 20 日閲覧

²⁵⁷ Landinfo、レポート: スーダン及びソマリアの女性性器切除、2008 年 12 月 10 日、p13、http://www.landinfo.no/asset/764/1/764_1.pdf 2011 年 5 月 2 日閲覧

²⁵⁸ 中央及び南ソマリアの人権及び安全に関するレポート: ナイロビへの英国北欧合同事実調査団 (Joint British-Nordic Fact-Finding Mission to Nairobi)、2004 年 1 月 7-21 日、2004 年 3 月 17 日発行、p33、<http://www.unhcr.org/refworld/docid/405b2d804.html> 2010 年 4 月 20 日閲覧

²⁵⁹ 人道的問題の調整のための国連事務所、統合地方情報ネットワーク、Hawo Nagash、「誰かが私の娘を連れて行って割礼することが私の最も大きな不安である」2009 年 2 月、<http://www.irinnews.org/Report.aspx?ReportId=82837> 2009 年 4 月 14 日閲覧

²⁶⁰ 世界銀行、ソマリアの女性性器切除/切断、2004 年 11 月、p19、http://siteresources.worldbank.org/INTSOMALIA/Data%20and%20Reference/20316684/FGM_Final_Report.pdf 2009 年 8 月 28 日閲覧

「多くの男性および何人かの女性が、文化、イスラム又は純潔の問題の理由でそれに対立するだろう。」ファティマ・ジブレル (FATIMA JIBRELL) (女性の擁護者) は言った。

「我々の文化には FGM/C がある。憲法の執筆者はそれを知っている。また、彼らは、それを嫌うふりをしている。我々は、少女が純粋に保つのを助けたものを放棄することができない。」Jirde(ソマリ語長老)はケニアの首都ナイロビで IRIN に伝えた。

「あなたが真実のソマリ男性ならば割礼を受けていない女性と結婚することができないので、我々の男性は結婚する少女がいなくなってしまう。我々にお金を与えるのは、あなたは割礼を禁止しなければならず、そうすれば、我々がお金を与える、という人たちである。」という。Jirde は付け加えた。

「コミュニティの地位向上プログラム、そのような慣行の健康への影響の認識を高めること、およびイスラム教からの切り離しを実行すること。それらと根深い文化的信条との間に起こり得る衝突を回避するのを助け、法律に敬意を表しなければならない。」と専門家は IRIN に伝えた。

「全ての形態の FGM/C を中止することに関するコンセンサスを得るために、宗教の指導者たちと協力するには多くのことが必要である。少女たちに自分たちの割礼の状況を「はっきりと述べる」ことのでき、その状況に満足するためのしている地位向上プログラムは極めて重要である。現在、どの女性も少女も、聞いてもらえないために割礼を受けていないとされたくないからである。」シーマ・セン・グプタ (Sheema Sen Gupta) (ユニセフ・ソマリアの首席児童保護官)は、IRIN に伝えた。

「シーマは、新しい法律が、適切な地域社会参加なしで、その慣行の撲滅ではなく地下に追いやる危険があると IRIN に伝えた。我々が他の複数の国々から学習したように、コミュニティの社会的地位向上はその慣行が地下に追いやられることを回避するのに非常に重要である。」²⁶¹

反 FGM 措置

²⁶¹ IRIN (Integrated Regional Information Networks, 統合地域情報ネットワーク)、ソマリア：活動家は FGM/C の禁止を称賛し、実現するためにはより多くのことを必要とすると言う。2012 年 8 月 12 日、<http://www.irinnews.org/report/96092/> 2013 年 6 月 17 日閲覧

12.21 2013 年 2 月 27 日に掲載されたユニセフによる記事は、現在まで、北西ソマリアの FGM/C 中止に関する政策が確定した。一方、北東の地域では政策を確定させる作業が進行中であると伝えた。²⁶² 同じ記事はさらに、以下のように伝えた。

「1996 年以来、ユニセフは宗教、医療、コミュニティーおよび文化的観点からソマリアにおける FGM/C に取り組んできた。ユニセフはそれがイスラム教の期待および義務であるという広がった誤解を払拭するのを支援するために、国連人口基金（UNFPA）の下で宗教指導者と協力した。ユニセフ共同プログラム、児童保護委員会および擁護者はプントランド（Puntland）とソマリランド（Somaliland）で FGM/C 中止に関して 300,000 人以上の地域メンバーおよび利害関係者を会合に従事させた。共同のプログラムは、専門の省庁に技術支援を供給し、FGM/C の終了について議論し、コンセンサスに達するため、宗教指導者、若者、教師、女性および男性を集めた。2 月 6 日の FGM/C に対するゼロ容認の国際日を記念するイベントは、公開討論、コミュニティー・ドラマおよび他の活動を行い、30,000 人以上の地域メンバーに届いた。」²⁶³

12.22 ハルゲイサ（Hargeisa）の Edna Adan 病院は、FGM を受けた人々のために内科療法を行っている。

「Edna Adan 産科および教育病院は、ほとんど一日単位で FGM の悪影響および後遺症に直面する。……Edna Adan は、彼女の 50 年の助産経験においてこの性質の事例に対処してきた。また、この慣行の終了を見るために、生涯に渡って尽力し続けている。産院の設立、および FGM に対処するために、より必要とされるサービスと共に、病院が運動を主導することが必要になってきた。ここはソマリランドと地域において、FGM に関係のある全ての情報の宝庫に急速になってきている。病院は、FGM の有病率に関する基線データを持つために監査の作業を始めた。また、この報告書での調査はその先駆けとなる監査から得られる最初のデータである。また、それはソマリランドではその種の 1 番目であると考えられる。病院は、関係グループのために教育と鋭敏化セミナーを開催する。患者レベルでは、カウンセリングサービスは、FGM の犠牲者とその家族に提供される。この問題に取り組むために、経験、知識、施設、およびとりわけ献身と純粋な「意志」（原文のまま）ほど優れた機関はこの国にはない。」²⁶⁴

目次に戻る

児童兵

²⁶² ユニセフ、これを最後にソマリアにおける女性性器切除/切断の放棄に向けて、2013 年 2 月 27 日、http://www.unicef.org/infobycountry/somalia_68110.html 2013 年 6 月 17 日閲覧

²⁶³ ユニセフ、これを最後にソマリアにおける女性性器切除/切断の放棄に向けて、2013 年 2 月 27 日、http://www.unicef.org/infobycountry/somalia_68110.html 2013 年 6 月 17 日閲覧

²⁶⁴ Edna Adan 大学病院、女性性器切除、日付なし、「病院及び FGM」
<http://www.ednahospital.org/hospital-mission/female-genital-mutilation/> 2013 年 6 月 17 日閲覧

12.23 2013 年 5 月 15 日に公表された児童と武力紛争に関する事務総長の国連安全保障理事会の報告書によれば:

「2012 年には、国の機動部隊が、児童に対する侵害の 4,660 のケースを文書化した。その内 2,051 人が児童の新兵徴募および使用に関係があった。(少年 2,008 人、および少女 43 人) 伝えられるところによれば、児童は国内避難民のキャンプ、学校および農村から軍隊と武装グループによって徴募された。アル・シャバーブはさらに教師に生徒を徴募することを強制した。」

「アル・シャバーブが、主な犯人(新兵徴募の 1,789 の事例および児童の使用)だった。次がソマリ国軍(179 の事例)である。合計で 53 の事例が、暫定的な連邦政府が児童の新兵徴募および使用を停止させて、かつ防止するために 2012 年 7 月 3 日に行動計画に署名した後に起こった。2012 年 9 月 9 日に、16~17 歳の 5 人の少年がハイラン地域

(Hiran)Beletweine 地区の国軍によって徴募された。彼らは以前にアル・シャバーブに関係していて、政府軍に加わるために逃げた。さらに、2012 年 4 月に、少女がナショナル・シアターで特攻攻撃を行なったことが報告された。Ahlu Sunna Wal Jama'a(2012 年に国軍へ統合された政府連合民兵組織)は、新兵徴募の 51 の事例および児童の使用の原因だった。2012 年 2 月 18 日に、15~17 歳の間の 6 人の児童が Beletweine 地域の民兵組織によって徴募された。」²⁶⁵

12.24 2012 年 USSD 報告書は次のように報じた。

「国家治安部隊および連合した民兵組織中の児童兵の報告書は継続した。確立している出生届システムがないので、多くの場合、国家治安部隊新兵の正確な年齢を判断するのは難しかった。ソマリア暫定連邦政府 (TFG : Transitional Federal Government) は、それがアル・シャバーブに関係していると考えた児童を拘留したという報告が続いた。」

「ソマリア国民連合 (SNA : Somali National Alliance) は、児童兵の新兵徴募および使用を防止するために引き続きスクリーニング方法を採用した。SNA に公式に就任する前にソマリアの外部で国際的なパートナーによる訓練をされた SNA 新兵は、ウガンダの Bihanga に送られる前にインタビューを受けて医学的にスクリーニングされた。これらの SNA 新兵は、Bihanga でインタビューおよび医学的スクリーニングを含む複数のレベル

²⁶⁵ 国連安全保障理事会、子ども及び武力紛争に関する事務局長のレポート、2013 年 5 月 15 日、http://www.un.org/ga/search/view_doc.asp?symbol=S/2013/245 2013 年 6 月 14 日閲覧

の検査を受けなければならなかった。2012 年には Bihanga の中の検査で、訓練には未熟すぎるとして、581 人の新しい新兵から 15 人を識別した。」

「SNA は、その兵士をすべて収容するため十分な数の兵舎がなかった。SNA 兵士は、しばしば家族と自分の家に住んでいた。存在したモガディシュ (Mogadishu) 「キャンプ」は明らかに定義されなかったし区別もされず、家族がキャンプに入るのを妨げなかった。兵士の子供たちを含む家族は時々継続する「キャンプ」に現れていた。」

「7 月 3 日に、SNA による児童の新兵徴募および使用を終了するために、TFG は国連と行動計画に署名した。政府が TFG に取って代わった後、児童兵の中心的なポジションは欠員があったが、年末までに補充された。

国の多数のクラン(clan)および他の民兵組織に児童が含まれていたという報告が続いた。アフル・スンナ・ワルジャマー/セントラル (ASWJ) はユニセフと協力し、児童兵社会復帰プログラムに疑わしい児童兵を渡した進行中のプログラムを Dhusmareeb に持っていた。ASWJ/Gedo 軍は SNA で統合し、上級の SNA 将軍、国際軍事顧問および技術的なモニターで構成された国際的なチームによってその軍隊を綿密に調べた。

アル・シャバーブによる児童兵の使用は継続した。HRW によれば、アル・シャバーブ訓練キャンプの児童は厳しい体育、不適当な食事、武器訓練、体罰および宗教の訓練を受けて、他の児童の懲罰および処刑を目撃しなければならなかった。アル・シャバーブは、人質としての役割をさせるために他の戦士の前に彼らを置くなど、戦闘時に児童を使用した。また、自爆テロ犯としても児童を使用した。さらに、アル・シャバーブは、弾薬、水および食物を運ぶこと、負傷して死んだ戦闘員を連れ去ること、情報を集めること、および警備隊として仕えることのようなサポート任務で児童を使用した。国連によれば、アル・シャバーブは学校とイスラム学校から 8 歳という幼い児童を徴募した。この児童たちは路側爆弾および他の起爆装置を仕掛けるために時々使用された。ソマリの報道陣はしばしば「dugsi」や学校で児童を教え込み、強制的に彼らの集団に生徒を徴募するアル・シャバーブの記事を伝えた。」²⁶⁶

12.25 米 국무省が 2013 年 6 月 19 日に公表し、2012 年の出来事を対象とする「人身売買レポート 2013」は次のように述べた。

²⁶⁶ 米 국무省、ソマリアの人権実践に関するレポート、セクション 1g、2013 年 4 月 19 日、<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dliid=204165> 2013 年 6 月 17 日閲覧

「その年に、ソマリア国軍(SNA)、反 Shabaab 民兵組織、およびアフリカ連合ソマリア平和維持部隊(AMISOM)はアル・シャバーブに対する攻撃を継続した。国連はソマリ国軍に関連した児童を確認することを報告した。さらに、レポートは Ahlu Sunnah Wal Jama'a (ASWJ)民兵組織が児童を募集すると報告した。児童もソマリアの多数のクラン (clan) および他の民兵組織によって使用された。訓練には未熟すぎるものとして、ウガンダの基礎訓練への輸送の後の国際的な関係者による検査は、2012 年に 581 人の新しい新兵から 15 人の個人を確認した。ほとんどのソマリ族は出生証明書がない。また、確立している出生届システムなしで、武装グループに関連した人物の正確な年齢を判断することは困難なままである。報告期間に、アル・シャバーブは、数と資金調達において損失を出した。シャバーブの指導者たちは補助スタッフおよびしばしば最前線の兵士として児童兵を系統的に使用することにより、極度に依存するようになった。その管理下の地域の至る所で、アル・シャバーブは誘拐又は詐欺で、その民兵組織による使用のために、頻繁に 8 歳という若い児童を徴募した。それはコーランの学校および他の教育機関の両方で強制的な新兵徴募を継続し、その訓練キャンプに彼らの子どもたちを派遣することを拒絶した教師および親を罰した。新兵徴募は、さらに IDP およびケニアの難民キャンプの中で起こった。アル・シャバーブは、ソマリア南部と中央において、交戦状態の中で児童を直接的関与、および補助的な役割で利用し続けた。路側爆弾および他の起爆装置を仕掛ける、暗殺を行なう、情報提供、ポーター、家事業務、侵入の際の人間の盾とするなどである。国連は、2012 年 3 月および 4 月に誘拐によるものを含めて、アル・シャバーブが 542 人以上の少年および少女の新兵徴募を報告した。そのような活動は年間を通じて継続した。アル・シャバーブは、その後、その民兵組織指導者と「結婚して」おり、性の強制労働、後方支援および情報収集に使用された、若い少女をさらに強制的に募集した。2012 年 4 月、ソマリ国立劇場に対するアル・シャバーブ襲撃では、少女は自爆テロ犯として使用された。」

さらに非国家武装グループおよび児童の人身売買を参照のこと。ソマリアにおける児童兵についてのさらに詳しい情報および児童の立場のために一般に、アムネスティ・インターナショナルの報告書を参照すること。ソマリアの襲撃下の児童。²⁶⁷

児童労働

12.26 2012 年 9 月 7 日に掲載された憲法草案の第 29 条は、以下のように述べた。

(3) 児童は労働をしてはならない。あるいは児童の年齢に適していないか、決して児童の健康状態又は発達へ危険を引き起こすサービスを提供しないかもしれない。

²⁶⁷ 米国国務省、2013 年人身売買レポート、特殊ケース、2013 年 6 月 19 日、<http://www.state.gov/documents/organization/210742.pdf> 2013 年 6 月 20 日閲覧

(7) 児童に関するすべての問題の中で、児童の最大の利益は最高に重要である。

(8) この項において、単語「児童」は 18 歳未満の人物を意味する。²⁶⁸

12.27 2012 年 USSD 報告書は以下のように述べた。

「雇用最低年齢があったかどうかは不確かであった。1991 年以前の労働基準は児童労働を禁止し、大部分の雇用に対し 15 歳の法定最低年齢を規定し、ある危険な仕事に対しては異なる最低年齢を規定している。そして 18 歳未満の人が、家族が従事している仕事以外の工業、商業、農業部門における夜勤をするのを禁じている。しかしながら、TFC は、政府が法律によって最低年齢を確立すると述べた。連邦労働社会問題省 (The federal Ministries of Labor, and Social Affairs) およびジェンダーと家族省 (Gender and Family Affairs) が児童労働法の執行に責任を負う。實際上、しかしながら、これらの省庁はそれらの法律を執行しなかった。その年に、児童労働の防止や、労働から児童を除去するための具体的な TFG/政府の行動はなかった。」

「児童労働は広範囲に渡っていた。新兵徴募および児童兵の使用は問題だった。若年者は、一般的に幼い頃から牧畜、農業、および家庭用労働に採用された。児童は岩を砕いて砂利にしたり、路上でたばこやチャット (khat) の行商人として働いた。ユニセフは 1999 年から 2005 年までそれを評価した、5 歳から 14 歳の児童の 36 パーセントが労働力であったという概算を出した。働く児童の実際の割合はさらに高いと考えられた。」²⁶⁹

12.28 米国労働省(児童労働の最悪の形式に関する.2011 年の観察結果)。

ソマリアは 2012 年 9 月 26 日に公表され、2011 年 1 月から 2011 年 12 月までの期間を対象としているが、次のように述べている。

「ソマリアでは児童は児童労働の最悪の形態に従事している。彼らのうちの多数は農業で、および児童兵士として危険な状況にある。児童の農業での労働は、重いものを持ち上げたり、潜在的に危険な機械・器具の使用および有害な殺虫剤の塗布をしたりすることもある。ソマリアが放浪の社会であるので、児童は家畜の世話もする。家畜を扱う児童は、蹴られ

²⁶⁸ ソマリア連邦共和国、草案憲法、2012 年 9 月 7 日、
<http://unpos.unmissions.org/LinkClick.aspx?fileticket=RkJTOSpoMME=> 2013 年 6 月 14 日閲覧

²⁶⁹ 米国国務省、2012 年ソマリアの人権実践に関するレポート、セクション 7c、2013 年 4 月 19 日、
<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dld=204165> 2013 年 6 月 17 日閲覧

たり、転んだり、押しつぶされたりされやすい。また、動物から病気が伝染することもある。」²⁷⁰

12.29 2012 年の事件を対象とする、2013 年 6 月 19 日発行の「米国務省の人身売買レポート 2013」の中で次のように述べている。

「ほとんどの児童労働者は自分の家庭又は家業で働いている。²⁷¹

目次に戻る

放棄、孤児、および「ストリート」チルドレン

12.30 ガーディアンは 2013 年 1 月 16 日にモガディシュにおけるストリートチルドレンに関して報告した。

「すべてのモスクの中で、ストリートカフェ、レストラン-祈る、あるいは社会活動に参加するために人々が集まるどんな場所でも-ストリートチルドレンは人々の靴をみがくために群がり競争する。単に働くのに弱すぎるあるいは若すぎる(6 歳未満)子供たちは単に請うだけである。モガディシュのストリートチルドレンの正確な数は未知である。2008 年には、地方支援組織および Unicef (国連児童基金) が、少なくとも 5,000 人と推定した。しかし、それは国が 2011 年に 60 年にわたる最悪の飢きんに見舞われる前であった。家族は自分たちの家畜と農場を失い、子供たちのために何もできないままである。結果として食物と労働を捜すストリートチルドレンが増加した。」

ソマリ児童保護機関の議長、Yasin Abdullahi、は少なくとも 11,000 人のストリートチルドレンが 2011 年に数えられたと述べた。管理される地域で、児童兵の使用および新兵徴募を禁止するという昨年の政府の誓約後、社会へ児童を統合する計画を欠いているためにその数は増加すると予想される。「それらの元児童兵には行くところもなく、現在は路上にいたので、その数はさらに増加している」と Abdullahi が言う。

「ストリートチルドレンのための政府が運営する避難所がないので、地方の機関が介入している。NGO の Kheyre 発達および社会復帰機関(Kedro)は、空港道から外れたごみ捨て場の隣のストリートチルドレンにブリキの避難所を供給している。避難所は 100 人の児童が住んでいる。多数が孤児であり、また、その中には薬物関連の問題を持った元児童兵である。」

²⁷⁰ 米国労働省、2011 年児童労働の最悪の形態の発見 - ソマリア、2012 年 9 月 26 日、
<http://www.dol.gov/ilab/programs/ocft/2011TDA/Somalia.pdf> 2013 年 6 月 17 日閲覧

²⁷¹ 米国国務省、2013 年人身売買レポート、特殊ケース、2013 年 6 月 19 日、
<http://www.state.gov/documents/organization/210742.pdf> 2013 年 6 月 20 日に閲覧

「大部分は近くのごみ捨て場で拾い上げられた。ここで以前彼らは食料や、売るためのリサイクル材料を漁っていた。子どもたちは避難所で学校に通うことができる。しかし、Kedro が資金を制限したので、彼らは 1 日当たり 1 食を得られれば幸運であった。」

「飢えおよび不適当な薬物更生支援のために、ごみあさり、薬物濫用および犯罪活動などへ戻ってしまうこともある。「彼らは、我々が支援することができない、より大きな支援を必要とする。彼らは路上に残されるべきでない。」 Kedro の長のファトマ・ハッサンは言う。彼女の最悪の恐れは、政府統制の下で国の部分におけるまだ作動しない多くの民兵組織暴力団へ児童が募集されるであろうということであると言う。ハッサンは、彼女の一番の懸念が、政府統制されていない、国の各地で活動している多くの民兵組織に児童が徴募されることであると語る。「この児童たちには親もいないし、教育もない」と彼女は言う。「彼らを地域に統合するために何もしないならば、今はそういう状態だが、彼らはみんな児童兵や強盗になってしまうだろう」

「新政府(それらは 11 月に政権を握った)は、ストリートチルドレンの問題を扱う努力がなされていると言う。「モガディシュの路上の児童数は許されない。従って、我々は、その問題を今年の行動計画の最上位に置いている。児童福祉はこの政府の最優先事項である。」 Duale Aden Mohamed 博士、人材開発・公共サービス省 (Ministry of Human Development and Public Services) の局長は語った。²⁷²

12.31 2013 年 4 月から 5 月のナイロビおよびモガディシュへのデンマーク・ノルウェー合同事実調査団 (Danish-Norwegian fact finding mission) の報告書 (2013 年 5 月 8 日発行) によれば、以下のようである。

モガディシュのエルマン平和および人権センター (Elman Peace and Human Rights Centre) は、モガディシュのストリートチルドレンが誰からも世話をされていないと説明した。これらの児童たちのほとんどは家族又は親類がいない。また、多数が薬物中毒である。エルマン平和と人権センター (Elman Peace and Human Rights Centre) が副議長を務める、児童庇護ワーキンググループの 2010 年の報告書によると、5000 人を超えるそのような児童がモガディシュにいと推測された。今、エルマン平和と人権のセンターが統合をリードしているワーキンググループによって別の評価を試みる計画がある。²⁷³

²⁷² ガーディアン、ソマリアの NGO のモガディシュストリートチルドレンの負担を緩和するための援助の要請、2013 年 1 月 16 日、
<http://www.guardian.co.uk/global-development/2013/jan/16/somali-ngos-mogadishu-street-children>
2013 年 6 月 17 日閲覧

²⁷³ デンマークの出入国管理業務及び Landinfo、モガディシュ及び S/C ソマリアの安全及び保護、ナイ

[目次に戻る](#)

児童と保護

12.32 012 年 3 月 2 日ユニセフは以下のように報告した。

「紛争および強い中央政府の欠如はソマリアの児童が比類なく、虐待と暴力に晒されているということを意味すると支援活動家および農村指導者が語った。」

「しかし、国の地方がますます安定してくるとともに、児童を被害から保護し、犠牲者である場合支援をし、責任のある人々を起訴するために法律が制定される必要がある」。

「児童保護を考える場合、重要なことは政府による法的支援である。」 Mohamoud Ali Yusuf、北東ソマリアのプントランド地域の主な都市である Bossaso にあるユニセフの事務所、の児童保護局長は語った。

例えば女性器切除(FGM)を禁止する法律が起草されなければならない。又は重要な児童保護活動を促進するべきである。

「法律を破った人々を逮捕し、調査し、かつ起訴する国営の構造がないために、社会は駄目になった」と Yusuf 氏は語った。

かつては児童を保護した機関は最近の 20 年間にわたり中央政府の紛争および欠如のために崩壊した...又は虐待、ネグレクト又は搾取から子供たちを保護する形式的な体制がないので、親が死亡した時、または彼らが家から逃げた時、多くの児童がさらに脆弱になった。

一連のコミュニティーに基づいた主導権は、児童と彼らの親に、問題がある場合に頼る人を与えるためにユニセフからの支援を得て始められた。

ソマリアのどこかで戦って逃れた国内避難民のための Bossaso の Banadir キャンプにおいて、Mariam Farah は児童保護委員会のメンバーである。

彼女は次のように語った。それ自体はユニセフに支援されている Tadamun 社会協会によって支援されていた彼女および同僚は、脆弱な児童に唯一、社会的ケアを提供していた。

ロビ及びモガディシュへのデンマーク－ノルウェー事実調査団、(2013 年)4 月 - 2013 年 5 月、2013 年 5 月 8 日、p47、
http://www.nyidanmark.dk/NR/rdonlyres/6F1A29C6-2F84-40D2-BDE4-42F69897EEC3/0/security_and_protection_in_somalia_may_2013.pdf 2013 年 6 月 21 日閲覧

私たちを支援することのできる組織は他にはなく、政府でさえもできないと彼女は語った。我々は事例を見つけ、児童が被害に遭うことを止めようとしてこれらの人々と毎日取り組んでいる。…UNICEF およびその他は、新しい法制度に児童保護を構築する権限を促進する努力をますます強化している。

いろいろな意味で、我々はゼロから出発しようとしている、と Yusuf 氏は語った。強い政府の不在中に、コミュニティー・レベルで我々の労働を始めることは我々にとって重要だった。しかし、最近、プログラムが拡大するとともに、我々の関心は、政府レベルと国家レベルおよびそれらの進行中のコミュニティー・レベルの介入の間の強いつながりを確立しようとするにより向いている。²⁷⁴

12.33 ユニセフはさらに 2012 年 11 月 27 日に以下のように報告した。

「何百人もの若いソマリ族は暴力に巻き込まれるようになる危険にあると見なされているが、プントランド (Puntland) とソマリランド (Somaliland) におけるプログラムによって新しいスキルを学び、新たな希望を与えられた。国連開発計画 (UNDP) と国際労働機関 (ILO) と共にユニセフによって実行された共同のプログラムは、若い人々に職業および教育の機会を与えた。2011 年 9 月、ブラオ (Burao) とボサソ (Bosaso) の暴力に敏感な地域から 700 人の児童が生活技能に基づいた教育、職業訓練および心理社会的なプログラムに参加し、地域に再統合されている。プログラムに参加した後に、何人かは形式上の学校へ戻るように動機づけられた。一方他の人は労働を見つけていた。および、多数が行動の変更および肯定的な意思決定を示した。ユニセフとそのパートナーは形式的小さいび形式的でない教育の可能性が児童に利用可能であると確認するために働いている」。

「プログラムのハイライトの一つは、暴力的な活動への関与から、かなりの数の若者が完全な方向転換をしたことである。」参加者のうちの 1 人、17 歳の Salman は次のように言った。「私は、銃ではなくペンを持ち生活を続けたい。」このプログラムの影響は、平和構築への寄与としての権威および壊れやすい地域の安定によって注目された。」

「プログラムの段階 2 は 1000 人の若い人々に役立つボサソ (Bosasso)、ブラオ (Burao) およびモガディシュ (Mogadishu) の中で実行されるだろう。」²⁷⁵

目次に戻る

²⁷⁴ ユニセフ、「我々はゼロから始めている」：ソマリア社会の中の子ども保護の確立に対する取組み、2012 年 3 月 2 日、http://www.unicef.org/somalia/cpp_10421.html 2013 年 6 月 17 日閲覧

²⁷⁵ ユニセフ、事例：青少年変更プログラム、2012 年 11 月 27 日、http://www.unicef.org/somalia/cpp_12045.html 2013 年 6 月 17 日閲覧

教育

12.34 ユニセフは 2013 年 4 月 24 日に公表された世界子供白書 2013²⁷⁶ の中でソマリアにおける教育に対して次のような統計を出した。

小学校出席率 2007-2011(%)	男	18
	女	15
小学校最終学年までの生存率(%) 2007-2011	調査データ	85
中学校出席率 2007-2011	男	12
	女	8

12.35 2012 年 USSD 報告書によると以下のようなものである。

「教育のニーズは、コーラン学校の伝統的なシステムを含む機関の寄せ集めによって部分的に満たされた。コミュニティー、外国の寄贈者およびソマリランドとプントランド政府によって融資された公立の小学校および中学校のシステム、イスラム教の慈善事業が運営する学校、および多くの私立運営の小学校および中等学校、大学、および職業訓練大学。多くの地域では、児童はイスラム学校以外の学校に通わなかった。少女の出席率は、少年の出席率より低かった。」

「アル・シャバーブ管理区域では、聖戦が小学校のカリキュラムに含まれていた。私立のコーラン学校およびイスラム学校を教える外国の教師の継続的な流入があった。これらの学校は低費用で提供された基礎教育だった。しかしながら、それらは小さな少女をベールで覆うことや、他の保守的なイスラム教の慣習が必須だったと」いう報告があった。

277

目次に戻る

健康と福祉

12.36 ユニセフの世界子供白書 2013²⁷⁸ の中で 2011 年に対し次の統計を提供している。

5 歳未満の死亡順位（1 が最も高い死亡率）	2
------------------------	---

²⁷⁶ ユニセフ、2013 年世界の子どもの状態、2013 年 5 月、統計：表 5、
<http://www.unicef.org/sowc2013/statistics.html> 2013 年 6 月 17 日閲覧

²⁷⁷ 米国国務省、ソマリアの人権実践に関するレポート、セクション 6、2013 年 4 月 19 日、
<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dld=204165> 2013 年 6 月 17 日閲覧

²⁷⁸ ユニセフ、世界の子どもの状態、2013 年 5 月、統計：表 1、
<http://www.unicef.org/sowc2013/statistics.html> 2013 年 6 月 17 日閲覧

5 歳未満の死亡率（1000 人当たり）	180
乳児死亡率（1 歳未満）（1000 人当たり）	108
新生児死亡率（1000 人当たり）	50
年間出生数（1000 人）	416
年間 5 歳未満死亡数（1000 人）	71

12.37 食料安全保障と栄養分析ユニット・ソマリア（FSNAU : The Food Security and Nutrition Analysis Unit- Somalia）の食料安全保障と栄養四半期報告書ー Gu 2013 年シーズン早期警告、2013 年 4 月 29 日発行 は以下のように記した。

「2012/13 年のポスト・ディールにおいて、FSNAU は、危機(IPC 状態 3)および緊急事態(IPC 状態 4)にある人々が 105 万人およびストレスを受けた人々が 168 万人(IPC 状態 2)であると概算した。2012 年 12 月に、5 歳未満の児童 215,000 人が栄養不良であり、その内少なくとも 45,000 人は極度に栄養不良であると概算した。2013 年 1 月から 2 月に、栄養クラスター・パートナーは、合計 94,434 人の 6 ヶ月から 59 カ月の深刻に栄養不良の児童(その内 29,200 人は極度に栄養不良だった)に援助した。クラスターは毎月、2013 年 2 月から 7 月の間に 6,500 人の厳しく栄養不良の児童および 25,500 人の中程度に栄養不良の児童に援助する予定である。」²⁷⁹

12.38 ユニセフは 2013 年 4 月 30 日に以下のように報告した。

「ソマリアの予防接種率は低い。ユニセフによる 2011 年の複数指標クラスター調査の間集計は、ソマリランドで 11 パーセントおよびプントランドで 7 パーセントの児童だけが最初の誕生日の前に 3 回分 DTP ワクチンを受けたことを示している。*[*調査は中央の南ソマリアにおいて、セキュリティとアクセスの問題で実行されなかった。DTP はジフテリア、百日咳および破傷風を予防する。]

「新しい 5 価の(1 つの中に 5 つ)ワクチンはユニセフ、WHO および GAVI に支援されて、水曜日にソマリアで始められた。ワクチンはモガディシュ (Mogadishu)、ハルゲイサ (Hargeisa) (ソマリランド)およびガロウェ (Garowe) (プントランド)のセレモニーで始められた。」

²⁷⁹ 食糧安全保障及び栄養分析ユニット・ソマリア (Food Security and Nutrition Analysis Unit-Somalia)、食糧安全保障及び栄養の四半期の要約 - Gu 2013 年シーズン早期警報への着目、2013 年 4 月 29 日発行、p8、<http://www.fsnau.org/downloads/FSNAU-Quarterly-Brief-April-2013.pdf> 2013 年 6 月 18 日閲覧

ソマリ人児童に DTP 疾病の予防を提供することに加えて、ワクチンは、Hib(ヘモフィルス、インフルエンザ・タイプ B)、肺炎と脳膜炎を引き起こす場合があるバクテリアおよび B 型肝炎(重篤な肝臓病)の予防を提供する。

「130 万を超える 5 価のワクチンが今年ソマリ人児童に利用可能になる。
児童はそれぞれ自分の最初の誕生日の前に 3 回分を必要とする。」²⁸⁰

12.39 2013 年 5 月 31 日に公表された国連安全保障理事会のソマリアに関する事務総長の報告書は次のように述べた。

報告期間に、世界食糧計画(WFP)およびそのパートナーは、栄養、安心、生計および社会的セーフティーネット・プログラムのコンビネーションによって 100 万人以上の受益者に達した。5 歳未満の児童および国内避難民を含む最も脆弱な集団に目標とされた栄養支援を継続している間、食糧援助は家族とコミュニティの回復力を高めることに焦点合わせた。栄養パートナーは、主としてソマリア南部における、年齢 6 か月から 5 歳未満まで、重症の急性栄養失調に苦しむ 52,422 人を上回る児童に達した。健康パートナーはその地域のサービスを強化する。また初めて 10 の地方の新しくアクセス可能な地域のポリオ予防接種キャンペーンを実施した。700,000 人以上の児童は行き渡ったが、南部中央ソマリアの 500,000 人の児童が依然として予防接種を必要としている。²⁸¹

ソマリアの児童の健康状態の統計は、ユニセフ世界子供白書 2013 年において見つけることができる。

文書

12.40 2012 年 USSD 報告書は次のように記した。

「TFC の下では、市民権はその国での出生、又はその人物の父親、あるいは 2004 年に TFC が署名した時点でその国にいたかどうかによって由来した。暫定連邦憲法は、1 つのソマリ市民権だけがあると述べる。また、ソマリアの連邦政府議会下院は、どのようにそれを得るか、保留するか、失うかを定義する特別法を制定する。議会は年末までにそのような法律を可決していなかった。」

²⁸⁰ ユニセフ、革新的な新たなワクチンはソマリアで人命を救う。2013 年 4 月 30 日、
http://www.unicef.org/infobycountry/somalia_68939.html 2013 年 6 月 18 日閲覧

²⁸¹ 国連安全保障理事会、ソマリアに関する事務局長のレポート、2013 年 5 月 31 日、p9、
http://www.un.org/ga/search/view_doc.asp?symbol=S/2013/326 2013 年 6 月 18 日閲覧

「ユニセフによれば、出生の 3 パーセントだけが国において記録された。出生はプントランド又は南部および中央部では登録されなかった。ソマリランド憲法の下では、市民権は、1960 年 6 月 26 日又はそれ以前にソマリランドに居住する人物の子孫であることに由来する。出生登録は、病院や家庭の出産に対しソマリランドで起こった。しかしながら、遊牧民のライフスタイルと相まって限られた収容人数のため、この地域の多数の出生が未登録となった。出生を登録できないことは教育のような公共サービスの拒否に起因しなかった。」

282

目次に戻る

13. 人身売買

13.01 2012 年の出来事を対象とする、2013 年 6 月 19 日に公表された米国務省人身売買報告書 2013 で、次のように述べている。特殊なケースの下では、ソマリアは特別に重要な国としてリストされる。

「報告期間中に、暫定的な連邦政府(TFG)およびその 2012 年 8 月時点での後継者は、ソマリアの連邦政府、ソマリアの首都モガディシュを支配したが、モガディシュの外部では影響は制限された。自ら申告した独立したソマリランド共和国およびプントランド国は、それぞれの地方のセキュリティおよび法の執行を支配していた。ソマリアの 3 つの地方で運営するそれぞれの当局は、全ての地域で告発、保護および防止において無力な努力を示して、人身売買に取り組もうと努力した。ソマリアは、源泉国、移動、および強制労働と性売買にさらされた男性、女性、および児童にとって目的国である。ソマリアの不正取引に関する情報は得るあるいは確認するのが依然として非常に難しい。犠牲者は、ソマリアの南および中央部から北部のプントランドおよびソマリランドの地方内で主に人身売買される。ソマリランドでは、国内の強制労働又は性売買のために犠牲者をプントランド州、ジブチおよびエチオピアへ連れて行くために、女性は募集者と仲介者を務める。ソマリ女性および少女は、ガロウェ (Garowe)、スール地方(Sool region)、および Harardheere のような海賊都市で性売買にさらされる。伝えられるところによれば、少女は沿岸水域、特に Bossaso から連れて行かれ、国内で搾取され、性の奴隷労働をさせられるために海賊の家の中に置かれる。海賊は、さらに 15～17 歳の(彼らの非合法活動を行なうために)児童を使用する。しかしながら、2012 年、海賊行為と対抗する国際的な努力が勢いを増し、成功した襲撃の数を減らしたので、海賊集団は数および影響は減少し続けた。ソマリ社会では、ある集団は伝統的に劣っていると見なされ、社会から無視される。ソマリ語バンツ (Bantus) および Midgaan は、国内の労働者、農場労働者および牛飼いとしてより強力なソマリ氏族構成員によって強制労働の中で時々維持される。若い女性および児童を食

²⁸² 米国国務省、ソマリアの人権実践に関するレポート、セクション 6、2013 年 4 月 19 日、<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dliid=204165> 2013 年 6 月 18 日閲覧

物にする商人についての報告書があり、ほとんどは、ソマリア南部と中央のからの国内避難民 (IDP)、であり、市場および路上で、ソマリの外で有利な仕事を彼らに約束する。アル・シャバーブから逃げ、ケニアで避難所を求めるソマリ児童の強制労働又は性的搾取の報告がある。ケニアに拠点のあるダダーブ (Dadaab) およびカクマ (Kakuma) 難民キャンプの住民中の難民児童は、売春および強制労働において搾取に遭遇するかもしれない。2012 年 8 月、国立制憲議会は憲法を採択した。国民投票が保持されるまで、それは臨時のままである。その第 14 条は奴隷制度、強制労働、人身売買、および強制労働を禁止する。また、第 29 条(6)は、武力衝突中の児童の使用を禁止する。連邦政府はその法律の中で定められた条件を有効に実施するのに必要な警察および司法制度を欠くが、ここ数カ月で緩やかにその能力を高まった。TFG もその後継者政府も報告期間に人身売買罪を調査あるいは告発しなかった。」

「プントランド州行政およびソマリランドには機能している法制度および法執行能力がある。プントランドでは、女性開発・家族問題省 (the Ministry of Women Development and Family Affairs) は反人身売買の取組みを監視した。また、それは適切な訓練を欠いたが、ガロウェ (Garowe) の警察署には反人身売買ユニットがあった。こういった犯罪又は特定の事件の状況に関して情報は限られているものの、その年にソマリランドとプントランドの役人は人身売買の可能性のあるケースを阻止した。ソマリランドの地域法は強制労働、意思に反する強制労働および奴隷制度を禁止する。ソマリランドの労働・社会政策省は、疑わしい人身売買事例に対応するために専門の部隊を活動させた。また、警察と出入国審査官は、人身売買反対の取組みにおいて積極的役割を果たした。IOM と地方組織はプントランドとソマリランドの救出された人身売買被害者に復帰サービスを提供したが、政府事業体は人身売買被害者に保護サービスを提供しなかった。人身売買の犠牲者に尽くす国際移住機構 (IOM) の施設がプントランドにあった。それは男性・女性のソマリ人および外国の犠牲者がアクセス可能な施設であった。これらの組織は、ケアをするために児童犠牲者を家族と共に置いた。TFG も、その後継者政府も、またソマリランド政権も犠牲者を支援する組織に財政か現物での支援を供給しなかった。プントランドの安全保障省 (The Ministry of Security) は、2012 年 11 月にガロウェ (Garowe) の警察による遮断後に 10 人の人身売買の可能性のある被害者のケアのために、一時収容施設におよそ 700 ドルの相当物を供給した。しかしながら、彼らは他に適切なスペースがないために、中央で、疑わしい位人身売買者と疑われる疑わしい商人の側に収容された。政府事業体は、被害者の率先した身元確認に対する形式上の手続きを利用しなかった。人身売買被害者を保護するソマリア連邦政府の取組みについての情報は制限された。しかしながら、伝えられるところによれば、ソマリ国軍は、アル・シャバーブに関連した児童を逮捕し拘留した。2012 に、国連に関連して、ソマリ政府は、総合的に解雇された当事者のプログラムの準備を始めた……前のアル・シャバーブ構成員に焦点を合わせた。……それはユニセフによって監

視された児童兵の構成要素を含む。後継者政府は、児童兵の保護がその国家安全保障のヴィジョンの一部のままであることを示した。ソマリアから彼らが困難又は懲罰に直面するかもしれない国々へ既知の外国の人身売買被害者も、外国の人身売買被害者の排除の法的代替物もなかった。」

「ソマリア当局は、その年に人身売買を防止するために最小の労力しか使わなかった。2013 年 2 月に、彼らは自覚を促すような計画を試みなかったが、反人身売買行動計画を展開するために、プントランド当局は IOM と組んだ。ソマリランドでは、労働・社会政策省は認識キャンペーンを行った。2012 年 7 月に、TFG は、児童兵の新兵徴募および使用に取り組むために国連が後援する行動計画に署名した。この計画の実行は制限された...ソマリア中の当局は、強制労働又は商用性行為の需要を縮小するために目に見える努力をしなかった。ソマリアは 2000 年の国連 TIP 議定書の参加国ではない。」²⁸³

目次に戻る

14. 医療問題

ソマリアで利用可能な保健サービスのリストについては、世界保健機関ソマリアクラスタの Web サイトを参照すること。

医療および薬の利用可能性の概観

14.01 世界保険機関の 2012 年 9 月に公表されたソマリア隔年報告書 2010 -2011 には次のように記載されている。

「ソマリアはその破壊されたヘルスケア・システムを再建する過程にある。2010-2014 の国別協力戦略（CCS : The Country Cooperation Strategy）は 2010 年に公表され、臨時のソマリ健康部門戦略として使用される。ソマリアにおける基本的なヘルスケア運搬システムは層を成している地帯、地域、および地区の病院、MCH（母子保健）センター、および地方病院および地域病院、MCH 母子保健センターおよびヘルスポストから構成されている。研究所と血液銀行のサービスはかろうじて働いている。健康保護は修復されていない。また、厳しい労働条件は、スタッフが新しく高度に発展した技術を実行する能力を厳しく制限する。）

「不可欠な設備および供給品の不足がある。全般的なスクリーニングは達成されなかった。また、品質管理構造はまだ確立されなかった。病院薬剤在庫管理も試薬の通常供給の構造

²⁸³ 米国国務省、2013 年人身売買レポート、特殊ケース、2013 年 6 月 19 日
<http://www.state.gov/documents/organization/210742.pdf> 、2013 年 6 月 20 日閲覧

なしで無視される。HIV/エイズおよび他の伝達可能な伝染病の蔓延をコントロールするために、現存サービスの範囲および業績を改善する要求がある。」

「世界的基金からの財政的援助で、次のような保険制度のコンポーネントが強化される。」

- ・ 研究所および血液安全コンポーネント
- ・ 保健機関の管理能力強化
- ・ 本質的な薬および品質管理コンポーネント

ワクチンおよび免疫(GAV I)に対する世界ワクチン予防接種同盟 (GAV I : the Global Alliance for Vaccine and Immunization) の財政的援助でヘルスケアの次のコンポーネントが強化される。

- ・ 合計およそ 250 の MCH/HC のうち 40 を強化する。2013 年までに 3 つの地帯での保健サービス基本パッケージ (EPHS: essential package of health services) の基準を満たすこと。
- ・ 2013 年末までにこれらの MCH/CH の管轄区域に 200 人のコミュニティーに基づいた女性ヘルスワーカーを配置する。
- ・ 2015 年までにヘルス・サービスをもっと不利な立場に置かれている、かつ予防接種適用範囲が改善され、幼児および小児死亡率が減少し、出生前、出産、出産後が改善し、複雑な事例の照会および熟練した助産師による出産を促進するなどのプログラムによって及ぶ地域へと拡大すること。²⁸⁴

14.02 IRIN は 2013 年 3 月 22 日に以下のように報告した。

「新しく、政府主導の戦略計画がその目的を達成する場合、すべてのソマリ国民は 2016 年までに基礎的なヘルスケアにアクセスすることになる。」

「3 月 21 日の開始は、新しい保健セクター戦略計画 (HSSP: Health Sector Strategic Plans) にソマリアの 3 つの地帯—南中央ソマリア、プントランドおよびソマリランド—は、20 年以上も国の基準であった緊急レベルの健康の規定から立ち去り、より主流の国家保健システムへと向かうことを示す。」

²⁸⁴ 世界健康機構、WHO のソマリアの二年ごとのレポート 2010 年-2011 年、チャプタ 2、2012 年 9 月、http://www.emro.who.int/images/stories/somalia/documents/WHO_SOMALIA_Biennial_Report_2012_FINAL_WEB.pdf 2013 年 6 月 18 日閲覧

「この結果に結びつく戦略計画過程は、新しい時間の最初の明瞭な指摘、良い政治の時間およびシステムの再構成である。Mariam Qasim は、ソマリア人材開発・公共サービス省の大臣であるが、開始の時に計画の実行が住民にサービスを提供できる政府の能力を試すリトマス試験になるだろう」と付け加えた。

「ソマリアは、妊婦死亡率の世界で最も高い割合の国のうちの 1 つである。また、何千もの幼児および児童が、肺炎、下痢、栄養失調および麻疹のような容易に予防可能で治療可能な症状で毎年倒れている。」

「国の保険制度は、20 年間以上の紛争によって事実上破壊された。その間合法的な政府はなかった。戦争中に、NGO、国連および民間部門従事者はヘルスケアを管理した。」

「主な変化は HSSP の国有である」マリーナ・マデオ(ソマリ健康部門のコーディネーター)は述べた。2016 年までに、我々は、国のすべての部分で、保健所が薬、設備およびヘルスワーカーを配置していることを望む。」

「今のところ政府がヘルスケアを担当する能力を構築し続けたので、予防接種のような大きな並列健康プログラムは国連の機関によって継続的に処理されるだろうと彼女は述べた。政府とそのパートナーは、さらに国の活気に満ちた個人の健康部門と官民のパートナーシップを求めるだろう。」

「HSSP が保健融資の改善、健康、薬および国に対する人的資源、薬および保健インフラをとりわけ作ると予想される。4 年の戦略が 3 億 5000 万 US ドルかかると予想される。それらの 70~75 パーセントは実際のヘルス・サービスに費やされるだろう。約 5000 万ドルは既に調達された;重要な寄贈者はオーストラリア、スウェーデン、イギリスおよび米国の政府を含む。」

「マルト・エバラード (Marthe Everard) (ソマリアの国連世界保健機関の代表)は次のように強調した。これらの方法(それらはソマリ語健康状態分野へ全ての支援の協力、ハーモニゼーションおよび整列の根拠を規定する)によって健康状態分野の全国および国際投資がすべて(-)ガイドされるべきであると強調した。」健康分野の全国および国際投資はすべてこれらの計画によって導かれるべきである。それは、ソマリの健康分野への全ての支援の協力、強調および提携の根拠を提供する。」

さらに IDP を参照すること。285

285 IRIN ニュース、

[目次に戻る](#)

病院と診療所

14.03 Edna Adan 大学病院ウェブサイト（2013 年 6 月 18 日にアクセスされた。日付なし。）はソマリランド共和国のハルゲイサ（Hargeisa）に位置する。25 台の妊婦ベッドで始まった。しかしながら、病院ベッドの必要が差し迫り、職員が訓練されるようになったので、病院業務は追加の 8 つの小児科および 13 の内科および外科のベッド、そして個室を 1 つ提供するために拡大した。新生児を含む病院の現在の収容人数は患者 69 人である。

286

14.04 プントランド病院のウェブサイト（2013 年 6 月 18 日にアクセスされた。日付なし。）は、これは 40 以上のベッドを備えたソマリアの最も大きな総合メディカルセンターであり、ボサソ（Bossaso）にあると述べた。プントランド病院はソマリアにおける近代病院のリーダー的存在であると記載されている。プントランド病院は、全てのタイプの疾病に対する、広範囲な入院患者、デイケアおよび外来患者用施設を供給する。救命救急診療からリハビリテーションまで近い将来専門家サービスの全範囲を提供する。²⁸⁷

14.05 ガロウェ（Garowe）オンラインは 2012 年 12 月 30 日に以下のように報告した。

「Farole 大統領は、病院に配達されている供給品と備品の輸送を監視するためにボサソ（Bossaso）に新しく一新された総合病院を訪れた。」

「プントランドの保健省は、プントランド中の地方および市街地の公立病院の医療サービスの改善にその努力を集中させた。」

「病院の改装計画がまだ不完全なので、ボサソ総合病院はまだ建設中である。病院の職員は、改装がほとんど完了していると言った。」²⁸⁸

モガディシュの病院

<http://www.irinnews.org/report/97709/new-plan-to-ensure-universal-healthcare-in-somalia>、2013 年 3 月 22 日、<http://www.irinnews.org/report/97709/new-plan-to-ensure-universal-healthcare-in-somalia> 2013 年 6 月 18 日閲覧

²⁸⁶ Edna Aden 大学病院、病院プロフィール、日付なし、<http://www.ednahospital.org/edna-hospital/hospital-profile/> 2013 年 6 月 18 日閲覧

²⁸⁷ Puntland 病院、我々について、日付なし、<http://puntlandhospital.com/sample-page/> 2013 年 6 月 18 日閲覧

²⁸⁸ Garowe オンライン、ソマリア：Puntland リーダーは Bossaso の医科大学及び病院を訪問する。2012 年 12 月 30 日、<http://allafrica.com/stories/201212310254.html> 2013 年 6 月 18 日閲覧

14.06 米国アフリカ・コマンドによって後援されている **Sabahi** というウェブサイト、地域における安定、協力および繁栄を促進するための米国の努力を支援し、増強することに責任を持つ軍事司令部は 2012 年 11 月 9 日に次のように報告した。

「紛争後の数十年間、崩壊したヘルスケア・システムに直面して、**Banadir**、**Madina** および **Keysaney** 病院のようにモガディシュの少数の保健医療施設は機能し続け、地元住民への無料のヘルス・サービスを提供する。**Lul Mohamud**、モガディシュにおける最大の病院のうちの 1 つの **Banadir** 病院の小児科および参加病棟の児童および産科病棟の長であるが、病院が栄養失調に苦しむ何千もの母親および児童のために無料のヘルス・サービスを提供すると語った。**Mohamud Abdi**、**Banadir** 病院の一般医は、マラリアのような多くの治療可能な疾病が国において流行している」と言った。「ソマリ族は、検査を行うための設備不足から来る誤診、または医療関係職で働く無能な医者のために下痢、マラリアおよび麻疹のように容易に治療される病気により死んでいる。」、**Abdi** は **Sabahi** に語った。

「アーメド・ハッサン (**Ahmed Hassan**)、エジプト人の運営するザムザム (**Zamzam**) 病院の理事長は、モガディシュの保健医療施設は薬、基礎的な供給品および設備の不足に苦しんでいる」と言った。

「モガディシュでは保健医療施設が不足している」とハッサンは言った。「250 万人以上が生活している都市で経営する公および私立病院の数は 13 を超えない。その大部分は、病院が大量に受け入れる病気や負傷した患者を治療するのに必要な薬の不足に苦しむ。」

「ハッサンは、モガディシュのメジナ地域のザムザムのエジプト人病院が毎日 200 人以上の人々に無料の治療および救命ヘルス・サービスを提供する」と言った。

彼は、1991 年の多くの医者が中央政府の崩壊の後に国を去ったので、国の資格のある保健専門家の数がかなり少ないと言った。

「当分の間、ソマリアでは約 250 人の有資格医師、約 860 人の看護師および 116 人の助産師しかいない」と彼は言った。

「弱い保健インフラに苦しむ国では、ヘルスワーカーの訓練は避けられない」と彼は語った。「彼らが命を救うことができるように、国の多くのヘルスワーカーが、技術を高めるために職業訓練を必要とする。」

「アラブ医師連合（The Arab Doctors Union）は、病院および国の医療センターにおける働き、かつソマリ族の医者を訓練するために昨年、ソマリアへ医療チームを送った。」とハッサンが語った。「および医療関係職における働く者のスキルの訓練および開発はソマリアで必要とされる基礎的な要件の中にある」と語った。

「Duniya Ali Mohamud は重症患者を受け入れ、赤十字国際委員会(ICRC)に支援されているモガディシュの Madina 病院で医療サービスを率いている。彼女は病院が受け入れる患者の数が時々その定員を超過する」と語った。

「過去 2、3 年にわたって、暴力行為が増えている時、マディナ病院は一日単位で多くの患者を受け入れていた。」と彼女が語った。「暴力はモガディシュでは減少したが、マディナ病院は依然として爆発と弾丸、交通事故または他の症状の結果、多数の負傷した人々を受け入れている。」彼女は、病院、列車医師および専門家へ ICRC が医療および手術用機器・供給品を寄贈しそれらの給料を支払う、と言った。」²⁸⁹

14.07 ボイスオブアメリカニュースは 2013 年 4 月 29 日に報じた。

「セキュリティがモガディシュおよび南中央ソマリアの多くにおいて改善するとともに、病院は以前より暴力の被害者は減少してきた。医者は、ますます多くの患者が待機手術を受け、「通常の」病気に対する治療を求めている。」

「20 年間以上、モガディシュのメディナ（Medina）病院は、ソマリア戦争の被害者を扱っている。都市における最も大きな急患診療施設で、メディナ病院は、南中央ソマリアの至る所からの外傷と手術のケースの紹介病院として役立ち、一度に 300 人までの患者を受け入れることができる。」

「しかし、2011 年に都市からアル・シャバーブ戦闘員を追い出したアフリカ連合軍によって安全になったモガディシュの新たに発見された平和は、メディナの取扱い件数を変更している。医者 Mohamed Yusuf は、戦傷の治療のために病院に到着する患者の数が減少していると言った。」

「温度計として使用することができるメディナ。それには都市のセキュリティの温度がある。弾丸、砲撃、手爆弾又は地雷によって負傷する、すべての人物彼らはこの病院へそれらを輸送する。」彼は言った。

²⁸⁹ Sabahi、モガディシュ(Mogadishu)病院は不足、障害にも関わらず前進する。2012 年 11 月 9 日、http://sabahionline.com/en_GB/articles/hoa/articles/features/2012/11/09/feature-01 2013 年 6 月 18 日閲覧

「病院理事長 Yusuf は、戦争で負傷した患者が以前メディナのベッドの 95 パーセントを占領したと言った。現在は、、、その数が 70~80 パーセントまで落ちた、と彼は推測している。」²⁹⁰

14.08 2013 年 6 月 18 日にアクセスされて日付がない Banadir 病院の公式ウェブサイトは、次のように記した。

「Banadir 母子病院は、他のインフラ含む、ソマリ族の人々への政府開発計画の一部として 1977 年に設立された。病院はソマリの首都モガディシュの中央に位置する。病院は 3 つの主要部門を含む。」

「妊娠している女性もそうでない女性に対しても同様に、内科的および外科的症状に対して治療を提供する産科である。」

「小児科部門は、全ての年齢の児童に対し、内科的および外科的症状、管理、急性水様性下痢に対処する。」

健診と外科活動も、日常又は緊急の様式として提供される。²⁹¹

14.09 2012 年 9 月 14 日付けでインディペンダント紙は以下のように報じた。

「ソマリの首都モガディシュのサン・マルティーノ (San Martino) 病院の再開は Aisha Omar Ahmed 博士にとって大部分は感謝しない仕事だった。欧州におけるコンサルタント産科医として相当な収入を得る代わりに、病院理事長としてはほとんど無報酬かつ最悪の状態で働いていた。「サン・マルティーノ病院は、病院としてかろうじて認識できる。」古い港の近くのインド洋を見下ろす、風に吹かれたイタリア風の遺跡の集落ゆえ、首都の破壊されたところから逃げてきている不法居住者が、ずっと以前から群がっている。病室および手術室、洗濯室および診療室は様々に砲撃され、占領され、略奪された。施設の新しい居住者は、彼らの第 2 の家を復興するため 3 年前に到着した大規模な計画を持った若い医者を迎えなかった。病院が持っている設備について質問された時、答えは「0」又は限りなく「0」に近かった。2 台の超音波機械がある。両方とも Ahmed 博士が、イタリア

²⁹⁰ ボイスオブアメリカニュース(Voice of America News)、ソマリアの病院はより少数の戦争犠牲者の手当しかしない。2013 年 4 月 29 日、
<http://www.voanews.com/content/somalia-hospitals-see-fewer-war-victims/1650690.html> 2013 年 6 月 18 日閲覧

²⁹¹ Banadir 病院、Banadir 病院について、日付なし、<http://banadirhospital.com/> 2013 年 6 月 18 日閲覧

から持ってきたものである。薬、食物および燃料については、彼女がアフリカ連合のミッション、アフリカ連合ソマリア平和維持部隊からの贈呈によって得ている。医者、サン・マルティーノ病院を再建する努力を継続する彼女の動機は、彼女の祖国の女性たちの苦境だったと語った。彼女の報酬は、彼女の事務所の近くの仮教室に座る何十人という若い女性の形で提供される。女性たちは、「伝統的な助産師」として知られていて、頻繁に彼らの地元のコミュニティで助産師および FGM の裁断をする者として働いている。彼女らは、理事長が望む、今女性に対する状況を変えることを支援できる計画の最初の卒業生である。彼らは基本的な衛生状態で訓練されており、FGM の弊害について厳しい講義を与えられ、いくつかの無菌手袋、および 1 つの照会につき 10 ドルの提供で首都に派遣された。それらは地方の携帯電話会社によって支払われた。」²⁹²

14.10 PR ニュース・ワイヤーは 2013 年 1 月 15 日に次のように報じた。

「Dahabshiil グループは、モガディシュにおける、フォルラニーニ (Forlanini) 病院の精神衛生ユニットを再建するのを支援するために 200,000 ドルを提供した。」

「その企業の社会的責任(CSR)プログラムの一部として、Dahabshiil グループは、モガディシュに設立された病院での。発電機、貯水池タンク、救急用の別室、2 つの病棟および管理・サービス建物郡を含む修復作業に資金提供する。」

「Dahabshiil 最高経営責任者、Abdirashid Duale は次のように語った。「我々は、フォルラニーニ病院へこの寄贈をして大いに喜んでいる」

我々は、患者が彼らの処置と健康の一因となる、ゆったりした、助けになる環境で、気を配ってもらえることを確実にする施設をまとめました。」

「病院はその患者のために重大なサービスを提供する。したがって、我々はそのサービスの提供の改善を支援することに寄与することを誇りに思っている」

「内戦の以前、正式には Laansareeti 病院として知られているフォルラニーニ病院は、歴史上国の最先端技術をもつ施設であり、何人かのトップの医療専門家の拠点だった。国が戦争の状態になるとともに、健康部門およびその基礎設備は完全に破壊された。

²⁹² The Independent、戦争の廃墟から病院を建て上げた「モガディシュの天使(Angel of Mogadishu)」、2013 年 9 月 14 日、
<http://www.independent.co.uk/news/world/africa/the-angel-of-mogadishu-who-raised-a-hospital-from-the-ruins-of-war-8135739.html> 2013 年 6 月 18 日閲覧

かつて、ソマリアの全ての地方からの患者に貢献した精神保健ユニットは、現在は抜け殻である。」²⁹³

目次に戻る

HIV/エイズ

14.11 ユニセフの子供白書 2013 は、2011 年のソマリアにおける HIV の有病率を載せた。HIV に苦しむ人は推定で 23,000～52,000 人であり²⁹⁴、0.7%であった。ソマリランドにおける女性労働者中で行なわれた 2010 年の調査で、そのグループ中の HIV の有病率が 5.2%であることが分かった。²⁹⁵

14.12 世界保険機関の 2012 年 9 月に公表されたソマリア 2010 -2011 に関する隔年報告さには、以下のように記載されている。

「ソマリアにおける流行を悪化させる危険性と脆弱性の要因に関して利用できる情報は限られている。ほとんどの国は北西ソマリアのいくつかの地域を例外として、低レベルの HIV を経験する。ソマリの HIV/エイズ・プログラムは追加の 3 つの HIV 自発的カウンセリングおよび検査場を開いて、合計で 30 ヶ所になった。」

「2009 年と比較して、自発的カウンセリングおよび検査は 60%増加した。2011 年 12 月までに、1139 人の患者が抗レトロウイルス療法の恩恵を受けた。ART（抗レトロウイルス療法）の継続率は、開始後、存続している人は依然として優れている、12 ヶ月か月では 84.1%、24 ヶ月では 81.4%、60 ヶ月では 51.3%であった。HIV/エイズのケアおよび治療において、WHO は、抗レトロウイルス療法(ART)提供のために技術支援のバックボーンを供給し続けた。この支援は、WHO の世界的な提言と協調している、2010 年の WHO 慢性的ケア IMAI の適用を含んでいた。」

さらに、ART 患者モニターツールはよりよい結核 (TB)HIV 活性をキャプチャーするために、また 2010 年の提言に必要とされる新しい ART 療法にそれらを連動させるために更新

²⁹³ PR News Wire、メンタル・ヘルスの病院は Dahabshiil グループから後援された 200,000 ドルを受け取る、2013 年 1 月 15 日に、

<http://www.prnewswire.com/news-releases/mental-health-hospital-receives-200000-boost-from-dahabshiil-group-186956371.html> 2013 年 6 月 18 日閲覧

²⁹⁴ ユニセフ、2013 年世界の子どもの状態、2013 年 5 月、統計：表 4、
<http://www.unicef.org/sowc2013/statistics.html> 2013 年 6 月 18 日閲覧

²⁹⁵ Kriitmaa、Kelsia ら、ソマリアのソマリランドのハルゲイサ(Hargeisa)での女性の性労働者の中での HIV 罹患率及び性労働の特徴、AIDS で公表：

2010 年 7 月・ボリューム 24 -問題・pS61-S67

http://journals.lww.com/aidsonline/Abstract/2010/07002/HIV_prevalence_and_characteristics_of_sex_work.8.aspx 2013 年 6 月 18 日閲覧

された。結核/HIV 共同作業の地域では、HIV 試験は結核治療施設へ導入された。また、2011 年の終わりまでに、66 の結核治療施設のうちの 24 の治療施設がさらに HIV 試験およびカウンセリングを提供した。これらの施設 4,140 では、その年に治療された人の 55.1% に相当する結核患者が、任意に HIV 試験およびカウンセリングを経験し、5% の HIV 有病率をもたらした。共同の HIV/結核策定、活動の実行および指導が試みられた、そして集団環境における結核感染予防用ガイドラインおよびイソニアジド療法(IPT : Isoniazid Prophylaxis Therapy)が開発され、トレーナーの訓練が行われた。²⁹⁶

14.13 2012 年(USSD 2012 報告書)の事件を対象として、2013 年 4 月 19 日公表したソマリアの人権実践に関する米 국무省の報告書は次のように記した。

「HIV/エイズを持った人物は、地域社会、および国全体での雇用者による差別および虐待に直面し続けた。ユニセフは、HIV/エイズを持った人物が肉体的虐待にさらされ家族によって拒絶され、職場内差別と追放にさらされた、と報告した。親が HIV 陽性である児童はさらに差別を受けた。それは、公的サービスへのアクセスを妨害した。そのような差別に公式の回答はなかった。」²⁹⁷

14.14 Anca Toader(エディターを訓練する BBC のジャーナリズム)によって書かれ、2012 年 7 月 26 日に公表されたブログは、次のように書かれている。

「3 月に、私は、20 人のジャーナリストおよびソマリランドおよびプントランドの市民労働者に対し、HIV および AIDS に関するメディアの誤情報と偏見に取り組むのを助けるために訓練ワークショップを開いた。—3 シリーズの内の 1 つである。」

「ソマリランドおよびプントランドで婚外セックス、同性愛およびコンドーム使用について話すことはすべて禁止である。そのような保守的な環境では、HIV に関する会話は困難である。その沈黙は、不正確な報道と差別的な用語の使用により強化され、有害な誤解および偏見で満たされてしまう。1 週の間に、我々は全員、HIV とエイズに対する恐れと誤情報から、純粹に理解と共感が深まり、HIV とエイズに対する態度の明白な路線変更があったことを目撃し、経験した。ジャーナリストは、正確で公平なのはいうまでもなく、局長と編集者を説得して、そもそも HIV とエイズについて、報告することは困難であると

²⁹⁶ 世界健康機構、WHO のソマリアの二年ごとのレポート 2010 年・2011 年、チャプター 2012 年 9 月 9 日、
http://www.emro.who.int/images/stories/somalia/documents/WHO_SOMALIA_Biennial_Report_2012_FINAL_WEB.pdf 2013 年 6 月 18 日閲覧

²⁹⁷ 米 국무省、ソマリアの人権実践に関するレポート、セクション 6、2013 年 4 月 19 日、
<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dld=204165> 2013 年 6 月 18 日閲覧

知っていた。彼らは HIV とエイズについて報道する動機が、疑いを持って見られること、そしてどのように HIV とエイズについて報道するかが彼らの評価に影響することを懸念していた。しかしながら、ジャーナリスト達は、借り主が HIV 陽性であるとわかると、立ち退かせる家主に関する記事と、HIV 及び AIDS 対策の政府予算の割当を検討する記事を書くアイデアとともに、トレーニングを終了した。ニュースの消費率が高いソマリアのような国では、HIV とエイズについてメディアが取り上げる方法を変えることで、彼らが社会全体に渡ってそれらが語られる方法を変えることができるかもしれない。参加したジャーナリストおよび市民労働者の 1 つの小集団は、HIV とエイズの話はどのように伝えられるかを形作る力と影響力を持っている。」²⁹⁸

目次に戻る

メンタルヘルスケア

14.15 世界保険機関 2012 年 9 月に公表されたソマリア 2010・2011 の上の隔年報告書は、以下のように記した。

「長引く紛争および不安定は、ソマリ族の人々の精神および精神的充足に大きな衝撃を与えた。ソマリ族の 3 人に 1 人がある種類の精神病の影響を受けていると推定されており、これは、他の低所得および戦争で荒廃した国々におけるよりも高い有病率である。多くのソマリ族がむち打ち、拷問、強姦され、あるいは一生残る怪我を経験した。他のものは、家族又は友人に対する恐ろしい暴力を目撃した。

暴力的になる場合、精神病を持った多くのソマリ族が社会的に孤立させられる。

ソマリ族文化が伝統的に地域社会および家族指向なので、この孤立の苦痛は激しく感じられる。これらの者は一般に拘束されるか拘留される。国で本質的なメンタルヘルスケアサービスを提供するのは、わずか 5 つの保健所(ハルゲイサ (Hargeisa)、ベルベラ (Berbera)、ボサソ (Bosaso)、ガロウエ (Garowe) およびモガディシュ (Mogadishu)だけである。この問題を扱うために、地方保健当局と共同する WHO ソマリアはメンタル・ヘルス・ケアサービスに薬を供給し、鎖からの解放構想 (Chain Free Initiative) を拡張した。鎖なしの (鎖につながれることのない) 病院、鎖なしの家及び鎖のない環境を支持することによって精神的な病人の権利に取り組むこの構想は、モガディシュとハルゲイサにおいてよく確立され、2011 年に Bossaso でスタートするだろう。国内のメンタル・ヘルス・サービスについて、よりよい理解を持つために、WHO ソマリアはメンタル・ヘルス状況分析を製作した。その文書は、ソマリアにおけるメンタル・ヘルスについての重大な情報をすべてグループ化した。2011 年には、le Relazioni Transculturali(GRT)グループと共同で、

²⁹⁸ BBC メディアアクション、新たな話を話す：

ソマリアのジャーナリストは HIV 及び AIDS について話す。2012 年 7 月 26 日、
<http://www.bbc.co.uk/blogs/bbcmmediaaction/posts/Telling-a-new-story-Somali-journalists-talk-about-HIV-and-AIDS> 2013 年 6 月 18 日閲覧

48 人のメンタル・ヘルス労働者に、ハルゲイサおよびガロウェで O J T による再教育が計画された。」²⁹⁹

14.16 世界保健機関報告書。「ソマリアのメンタル・ヘルスの状況分析」が 2010 年 10 月に公表され、次のように報じた。

「その発達に対する、メンタルヘルスの重要なチャレンジおよび機会は、概してソマリアにおける保険制度の補強と連結される。それには考慮に入れられるべきいくつかの特有の機能がある。この文書は、そのうちのいくつかを強調し、それは以下のように要約することができる。」

- ・政策、戦略諸計画、および 3 つの領域に適合したメンタル・ヘルス上のガイドラインの必要性
- ・メンタル・ヘルス部門の成長に対する、国家予算および国際支援を割り当てる必要性
- ・資格があり、適切に訓練されたヘルスワーカーの必要性;
- ・質の良いメンタル・ヘルス・サービスへのアクセスを改善する必要性³⁰⁰

14.17 その報告書によると、「一連の精神障害の人々に対する鎖を使った拘束は、都市・田園地帯の両方においてよく見られ、ジェンダーにかかわらず広範囲である。これは多くのメンタル・ヘルス施設の中で、その地域で容認された内科療法としても使用されている」

301

14.18 報告書はさらに次のように述べた。「適切な内科療法と施設の不足およびそれらの巨大な需要により、コミュニティは、精神障害を治療してくれるという、何種類かの伝統的治療科に直面する。治療にはそれぞれ説明することが容易ではない、儀式、論理的根拠、手順、及び複雑性がある。」³⁰²

²⁹⁹ 世界保健機構、WHO のソマリアの二年ごとのレポート 2010 年・2011 年、チャプター 2、2012 年 9 月、http://www.emro.who.int/images/stories/somalia/documents/WHO_SOMALIA_Biennial_Report_2012_FINAL_WEB.pdf 2013 年 6 月 18 日閲覧

³⁰⁰ 世界保健機構、ソマリアのメンタルヘルスの状況分析、2010 年 10 月、p13、http://www.emro.who.int/somalia/pdf/Situation_Analysis_Mental_Health_print.pdf 2011 年 4 月 27 日閲覧

³⁰¹ 世界保健機構、ソマリアのメンタルヘルスの状況分析、2010 年 10 月、p22、http://www.emro.who.int/somalia/pdf/Situation_Analysis_Mental_Health_print.pdf 2011 年 4 月 27 日閲覧

³⁰² 世界保健機構、ソマリアのメンタルヘルスの状況分析、2010 年 10 月、p23、http://www.emro.who.int/somalia/pdf/Situation_Analysis_Mental_Health_print.pdf 2011 年 4 月 27 日閲覧

14.19 その報告書はさらに、南部および中央ソマリアに 3 つの **Habeb** メンタル・ヘルス病院があり、施設がすべて入院患者用の設備を備えている、と述べて、ソマリアにおける現在のメンタル・ヘルス設備の概要を述べた。メンタル・ヘルス病院（ベルベラメンタルヘルス病院：Berbera Mental Health Hospital）が 1 つあり、ハルゲイサ・グループ総合病院に 1 病棟、およびソマリランドにコミュニティーが所有する精神科入院患者病棟が 1 つ、Bossaso 病院に 1 つの病棟、およびプントランドにコミュニティーの居住施設が 1 つある。

303

14.20 その報告書は、さらに精神疾患用の薬物治療の有効性に関して概要を述べた：

「病院は薬を購入しない。それらは普通、WHO、および(または)個人の寄付金、非政府間国際機構からの供給品によって不規則に提供される。5 つの施設だけが薬を受け取り、北西ソマリアにおける 2 つの施設は、定期的にそれらを受け取っている。7 つの施設のうちの 2 つは個人の寄付金に頼り、及び他の 2 つは非政府間機構の寄贈に依存している一方でハルゲイサとベルベラは主として異なる供給ルートに依存している。WHO はコミュニティーの経営の施設に薬を供給しない。そこはごくまれにしかチャリティー及び個人の寄付金からの寄贈物を受け取ることはない。すべての施設は、安全性に欠ける貯蔵、換気およびスペース配置など、非常に悪い貯蔵条件について不平を言った。」³⁰⁴

目次に戻る

15. 移動の自由

市街地内の移動、および市街地間の移動の自由を評価する際に、職員は、変わりやすい支配的な治安情勢を考慮するように勧告される。一般的に、セキュリティについてのさらに詳しい情報および出所は、治安情勢のセクションにある。

15.01 2012 年(USSD 2012 報告書)の出来事を対象にするソマリアの人権実践に関する 2012 年の米国務省の報告書（2013 年 4 月 19 日に公表）によると、

「TFC は国民が国内を自由に移動する権利を与えた。暫定連邦憲法は、国内に合法に居住するすべての人物が移動の自由、居住を選ぶ自由及び国を去る自由に対する権利を持っていると述べるが、実際のところ、移動の自由は国のある地域において制限されていた。」

³⁰³ 世界健康機構、ソマリアのメンタルヘルスの状況分析、2010 年 10 月、p34-35、http://www.emro.who.int/somalia/pdf/Situation_Analysis_Mental_Health_print.pdf 2011 年 4 月 27 日閲覧

³⁰⁴ 世界健康機構、ソマリアのメンタルヘルスの状況分析、2010 年 10 月、p34-35、http://www.emro.who.int/somalia/pdf/Situation_Analysis_Mental_Health_print.pdf 2011 年 4 月 27 日閲覧

「国内での移動:武装した民兵組織、氏族派閥、TFG 軍、連合グループ及びアル・シャバーブによって管理された即席の検問所は、国民の移動を抑圧し、略奪、恐喝および嫌がらせに対し国民をさらしている。例えば、9 月 9 日に、アフリカ連合ソマリア平和維持部隊がアル・シャバーブから港市を奪取するために攻撃的態度でキスマヨの砲撃をし始めた後、アル・シャバーブは、キスマヨの住民に都市から逃げないように命じ、もし去ろうとしているところを押さえられれば、罰金を科せられるだろうと居住者に警告した。11 月 25 日に、ハッサン・シェイク・モハマド (Hassan Sheikh Mohamud) 大統領は、Benadir 地域の不法な検問所の撤去を命じた。それはモガディシュを含んでいる。年末までに政府軍および警察によって大多数の検問所を撤去した。」

「ソマリランドは、ソマリランドから出る者、ソマリランドに入る者を含む TFG 職員を制限した。さらに、それは、ソマリランドにおける従来の長老が連邦議会および国立国民議会の選別過程に参加するためにモガディシュへ移動するのを妨げた。」³⁰⁵

中央・南ソマリア内の移動

15.02 2012 年 8 月 22 日に公表された国連人権評議会のソマリアの人権の状況の独立した専門家、Shamsul Bari の報告書によると、「アフリカ連合ソマリア平和維持部隊軍の増加した兵力の結果、モガディシュの人々の移動の自由は著しく改善した。これは、大部分は地雷、爆発性戦争残存物およびモガディシュの至る所での手製爆弾の処理によって可能だった。」³⁰⁶

15.03 2013 年 5 月 8 日に公表された 2013 年 4 月、5 月のナイロビおよびモガディシュへのデンマーク・ノルウェー合同事実調査団の報告書によると、「DRC の Peter Klansoe によれば、モガディシュの移動の自由はますます改善している。

移動の自由は改善したが、しかし、検問所が出来たり、なくなったり、他の地域よりある地域では数が多かたりして、それは完全な移動の自由ではない。モガディシュの国際的な NGO(B)は、今日、女性が警察やソマリア政府軍を心配する必要なしに、モガディシュに自由に移動することができることを説明した。」³⁰⁷

³⁰⁵ 米国国務省、ソマリアの人権実践に関する 2012 年のレポート、セクション 1d、2013 年 4 月 19 日、<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dliid=204165> 2013 年 6 月 18 日閲覧

³⁰⁶ 国連人権会議、ソマリアの人権状況についてのインディペンデント誌(The Independent)の専門家のレポート、Shamsul Bari、段落 19、2012 年 8 月 22 日
http://www.ohchr.org/Documents/HRBodies/HRCouncil/RegularSession/Session21/A.HRC.21.61_en.pdf、2013 年 6 月 20 日閲覧

³⁰⁷ デンマークの出入国管理業務及び Landinfo、モガディシュ (Mogadishu) 及び S/C ソマリアの安全及び保護、ナイロビ及びモガディシュ (Mogadishu) へのデンマーク・ノルウェー事実調査団、2013 年 4 月-5 月、2013 年 5 月 8 日、p49、

15.04 同報告書はさらに述べた:

「もし、モガディシュで普通の人々が陸路で他の場所／南／中央ソマリアの都市に行くかどうか尋ねられたら、モガディシュの UN 国連安全性と安全保障省（UNDSS : United Nations Department of Safety and Security）は人々はバスおよび他の乗り物でそのような場所に行くと言った。しかしながら、政府特別関係人であることが疑われ、アル・シャバーブによって処刑された旅行者の報告書が数件あった。それは、サウスセントラルソマリア全体で、恐らく 1 週間で 2～3 回起こる。」

「サウスセントラルソマリアで陸路の移動をすることに関して、モガディシュの国際機関の代表は、普通の民間人、つまり SNG に勤めていない人々はモガディシュおよび Kismayo、Baidoa、Jowhar および Afgoye の間を移動していることを説明した。彼らは、ほとんどバスで行く。また、モガディシュに沿って Kismayo 道路に現在はずかな検問所があるだけだ。モガディシュと Baidoa の間に検問所はない。しかしながら、道に沿ってアル・シャバーブの待ち伏せに対しては保証はない。他方では、待ち伏せも普通の犯罪者によって行なわれるかもしれない。モガディシュの国際機関の代表は、アル・シャバーブが、それが SNG 又は国際社会のために働いていると疑う人なら誰でも殺すだろうということを確認した。モガディシュと Kismayo の間の道が、途中ずっと安全ではないことが付け加えられた。しかしながら、彼らが通り抜ける方法を知っている限り、普通の人々はこの道に沿ってなんとかして移動するだろう。」

「モガディシュのエルマン平和および人権センターの代表は、モガディシュから Baidoa および Kismayo に結びつく道に沿っては絶対に移動しないだろうということを説明した。これはアル・シャバーブの脅威による。アル・シャバーブが乗り物を止める場合に、有名な人物あるいは少しでも西洋人に見える人物は高い危険に晒されるかもしれない。しかしながら、普通の人々は、アル・シャバーブが最終目的地へ到着するために通り抜けなければならない地域をコントロールしているかどうかに関係なく、サウスセントラルソマリアの他の場所と同様にこれらの道に沿って、バスまたは他の乗り物で移動するだろう。」

「モガディシュと Kismayo の間を移動することに関して、モガディシュの国際的な NGO(B)は、アル・シャバーブとの問題を持たない普通の人々にとって、沿岸のシャバーブ管理区域を通って行くことは危険ではないと説明した。」

http://www.nyidanmark.dk/NR/rdonlyres/6F1A29C6-2F84-40D2-BDE4-42F69897EEC3/0/security_and_protection_in_somalia_may_2013.pdf 2013 年 6 月 20 日閲覧

「モガディシュ Afgoye－ Baidoa－ Luuq 回廊に関して、モガディシュの UNDSs は、アル・シャバーブが道に沿っては永久に物理的に存在してない」と説明した。

しかしながら、それが 100%安全であると言うことはできない。」

「モガディシュの国際的な NGO(B)は、アル・シャバーブがモガディシュから Baidoa まです道に沿って活動することを説明した。しかし、道沿いには検問所がない。

しかしながら、誰が道路を移動するかについて、政府の人々に通知されると思われる理由がある。普通することは、彼らは車を止めて、乗っている人々をチェックすることである。その後、それは、政府で働いている、あるいはある理由で敵であるとみなす人を車から引きずり出すであろう。アル・シャバーブと争いがない普通の人々は問題なく通ることができる。通常は、金銭を求めないし、貴重品もとらないだろう。そのような待ち伏せおよびチェックが、毎日、モガディシュから Baidoa に向かう道路で多かれ少なかれ起こる。このため、国際的な NGO(B)は Baidoa への道沿いを通らず、従って、飛行機で行く。ソマリア政府軍、アフリカ連合ソマリア平和維持部隊又は SNG 役人が Baidoa への道沿いを進む場合、彼らは護衛されなければならない。」³⁰⁸

目次に戻る

検問所

15.05 2012 年 10 月のナイロビおよびモガディシュへのデンマーク・ノルウェー合同事実調査団の報告書（2013 年 1 月 4 日に公表）によると、

「モガディシュの無許可か不法な検問所がまだ問題であるかどうか尋ねられた時、モガディシュの UNDSs は、特にそれらのうちの多数がモガディシュおよび低シャベル(Shabelle)地域にあった 2012 年 9 月および 10 月以来ずっとこれらの検問所が次第に少なくなっていることを説明した。しかしながら、モガディシュおよび低シャベルにはいくつかの不法な検問所がまだある…検問所はできたり、なくなったりする。」

「モガディシュのエルマン平和および人権センターは、アル・シャバーブが 2011 年 8 月にモガディシュを去った時、前内閣[TFG]が都市の至る所での多くの検問所を設立したことを説明した。これらの検問所は今消えた。また、新しいものはモガディシュの郊外に設置された。しかしながら、ソマリア政府軍の兵士の多くが適切に給与を支払われていないので、嫌がらせ、略奪行為、および他の侵害がこれらの検問所のいくつかで発生しているという報告があった。政府軍が通りをパトロールする時は、武装した民兵が（不法）な検

³⁰⁸ デンマークの出入国管理業務及び Landinfo、モガディシュ (Mogadishu) 及び S/C ソマリアの安全及び保護、ナイロビ及びモガディシュ (Mogadishu) に対するデンマークノルウェーの事実調査団、2013 年 4 月・5 月、2013 年 5 月 8 日、p49-50、
http://www.nvidanmark.dk/NR/rdonlyres/6F1A29C6-2F84-40D2-BDE4-42F69897EEC3/0/security_and_protection_in_somalia_may_2013.pdf 2013 年 6 月 20 日閲覧

問所を設置することはできない。しかしながら、一旦政府軍が見えなくなれば、そのような[不法]検問所が現れる。エルマン平和および人権センターは、検問所では男性が女性より非常に徹底的にチェックされるのが普通であると付け加えた。」

「モガディシュの国際機関の代表は検問所に関して、2012 年 10 月以来数が減少してきたことを説明した。アフリカ連合ソマリア平和維持部隊は、モガディシュにおける他の要点と同様にヴィラ・ソマリアおよび議会でもセキュリティを提供している。モガディシュの検問所はすべてソマリア政府軍兵士によって人員配置される。」

「モガディシュにある検問所に関して、ソマリアのモガディシュ国連難民高等弁務官事務所は、大多数の不法な検問所が既に 2012 年の終わりに取り除かれたと述べた。無許可か不法な検問所が現在は取り除かれたので、移動の自由は都市において徹底的に改善された。また、特に昼間は、移動の自由がある。どの検問所でも普通の民間人に関係がある事件があったかどうか尋ねられた時、UNHCR は、特に Afgoye モガディシュ道に沿った民間人のハラスメントの事件が、一般に報告されたが、最近は重大な事件がないと述べた。2013 年 1 月/2 月以来モガディシュの不法な検問所の存在に関する最近の報告書はない。」

「ピーターKlansoe によって、DRC、モガディシュの移動の自由はますます改善している。移動の自由は改善したが、検問所が出来たり、なくなったり、他の地域よりもある地域に多かったりと、それは移動の完全な自由ではない。不法な検問所は取り除かれた。また、ほとんどの SNG 検問所もまたなくなった。アル・シャバーブとソマリア政府軍/アフリカ連合ソマリア平和維持部隊の間に武力衝突はもはやない。今日、モガディシュの路上にいる警察と同様に、ソマリア政府軍兵士に会うだろう。しかしながら、アル・シャバーブによる 2013 年 4 月 14 日の襲撃の結果、人は、今後数日間および数週間にいくつかの追加の検問所ができることが予想される。」

「代表団の 4 月 21 日から 23 日までのモガディシュへの見学中に、空港および Hamar Weyne、および Hamar Weyne とメディナ病院の間の検問所に気づかなかった。Hakan Bilgin(IMC)は次のことに合意した。モガディシュの不法および無許可の検問所の撤去（通常は、これらは様々な DC によってコントロールされた検問所だった）は都市のセキュリティを改善する徴候である。他方では、これは、DC がもはや影響がないというわけではない。」³⁰⁹

³⁰⁹ デンマークの出入国管理業務及び Landinfo、モガディシュ（Mogadishu）を含む S-C ソマリアの安全及び人権問題、ナイロビ及びモガディシュ（Mogadishu）に対するデンマークノルウェーの事実調査団、2012 年 10 月、2013 年 1 月 4 日、p64-65、http://www.landinfo.no/asset/2319/1/2319_1.pdf 2013 年 5 月 29 日閲覧

モガディシュ空港

15.06 2013 年 5 月 8 日に公表された 2013 年 4 月と 5 月のナイロビおよびモガディシュへのデンマーク・ノルウェー合同事実調査団の報告書は次のように記した。

「モガディシュ UNDSS は、2012 年に空港の近くのに落ちた迫撃砲弾のようなもの、及び 2011 年中頃に滑走路に落ちた別の迫撃砲弾のようなものを除いて、モガディシュ国際空港では、数ヶ月もの間、深刻なセキュリティの事件がなかったことを説明した。しかし、2013 年 4 月 14 日のトルコの NGO 労働者に対する襲撃は空港地域からおおよそ 1 マイルのところで起こった。一方、アル・シャバーブは空港を攻撃することを切望しているだろう。また、空港で採用されている治安対策に対する懸念があった。」³¹⁰

目次に戻る

地雷

15.07 地雷およびクラスター爆弾モニターは 2012 年 11 月 8 日に更新されて、ソマリア(ソマリランド以外の)に対するそれらの国別プロフィールの中で述べた。

「少なくとも 146 人の地雷/爆発性戦争残存物(ERW)による死傷者が、2011 年にソマリア(ソマリランド以外の)に登録された。軍人/民間人の身分が知られていた死傷者のうち、143 人は民間人だった。年齢が知られていた死傷者のうち、41%は 42 人の少年および 13 人の少女を含む児童だった。少なくとも 16 人の死傷者は女性だった。(年齢が知られていた 122 人の死傷者のうち、58 人は児童(64 人は成人で、24 人は年齢不詳だった。)性別が知られていなかった 3 人の児童死傷者が記録された。)

「国連地雷アクションサービス(UNMAS)死傷者記録は、さらに 2011 年に据え付けられた手製爆弾(IED)の死傷者 164 人とあった。コマンドによって襲撃間で爆破された IED と活性化した IED の被害者を含む事件は十分に区別することは可能ではなかった。それはこの情報を備えたデファクト地雷である。」

「2011 年にソマリアに関して、死傷者の合計のうち、プントランド行動センター (PMAC : Puntland Mine Action Center)は 35 人を記録した。

³¹⁰ デンマークの出入国管理業務及び Landinfo、モガディシュ (Mogadishu) 及び S/C ソマリアの安全及び保護、ナイロビ及びモガディシュ (Mogadishu) に対するデンマークノルウェーの事実調査団、2013 年 4 月・5 月、2013 年 5 月 8 日、p56、
http://www.nvidanmark.dk/NR/rdonlyres/6F1A29C6-2F84-40D2-BDE4-42F69897EEC3/0/security_and_protection_in_somalia_may_2013.pdf 2013 年 6 月 20 日閲覧

2010 年に関しては PMAC は、41 人の地雷/ERW 死傷者を記録した。」³¹¹

15.08 地雷およびクラスター爆弾モニターは 2012 年 11 月 19 日、更新されて、ソマリランドに対するそれらの国別プロフィールの中で記した。

「2011 年ソマリランド地雷アクションセンター(SMAC)は、23 人の地雷/爆発性戦争残存物(ERW)死傷者を報告した。前年でのように、ほとんどの死傷者は児童(12 人すなわち 52%)だった。死傷者の合計のうち、17 人は男性で、6 人は女性だった。2011 年に除去又は爆発物処理(EOD)の活動中に、地雷除去兵の死傷者はいなかった。」

「2011 年の死傷者合計は、2010 年の SMAC によって報告された 36 人の地雷/ERW 死傷者からの減少を表わし、2007 年(97)および 2006 年(96)についてソマリランドに記録された死傷者の数より著しく低かった。」

2011 年の初めに、「地雷と UXO の[不発弾]爆破」に関連したケースの死者および負傷者が、最近国で増加してきている。そして、ほとんどの死傷者は児童だった」と報告された。³¹²

目次に戻る

16. 国内避難民(IDP)

治安情勢に関連して読むこと。

概観

1991 年以来のソマリアの長引かされた移動状況の概要については、長期化する移動の解決を参照すること。定期的に繰り返すソマリ族移動を調査して、国内避難民監視センター、オクスフォード大学の難民研究センター、ノルウェー国際問題研究所およびノルウェー難民評議会によって論文が 2011 年 8 月に公表された。

16.01 2013 年 6 月 20 日にアクセスされて日付がない、ソマリアに対する国連難民高等弁務官事務所の国別ページは、2013 年 1 月時点で、1,132,963 人の避難民がソマリアにいると述べた。³¹³

³¹¹ 地雷及びクラスター爆弾監視、ソマリアカントリープロフィール、2012 年 11 月 8 日、http://www.the-monitor.org/index.php/cp/display/region_profiles/theme/2186 2013 年 6 月 20 日閲覧

³¹² 地雷及びクラスター爆弾監視、ソマリランドカントリープロフィール、2012 年 11 月 19 日、http://www.the-monitor.org/index.php/cp/display/region_profiles/theme/2192 2013 年 6 月 20 日閲覧

³¹³ UNHCR、ソマリア、日付なし、<http://www.unhcr.org/cgi-bin/txis/vtx/page?page=49e483ad6> 2013 年 6 月 20 日閲覧

2013 年 4 月 19 日に公表されて、2012 年(USSD 2012 報告書)の出来事を対象にしているソマリアの人権実践に関する米務省 2012 年国別報告書によると、

「7 月 17 日に、国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)は、難民が主としてケニア(7 月末日で 534,200 人のソマリ族難民)、イエメンおよびエチオピアへ逃れて、国からの人口流出が 100 万を超過したと発表した。報告期間に国中で 136 万を超える IDP があった。国連難民高等弁務官事務所によれば、ソマリアの住民の 3 分の 1 は、年間を通じて強制移動で住んでいた。」³¹⁴

16.02 2012 年 8 月 22 日に公表された国連人権評議会のソマリアの人権の状況の独立した専門家 Shamsul Bari の報告書は次のように語った。

「2012 年 2 月に、アル・シャバーブに対するアフリカ連合ソマリア平和維持部隊および暫定連邦政府軍隊による攻撃に起因する Afgooye 回廊における戦闘の予想は、Afgooye からモガディシュへの約 22,000 人の移動を引き起こした。UNHCR によれば、そこで、約 185,000 人の国内避難民が既に避難し、水と衛生のような貧弱な既存の基本サービスについての余分な負担を既に負っていた。」

「さらに、暫定連邦政府はモガディシュにおける 93 の長期的な占領された公共建築を再利用するために立ち退きを命じた。公的使用にそのようなビルを置き、かつ国際社会によって約束された再建を利用するニーズは理解し得たが、代替案が人々をホームレスにしないようにすると分かったことは明らかだった。報告時に、普遍の解決策に寄与する国内避難民に関する政策を開発するために、国連は政府と協力していた。」

ソマリランドでは、どのアル・シャバーブ活動とも戦う政府の政策は、主に不安定に責任を負うとしてソマリア南部からの移住を批評する多くの公式声明に結びついた。2011 年 9 月 11 日に、ソマリランドの政府は、それが 30 日以内に約 100,000 人の不法移民を追放するだろうと発表した。

ソマリランドの権威との会合中に、エチオピア人、エリトリア人と他の避難民および庇護希望者と同様に帰還時に彼らを危険にさらすかもしれないので、サウスセントラル地区からのソマリ族の強制送還に懸念を示した。法務大臣は、ソマリランドが常に南部と中央部のソマリ族および他のアフリカの移住者をもてなしたと彼に知らせた。2011 年の干ばつの間、ソマリランドはモガディシュに、彼らのソマリアにおける「兄弟姉妹」に、緊急援助

³¹⁴ 米務省、ソマリアの人権実践に関する 2012 年のレポート、p27-28、2013 年 4 月 19 日、<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dld=204165> 2013 年 6 月 20 日閲覧

を与えるために聖職者のグループを行かせた。さらに、定住し、ソマリランド大学で調査をするために、ソマリ族はソマリアの様々な場所から入った。しかしながら首都は、その莫大な人口に圧倒され、更に干ばつによってさらに弱められた。その結果、ソマリランドは、難民と庇護希望者が殺到し、受け入れる余裕がなかった」³¹⁵

16.03 2013 年 5 月 31 日に公表された国連安全保障理事会のソマリアに関する事務総長の報告書によると

「フドゥールからの撤退後ソマリア・エチオピア国境の方へ逃れた 2,500 人の民間人を含めて約 14000 人の人々が 2013 年の第 1・四半期に国内避難民であった。
人道的な機関は支援を行い、主催コミュニティの故国がなく脆弱な家族の状況をモニターし続ける。国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)によると、約 10,000 のソマリ族が、2013 の第 1・四半期に国境を横断しエチオピアへ入った。

ソマリアへの難民の報告は報告期間に継続した。2013 年の最初以来、UNHCR は、16,000 人の人々が離散国からと同様、近隣の国々(ケニア、エチオピア、サウジアラビアおよびイエメン)から自発的に戻ったと推定した。人道主義の関係者は、計画されたプログラムによって難民の自発的な帰還を援助し続ける。国連地雷対策サービスは、ソマリア南部における重要な横断地点で地雷リスク教育を増強した。それによって帰国者に対する爆発物の脅威の意識を高めている。³¹⁶

16.04 食糧安全保障および栄養分析ユニット・ソマリア(FSNAU)の食糧安全保障&栄養の四半期報告書-2013 年 4 月 29 日に公表された Gu、2013 年シーズンの早期警告へのフォーカスは、10 月からのソマリアにおける移動情勢の次の表を公表した。³¹⁷

³¹⁵ 国連人権会議、ソマリアの人権の状況のインディペンデント誌(The Independent)専門家のレポート、Shamsul Bari、p12、2012 年 8 月 22 日、
http://www.ohchr.org/Documents/HRBodies/HRCouncil/RegularSession/Session21/A.HRC.21.61_en.pdf 2013 年 6 月 20 日閲覧

³¹⁶ 国連安全保障理事会、ソマリアに関する事務局長のレポート、2013 年 5 月 31 日、p11、
http://www.un.org/ga/search/view_doc.asp?symbol=S/2013/326 2013 年 6 月 20 日閲覧

³¹⁷ 食糧安全保障及び栄養分析ユニット・ソマリア、食糧安全保障&栄養の四半期の要約 - Gu 2013 年シーズンの早期警報への着目、2013 年 4 月 29 日発行、p8、
<http://www.fsnaui.org/downloads/FSNAU-Quarterly-Brief-4月-2013.pdf> 2013 年 6 月 18 日閲覧

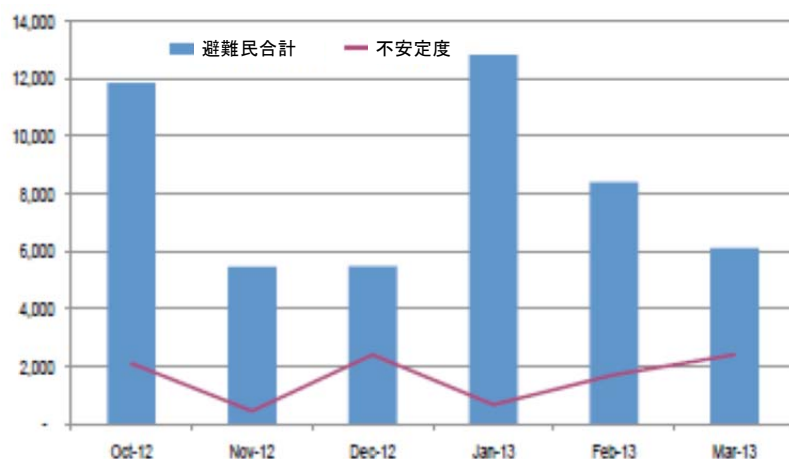


図 1：2012 年 月次国内避難民動向

有益なソース

ソマリア内の IDP の位置および数に関する更新については、次ウェブサイトを参照すること。

[UNHCR ウェブサイト](#)

[国内避難民監視センター・ウェブサイト](#)

国連 [OCHA ソマリア・ウェブサイト](#)(毎週の現況報告、および IDP および他の人道的問題に関する最新の情報を与える毎月の人道的状況概観を提供する。)

[目次に戻る](#)

IDP に対する一般条件

ソマリア内の IDP の経験の記事に対してはヒューマン・ライツ・ウォッチの報告書 [ゲートキーパーの人質](#) を参照すること。

16.05 2013 年 1 月 4 日に公表されたナイロビおよびモガディシュへのデンマーク・ノルウェー合同事実調査団の報告書 2012 年 10 月は以下のように述べた。

「DRC の Peter Klansoe(デンマーク難民評議会) は、他の貧しい人々と同様に IDP も他のものと同じ程度までセキュリティを享受していないと述べた。IDP はしばしば彼らのセキュリティの代価を払わなければならないだろう。彼らはしばしば援助もないし、当局に頼ることもできない。この点において、過去 6 ヶ月間に実質的な変化はない。Peter Klansoe は、DRC の働きおよびモガディシュの立場に関して、2012 年 2 月以来の変化がないと付け加えた。国際組織によれば、性的暴行は IDP キャンプの主な関心事であるが、組織はこれらの侵害に関する数字を持っていない。一般的に、IDP は、最も脆弱である。OCHA

のキリアン・クラインシュミット氏(電子メール通信 2012 年 12 月 3・4 日)は、DRC が現金スキームに関し、20.000 組の家族を持っていることを確認したが、様々な組織(アラビア人・トルコの組織を含む)が同様の組織を持っており、それがおよそ合計 100.000 組の家族になるかもしれないと付け加えた。しかしながら、この数字は確認されていない。OCHAi のキリアン・クラインシュミット氏は IDP キャンプで、ゲートキーパーは IDP 移動の自由を否定している。つまり彼らは、キャンプを去ることはゆるされない。サウスセントラルソマリア (A)で働いている国際的 NGO は、いくらかの異なる IDP のグループがある。ある人は 20 年間 IDP である、ある人は最近の戦争によって立ち退かされた。他のものは、去年の干ばつにより新しく立ち退かせられる。IDP の多数は耕地の牧羊者である。主として 5 月 Bay および Bakool, the Juba 地区, 低 シャビール, …そしていくらかは中央シャビール、および主な氏族からである。) ³¹⁸

16.06 2013 年 6 月 19 日発行の米 국무省 人身売買報告書 2013 は、2012 年の出来事を対象とする。それによると、[特別なケース] の下で、ソマリアは特別な関心を寄せる国としてリストされている。

「伝えられるところによれば、いくつかの国内避難民(IDP)キャンプを管理している「ゲートキーパー」は、キャンプ内に利用可能な食物およびサービスと交換に性交を提供することを少女と女性に強いた。」

「時々、彼らはさもないと無料の基本サービスに対し家賃又は料金を請求し、他の「ゲートキーパー」へキャンプ内に彼らがコントロールする地域を売る。承継する束縛を受けやすい IDP に対しての負債を繰り返し負わせる。」

「さらに、キャンプの難民あるいは近くのアフリカの国々、ヨーロッパ、または中東に密入国することを願って沿岸地区に沿って集まった人々は特に人身売買の被害に遭いやすいままである。」 ³¹⁹

16.07 2013 年 5 月 8 日に公表された 2013 年 4 月と 5 月のナイロビおよびモガディシュへのデンマーク・ノルウェー合同事実調査団の報告書によると、

「IDP 戦略に関して、モガディシュと地域政府の間の仕事の区分がまだいまのところ明確にされていないことは注目すべきことである。2012 年には、プントランドが IDP 政策を採択したことが付け加えられた。ソマリランドもまたそうする途中である。

³¹⁸ デンマークの出入国管理業務及び Landinfo、モガディシュ (Mogadishu) を含む S-C ソマリアの安全及び人権問題、ナイロビ及びモガディシュ (Mogadishu) に対するデンマークノルウェーの事実情調査団、2012 年 10 月、2013 年 1 月 4 日、p59-61、http://www.landinfo.no/asset/2319/1/2319_1.pdf 2013 年 6 月 21 日閲覧

³¹⁹ 米 국무省、2013 年人身売買レポート、特殊ケース、2013 年 6 月 19 日、<http://www.state.gov/documents/organization/210742.pdf> 2013 年 6 月 20 日閲覧

「UNHCR・ソマリアは次のことを説明した。SFRG [または SNG] との関係は良好で、および、人道的問題の焦点である人々はほとんどが NGO の職歴を持った人々で、非常に協力的である。」

「災害管理機関(DMA)は、内政部および国家安全保障省の下の政府系機関である。

UNHCR は、DMA との進行中の対話がある。また、多くの DMA 専門家は離散からの人物である。DMA は国際移住機構(IOM)に支援される。」

「UNHCR は肯定的なものとして IDP と避難民に関して全過程および SFRG[または SNG]との対話について記述した。UNHCR は、また、エチオピアの難民が主に不安定な状態のソマリランドとプントランドに住んでいた。彼らの多くは統合的な地域の見通しを持っていなかったからであると説明した。」³²⁰

ソマリアにおける援助を提供することを試みる NGO が直面する障害についての詳細は、人権および人道的な機関、団体および活動家を参照する。

特定のグループの取り扱いについての詳細は、治安部隊による虐待、女性および児童を参照すること。

目次に戻る

モガディシュ

16.08 2013 年 1 月 4 日発行、ナイロビおよびモガディシュに対するデンマーク・ノルウェー合同事実調査団レポート、2012 年 10 月には、以下のように記載されている。

キリアン・クラインシュミット氏(OCHA)は、赤十字国際委員会(ICRC)によれば、モガディシュ[地域]におよそ 400.000 人の国内避難民がいることを説明した。しかしながら、キリアン・クラインシュミット氏は、約 300.000～400.000 人の国内避難民がいると推測した。国内避難民の人数に正確な数字はない。³²¹ 同レポートはまた次のように述べた：

³²⁰ デンマークの出入国管理業務及び Landinfo、モガディシュ (Mogadishu) 及び S/C ソマリアの安全及び保護、ナイロビ及びモガディシュ (Mogadishu) に対するデンマークノルウェーの事実調査団、2013 年 4 月-5 月、2013 年 5 月 8 日、p46-47、http://www.nyidanmark.dk/NR/rdonlyres/6F1A29C6-2F84-40D2-BDE4-42F69897EEC3/0/security_and_protection_in_somalia_may_2013.pdf 2013 年 6 月 21 日にアクセス

³²¹ デンマークの出入国管理業務及び Landinfo、モガディシュ (Mogadishu) を含む S-C ソマリアの安全及び人権問題、ナイロビ及びモガディシュ (Mogadishu) に対するデンマ

Peter Klansoe, DRC は、他の貧しい人々と同様に国内避難民も他の人と同じく安全を享受していないと述べた。国内避難民は、しばしば自分たちの安全の代価を払わなければならない。彼らは大抵の場合支援がなく、彼らは、安全について政府当局を頼ることができない。この点では、過去 6 か月間で実質的な変更はない。

Peter Klansoe は、モガディシュでの DRC の活動および地位に関して、2012 年 2 月以来、変化がないと付け加えた。

DRC の Peter Klansoe によれば、デンマーク難民評議会は、[モガディシュの]およそ 20,000 世帯に対する現金援助を提供している。各世帯は、現金救助で 1 か月当たり 120 米ドルを受け取る。現金救済計画は、モガディシュで多くの被援助者が自立再建し始めることを可能にすることが付け加えられた。このプログラムの別の効果は、人はモガディシュで新たな消費パターンに気づく場合があるということである。これに関連して、人は授業料の支払いでの実質的増加に気づく場合がある。現金救済計画が被援助者の必要に基礎を置くことが付け加えられた；

しかしながら、もしプログラムが 100%の氏族に基礎を置くプログラムであれば、プログラムに関与する氏族の間の多くの問題を見ることになるであろう。救助に関して言えば DRC が圧力をかけられているかどうか尋ねられた場合、Peter Klansoe は、DRC が重大な圧力の下にあることを説明したが、これがソマリアでほとんど常に典型的な行動様式であると付け加えた。モガディシュ(C)の地域 NGO は、現在、検問所と同様に、国内避難民キャンプの中で少なくとも一日に 20 件の強姦があると主張する。しかしながら、これらの犯罪の大部分は、国内避難民キャンプの中で行われている。保護および生存はモガディシュで多くの女性にとって主な関心事なのである。

国連の機関によれば、モガディシュの雇用機会の不足は、多くの人々が社会体制から外れ、彼らが社会から疎外されるような危険にさらされる、ことを意味する。国連は、時々貧しい人々が、国内避難民キャンプのサービスにアクセスするためにキャンプに入ろうとするのを見る。国内避難民とは対照的に、地元住民はたいがい自分の副氏族によってよく保護されている。国内避難民はしばしば彼らが限定された氏族保護しか有さないことを意味する混合居留地に住む。

所有物争議に関して、多くの未解決の争議がサウスセントラルソマリアの他の地域と同様にモガディシュにもあることが国連機関によって強調された。人々が公平な方法で所有物問題を解決するのを援助することができる裁判制度はない。土地および家の所有物はます

ます貴重になっている。国内避難民によって住まれた所有物を所有または制御し武装衛兵を有している人は誰でも、彼らの土地に対して国内避難民から支払いを要求する。したがって、国内避難民は、門衛と同様に地主が、国内避難民によって支払われた賃貸料および「保護」によって巨額のお金を得る、大規模ビジネスになった。賃貸料および保護料金を支払うことができない国内避難民は、むち打ち又は強姦の危険にさらされる。

エルマン平和および人権センター、モガディシュは、難民のためのホスト・コミュニティおよび居留地において GBV が等しく広く普及していること、それはモガディシュ固有であることを説明した。強姦被害者は、毎日のようにエルマン平和および人権センターとコンタクトし、毎月少なくとも 30 件のコンタクトがある。

エルマン平和および人権センターには女性が保護されるモガディシュの隠れ家がある。しかし、そこに女性を長い間滞在させる収容能力がないので、これは短い時間の解決でしかない。多くの国内避難民は、数回立ち退かせられた。ICRC からの数字によれば、国内避難民のおよそ 15% はモガディシュで生じている。キリアン・クラインシュミット氏は次のように付け加えた:モガディシュの国内避難民の数は、最近の数か月で増加した。この増加、Afgoye 回廊、および 2012 年春に他の場所で起こった戦闘による。さらに、少数の国内避難民は、モガディシュの都心部の民家および区画から最近立ち退かせられた。最近、OCHA は、Daynile の地域の新たな国内避難民居留地を発見し、すべての国内避難民が上記で言及された私有地および家から立ち退かせられた。国連代理人人道主義コーディネーター (DHC) によって成功した調停の後は、暫くの間、一人の国内避難民もモガディシュの公共建造物または土地から立ち退かせられていない。ソマリアの国内避難民に加えて、元エチオピアの難民はいくつかの国内避難民居留地に残留している。モガディシュのその存在は 1990 年代の初めにまで遡る。

都市の貧困層および国内避難民に関して、キリアン・クラインシュミット氏(OCHA)は、閉鎖したキャンプでは国内避難民が見つからないので、これらを識別することが可能ではないことを説明した。彼らが都市貧困層か又は国内避難民であるかに関わらず、国際社会からの人道的支援は関係なく困っている貧しい人々に与えられる。

偽のキャンプと見なされるべきである国内避難民キャンプがモガディシュにあることが付け加えられた。さらにそこに、国内避難民がバンツー (Bantu) の人々であるキャンプがある。これら国内避難民は、モガディシュで最も恵まれていない国内避難民である。彼らは、文字通りにごみから生計を立て、非常に貧しくて社会から疎外されているので、彼らは支援へのアクセスをあまり持たない。一般にキリアン・クラインシュミット氏がその国内避難民キャンプと見なした、従来の考え中の国内避難民キャンプではなく人々の単によ

り高い集中がある。国内避難民は、大抵の場合土地の権利を保有せず、無断居住者として生きている人々である。

キリアン・クラインシュミット氏、OCHA(電子メール対応 2012 年 12 月 3 日及び 4 日)は、DRC は現金スキーム上では 20.000 の家族を有しているが、同様のスキームを有する(アラビア人およびトルコ人の組織を含む)様々な組織を加え、およそ 100.000 の家族ということになることを確認した。しかしながら、この図は確認されない。

サウスセントラルソマリア(B)で働く国際的な NGO によれば、どれくらい多くの都市の貧困層がモガディシュにいるのか誰も知らない。しかしながら、失業率は高く、多くの家族が極貧に分類される。1990 年代の初めに、ある程度の都市の貧困層がモガディシュへ移動した。

キリアン・クラインシュミット氏 (OCHA)は、ゲートキーパーが国内避難民の移動の自由を否定している、つまり、彼らは去ることが許されない国内避難民キャンプがあることを確認した。

サウスセントラルソマリア(B)で働く国際的な NGO によれば、都市[モガディシュ]に概算 350.000 人の国内避難民がいて、ほとんどの人々は外国の親類からの送金、小さな商売、および NGO および国際組織からのいくつかの支援によって何とか暮らしている。さらに、人々は、彼らが保有しているわずかなものを共有する。

サウスセントラルソマリア(B)で働く国際的 NGO は、モガディシュにおける人道的援助の改善が 2012 年 2 月以来行なわれていると述べた。検問所は、もはや人道的援助物資の輸送を妨害していない。

伊藤 礼樹氏(UNHCR)によれば、モガディシュで国内避難民の最近の立ち退きがいくつかあった。また、彼は、国内避難民がそれらのキャンプから去ることを妨害するゲートキーパーの事例があると述べるソマリアおよびエリトリア監視団(SMEG)レポートに言及した。SMEG レポートは、また国内避難民がキャンプ中の計画のために 3 米ドルを支払わなければならないし、国内避難民に与えられた援助の数パーセントがゲートキーパーに与えられなければならないだろう、と述べる。…モガディシュには、氏族からも政府当局からも国内避難民のための保護はない。しかしながら、自分の氏族が多数である地域又は居留地に住んでいる国内避難民は、保護を期待している。

キャンプ又は居留地は、都市の様々な部分に位置し、すべての 16 の地域に、政府と無関係に働く DC がある。これら DC は、それらの領域を支配する自分の市民軍を有しているので、キャンプに接近することは難しい。キャンプ中のある種類の計画を実行したいいかなる組織も DC から許可を得なければならない。政府軍さえキャンプへは行かない。³²²

16.09 ヒューマン・ライツ・ウォッチ・レポート、2013 年 3 月 29 日に公表された、ゲートキーパーの人質、には以下のように記載されている。

ソマリアの新政府は、今年、モガディシュ内の 1 万人もの国内避難民を再配置することを計画する。これらの人々の多くは、広範囲の移転を誘発した壊滅的な飢饉の結果 2011 年に戦争で混乱した首都に着いた。2011 年の 9 か月のうちに 75,000 人を超える国内避難民モガディシュに着いたと国連は推定する。彼らが至急必要とした保護および人道的支援を見つける代わりに、多くの追放された人々は、モガディシュで敵意を抱いている人や虐待の環境に遭遇した。(2011 年 7 月から 2012 年 11 月にかけて) モガディシュの追放されたコミュニティのメンバーは、強姦、むち打ち、人種差別、食物および保護に対するアクセスを制限され、移動に対する制限および虐待に大胆に抗議した場合の報復を含む重大な人権侵害に直面した。最も重大な乱用が、追放された人々のためのキャンプおよび集落の中又は近くで働いている、様々な市民軍および保安部隊によって、しばしば政府と密接に関連して犯された。これらの市民軍は、頻繁に国内避難民キャンプの管理者（または「ゲートキーパー」として知られている）によって関連付けられ、また制御された。³²³

16.10 2013 年 5 月 8 日に公開された、2013 年 4 月および 5 月のナイロビとモガディシュへのデンマーク・ノルウェー事実調査団の報告書には、以下のように記載されている。

政府の建物内にいる残りの国内避難民が都市から追放されているか否かを問われた場合、Peter Klansoe、DRC はまだ行われていないと述べた。しかし、強制的に政府の建物や土地から追い出されてきた避難民の例が数多くある。DRC および NRC は、追い出された国内避難民の土地の配分と再定住に関する共同プロジェクトに着手した。問題は、国内避難民が通常の避難民キャンプに配置されるべきか、または、モガディシュ市内の小さい集落に配置されるべきかある。しかし、人は避難民へ土地を配分する SNG の積極的な意欲に関し、遵守する必要がある。一方、国内避難民の移転に関する肯定的、継続的なプロセスがある。NGO および国連機関は、国内避難民に関し SNG と協力しているが、SNG と

³²² デンマークの出入国管理業務及び Landinfo、モガディシュ (Mogadishu) を含む S-C ソマリアの安全及び人権問題、ナイロビ及びモガディシュ (Mogadishu) に対するデンマーク・ノルウェーの事実調査団、2012 年 10 月、2013 年 1 月 4 日、p59-61、http://www.landinfo.no/asset/2319/1/2319_1.pdf 2013 年 6 月 21 日閲覧

³²³ ヒューマンライツウォッチ、門衛の人質(Hostages of the Gatekeepers)、2013 年 3 月 28 日、http://www.hrw.org/sites/default/files/reports/somalia0313_ForUpload.pdf 2013 年 6 月 21 日閲覧

その省庁は、依然として適切にこの問題に対処するにはあまりにも弱い。SNG はまだ NGO および国連との協力における機能パートナーとしてみなされることはない。

DRC と NRC を含むいくつかの実施主体との三者クラスタープロジェクトが最近結成された。プロジェクトは、新しく設立された国内避難民キャンプで行われる改良に関する。Peter Klansoe、DRC は、モガディシュにおける人道問題調整（OCHA）のための国連事務所および国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）も国内避難民のニーズに対処していると付け加えた。

サウスセントラルソマリアの他の地域からの国内避難民であって現在は、モガディシュにいる国内避難民の再定住について、Peter Klansoe、DRC は、にある他の部分からの避難民の再定住については、自分の故郷に自主的に戻りたい国内避難民への支援に向けた進行中のプロセスが数多くあることを説明した。

ソマリア連邦共和国政府(SFRG)、[または SNG]政府が 2012 年 11 月に宣言されて以来、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）-ソマリア、モガディシュは、特に、国内避難民および難民の問題に取り組んでいる内務国家安全保障省内で、その対話者の数が増加していることに直面した。

2012 年 12 月に、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）-ソマリアは、能力開発やモガディシュの国内避難民のための政策の立案について、SFRG（または SNG）との対話を開始した。

国内避難民ストラテジーに関しては、モガディシュと地方政府間の役割の分割は、まだ今のところは明確化されていないことに注意すべきである。2012 年には、プントランドは国内避難民政策を採用し、ソマリランドは採用する途上であったことを付け加えた。国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）-ソマリアは、モガディシュの多くの国内避難民が数回追放されてきたことを指摘した。モガディシュのすべての国内避難民の約 30%はモガディシュ出身であり、多数の者は、1 度ならず追放されてきた。エルマン平和と人権センター（Elman Peace and Human Rights Centre）、モガディシュによると....モガディシュの人々が利用可能な公共サービスはない。公共サービスと肩書された利用可能な全てのサービスは大抵、有料である。³²⁴

³²⁴ デンマークの出入国管理業務及び Landinfo、モガディシュ（Mogadishu）及び S/C ソマリアの安全及び保護、ナイロビ及びモガディシュ（Mogadishu）に対するデンマークノルウェーの事実調査団、2013 年 4 月-5 月、2013 年 5 月 8 日、p46-47、http://www.nyidanmark.dk/NR/rdonlyres/6F1A29C6-2F84-40D2-BDE4-42F69897EEC3/0/security_and_protection_in_somalia_may_2013.pdf 2013 年 6 月 21 日閲覧

Afgooye 「回廊」

16.11 Afgooye 「回廊」は、モガディシユの約 30 キロメートル西（の外）に広がっている。（国連）³²⁵2012 年 10 月の国連人道問題調整事務所(OCHA)の低シャベルの状況の分析は以下のものであった。

低シャベルは、Afgooyee に 406,000 を含む 496,000 人の国内避難民の最大の集団を有する。これらの国内避難民は、もともとは 2007 年以來の多重の紛争によってモガディシユから追放され、Afgooye 回廊に住んでいた。2012 年 2 月および 5 月の紛争中に、50,000 人以上の国内避難民が Afgooye 回廊からモガディシユおよび低シャベルの他の地域へ追放された。

2012 年 6 月に、アフリカ連合ソマリア平和維持部隊/ソマリア国家軍(SNA)は、4 年間以上のアル・シャバーブ支配を終結させて、Afgooye 町を占領した。2012 年 8 月に、以前は AS 下にあった Merka は、またアフリカ連合ソマリア平和維持部隊および SNA によって占領された。その地域の残りの地区は、依然としてアル・シャバーブ管理の下にあった。国内避難民および他の脆弱な集団、他方では、直接改良された収穫および家畜から恩恵を得ることができず、従来の社会サポート・システムから分離される……私は食糧援助を要求する（原文のまま）。食糧安全保障状況は最後の Deyr レベルから改善したが、FSNAU ポスト Gu 分析は 260,000 人がその地域においてストレスおよび危機に瀕しているままであると推測する。国内避難民居留地が過密であるため、急性水様性下痢症(AWD)、麻疹、急性呼吸器感染症(ARI)、マラリアおよび結核(TB)が蔓延している。主な健康供給者の不足および人道主義の接近不可能性は、必要な介入を制限する。不可欠なヘルスケアおよび人命救助業務、母子保健(MCH)、出生前および出生後の主要なヘルスケア業務、予防策および子どもに対する予防接種、利用可能性に制限がある。エル・ニーニョ氾濫は急性水様性下痢症(AWD)およびコレラの症例を増加させるであろう。国内避難民の大規模な存在のため、補償業務、社会回復力の強化および擁護/認識は、特に Afgooye 地域の中の、GB ウイルス(GBV)の発病率、子ども権利虐待および暴力を最小限にするように要求される。Merka および Afgooye のような新しく奪還された地域における反 AS 勝利は、セクシュアルハラスメントおよび人権乱用の保護課題を持ち上げた。合計 116,000 人、即ち対象人口 201,000 人の 58 パーセントが、2012 年 9 月までに援助された。9 月のみで、健康パートナーは主要および基礎的な副ヘルスケア業務で 15,000 人以上を援助した。健康パートナーは Afgooyee およびその周辺地域において利用が増加した後に応答を増加させている。地域に対する有

³²⁵ 国連ニュースセンター、衝突によって首都からのより多くのソマリ族が追い払われるとき、国連機関は援助努力を上昇させる、2010 年 2 月 12 日、<http://www.unhcr.org/refworld/docid/4b7ba8c71c.html>
2010 年 2 月 15 日閲覧

効な健康応答で相当な挑戦は、さらにヘルス・サービスに対するアクセスを悪化させる、機能的な保健医療施設の制限されたキャパシティである。51,000 人近くの人が保護支援を必要とし、2012 年 9 月時点で 23,000 人以上の目標を超える人々が保護支援を必要としていた。国内避難民(特にキスマヨからの新来者)は増加した保護支援を必要とする。³²⁶

「Afgoye 回廊(Afgoye corridor)」の集落地図については、国連人道問題調整事務所のウェブサイトを参照のこと。

プントランドとソマリランド

16.12 USSD 2012 は、以下のように報告した。

女性 IDP に対する性的暴行など、ジェンダーに基づく暴力は問題であった。プントランド州のボサソおよびガルカチョ、[とりわけ]ソマリランドのハルゲイサの IDP 集落に住む女性や子供たちは、国連実施パートナーに強姦を多数報告した。...プントランドの IDP キャンプ内での強姦の増加も報告された。

プントランド当局は散発的に逮捕し、南・中央地域からの人、特にベイおよびバクルールからの人を強制的に返し続けた。

1 月にプントランドの大統領は、南からの避難民を輸送する車両を没収し、彼らの自分の家の地域に送り返すように治安部隊に命じた。

8 月、スール地域当局はラスアノドに居住している南部地域出身者（概して 17～30 歳）の若い男性の国内避難民に対し、9 月 12 日までにラスアノドから退去することを命令する法令を發布した。その命令は、ベイ、バクルール、およびベナディール領域からの約 400 人の男性に影響を与えることが予測された。地域の知事は、地域を不安定化させ、アル・シャバーブに関連しているとしてこれらの若者を非難した。その命令は実施されなかったが、一部の者が自主的に期限前に退去する原因となった。³²⁷

国内避難民の具体的な取り扱いの詳細については、「女性、子供や民族」を参照のこと。市民軍の行動の詳細については、「非国家武装集団」を参照のこと。

³²⁶ 国連 OCHA、下 Shabelle (Lower Shabelle) 一状況分析、2012 年 10 月、2012 年 11 月 9 日、<http://reliefweb.int/sites/reliefweb.int/files/resources/Lower%20Shabelle%20Situation%20Analysis%20October%202012.pdf> 2013 年 6 月 21 日閲覧

³²⁷ 米国国務省、ソマリアの人権実践に関する 2012 年のレポート、セクション 1d、2013 年 4 月 19 日、<http://www.state.gov/j/drl/rls/hrrpt/humanrightsreport/index.htm?year=2012&dld=204165> 2013 年 6 月 21 日閲覧

[目次に戻る](#)

17. 市民権および国籍

17.01 市民権のための要件は、1962 年 12 月 22 日の法律番号第 28 号—ソマリア市民権に設定されている。³²⁸ 2012 年 9 月 7 日に公布されたソマリア暫定憲法第 8 条は、次のように宣言する。

(1) ソマリア連邦共和国の人々は一つであり、不可分であり、すべての市民を含む。

(2) ソマリア市民権はひとつのみであり、そしてソマリアの連邦議会の下院は、市民権を取得、中断、失効させる方法を定義する特別法を制定することとする。

(3) ソマリア市民である人物は、他の国の国民になってもソマリアの市民権を剥奪されることはない。

(4) ソマリア市民権の拒否、中断、あるいは剥奪は、政治的な根拠に基づくものでない場合がある。³²⁹

パスポート

17.02 2013 年 6 月 14 日に公開された、カナダの移民難民委員会による応答は、以下のようであった。

2013 年 6 月 9 日に調査理事会(Research Directorate)に送られた文書によると、UNHCR の代表は次のようにモガディシュでのソマリアのパスポートを申請するための手順は以下のものであると述べた。

内務国家安全保障省の「Dahabshiil」アカウントに 85 米ドルの支払い。

その支払いの領収書とともに、申請者は入国管理局にて本人が申請しなければならず、そこで、フォームに記入し、写真と指紋を取られる。

³²⁸ 国連国連難民高等弁務官、22 の 12 月の 1962 年 12 月 22 日の法律番号 28—ソマリアの市民権、<http://www.unhcr.org/cgi-bin/texis/vtx/home/openssl.htm?tbl=RSDLEGAL&page=research&id=3ae6b50630> 2006 年 10 月 26 日閲覧

³²⁹ ソマリア連邦共和国の暫定憲法、2012 年 9 月 7 日(2012 年 8 月 1 日採択)、<http://unpos.unmissions.org/LinkClick.aspx?fileticket=RkJTOSpoMME=> 2013 年 6 月 21 日閲覧

20 米ドルが入国管理局に支払われ、そこで領収書が発行される。

申請者は、この領収書の受領から約 7 日後に、入国管理局からパスポートを受け取るために来なければならない。

パスポートは 5 年間有効である。

ソマリアパスポートの申請手順やソマリアパスポートの有効性に関する裏付け情報は、この応答の時間制約の範囲内で調査理事会によって調査された情報源の中では発見できなかった。新華社通信、中国政府の報道機関（新華 ND）は、ソマリアは 2007 年 2 月に新しいコンピュータ読み取り可能な電子パスポートを立ち上げ、旧ソマリアパスポートは 6 ヶ月後（2007 年 2 月 9 日）に無効になることを報告する。ソマリアレポート（西洋編集者がソマリアのジャーナリストと協力する、私費と無所属のニュースサイト）による 2011 年 9 月 17 日の記事には、「グリーンパスポート」として知られている旧ソマリアパスポートが暫定連邦政府によって禁止され、新しい電子パスポートに置換されることになっていると主張した。

ソマリア生体認証パスポートの詳細情報については、この応答の時間的制約内で調査理事会で調査された情報源の中では発見できなかった。³³⁰

17.03 2012 年 7 月 13 日に発行され安全保障理事会決議 2002（2011）に準じてソマリアおよびエリトリアに関する国連監視団の報告書は、以下のことを指摘している。

20 年以上の間の事実上の中央政府の不在は、有効な国家渡航文書を含め、市民権の最も基本的な人権をソマリア人から奪った。広く認められているパスポートがないことは、その他の有害な影響の中で、ソマリアの移動性の高い多国籍経済界を不利な立場に立たせ、代替の市民権および外国パスポートを含むことを示唆する利益を追求した、故郷からのソマリア人の集団的出国の原因となった。

歴代の暫定ソマリア政府は、さまざまな理由で新しいパスポートを導入しようとしてきた。純粋な必要性への対応に加え、新たなソマリアのパスポートの導入は合法性の象徴だけでなく、他のソマリア権力および派閥に対する政治勢力の手段として暫定政権により理解されている。そのような動機の組み合わせは、TFG が 2006 年に新たなソマリアパスポートを導入することを誘導したが、監視団は、不正政府関係者およびビジネスマンが、表面上

³³⁰ カナダの移住及び難民委員会、ソマリア：パスポート及び運転免許証を含む身分証明書文書；運転免許証が発行されるか又は発行されているか、文書の言語を含む(2007-2013 年 6 月)、2013 年 6 月 14 日、SOM104445.E、<http://www.refworld.org/docid/51e4fe6e4.html> で利用可能 2013 年 7 月 17 日閲覧

の高潔な目的を公的資金の横領、詐欺、地域および国際安全保障に対する潜在的な脅威によって特徴付けられる腐敗した金儲けのスキームに巧妙に変えていることを認知していた。

331

偽造文書および不正に入手された文書については、次の章を参照のこと。

[目次に戻る](#)

18. 偽造文書および不正に入手された文書

18.01 2012 年 7 月 13 日に発行された安全保障理事会決議 2002（2011 年）に基づくソマリア、エリトリアに関する国連監視団の報告書は以下のように指摘している。

指紋採取の義務の撤廃と重大な法規制の欠如は、本質的に、新しいソマリア旅行証明書を、購入され、販売され、物々交換され、または取引される商品の状態にまでその価値を低下させた。

監視団は、パスポートが日常的に、時には上級 TFG 役人の要請を受け、偽名やその他の故意の偽造データで発行されていることを確認した。監視団は、あるソマリア市民が、名前、母親の名前、生年月日、出生地など、異なる ID 情報の 2 つのパスポートを保持している証拠を入手した。ソマリア外交官や海外の登録センターで働く担当者は、このような事例は決して特異なことではないと SEMG に伝えた。逆に、すべての不正行為や詐欺を監視するために確立されていたナイロビに拠点を置く「承認センター」を閉鎖するという Gaafow 将官の決定は、このような慣行を可能にすることを意図されていたようである。Gaafow 将官は、生産プロセスを促進し加速させるという理由で、別の TFG 当局者に対して「承認センター」の閉鎖を正当化した。TFG 役人への贈賄によって、非ソマリア市民も、ソマリアの内部および外部で、は虚偽の身元情報によって、ソマリアのパスポートを取得することが可能であった。1 つのそのような事例では、監視団は、TFG によって発行されたソマリアのパスポートを携帯し、ソマリア人であると主張するが、ソマリ語を話すことができず、自分の出身地だと主張する地域にある氏族を確認することもできない、非ソマリア市民のことを知った。特定のその事例では、モガディシュの TFG 役人は、ナイロビのソマリア大使館の役人の反対を制して、彼らがスーダン人であると思っている人にソマリアのパスポートを与える指示を出した。2 人の TFG 役人が、自主的に監視団に伝えたところによると、影響力のあるソマリアおよびケニアの政治家(そのうちの 1 人は国境を越え

³³¹ 国連安全保障理事会、安全保障理事会決議 2002(2011)に準ずるソマリア及びエリトリアに関する国連監視グループのレポート、2012 年 7 月 13 日、p59-60、
<http://www.securitycouncilreport.org/atf/cf/%7B65BFCF9B-6D27-4E9C-8CD3-CF6E4FF96FF9%7D/Somalia%20S%202012%20544.pdf> 2013 年 6 月 21 日閲覧

た密輸活動への関与のため監視団の 2011 年 7 月のレポートの中で言及された)による介在が、この個人にソマリアのパスポートを与えるように TFG を説得することをに尽力した。」と自主的に伝えた。³³²

パスポートも参照のこと。

目次に戻る

³³² 国連安全保障理事会、安全保障理事会決議 2002(2011)に準ずるソマリア及びエリトリアに関する国連監視グループのレポート、2012 年 7 月 13 日、p74-75、
<http://www.securitycouncilreport.org/atf/cf/%7B65BFCF9B-6D27-4E9C-8CD3-CF6E4FF96FF9%7D/Somalia%20S%202012%20544.pdf> 2013 年 6 月 21 日閲覧

付属書 A 背景情報源

概況および有用な出所はソマリアに関する COI レポート、2012 年 1 月 17 日、において利用可能である。さらに詳しい資料は次の出所から利用可能である：

最新ニュースおよび全般的な人権情報

Afrol ニュース(Afrol News)

AlertNet(トムソンロイター) (AlertNet (Thomson Reuters))

オールアフリカ (All Africa)

英国放送協会(BBC) (British Broadcasting Corporation (BBC))

ケーブルニュースネットワーク(CNN) (Cable News Network (CNN))

デイリーネイション (Daily Nation)

ECOI.net

統合地方情報ネットワーク(IRIN) (Integrated Regional Information Networks (IRIN))

International Crisis Group, Crisis Watch database (国際危機団、危機監視データベース)

国連難民高等弁務官事務所レフワールド (UNHCR Refworld)

地理と経済

(米) 中央情報局ワールドファクトブック、ソマリア (Central Intelligence Agency, World Factbook, Somalia)

ナショナル・ジオグラフィック (National Geographic)

歴史

調停リソース、Accord Issue 21, ところで誰の平和なのか？

(Conciliation Resources, Accord Issue 21, Whose Peace Is It Anyway?)

BBC Timeline (BBC タイムライン)

政治および法制度

(米) 中央情報局ワールドファクトブック、ソマリア (entral Intelligence Agency, World Factbook, Somalia)

ソマリア連邦共和国憲法 (Consitution of the Federal Republic of Somalia)

ロンドンスクール・オブ・エコノミクス、ソマリアおよび公共財政部門の政治の改造 (London School of Economics, Reconstructing Somalia and the Politics of Public Sector Finance)

ソマリランド法 (Somaliland Law)

2013 年 8 月 5 日

ソマリア

人道主義状況

食糧安全保障および栄養分析ユニット、ソマリア

(Food Security and Nutritional Analysis Unit . Somalia)

国内避難民監視センター (Internal Displacement Monitoring Centre)

ReliefWeb

[目次に戻る](#)

付属書A ソマリア地図



国連、地図作成セクション、2011 年 12 月